

第10期横浜市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画・ 認知症施策推進計画（よこはまポジティブエイジング計 画）策定の概要について

1 趣旨	2
2 計画期間	3
3 主な策定内容	3
4 第10期計画の方向性	4
5 策定の流れ	5
6 高齢者実態調査 実施結果	
（1）調査目的	8
（2）実施期間	8
（3）実施状況	9
（4）実施結果（抜粋）	10

・横浜市 高齢者実態調査 調査結果報告書

1 趣旨

「高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画」は、老人福祉法第20条の8に基づく老人福祉計画と介護保険法第117条に基づく介護保険事業計画を一体のものとして策定することが市町村に義務付けられた、高齢者に関する保健福祉事業や介護保険制度の総合的な計画です。

また、「認知症施策推進計画」は、共生社会の実現を推進するための認知症基本法第13条において市町村が策定するよう努めることとされた計画で、これら3つの計画を合わせて「よこはまポジティブエイジング計画」としています。

このたび、令和8年度をもって現行の第9期計画の期間が終了となるため、令和9年度からスタートする第10期計画を策定します。

2 計画期間

令和9年度から11年度（3年間）



3 主な策定内容

3年間（計画期間）の

- ・ 高齢者施策の方向性
- ・ 介護保険サービスの見込量
- ・ 第1号被保険者（65歳以上高齢者）の介護保険料の水準 を決定します。

4 第10期計画の方向性

2040年にかけて、介護・医療の複合ニーズを抱える85歳以上人口や認知症高齢者、一人暮らし高齢者等の増加が見込まれる一方で、生産年齢人口については減少傾向にあります。

こうした社会環境の変化にあっても、高齢者が必要なサービスを受けられ、希望する場所で安心して生活できる社会を実現することが重要です。そのため、これまでの取組や施策を継続するだけでなく、高齢者の生活実態や第9期計画の取組を踏まえつつ、更なる拡充や新たな取組の検討を行います。

また、横浜市中期計画2026-2029と連動し、ロジックモデルを活用して施策の構成を整理するとともに、「市民の実感」を評価軸とした「目指すべき状態」と「アウトカム指標」を設定し、これらの進捗状況を適時適切に検証します。

■第10期計画に求められる視点

- 誰もが安心して暮らし続けられる取組の推進
- 介護予防・社会参加の更なる促進
- 人材確保・定着に向けた支援
- 持続可能な介護保険制度の構築

5 策定の流れ

(1) 高齢者実態調査の実施（令和7年度）

第10期計画策定に向けた基礎資料を得るため、令和7年10月から12月にかけて、高齢者の生活実態、介護保険サービスの利用状況、介護サービス事業所等の運営状況、介護従事者の勤務状況などについて調査を実施し、単純集計・クロス集計等による分析を行いました（8ページ以降参照）。

【参考】 高齢者実態調査の概要

調査分類	対象者数	回答数（回答率）
市民向け調査	22,800人	12,507人（54.9%）
事業所向け調査	7,963件	2,845件（35.7%）
従事者向け調査	施設を通じて配付	2,461人 ※

※ 母数の把握が困難なため、回答率の算出は行いません。

(2) 第9期計画の振り返り、第10期計画の検討（令和7～8年度）

第10期計画の策定にあたっては、高齢者実態調査の結果や第9期計画の振り返りのほか、国の動向等を踏まえて検討を進めます。

また、幅広い視点での協議を行うため、公募の市民、保健・医療・福祉関係者、学識経験者により構成された「横浜市介護保険運営協議会」で検討を行います。

(3) 策定スケジュール

時期		内容
令和8年	5月	第2回市会定例会（計画策定の概要、高齢者実態調査の調査結果等）
	5月～9月	計画素案作成
	9月	第3回市会定例会（計画素案） ※議会基本条例に基づく議決事件に該当するか御判断いただく予定です。
	10月	計画素案公表、パブリックコメント実施
	12月	第4回市会定例会（パブリックコメント結果報告）
令和9年	1月～2月	計画原案のとりまとめ
	2月	第1回市会定例会（計画原案）
	3月	第1回市会定例会（介護保険条例の改正）、計画策定
	4月	第10期計画開始、介護保険料の改定

6 高齢者実態調査 実施結果

(1) 調査目的

第10期横浜市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画・認知症施策推進計画（よこはまポジティブエイジング計画）の策定に向けた基礎資料を得るため、高齢者の生活実態、介護保険サービスの利用状況、介護サービス事業所等の運営状況、介護従事者の勤務状況などについて、調査を実施しました。

主な調査結果を、現行の第9期計画の施策体系に基づいて御報告します。

【参考】第9期計画施策体系

(2) 実施期間

令和7年10月～12月

I	自分らしい暮らしの実現に向けて
II	いきいきと暮らせる地域づくりを目指して
III	在宅生活を支えるサービスの充実と連携強化を目指して
IV	ニーズや状況に応じた施設・住まいを目指して
V	安心の介護を提供するために
VI	安定した介護保険制度の運営に向けて
	認知症施策推進計画

(3) 実施状況

調査分類	対象者数	回答数 (回答率)	調査票分類	略称
市民 向け調査	22,800人	12,507人 (54.9%)	01 高齢者一般調査（65歳以上） 02 一般調査（40歳以上64歳以下） 03 介護保険在宅サービス利用者調査（要支援） 04 介護保険在宅サービス利用者調査（要介護） 05 介護保険サービス未利用者調査（要支援・要介護） 06 小規模多機能型居宅介護、看護小規模多機能型居宅介護利用者調査 07 定期巡回・随時対応型訪問介護看護事業所利用者調査 08 特別養護老人ホーム入所申込者調査	高齢者一般 一般40～64歳 要支援 要介護 未利用 小多機・看多機 定期巡回 特養申込者
事業所 向け調査	7,963件	2,845件 (35.7%)	09 特別養護老人ホーム調査 10 介護老人保健施設調査 11 介護サービス事業所（居住系）調査 12 介護サービス事業所（訪問・通所系）調査 13 居宅介護支援事業所調査 14 地域ケアプラザ調査 15 医療機関調査（認知症に関する調査）	特養 老健 居住系 訪問・通所系 居宅介護支援 ケアプラザ 医療機関
従事者 向け調査	施設を通 じた配付	2,461人 ※	16 ケアマネジャー調査 17 訪問介護員（ホームヘルパー）調査 18 施設介護職員調査 19 外国人介護職員調査	ケアマネジャー ホームヘルパー 施設介護職員 外国人介護職員

※ 母数の把握が困難なため、回答率の算出は行いません。

(4) 実施結果（抜粋）

I 自分らしい暮らしの実現に向けて

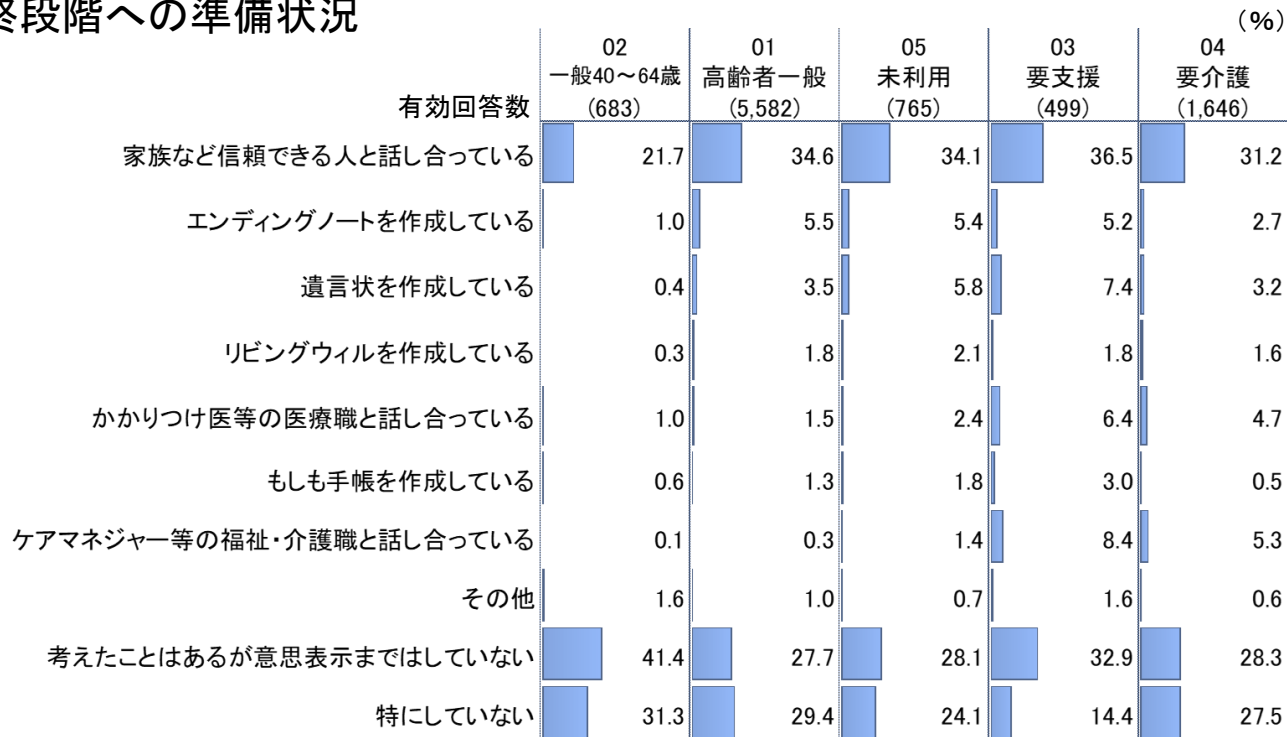
●高年齢期のイメージ

有効回答数	02 (％)				
	一般40～64歳 (683)	高齢者一般 (5,582)	05 未利用 (765)	03 要支援 (499)	04 要介護 (1,646)
心身が衰え、健康面での不安がある	73.1	65.2	64.2	70.5	68.2
時間にしばられず、好きなことに取り組める	27.8	39.7	29.0	30.3	19.0
収入が少なく、経済的な不安がある	55.2	35.2	29.5	30.1	30.6
経験や知恵が豊かである	20.5	23.1	15.2	17.0	11.8
健康的な生活習慣を実践している	8.6	20.9	15.9	14.6	7.3
周りの人とのふれあいが少なく、孤独である	18.6	16.0	17.5	20.0	18.5
友人等と過ごす時間が増え、日々を楽しんでいる	10.7	14.0	9.7	9.6	5.5
経済的なゆとりがある	7.6	9.5	6.9	6.6	4.3
就労や地域のボランティア活動で社会に貢献している	7.3	5.2	3.4	2.8	1.9
その他	2.2	1.6	4.3	2.6	4.9

全ての対象者で「心身が衰え、健康面での不安がある」が最も多く約7割を占めている。
また、“一般40～64歳” “高齢者一般” “未利用” “要支援” では「時間にしばられず、好きなことに取り組める」が3割～4割程度となっている。

I 自分らしい暮らしの実現に向けて

● 人生の最終段階への準備状況



全ての対象で「家族など信頼できる人と話し合っている」が最も多く、「高齢者一般」で34.6%、「要介護」で31.2%となっている。
一方で、「考えたことはあるが意思表示まではしていない」は3割～4割程度となっている。

Ⅱ いきいきと暮らせる地域づくりを目指して

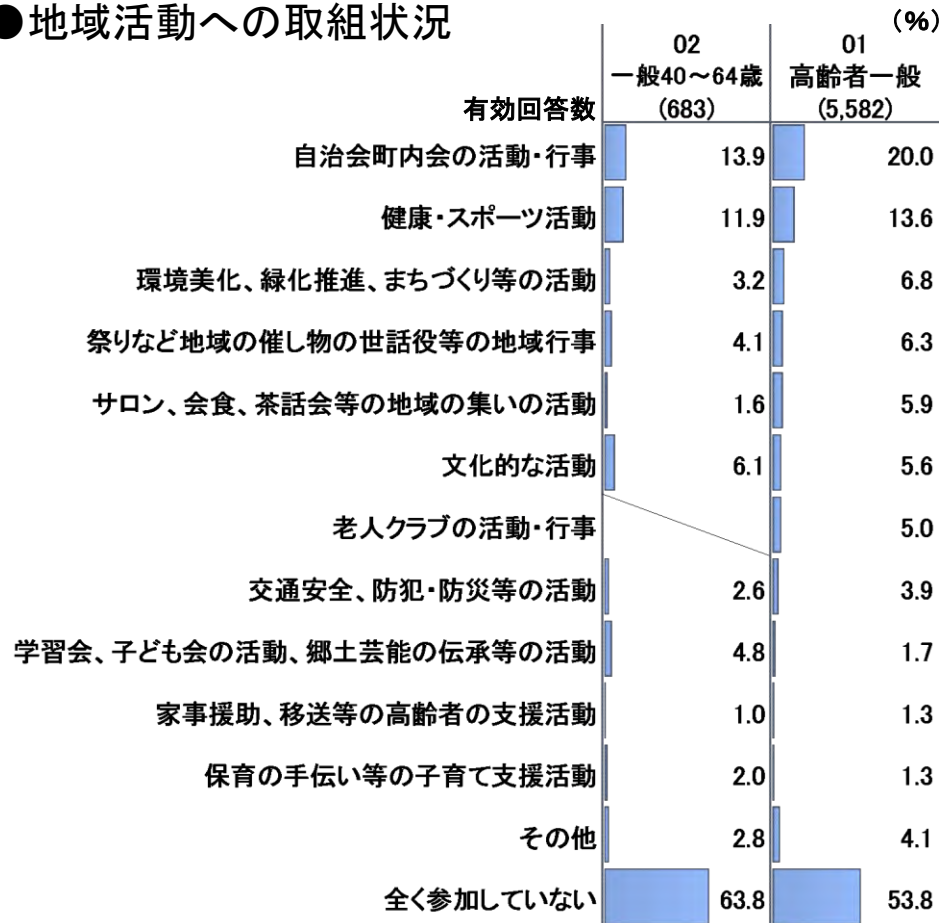
●就労状況

			(%)						
		有効回答数 (n)	ほぼ毎日	週に2～3日	月に数日	頻度は決まっていない	仕事はしていない	仕事はしたいが働いていない	無回答
02	一般40～64歳	(683)	66.6	13.8	1.0	3.1	9.7	5.1	0.7
01	高齢者一般	(5,582)	12.1	9.3	3.2	4.4	65.1	4.5	1.4

“一般40～64歳”では「ほぼ毎日」が66.6%となっている。
 一方で“高齢者一般”では「ほぼ毎日」は12.1%、「週に2～3日」は9.3%となっており、「月に数日」の3.2%と合わせて24.6%が、1か月に定期的に働いている。

Ⅱ いきいきと暮らせる地域づくりを目指して

●地域活動への取組状況



“一般40~64歳” “高齢者一般” とともに「自治会町内会の活動・行事」が最も高く、次いで「健康・スポーツ活動」となっている。一方で「全く参加していない」は“一般40~64歳”で63.8%、“高齢者一般”で53.8%となっている。

調査結果報告書62頁参照

Ⅱ いきいきと暮らせる地域づくりを目指して

●参加・利用してみたい活動

			(%)									
		有効回答数 (n)	ウォーキングや体操教室など健康維持のための活動を行う場	仲間と話をしたり趣味の活動を行うサロン等の場	地域貢献となるボランティア	文化(書道、俳句等)、芸術(絵画、美術鑑賞等)を中心とした仲間と集まる場	パソコンやインターネットなどの学習ができる場	農作業を中心とした仲間との活動の場	仕事等の知識や経験を活かしたボランティア	社会参加など、セカンドライフの充実に向けた高齢者のための相談窓口	その他	特にない
02	一般40～64歳	(683)	28.8	18.7	35.0	18.0	14.6	18.0	22.7	5.4	2.0	34.0
01	高齢者一般	(5,582)	34.2	18.5	16.6	14.4	14.3	7.1	6.1	2.8	1.6	37.1

“一般40～64歳”では「地域貢献となるボランティア」が35.0%と最も多くなっている。
 一方で“高齢者一般”では「ウォーキングや体操教室など健康維持のための活動を行う場」が最も多く、34.2%となっている。

Ⅱ いきいきと暮らせる地域づくりを目指して

● 買い物で利用するお店

			(%)				
		有効回答数 (n)	店舗	オンラインショッピング	宅配サービス	移動販売	その他
02	一般40～64歳	(683)	96.5	42.6	17.9	0.1	0.4
01	高齢者一般	(5,582)	96.0	20.1	19.0	0.9	1.3
03	要支援	(499)	78.2	14.8	37.7	5.2	12.2

“一般40～64歳”では「オンラインショッピング」が42.6%となっており、“要支援”では「宅配サービス」が37.7%となっている。

Ⅱ いきいきと暮らせる地域づくりを目指して

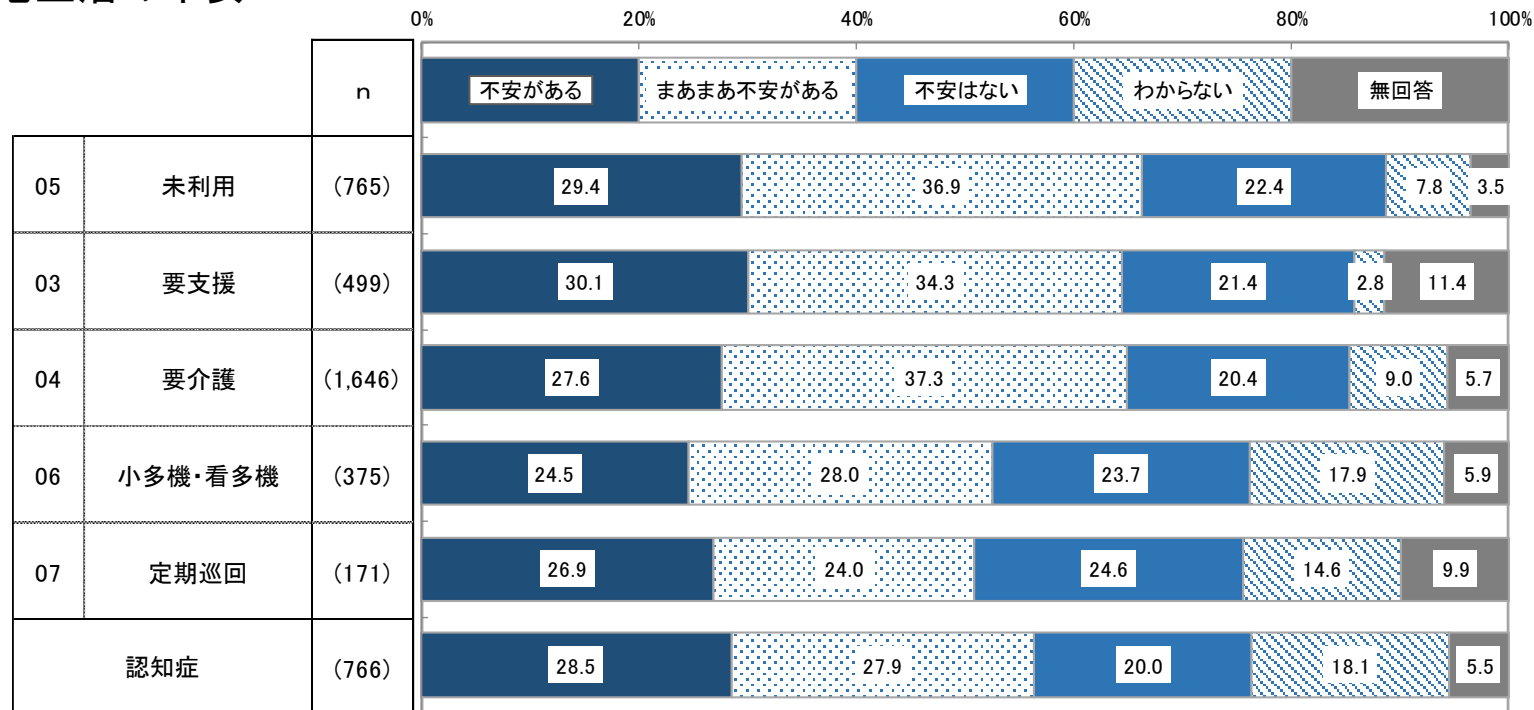
● 買い物をする方法

			(%)						
		有効回答数 (n)	自分で行く	家族に頼む	友人・知人に頼む	介護ヘルパーなどに頼む	家事代行サービスを利用する	地域のボランティアに頼む	その他
02	一般40～64歳	(683)	96.2	22.4	0.3	0.1	-	0.1	1.2
01	高齢者一般	(5,582)	93.9	28.6	0.4	0.1	0.1	-	1.4
03	要支援	(499)	66.5	52.7	3.0	6.8	0.2	-	7.0

全ての対象者で「自分で行く」が最も多くなっている。
 次いで、「家族に頼む」が多く、“一般40～64歳”では22.4%、
 “高齢者一般”では28.6%、“要支援”では52.7%となっている。

Ⅲ 在宅生活を支えるサービスの充実と連携強化を目指して

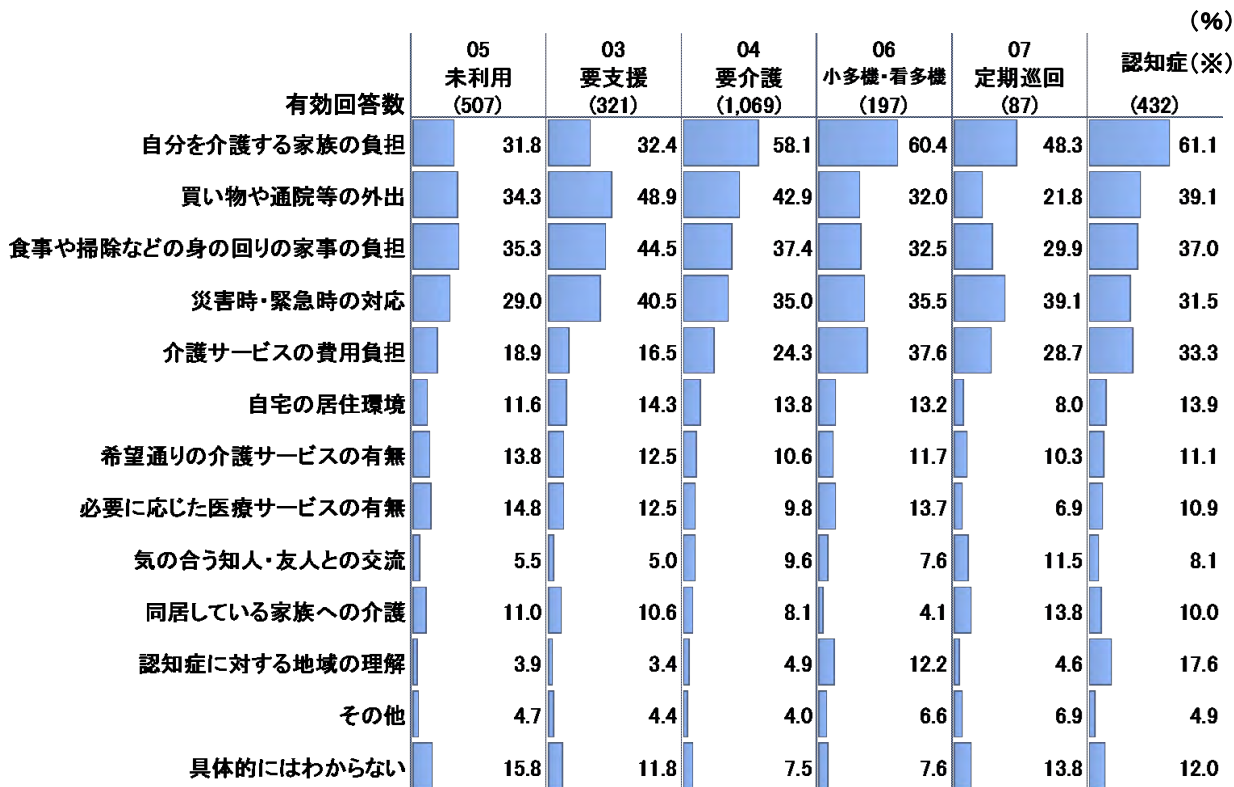
●在宅生活の不安



全ての対象者で「不安がある」「まあまあ不安がある」の合計が半数を上回っている。特に、“未利用” “要支援” “要介護” は6割以上となっている。一方で、「不安はない」の割合は、全ての対象者で2割程度となっている。

Ⅲ 在宅生活を支えるサービスの充実と連携強化を目指して

●在宅生活の不安の内容



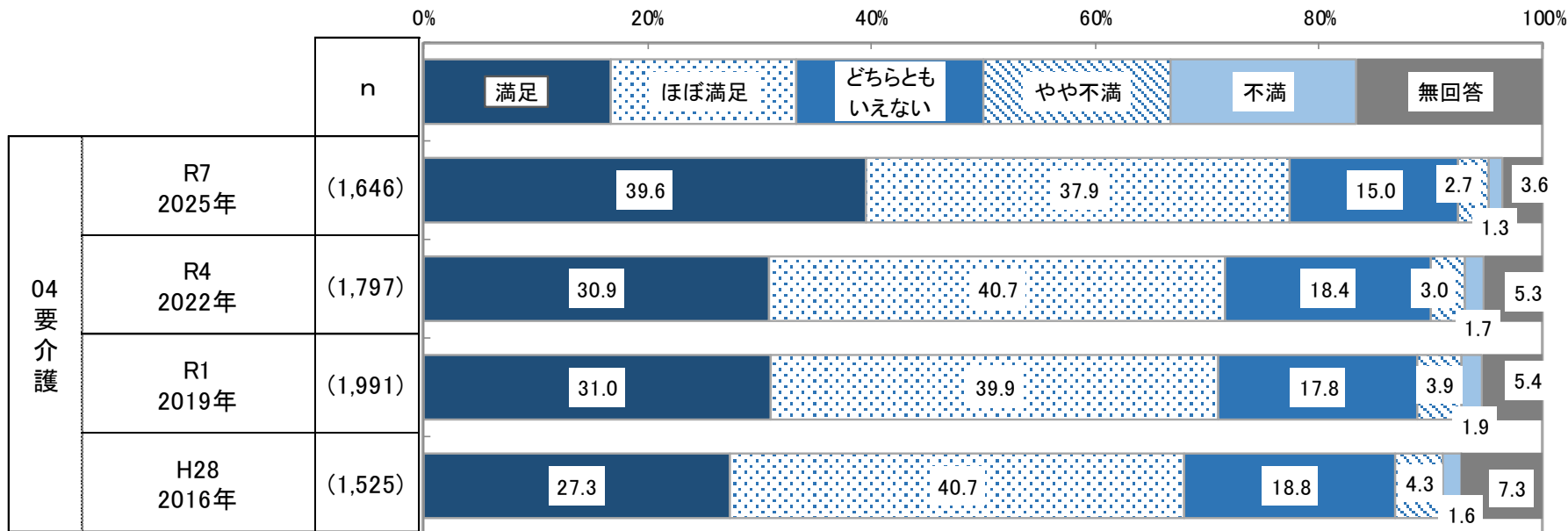
“要介護” “小多機・看多機” “定期巡回” “認知症” では、「自分を介護する家族の負担」が最も多くなっている。一方で、“未利用” “要支援” では、「買い物や通院等の外出」「食事や掃除などの身の回りの家事の負担」が多くなっている。

調査結果報告書84頁参照

(※) 認知症：市民向け調査の回答結果から、「認知症を治療中」もしくは「認知症と診断されたことがある」と回答した方の結果を抽出し、合算したものを認知症の方の回答として集計

Ⅲ 在宅生活を支えるサービスの充実と連携強化を目指して

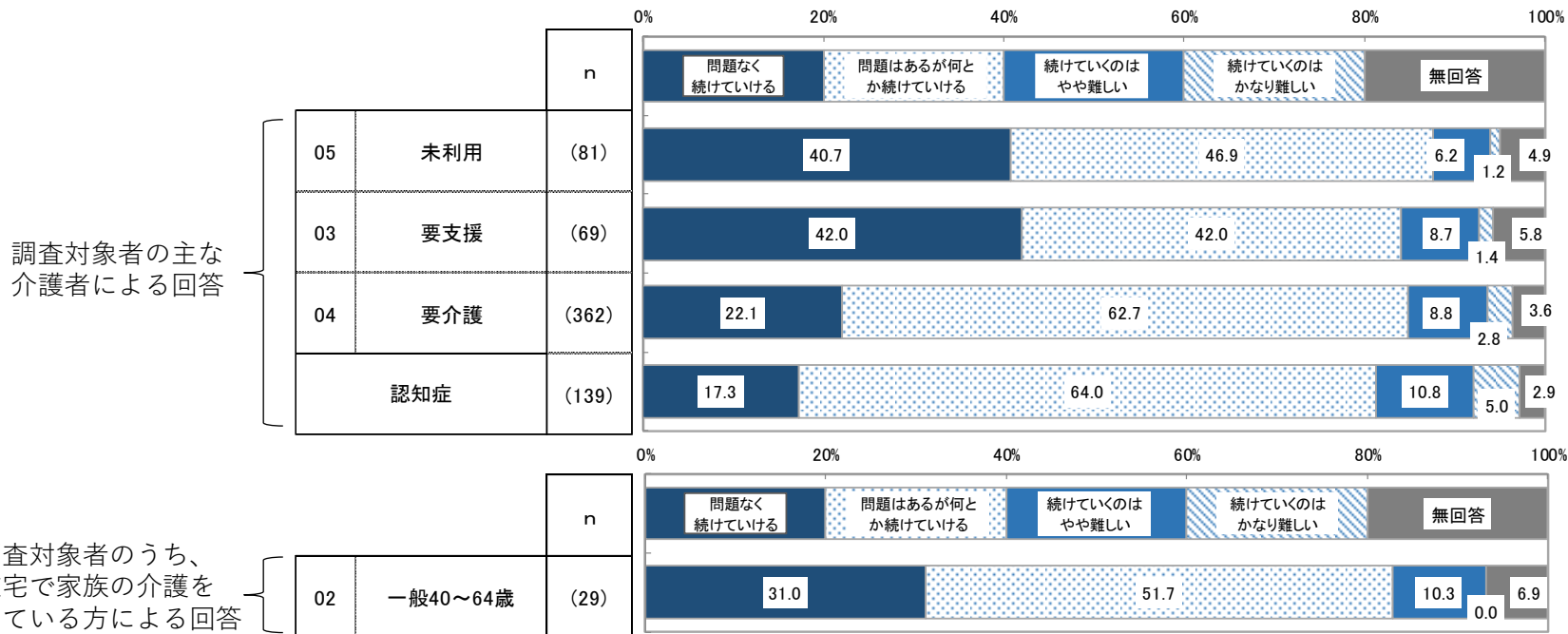
●介護サービスの満足度



現在受けている介護サービスの満足度について、「満足」と「ほぼ満足」を合計した『満足』は、77.5%となっている。

Ⅲ 在宅生活を支えるサービスの充実と連携強化を目指して

●介護者の仕事と介護の両立



全ての対象者で「問題なく続けていける」「問題はあるが何とか続けていける」の合計が8割以上となっている。一方で、「続けていくのはかなり難しい」「続けていくのはやや難しい」の合計は、“認知症”で15.8%と最も多くなっている。

IV ニーズや状況に応じた施設・住まいを目指して

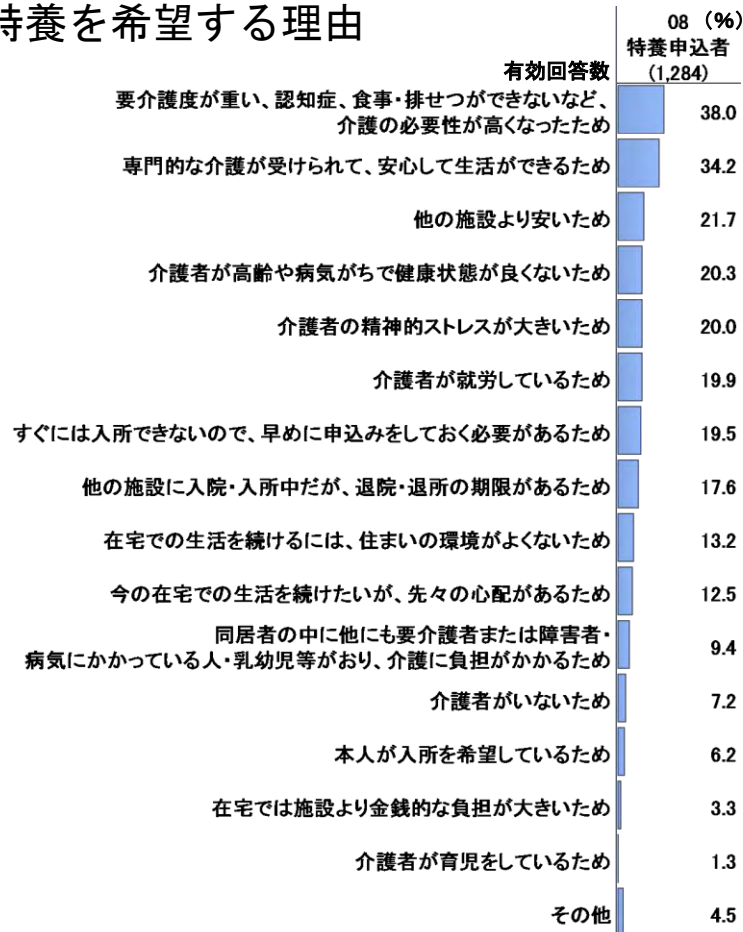
●介護が必要になった場合の暮らし方について

有効回答数	(%)					
	02 一般40～64歳 (683)	01 高齢者一般 (5,582)	05 未利用 (765)	03 要支援 (499)	04 要介護 (1,646)	認知症 (571)
介護サービスを利用せずに、家族などに介護してもらいながら、自宅で暮らしたい	3.1	3.7	15.2	4.4	9.7	12.6
介護サービスを利用しながら、できるだけ自宅で暮らしたい	33.2	45.2	32.3	39.7	43.6	37.0
バリアフリー化された高齢者向け住宅などに住み替えて暮らしたい	5.4	2.8	0.9	2.0	1.8	1.1
「サービス付き高齢者向け住宅」で暮らしたい	5.9	3.5	1.2	1.4	0.8	0.7
有料老人ホームやグループホームなどの介護付の住宅で暮らしたい	3.2	1.7	1.7	4.2	1.3	0.9
認知症グループホームで暮らしたい	5.6	3.6	1.7	1.6	2.7	4.9
特別養護老人ホームなどの介護施設で暮らしたい	21.1	18.8	23.3	25.7	21.9	22.9
すでに介護施設等に入所・入居申込みをしている	0.1	0.1	0.4	0.4	0.9	1.8
その他	0.9	0.6	0.7	0.6	0.7	0.5
わからない	16.3	7.5	11.0	7.0	7.8	8.4
無回答	5.3	12.5	11.8	13.0	8.7	9.3

全ての対象者で「介護サービスを利用しながら、できるだけ自宅で暮らしたい」が最も多く、“要介護”では43.6%となっている。
次いで「特別養護老人ホームなどの介護施設で暮らしたい」が約2割となっている。

Ⅳ ニーズや状況に応じた施設・住まいを目指して

●特養を希望する理由

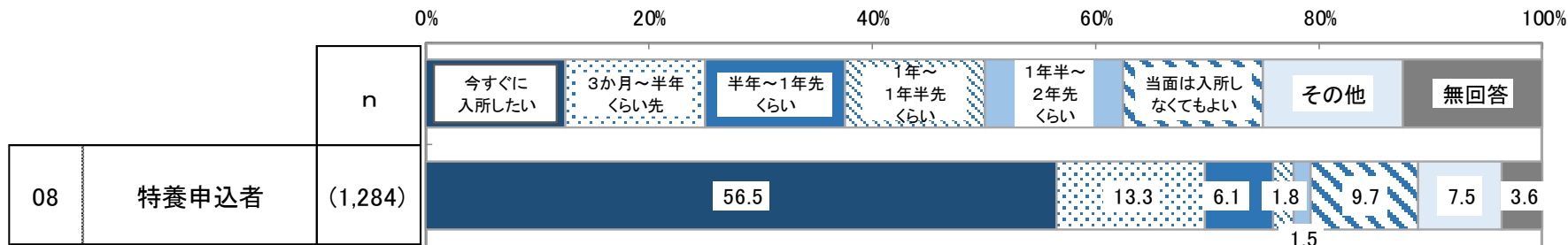


「要介護度が重い、認知症、食事・排せつができないなど、介護の必要性が高くなったため」が38.0%と最も多く、次いで「専門的な介護が受けられて、安心して生活ができるため」が34.2%となっている。

調査結果報告書127頁参照

IV ニーズや状況に応じた施設・住まいを目指して

●特養への入所希望時期

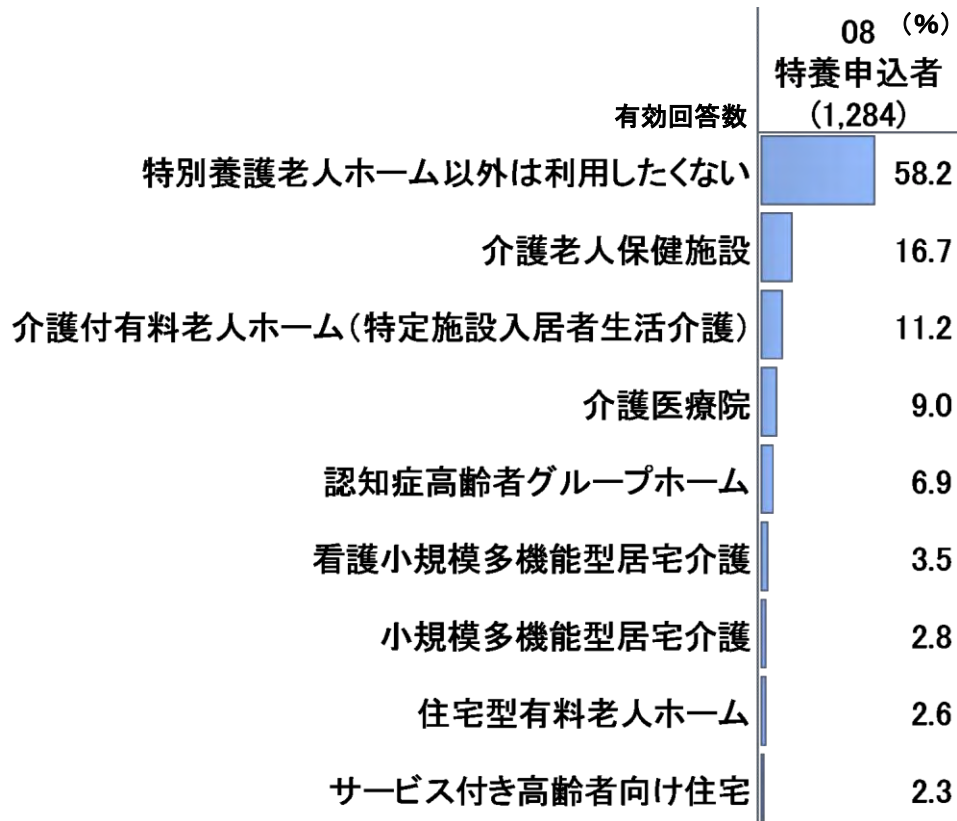


「今すぐに入所したい」が56.5%と最も多く、
次いで「3か月～半年くらい先」が13.3%となっている。

調査結果報告書128頁参照

Ⅳ ニーズや状況に応じた施設・住まいを目指して

●特養以外のサービスの希望

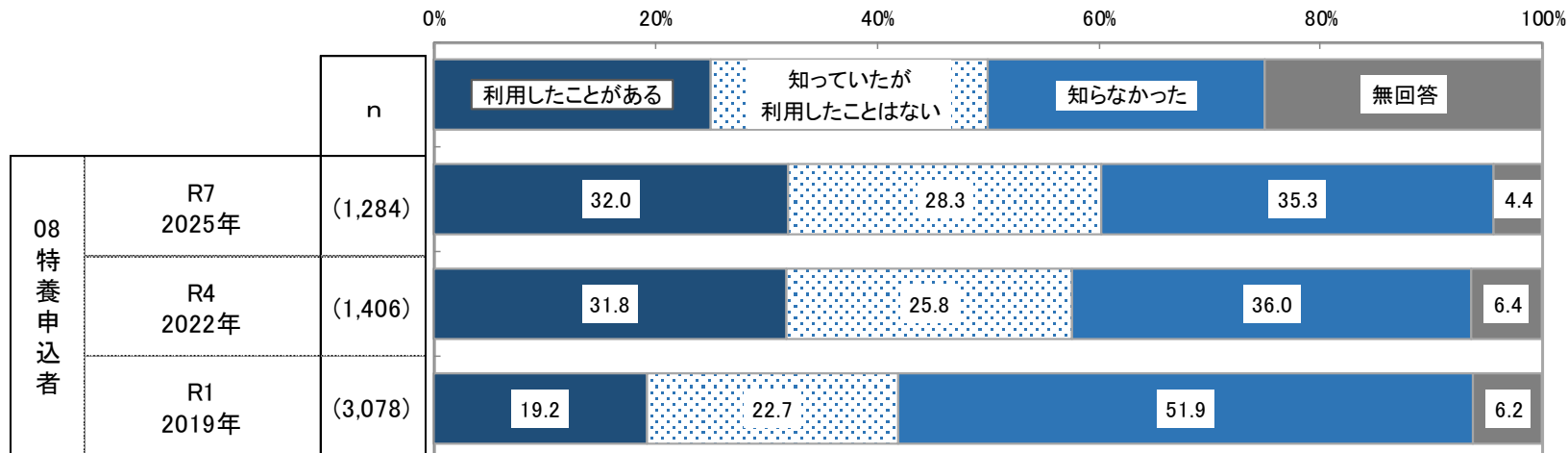


「特別養護老人ホーム以外は利用したくない」が58.2%と最も多く、「介護老人保健施設」が16.7%、「介護付有料老人ホーム」が11.2%となっている。

調査結果報告書129頁参照

IV ニーズや状況に応じた施設・住まいを目指して

● 高齢者施設・住まいの相談センターの利用状況

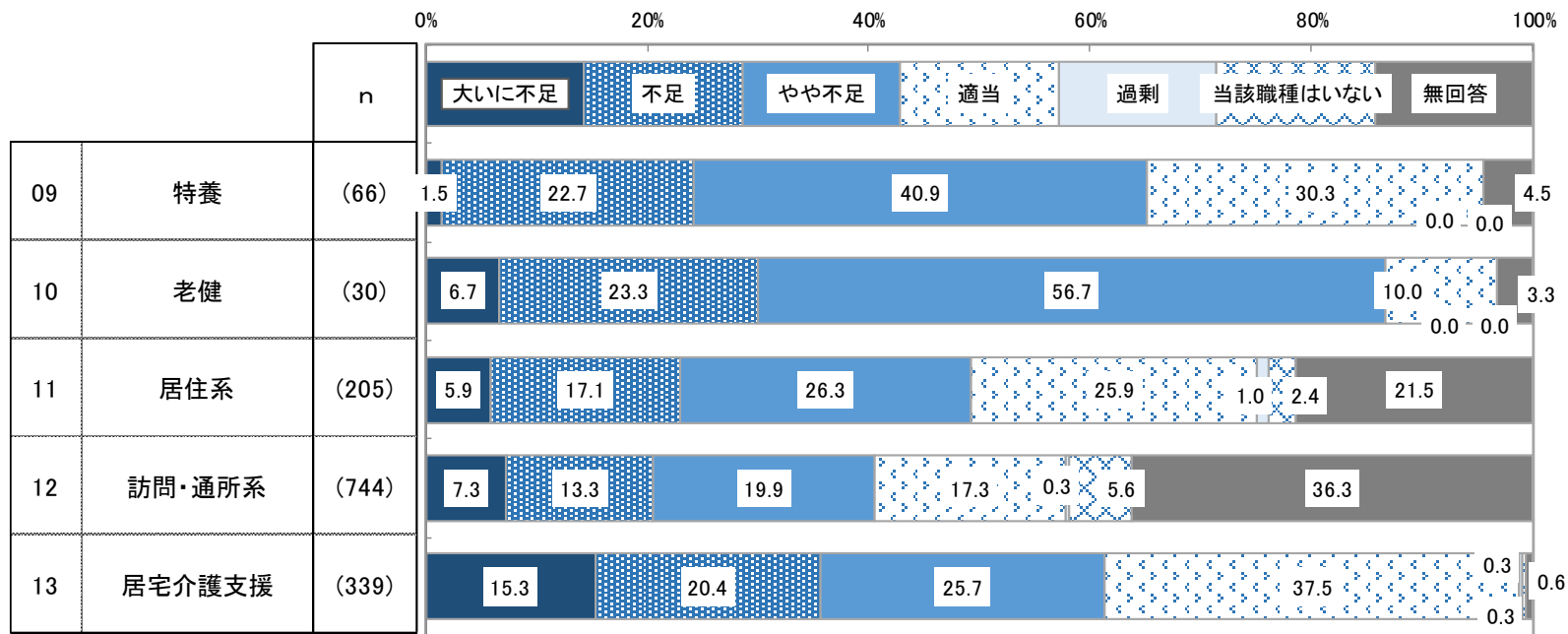


「利用したことがある」は32.0%となっている一方で、「知らなかった」は35.3%となっている。

調査結果報告書132頁参照

V 安心の介護を提供するために

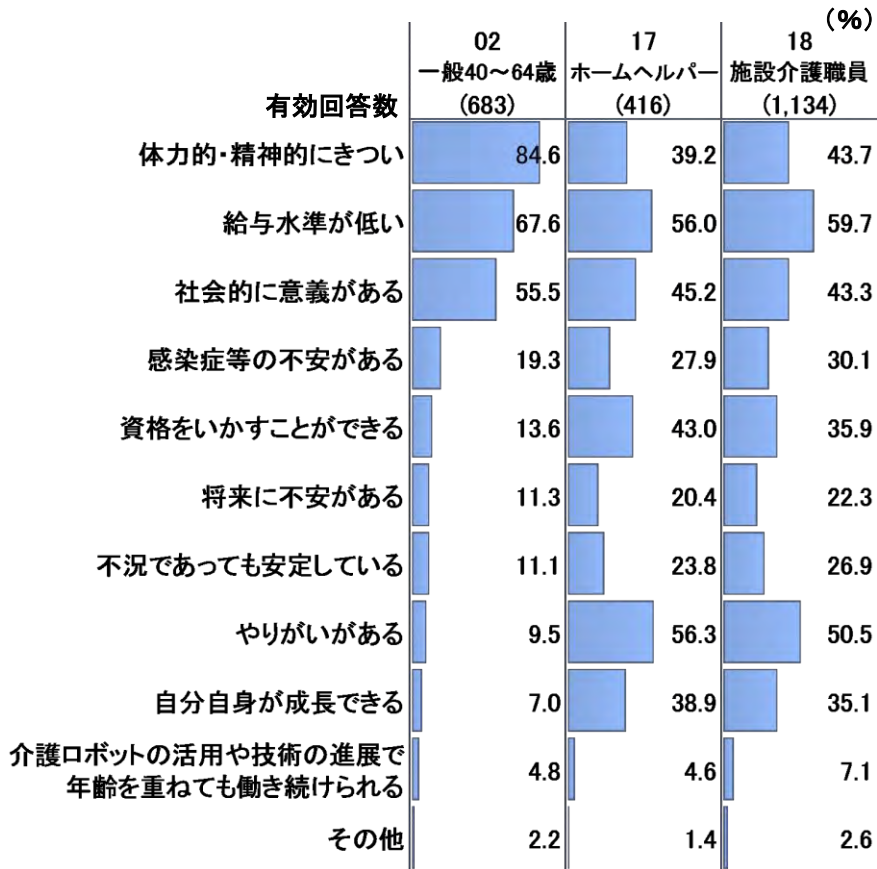
●施設・事業所職員の不足状況



“特養” “老健” “居宅介護支援” では、「大いに不足」「不足」「やや不足」を合計した『不足』が、6割以上を占めている。

V 安心の介護を提供するために

●介護職のイメージ



“一般40～64歳”では「体力的・精神的にきつい」が84.6%と最も多く、次いで「給与水準が低い」が67.6%となっている。

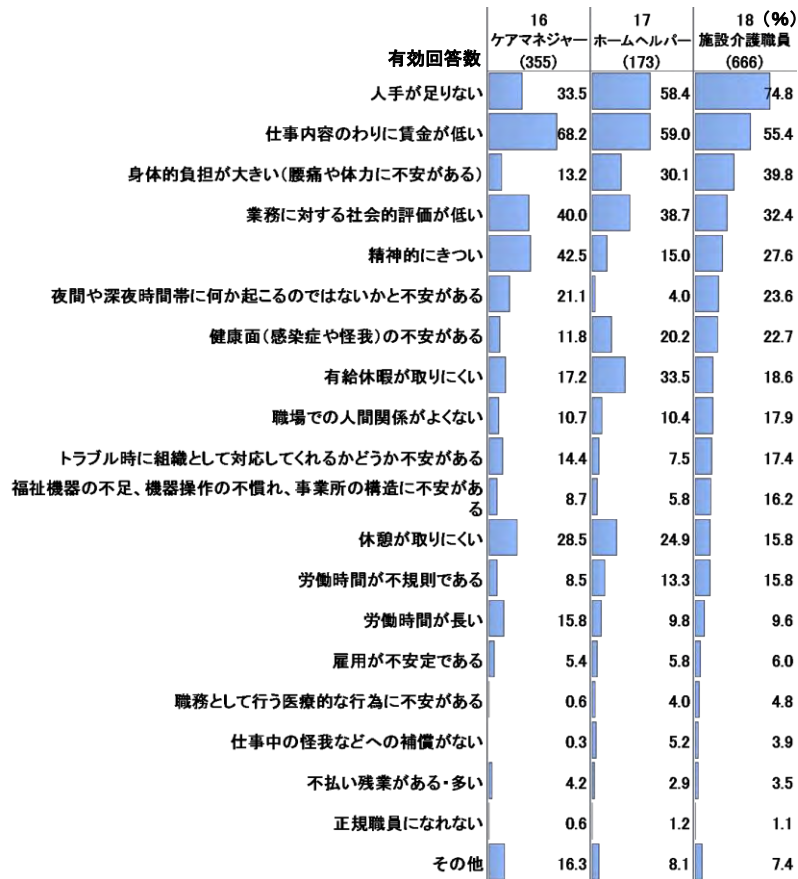
一方で、“ホームヘルパー”“施設介護職員”では「体力的・精神的にきつい」は4割程度となっており、“一般40～64歳”との差が大きくなっている。

また、「資格をいかすことができる」「やりがいがある」「自分自身が成長できる」についても、“一般40～64歳”に比べて、“ホームヘルパー”“施設介護職員”では多くなっている。

調査結果報告書141頁参照

V 安心の介護を提供するために

●介護職員が労働条件や労働環境で抱えている悩み・不安の内容



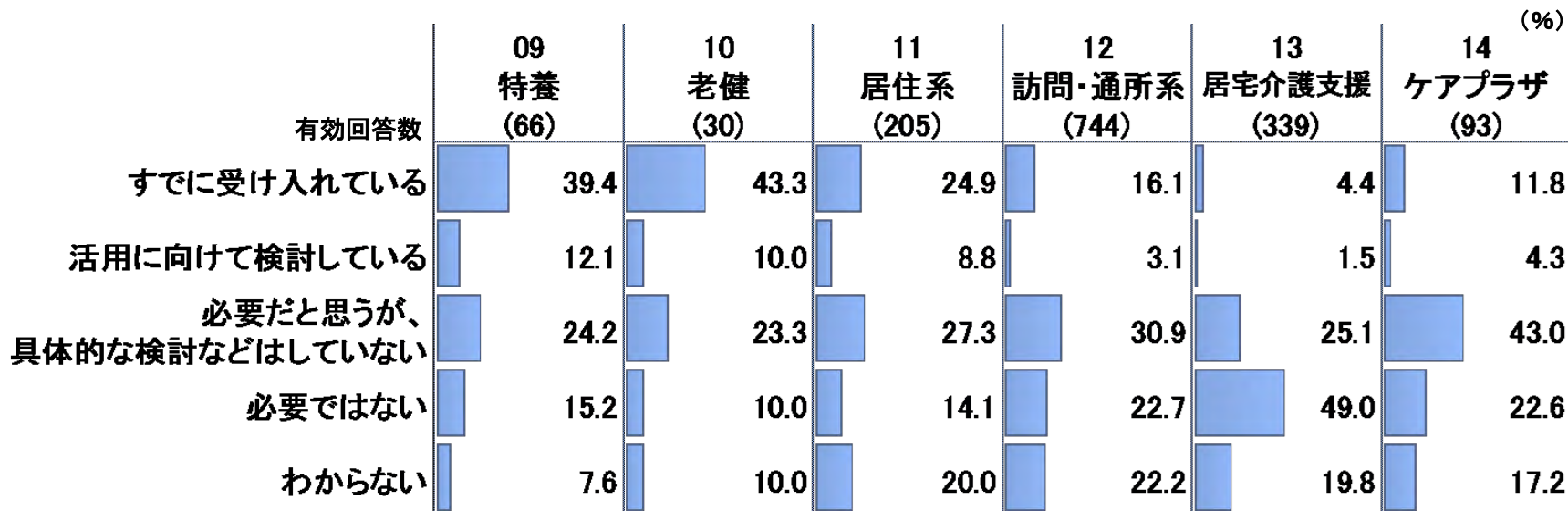
“ケアマネジャー”では「仕事内容のわりに賃金が低い」が68.2%と最も多く、次いで「精神的にきつい」が42.5%となっている。

“ホームヘルパー”では「仕事内容のわりに賃金が低い」が59.0%と最も多く、“施設介護職員”では「人手が足りない」が74.8%と最も多くなっている。

調査結果報告書148頁参照

V 安心の介護を提供するために

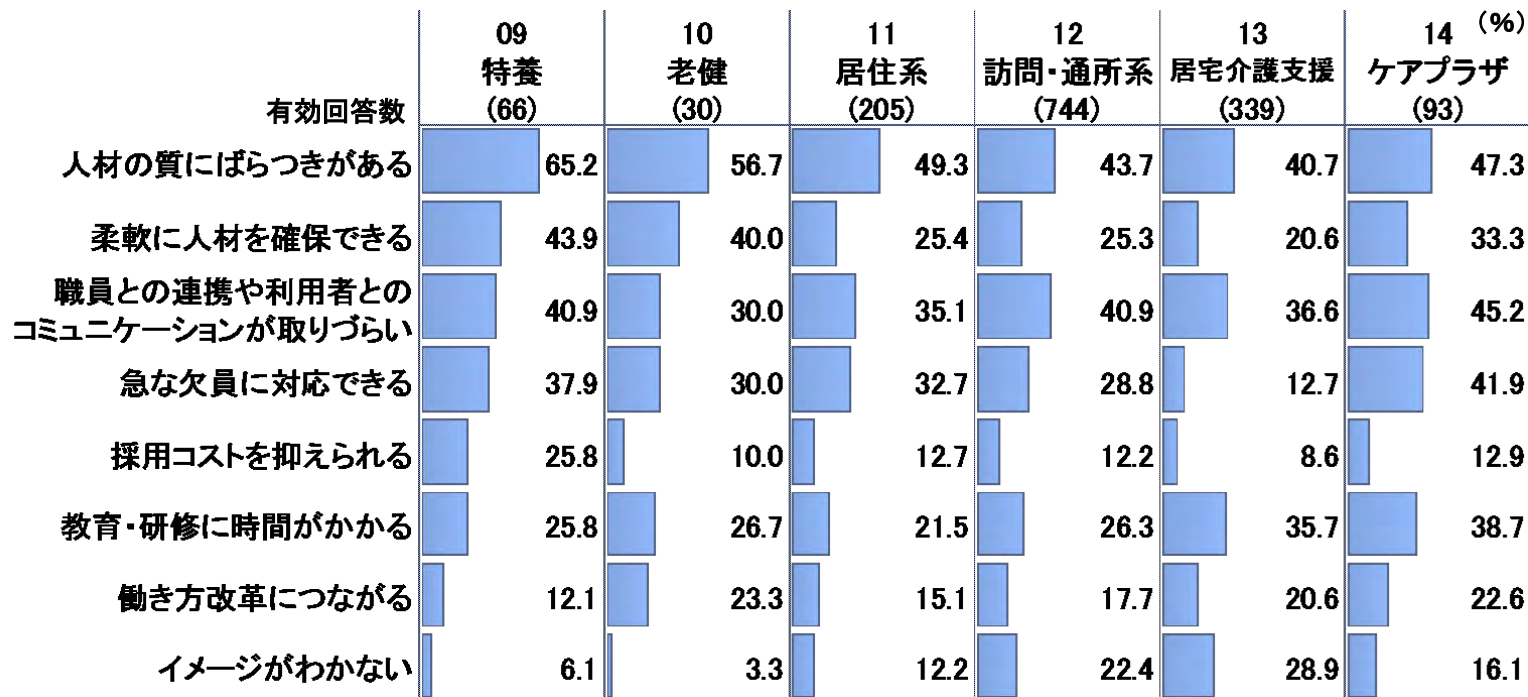
●スポットワークの受入れ状況



“特養” “老健” では「すでに受け入れている」が約4割となっている。
一方で、“居住系” “訪問・通所系” “ケアプラザ” では「必要だと思うが、具体的な検討などはしていない」が最も多く、“居宅介護支援” では「必要ではない」が49.0%と最も多くなっている。

V 安心の介護を提供するために

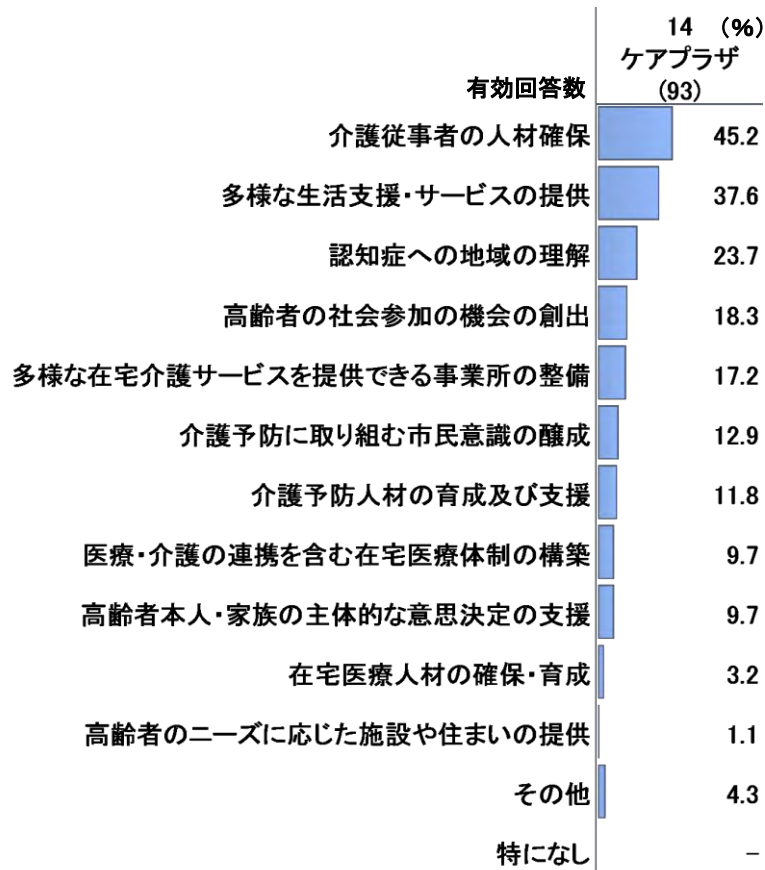
●スポットワーク等のイメージ



全ての対象で「人材の質にばらつきがある」が最も多くなっており、次いで「柔軟に人材を確保できる」「急な欠員に対応できる」といったポジティブなイメージや、「職員との連携や利用者とのコミュニケーションが取りづらい」といったネガティブなイメージが混在している。

VI 安定した介護保険制度の運営に向けて

●地域包括ケアシステムの深化・推進に向けた優先課題

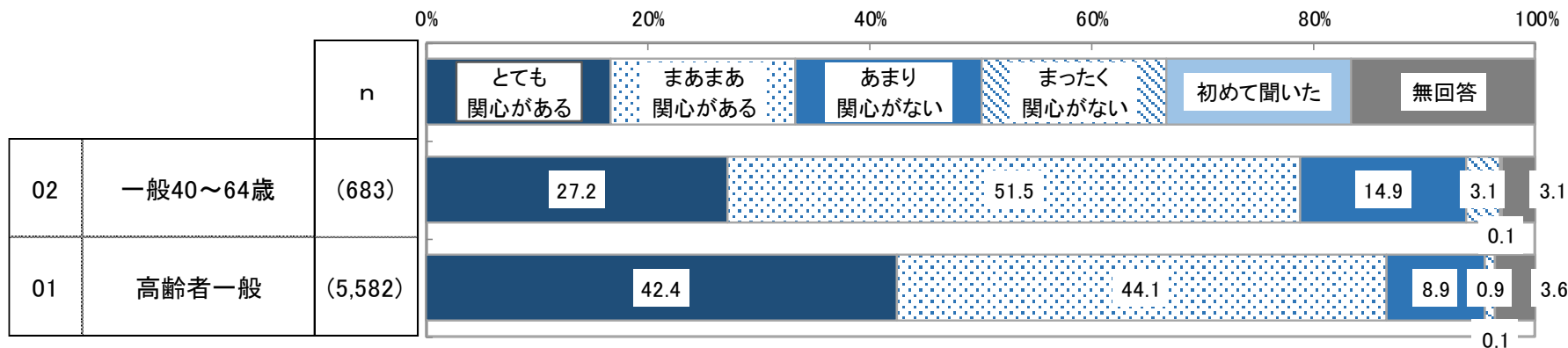


「介護従事者の人材確保」が45.2%と最も多く、次いで「多様な生活支援・サービスの提供」が37.6%となっている。

調査結果報告書162頁参照

認知症施策推進計画に関すること

● 認知症への関心度

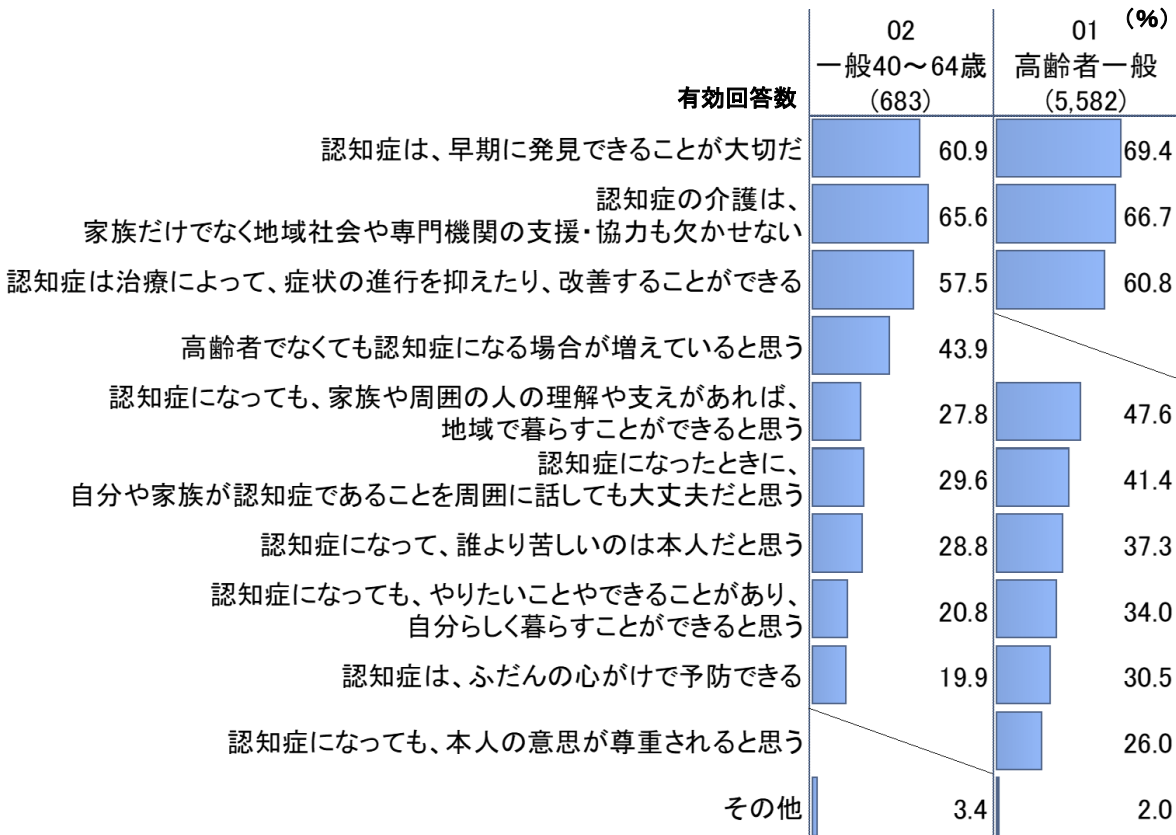


「とても関心がある」と「まあまあ関心がある」を合計した『関心がある』は、「一般40～64歳」では78.7%、「高齢者一般」では86.5%となっている。

調査結果報告書167頁参照

認知症施策推進計画に関すること

●認知症に対する理解



“一般40～64歳” “高齢者一般” とともに、「認知症は、早期に発見できることが大切だ」「認知症の介護は、家族だけでなく地域社会や専門機関の支援・協力も欠かせない」が多くなっている。

調査結果報告書168頁参照

横浜市 高齢者実態調査

調査結果報告書

令和8年3月

横浜市

第1章 調査の概要	2
1. 調査の目的	2
2. 調査対象および方法、回答状況	2
3. 調査内容	4
4. 報告書の見方	6
第2章 調査結果の基本属性	10
1. 回答者の属性	10
第3章 第9期計画の施策体系に基づく調査結果	26
I. 自分らしい暮らしの実現に向けて	26
1 高齢期の暮らしに必要な情報の発信と啓発	26
2 相談体制の構築と市民の利便性向上	45
II. いきいきと暮らせる地域づくりを目指して	50
1 介護予防・健康づくりと自立支援	50
2 社会参加	58
3 生活支援・助け合い	77
4 地域づくりを支える基盤	80
III. 在宅生活を支えるサービスの充実と連携強化を目指して	82
1 在宅介護	82
2 在宅医療	95
3 保健・福祉	100
4 医療、介護、保健・福祉の連携	113
IV. ニーズや状況に応じた施設・住まいを目指して	121
1 個々の状況に応じた施設や住まいの整備・供給	121
2 相談体制や情報提供の充実	132
V. 安心の介護を提供するために	136
1 新たな介護人材の確保	136
2 介護人材の定着支援	147
3 専門性の向上	154
4 介護現場の業務改善（生産性向上）	157

VI. 安定した介護保険制度の運営に向けて.....	162
1 介護サービスの適正化・質の向上.....	162
2 緊急時に備えた体制整備.....	166
認知症施策の推進.....	167
1 正しい知識・理解の普及.....	167
2 予防・社会参加.....	170
3 医療・介護.....	173
4 認知症の人の権利.....	180
5 認知症に理解ある共生社会の実現.....	181

第1章 調査の概要

第1章 調査の概要

1. 調査の目的

令和8年度に行う、『第10期横浜市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画・認知症施策推進計画』の策定に向けて、市内に居住する高齢者の健康づくりや生活状況、介護保険サービスの利用状況や今後の利用意向等を確認するとともに、市内の介護サービス事業所・介護福祉施設の運営状況や介護従事者の意見を把握し、次期計画策定に必要な基礎資料を作成するため、調査を実施しました。

2. 調査対象および方法、回答状況

① 市民向け調査

対象地域：横浜市に居住する市民

抽出方法：調査区分に該当する母集団から無作為抽出法

調査期間：令和7年10月16日（木）～令和7年10月31日（金）

調査方法：郵送配付、郵送回答（02調査はWEB回答を併用）

調査種別による対象者の考え方、回答数は下記の表の通り

番号	調査票名称	対象者の考え方	対象数	回答数	回答率
01	高齢者一般調査 (65歳以上)	令和7年10月1日時点で、65歳以上の市民で要介護認定を受けていない方【標本調査】	9,800人	6,016人	61.4%
02	一般調査 (40歳以上64歳以下)	令和7年10月1日時点で、40～64歳の市民【標本調査】	2,000人	721人	36.1%
03	介護保険在宅サービス利用者調査（要支援）	令和7年7月に介護保険サービス等を利用した要支援1・2の認定者【標本調査】	1,000人	617人	61.7%
04	介護保険在宅サービス利用者調査（要介護）	令和7年7月に介護保険サービス等を利用した要介護1～5の認定者【標本調査】	4,000人	2,073人	51.8%
05	介護保険サービス未利用者調査	令和7年5月～7月に介護保険サービスの利用が確認できなかった要介護認定者【標本調査】	2,000人	1,126人	56.3%
06	小規模多機能型居宅介護/看護小規模多機能型居宅介護利用者調査	令和7年7月に小規模多機能型居宅介護サービスもしくは看護小規模多機能型居宅介護サービスを利用した要介護認定者【標本調査】	1,000人	466人	46.6%
07	定期巡回・随時対応型訪問介護看護利用者調査	令和7年7月に定期巡回・随時対応型訪問介護看護サービスを利用した要介護認定者【標本調査】	500人	204人	40.8%
08	特別養護老人ホーム入所申込者調査	令和7年8月末時点で特別養護老人ホーム入所申込受付センターに申し込みをしている方【標本調査】	2,500人	1,284人	51.4%
合計			22,800人	12,507人	54.9%

② 事業所向け調査

対象地域：横浜市にて介護保険サービス等を実施している事業所

抽出方法：全数調査

調査期間：令和7年11月20日（木）～令和7年12月21日（日）

調査方法：郵送もしくはメール配付、WEB回答

調査種別による対象者の考え方、回答数は下記の表の通り

番号	調査票名称	対象者の考え方	対象数	回答数	回答率
09	特別養護老人ホーム調査	市内の特別養護老人ホーム（介護老人福祉施設） 【全数調査】	174件	66件	37.9%
10	介護老人保健施設調査	市内の介護老人保健施設 【全数調査】	87件	30件	34.5%
11	介護サービス事業所（居住系）調査	市内の特定施設、認知症高齢者グループホーム、サービス付き高齢者住宅、有料老人ホーム 【全数調査】	845件	205件	24.3%
12	介護サービス事業所（訪問・通所系）調査	市内の在宅介護サービス事業所※居宅療養管理指導、福祉用具貸与、福祉用具販売単独事業所を除く 【全数調査】	3,019件	744件	24.6%
13	居宅介護支援事業所調査	市内の居宅介護支援事業所 【全数調査】	861件	339件	39.4%
14	地域ケアプラザ調査	市内の地域ケアプラザ 【全数調査】	146件	93件	63.7%
15	医療機関調査（認知症に関する調査）	市内の医療機関（病院・診療所）※美容外科・美容皮膚科、小児科、産婦人科等の単科を除く 【全数調査】	2,831件	1,368件	48.3%
合計			7,963件	2,845件	35.7%

③ 従事者向け調査

対象地域：横浜市にて介護保険サービス等を実施している事業所に従事している職員

抽出方法：事業所ごとに最大 10 名に調査依頼

調査期間：令和 7 年 11 月 20 日（木）～令和 7 年 12 月 21 日（日）

調査方法：施設（事業所）から従事者へ配付、WEB 回答

調査種別による対象者の考え方、回答数は下記の表の通り

番号	調査票名称	対象者の考え方	対象数	回答数	回答率
16	ケアマネジャー調査	市内の居宅介護支援事業所で就労しているケアマネジャー 【標本調査】		657 人	
17	訪問介護員（ホームヘルパー）調査	市内の在宅介護サービス事業所で就労しているホームヘルパー 【標本調査】		416 人	
18	施設介護職員調査	市内の特別養護老人ホーム等で就労している介護職員 【標本調査】		1,134 人	
19	外国人介護職員調査	市内の特別養護老人ホーム等で就労している外国籍の介護職員 【標本調査】		254 人	
合計				2,461 人	

備考：従事者向け調査については、対象者の母数を把握していないため、回答率の算出は行わない。

3. 調査内容

① 市民向け調査

番号	調査票名称	調査内容
01	高齢者一般調査（65 歳以上）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 基本属性 ・ 住まいと暮らしの状況 ・ 心と体の健康状態 ・ 地域生活の状況 ・ 介護予防に関すること ・ 認知症に関すること ・ 住まいや介護等に関する情報 ・ 地域ケアプラザに関すること ・ 今後（老後）への備えに関すること ・ 介護に関すること 等
02	一般調査（40 歳以上 64 歳以下）	
03	介護保険在宅サービス利用者調査（要支援）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 基本属性 ・ 住まいと暮らしの状況 ・ 心と体の健康状態 ・ 地域生活の状況 ・ 介護予防に関すること ・ 介護サービス等に関すること ・ 今後（老後）への備えに関すること ・ 通院、リハに関すること ・ 介護者に関すること 等

番号	調査票名称	調査内容
04	介護保険在宅サービス利用者調査（要介護）	<ul style="list-style-type: none"> ・基本属性 ・住まいと暮らしの状況 ・心と体の健康状態 ・介護サービス等に関する事 ・今後（老後）への備えに関する事 ・通院、リハに関する事 ・介護者に関する事 等
05	介護保険サービス未利用者調査	<ul style="list-style-type: none"> ・基本属性 ・住まいと暮らしの状況 ・心と体の健康状態 ・地域生活の状況 ・介護・認知症予防に関する事 ・介護サービス等に関する事 ・今後（老後）への備えに関する事 ・通院、リハに関する事 ・介護者に関する事 等
06	小規模多機能型居宅介護/看護小規模多機能型居宅介護利用者調査	<ul style="list-style-type: none"> ・基本属性 ・住まいと暮らしの状況 ・心と体の健康状態 ・小規模多機能等サービスの利用状況、満足度 ・介護者に関する事 等
07	定期巡回・随時対応型訪問介護看護利用者調査	<ul style="list-style-type: none"> ・基本属性 ・住まいと暮らしの状況 ・心と体の健康状態 ・定期巡回等サービスの利用状況、満足度 ・介護者に関する事 等
08	特別養護老人ホーム入所申込者調査	<ul style="list-style-type: none"> ・基本属性 ・住まいと暮らしの状況 ・心と体の健康状態 ・介護サービスに関する事 ・介護保険制度に関する事 ・特養の利用意向、相談対応 ・介護者に関する事 等

② 事業所向け調査

番号	調査票名称	調査内容
09	特別養護老人ホーム調査	<ul style="list-style-type: none"> ・基本属性 ・職員体制、人材確保について ・待機者・入退所者の状況 ・サービスの実施状況 ・施設の老朽化対策について 等
10	介護老人保健施設調査	
11	介護サービス事業所（居住系）調査	<ul style="list-style-type: none"> ・基本属性 ・職員体制、人材確保について ・待機者・入退所者の状況 ・サービスの実施状況 等

番号	調査票名称	調査内容
12	介護サービス事業所（訪問・通所系）調査	<ul style="list-style-type: none"> ・基本属性 ・職員体制、人材確保について ・サービスの実施状況 ・総合事業等について 等
13	居宅介護支援事業所調査	<ul style="list-style-type: none"> ・基本属性 ・職員体制、人材確保について ・サービスの実施状況 等
14	地域ケアプラザ調査	<ul style="list-style-type: none"> ・基本属性 ・職員体制 ・ケアプラザ業務の取組状況 ・地域包括ケアに関すること ・地域ケア会議に関すること ・認知症事業に関すること 等
15	医療機関調査（認知症に関する調査）	<ul style="list-style-type: none"> ・基本属性 ・認知症診療の実施状況 ・認知症疾患医療センターについて ・市の認知症施策の認知度 等

③ 従事者向け調査

番号	調査票名称	調査内容
16	ケアマネジャー調査	<ul style="list-style-type: none"> ・基本属性 ・職場環境に関すること ・担当地域のサービスに関すること ・地域ケア会議等に関すること ・ケアマネ業務に関すること ・包括支援センター等に関すること 等
17	訪問介護員（ホームヘルパー）調査	<ul style="list-style-type: none"> ・基本属性 ・職場環境に関すること ・キャリアに関すること ・待遇に関すること ・研修に関すること ・災害対策に関すること 等
18	施設介護職員調査	
19	外国人介護職員調査	<ul style="list-style-type: none"> ・基本属性 ・職場環境に関すること 等

4. 報告書の見方

【共通事項】

- ・グラフ・表中の「n」はアンケートの有効回答数を示しています。
- ・比率はすべて百分率（%）で表し、小数点第2位を四捨五入して算出しています。従って、合計が100.0%にならない場合があります。
- ・複数回答の場合、回答の合計比率が100.0%を超える場合があります。
- ・グラフ・表として示したもののうち、無回答の回答数が0の場合は「無回答」の表示を省略しています。また、設問文・選択肢の文章を、意味が変わらない程度に簡略化してある場合があ

ります。

- ・複数回答のグラフ・表は、「無回答」や回答数が少ない選択肢の一部を省略している場合があります。
- ・調査票及び単純集計表は、別途まとめている資料編に掲載しています。

【認知症の人の回答の集計方法について】

- ・市民向け調査の回答結果から、「認知症を治療中」もしくは「認知症と診断されたことがある」と回答した方の結果を抽出、合算し、「認知症の人」の回答として集計しています。
- ・グラフや表では「認知症」と表記しています。

【02「一般調査（40歳以上64歳以下）」について】

- ・調査対象について、H28調査・H25調査時は対象者の条件を「55歳～64歳」として実施していたため、今回調査時の「40～64歳」と条件が異なります。

【報告書の記載について】

- ・第2章以降では、以下の調査結果（図表、文章）において略称を用いています。

番号	調査票の名称	略称
01	高齢者一般調査（65歳以上）	⇒ 高齢者一般
02	一般調査（40歳以上64歳以下）	⇒ 一般40～64歳
03	介護保険在宅サービス利用者調査（要支援）	⇒ 要支援
04	介護保険在宅サービス利用者調査（要介護）	⇒ 要介護
05	介護保険サービス未利用者調査	⇒ 未利用
06	小規模多機能型居宅介護/看護小規模多機能型居宅介護利用者調査	⇒ 小多機・看多機
07	定期巡回・随時対応型訪問介護看護利用者調査	⇒ 定期巡回
08	特別養護老人ホーム入所申込者調査	⇒ 特養申込者
	01～08のうち、認知症の人の回答結果	⇒ 認知症
09	特別養護老人ホーム調査	⇒ 特養
10	介護老人保健施設調査	⇒ 老健
11	介護サービス事業所（居住系）調査	⇒ 居住系
12	介護サービス事業所（訪問・通所系）調査	⇒ 訪問・通所系
13	居宅介護支援事業所調査	⇒ 居宅介護支援
14	地域ケアプラザ調査	⇒ ケアプラザ
15	医療機関調査（認知症に関する調査）	⇒ 医療機関
16	ケアマネジャー調査	⇒ ケアマネジャー
17	訪問介護員（ホームヘルパー）調査	⇒ ホームヘルパー
18	施設介護職員調査	⇒ 施設介護職員
19	外国人介護職員調査	⇒ 外国人介護職員

第2章 調査結果の基本属性

第2章 調査結果の基本属性

1. 回答者の属性

① 調査票の記入者

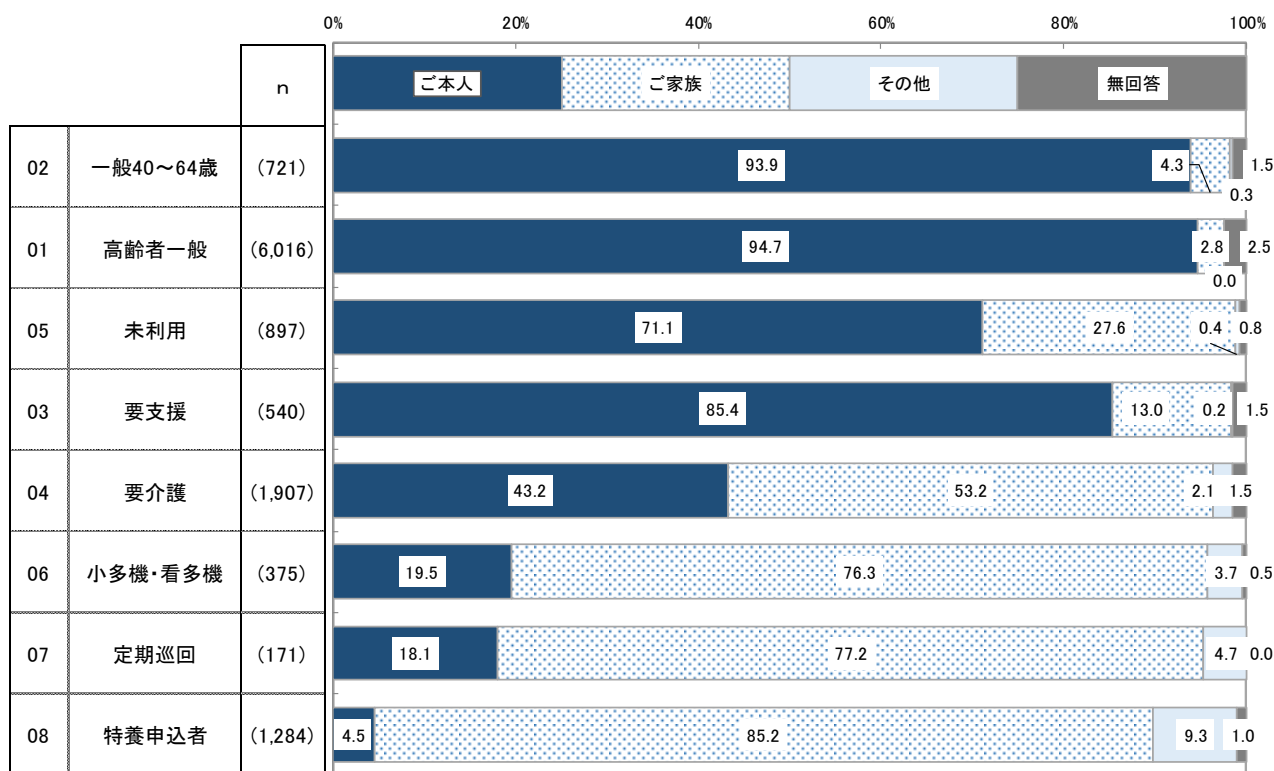
問 この調査票を記入するのはどなたですか。(〇はひとつ)

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
問 番号	1	1	2	2	2	2	2	1											

調査票の記入者は、“一般40～64歳”“高齢者一般”で「ご本人」が9割以上となっており、“未利用”“要支援”で約7～8割となっている。

一方で、“要介護”“小多機・看多機”“定期巡回”“特養申込者”といった、介護サービスを必要としている人では、「ご本人」は5割を下回っており、「ご家族」が5割以上となっている。

図表 1-① 記入者



② 性別

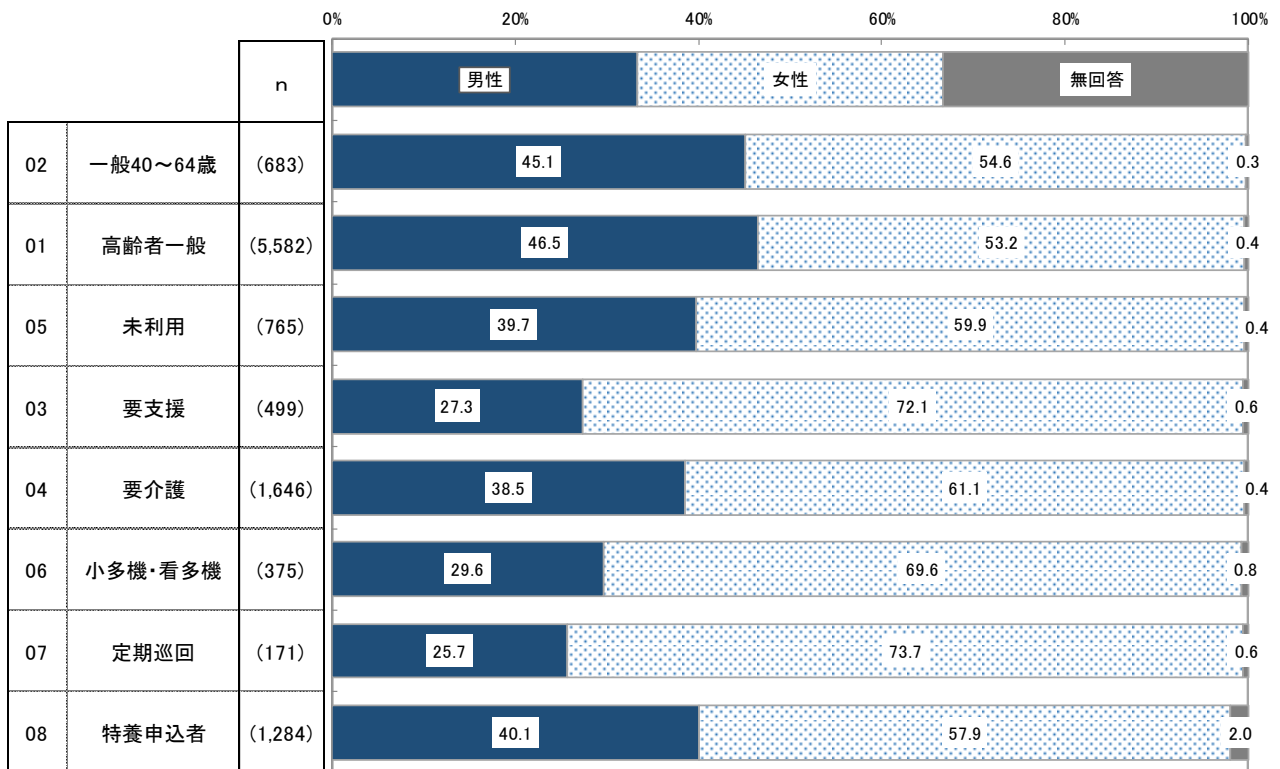
問 あなた（あて名ご本人）の性別をお答えください。

（○はひとつ）

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
問番号	3	3	4	4	4	3	3	2											

性別は、全ての調査対象で「女性」が半数以上を占めており、特に“要支援”“定期巡回”では、「女性」が7割以上となっている。

図表 1-② 性別



③ 年齢

問 あなた（あて名ご本人）の年齢（令和7年10月1日現在）をお答えください。
(○はひとつ)

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	
問番号	4	4	5	5	5	4	4	4												

対象者の年齢は、“一般 40～64 歳”では、5 歳刻みで偏りが少ないものの、“高齢者一般”では「65 歳～79 歳」がボリュームゾーンとなっており、72.3%を占めている。

一方で、“未利用”“要支援”“要介護”など、何らかの介護認定を受けている／介護サービスを利用している対象では「80 歳以上」がボリュームゾーンとなっており、7 割以上を占めている。

図表 1-③ 年齢

		(%)													
		有効回収数 (n)	40 歳	45 歳	50 歳	55 歳	60 歳	65 歳	70 歳	75 歳	80 歳	85 歳	90 歳	95 歳以上	無回答
02	一般40～64歳	(683)	14.3	16.0	24.0	23.3	22.4								-
01	高齢者一般	(5,582)						21.9	23.8	26.6	17.3	8.1	2.0	0.2	0.1
05	未利用	(765)			1.7			2.1	6.4	14.4	26.5	30.5	15.4	3.0	-
03	要支援	(499)			1.4			2.4	5.8	13.6	26.9	29.3	16.2	4.4	-
04	要介護	(1,646)			3.7			3.2	6.4	13.6	21.7	25.0	18.7	7.3	0.4
06	小多機・看多機	(375)			5.1			3.2	3.7	13.3	17.6	24.8	22.4	9.3	0.5
07	定期巡回	(171)			1.8			1.2	3.5	15.2	20.5	24.6	20.5	12.9	-
08	特養申込者	(1,284)			2.5			2.6	5.5	9.9	18.3	25.9	23.6	10.4	1.3

④ 現在の居住地区

問 あなた（あて名ご本人）のお住まいの区はどちらですか。 (○はひとつ)

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	
問 番号	5	5	6	6	6	5	5	5												

居住地区は、調査対象による大きな偏りはなく、各区で同様の水準となっている。

ただし、“一般40～64歳”では「港北区」が11.1%、“小多機・看多機”では「戸塚区」が13.9%
“定期巡回”では、「南区」が15.8%と、1割を上回っている。

図表 1-④ 居住地区

		(n)	青葉区	旭区	泉区	磯子区	神奈川区	金沢区	港南区	港北区	栄区	瀬谷区
02	一般40～64歳	(683)	8.3	5.4	3.5	3.2	6.0	4.2	6.9	11.1	3.4	4.1
01	高齢者一般	(5,582)	5.7	5.3	5.4	5.5	5.7	6.1	6.3	5.4	6.0	5.6
05	未利用	(765)	6.5	7.8	5.2	5.9	6.4	9.8	8.9	8.4	5.0	-
03	要支援	(499)	7.8	8.4	6.0	5.4	5.0	5.8	6.2	7.0	5.6	4.0
04	要介護	(1,646)	7.2	8.1	4.3	4.9	5.7	6.0	6.3	8.5	3.5	0.7
06	小多機・看多機	(375)	3.7	8.0	7.7	2.7	8.8	9.6	6.4	6.9	7.5	1.3
07	定期巡回	(171)	8.2	8.2	0.6	9.9	4.1	1.8	2.3	9.9	1.2	1.2
08	特養申込者	(1,284)	6.0	6.6	4.8	4.6	5.3	5.6	6.0	6.0	2.6	3.8

		(n)	都筑区	鶴見区	戸塚区	中区	西区	保土ヶ谷区	緑区	南区	市外	無回答
02	一般40～64歳	(683)	7.9	7.9	7.6	3.1	2.2	5.1	4.8	5.0	-	0.1
01	高齢者一般	(5,582)	5.6	4.8	5.9	4.8	5.6	5.8	5.3	5.3	-	0.1
05	未利用	(765)	3.5	5.9	5.8	4.6	1.8	5.4	4.1	5.0	-	0.1
03	要支援	(499)	6.2	1.6	7.0	4.6	2.0	5.6	5.6	5.8	-	0.2
04	要介護	(1,646)	4.4	6.9	8.8	3.8	2.2	6.4	4.8	7.4	-	0.2
06	小多機・看多機	(375)	4.8	0.5	13.9	0.5	0.8	5.1	5.1	6.7	-	-
07	定期巡回	(171)	1.8	7.6	6.4	8.2	1.8	4.7	6.4	15.8	-	-
08	特養申込者	(1,284)	4.0	7.2	7.8	4.1	2.3	5.8	4.4	5.9	6.0	1.3

⑤ 世帯構成

問 あなた（あて名ご本人）の世帯の状況をお選びください。（○はひとつ）

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
問 番号	7	7	8	8	8	7	7	7											

世帯構成は、“要支援”“定期巡回”“特養申込者”で「ひとり暮らし」が3割以上となっており、特に“要支援”は40.1%と最も多くなっている。

“高齢者一般”では「夫婦二人暮らし（どちらも65歳以上）」が43.2%と最も多く、“未利用”では36.7%となっている。“要介護”“小多機・看多機”では「子や孫など同居」が最も多くなっている。

“一般40～64歳”では、「子や孫など同居」が44.8%と最も多く、「親と同居」「親及び子など同居」の合計は16.0%となっている。

図表 1-⑤ 世帯構成

		(%)							
		有効回収数 (n)	ひとり暮らし	夫婦二人暮らし (どちらも65歳以上)	夫婦二人暮らし (片方だけ65歳以上)	子や孫など同居	その他 (全員が65歳以上)	その他	無回答
01	高齢者一般	(5,582)	19.2	43.2	3.6	29.5	1.6	1.4	1.5
05	未利用	(765)	26.9	36.7	0.5	30.3	0.8	2.9	1.8
03	要支援	(499)	40.1	27.9	0.6	26.7	0.6	2.0	2.2
04	要介護	(1,646)	22.7	28.7	1.3	39.1	1.6	3.6	3.0
06	小多機・看多機	(375)	27.7	18.7	1.9	45.3	1.1	3.7	1.6
07	定期巡回	(171)	38.6	21.1	-	30.4	-	7.0	2.9
08	特養申込者	(1,284)	32.7	22.2	0.8	31.6	1.3	9.4	1.9

		(%)							
		有効回収数 (n)	ひとり暮らし	夫婦二人暮らし	子や孫など同居	親と同居	親及び子など同居	その他	無回答
02	一般40～64歳	(683)	12.0	22.4	44.8	8.1	7.9	4.5	0.3

⑥ 住まいの形態

問 あなた（あて名ご本人）のお住まいは、次のどれにあてはまりますか。（○はひとつ）

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	
問 番号	9	8	9	9	9	8	8	8												

住まいの形態は、“高齢者一般”“未利用”“要支援”“要介護”“小多機・看多機”では「一戸建て（持ち家）」が半数を上回っている。

一方で、“一般40～64歳”“定期巡回”“特養申込者”では「一戸建て（持ち家）」は半数を下回り、“一般40～64歳”では「マンション（持ち家）」や「アパート、マンション（民間賃貸）」、“定期巡回”では「サービス付き高齢者住宅」や「有料老人ホーム」が他に比べて多くなっている。また、“特養申込者”では「介護老人保健施設」が多くなっている。

図表 1-⑥ 住まいの形態

		有効回収数 (n)														(%)	
			一戸建て (持ち家)	マン シ ョ ン (持ち家)	公 営 住 宅 (県 営・市 営)	公 的 賃 貸 住 宅 (UR、住 宅 供 給 公 社)	ア パ ー ト、 マン シ ョ ン (民間 賃 貸)	一 戸 建 て (民間 賃 貸)	高 齢 者 向 け 優 良 賃 貸 住 宅	サ ー ビ ス 付 き 高 齢 者 住 宅	有 料 老 人 ホ ー ム	介 護 老 人 保 健 施 設	介 護 医 療 院	ホ ー ム	認 知 症 高 齢 者 グ ル ー プ	そ の 他	無 回 答
02	一般40～64歳	(683)	43.0	34.4	1.0	1.9	17.7	0.9	-	-	-				0.9	0.1	
01	高齢者一般	(5,582)	54.5	30.3	2.9	3.1	5.9	1.5	0.3	0.1	0.1				0.6	0.7	
05	未利用	(765)	59.1	21.3	4.2	4.2	4.6	2.0	0.4	0.1	-				0.7	3.5	
03	要支援	(499)	56.5	23.4	6.2	5.6	4.8	1.8	-	0.4	-				0.6	0.6	
04	要介護	(1,646)	57.5	22.1	4.4	3.0	6.0	1.8	0.5	0.5	0.1				1.2	3.1	
06	小多機・看多機	(375)	54.7	18.9	4.8	4.5	8.3	2.4	0.5	2.4	0.5				2.7	0.3	
07	定期巡回	(171)	47.4	14.0	3.5	5.8	8.8	3.5	1.8	6.4	7.6				1.2	-	
08	特養申込者	(1,284)	36.4	13.6	4.9	2.8	4.4	0.6	-	1.3	6.4	16.9	0.9	3.7	5.5	2.6	

⑦ 定期的な収入の内容

問 あなた（あて名ご本人）は、定期的な収入をどこから得ていますか。

（あてはまるものすべてに○）

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	
問 番号	10	9	10	10	10	9	9													

定期的な収入は、“一般40～64歳”では、「給与等」が81.7%と最も多くなっている。

“一般40～64歳”以外では、「公的年金や恩給」が約9割を占めている。一方で、“高齢者一般”では、「給与等」が20.5%と他に比べて多くなっている。

図表 1-⑦ 定期的な収入

		(%)								
		有効回収数 (n)	公的年金や恩給	給与等	株式の配当	土地・家屋の家賃収入	親族等からの仕送り	その他	定期的な収入は得ていない	無回答
02	一般40～64歳	(683)	5.1	81.7	4.8	3.1	-	2.5	10.5	0.3
01	高齢者一般	(5,582)	90.7	20.5	7.6	5.9	0.4	3.9	1.8	0.8
05	未利用	(765)	88.9	2.6	3.4	5.6	0.1	3.4	3.1	4.1
03	要支援	(499)	92.6	2.8	4.4	4.4	0.8	3.2	1.2	2.8
04	要介護	(1,646)	90.2	2.8	3.2	5.7	0.7	3.2	2.8	3.0
06	小多機・看多機	(375)	94.4	0.8	2.7	2.7	1.3	3.2	2.7	-
07	定期巡回	(171)	90.1	1.8	2.3	4.7	1.2	8.2	2.3	1.2

⑧ 経済的な状況

問 あなた（あて名ご本人）は、現在の暮らしの状況を経済的にみてどう感じていますか。
(○はひとつ)

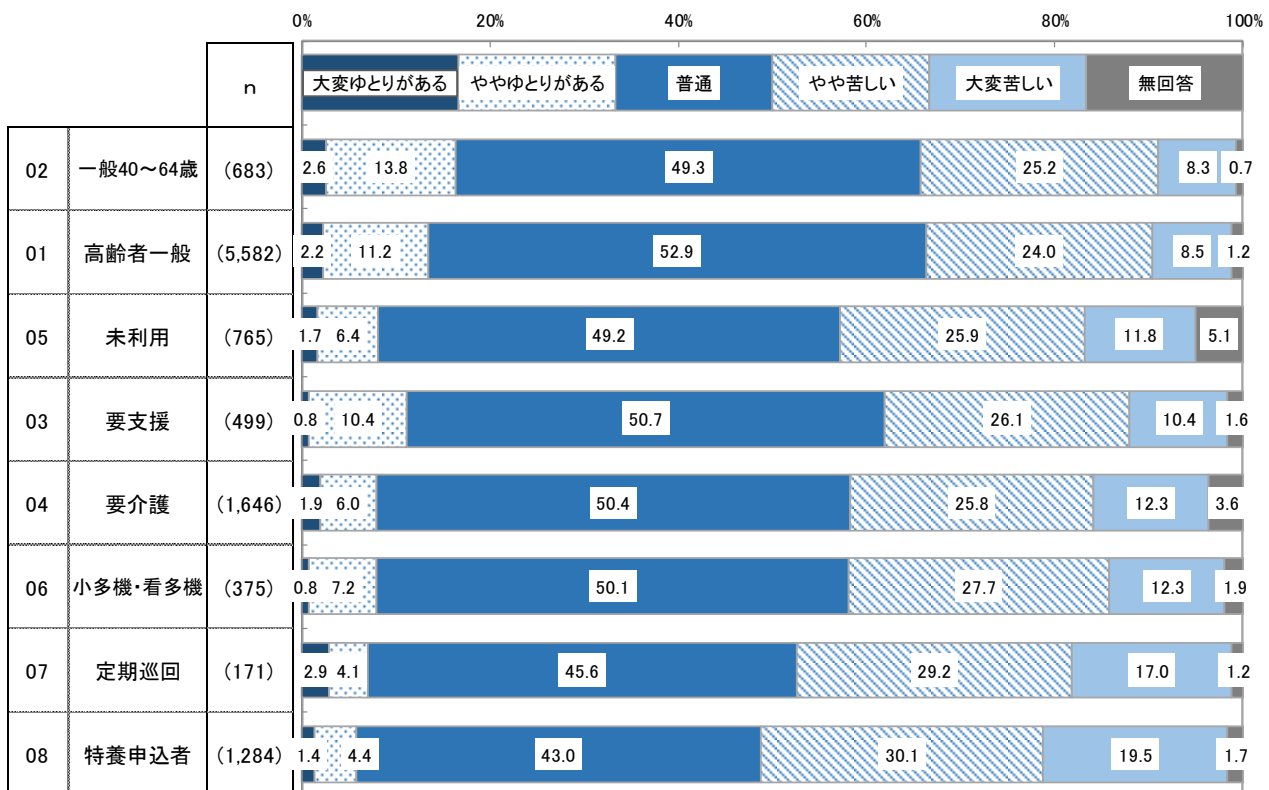
調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	
問番号	13	12	13	13	13	12	12	11												

経済的な状況について、“高齢者一般”では「大変ゆとりがある」「ややゆとりがある」は13.4%となっており、「大変苦しい」「やや苦しい」は32.5%となっている。

“要支援”“要介護”など介護保険サービス利用者となるにつれて『ゆとりがある』は低くなり、『苦しい』が高くなっている。

“特養申込者”では『ゆとりがある』は5.8%、『苦しい』は49.6%となっている。

図表 1-⑧ 経済的な状況



⑨ 治療中の病気やけが

問 あなた（あて名ご本人）は、現在、治療中の病気やけがはありますか。

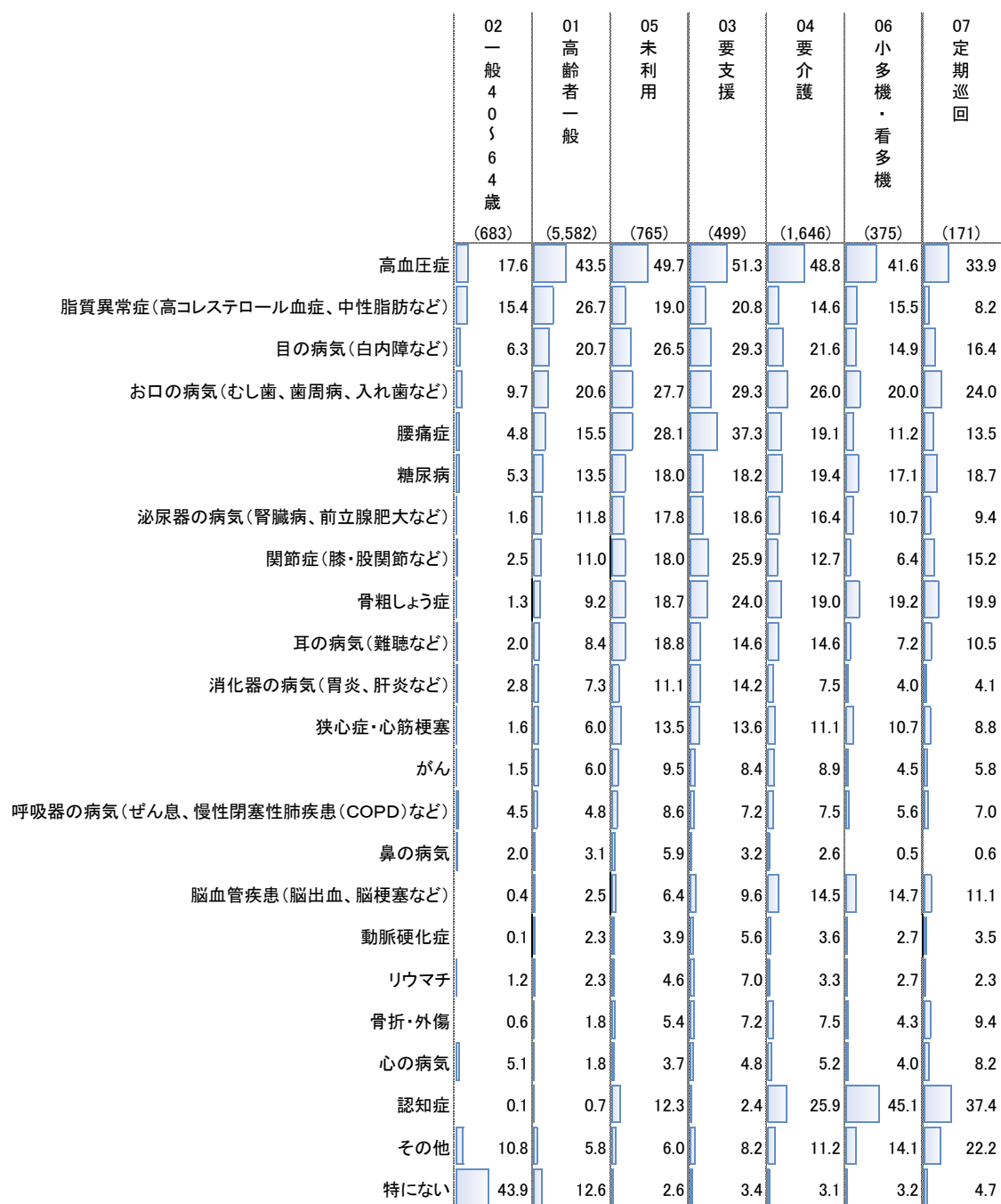
（あてはまるものすべてに○）

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	
問 番号	21	21	20	17	18	13	13													

治療中の病気・けがについて、“一般 40～64 歳”“高齢者一般”“未利用”“要支援”“要介護”では「高血圧症」が最も多く、“一般 40～64 歳”以外では約 4 割から 5 割を占めている。

一方で、“小多機・看多機”“定期巡回”では「認知症」が最も多く、約 4 割となっている。

図表 1-⑨ 治療中の病気・けが



⑩ 認知症の有無

<調査 01～07>

問 あなたは、現在、治療中の病気やけがはありますか。 (あてはまるものすべてに○)

<調査 08>

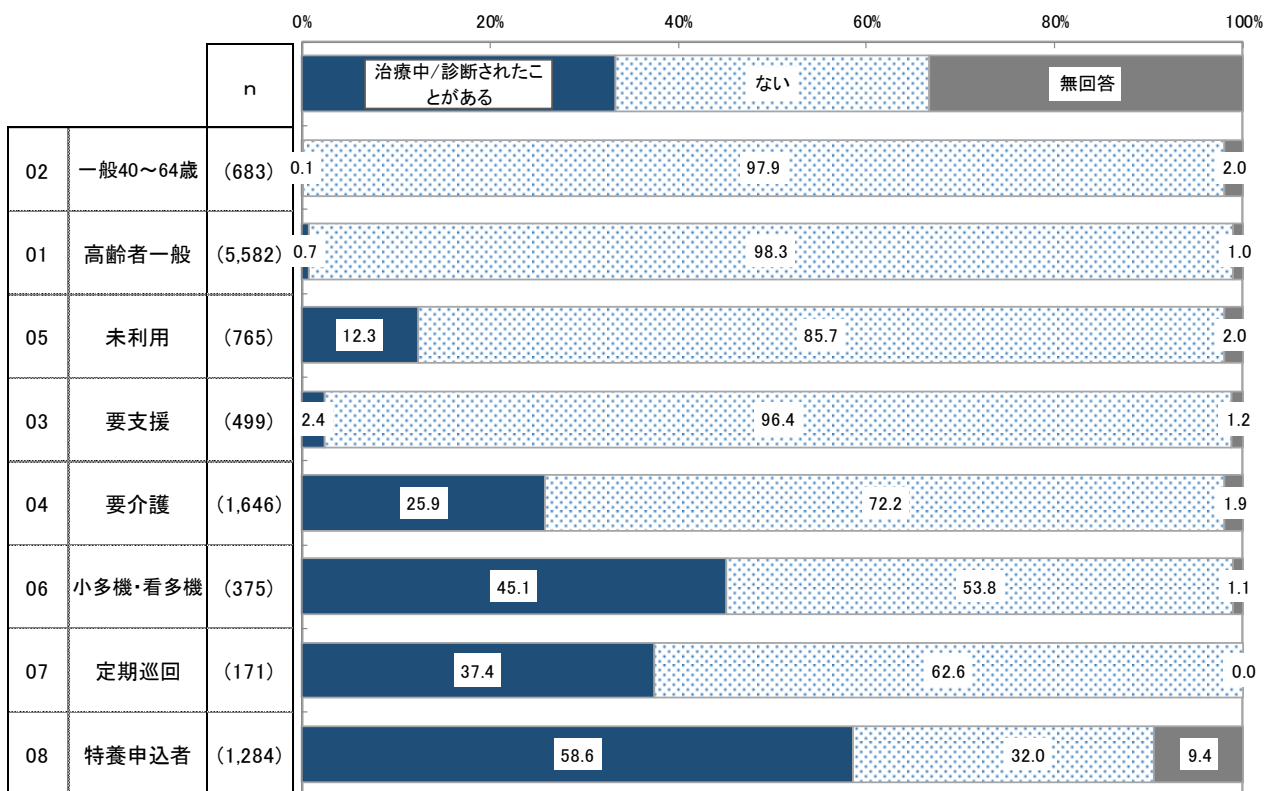
問 あなたは、医師から認知症と診断されたことがありますか。 (○はひとつ)

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	
問 番号	21	21	20	17	18	13	13	13												

認知症の有無について、“一般40～64歳”“高齢者一般”“要支援”では「治療中/診断されたことがある」は1割以下となっている。

一方で、“未利用”では12.3%となっており、“要介護”“小多機・看多機”“定期巡回”では約3割から4割、“特養申込者”では58.6%と半数を上回っている。

図表 1-⑩ 認知症の有無



⑪ 事業者の区分

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	
問 番 号																				

※回答施設（事業所）のIDから分類

“特養”では「ユニット型」が89.4%、“老健”では「従来型」が76.7%となっている。

“居住系”では「認知症高齢者グループホーム」が32.2%と最も多くなっている。

“医療機関”では「診療所」が89.8%となっている。

図表 1-⑪ 施設（事業所）の属性

		(n)	ユニット型 (%)	従来型 (%)
09	特養	(66)	89.4	10.6
10	老健	(30)	23.3	76.7

		(n)	認知症高齢者グループホーム (%)	住宅型有料老人ホーム (%)	介護付有料老人ホーム (%)	サ―ビス付き高齢者向け住宅 (%)	軽費老人ホーム (%)
11	居住系	(205)	32.2	30.7	17.6	19.0	0.5

		(n)	営利法人 (%)	社会福祉法人 (社会協) (%)	社会福祉法人 (社会協以外) (%)	社団・財団 (%)	医療法人 (%)	非営利法人 (NPO) (%)	生協 (%)	その他法人 (%)	非法人 (%)	その他 (%)
12	訪問・通所系	(744)	60.3	0.7	19.4	3.6	9.4	4.7	0.7	0.4	0.1	0.7
13	居宅介護支援	(339)	49.0	2.1	31.9	4.1	8.0	3.2	1.5	-	-	0.3

		(n)	病院 (%)	診療所 (%)	無回答 (%)
15	医療機関	(1,368)	6.4	89.8	3.8

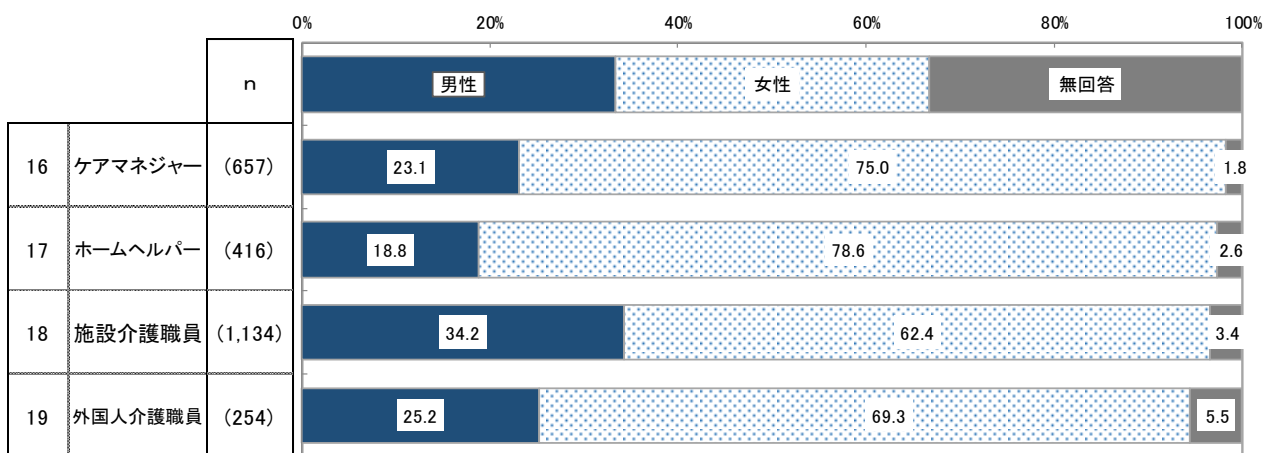
⑫ 介護サービス従事者の性別

問 あなたの性別をお選びください。 (〇はひとつ)

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
問 番 号																1-1	1-1	1-1	1-1

介護サービス従事者の性別について、全ての職種で「女性」が6割以上と大半を占めており、特に“ケアマネジャー”“ホームヘルパー”では「女性」が7割以上となっている。

図表 1-⑫ 従事者の性別



⑬ 介護サービス従事者の年齢

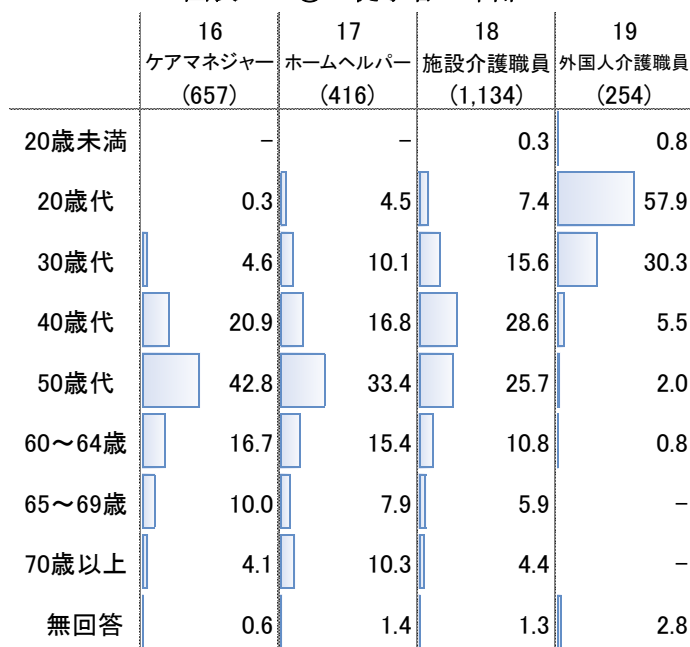
問 あなたの年齢をお選びください。 (〇はひとつ)

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
問 番 号																1-2	1-2	1-2	1-2

介護サービス従事者の年齢について、“ケアマネジャー”“ホームヘルパー”では「50歳代」がボリュームゾーンとなっており、“ケアマネジャー”で42.8%、“ホームヘルパー”で33.4%となっている。

一方で、“施設介護職員”は「40歳代」が28.6%と最も多く、“外国人介護職員”は「20歳代」が57.9%となっている。

図表 1-⑬ 従事者の年齢



⑭ 介護サービス従事者の経験年数

<調査票 16～18>

問 介護サービスの仕事に関わって（ケアマネジャー業務に従事して）からの通算の経験年数は、どのくらいですか。 (〇はひとつ)

<調査票 19>

問 日本で介護の仕事をはじめてからどのくらいですか。 (〇はひとつ)

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
問 番号																5	4	4	4

介護サービス従事者の経験年数について、“外国人介護職員”を除く職種で「10～20年未満」が最も多く、“ケアマネジャー”で41.6%、“ホームヘルパー”で37.0%、“施設介護職員”で41.2%となっている。一方、“外国人介護職員”では「3～5年未満」が27.6%と最も多くなっている。

過去の結果と比較すると、全ての職種で「20年以上」の割合が増加している。

図表 1-⑭ 従事者の経験年数

	16 ケアマネジャー (657)	17 ホームヘルパー (416)	18 施設介護職員 (1,134)	19 外国人介護職員 (254)
1年未満	5.6	3.8	2.8	17.3
1～2年未満	4.3	4.6	4.5	19.3
2～3年未満	4.1	6.5	5.2	13.4
3～5年未満	6.7	6.7	11.6	27.6
5～7年未満	8.1	4.6	6.3	9.1
7～10年未満	18.3	10.8	11.6	5.9
10～20年未満	41.6	37.0	41.2	6.7
20年以上	11.3	25.5	15.9	-
無回答	0.2	0.5	0.9	0.8

【経年比較】

	16 ケアマネジャー		17 ホームヘルパー		18 施設介護職員	
	R7 (657)	R4 (1,286)	R7 (416)	R4 (1,288)	R7 (1,134)	R4 (1,895)
1年未満	5.6	4.0	3.8	3.6	2.8	3.6
1～2年未満	4.3	3.3	4.6	3.9	4.5	3.6
2～3年未満	4.1	3.3	6.5	4.2	5.2	4.6
3～5年未満	6.7	12.5	6.7	8.9	11.6	8.3
5～7年未満	8.1	15.3	4.6	8.8	6.3	9.1
7～10年未満	18.3	16.5	10.8	15.4	11.6	17.0
10～20年未満	41.6	37.9	37.0	42.5	41.2	42.1
20年以上	11.3	7.2	25.5	12.7	15.9	11.4

⑮ 外国人介護職員の出身地

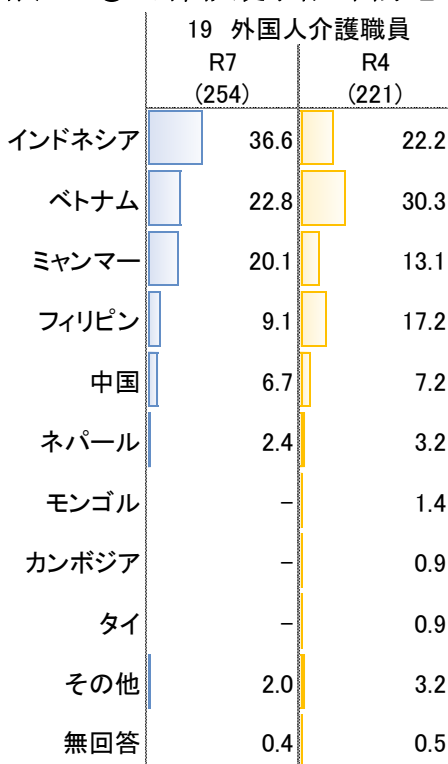
問 どの国・地域から来ましたか。 (〇はひとつ)

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	
問 番号																				5

“外国人介護職員”の出身地について、「インドネシア」が36.6%と最も多く、次いで「ベトナム」が22.8%となっている。

過去の結果と比較すると、「インドネシア」「ミャンマー」が増加し、「ベトナム」「フィリピン」が減少している。

図表 1-⑮ 外国人従事者の出身地



第3章

第9期計画の施策体系に基づく調査結果

第3章 第9期計画の施策体系に基づく調査結果

I. 自分らしい暮らしの実現に向けて

1 高齢期の暮らしに必要な情報の発信と啓発

① 健康づくり・医療・介護の情報入手先

問 あなた（あて名ご本人）は、健康づくり、医療、介護について、どのようにして知識や情報を得ていますか。知識や情報の入手先をお答えください。

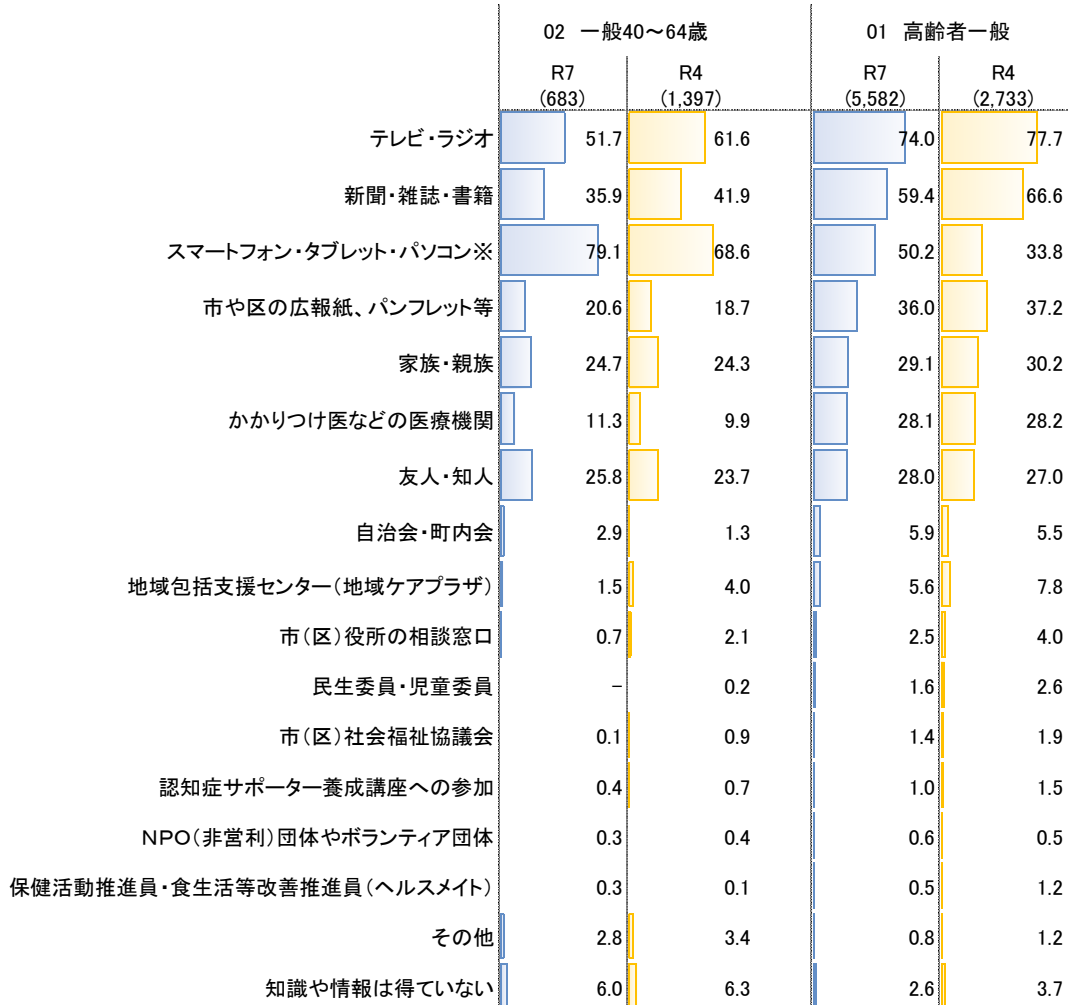
（あてはまるものすべてに○）

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	
問番号	54	52																		

健康づくり等の情報入手先について、“一般40～64歳”では「スマートフォン・タブレット・パソコン」が79.1%と最も多く、“高齢者一般”では「テレビ・ラジオ」が74.0%となっている。

過去の結果と比較すると、「スマートフォン・タブレット・パソコン」は全ての対象者で増加している。一方で、“一般40～64歳”では「テレビ・ラジオ」が減少しており、“一般40～64歳”“高齢者一般”ともに「新聞・雑誌・書籍」が減少している。

図表 I-1-① 健康づくり等の情報入手先



※R4 調査時は「インターネット」

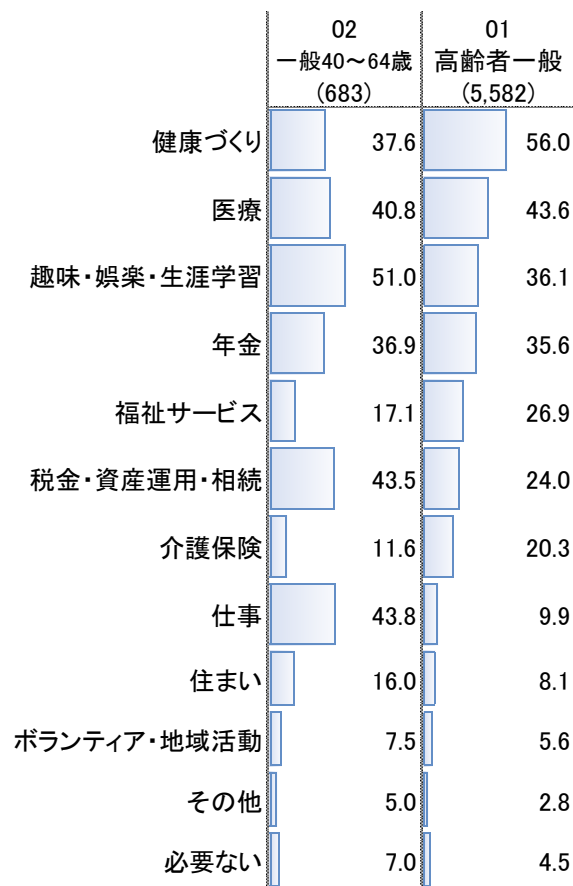
② 普段の生活に必要な情報

問 あなた（あて名ご本人）は、ふだん暮らしていくうえでどんな情報を必要としていますか。
（あてはまるものすべてに○）

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
問 番 号	53	51																	

普段の生活に必要な情報について、“一般40～64歳”では「趣味・娯楽・生涯学習」が51.0%と最も多く、次いで「仕事」が43.8%となっている。“高齢者一般”では「健康づくり」が56.0%と最も多く、次いで「医療」が43.6%となっている。

図表 I-1-② 普段の生活に必要な情報



③ インターネット等での情報の入手先【新規】

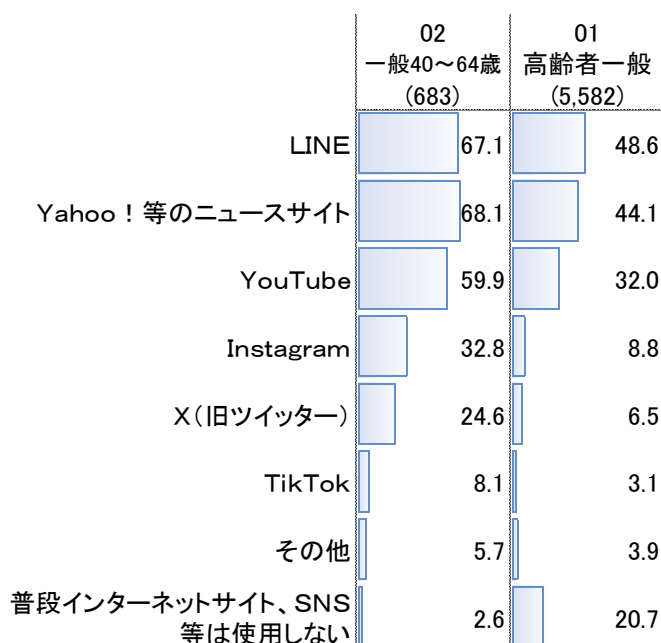
問 あなた（あて名ご本人）は、普段どのようなインターネットサイト、SNS 等を利用して、生活に関連する情報を得ていますか。

（あてはまるものすべてに○）

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
問 番号	55	53																	

インターネット等での情報の入手先について、“一般 40～64 歳”“高齢者一般”ともに「LINE」や「Yahoo! 等のニュースサイト」が多くなっている。

図表 I-1-③ インターネット等での情報の入手先



④ ポジティブエイジング計画の認知度【新規】

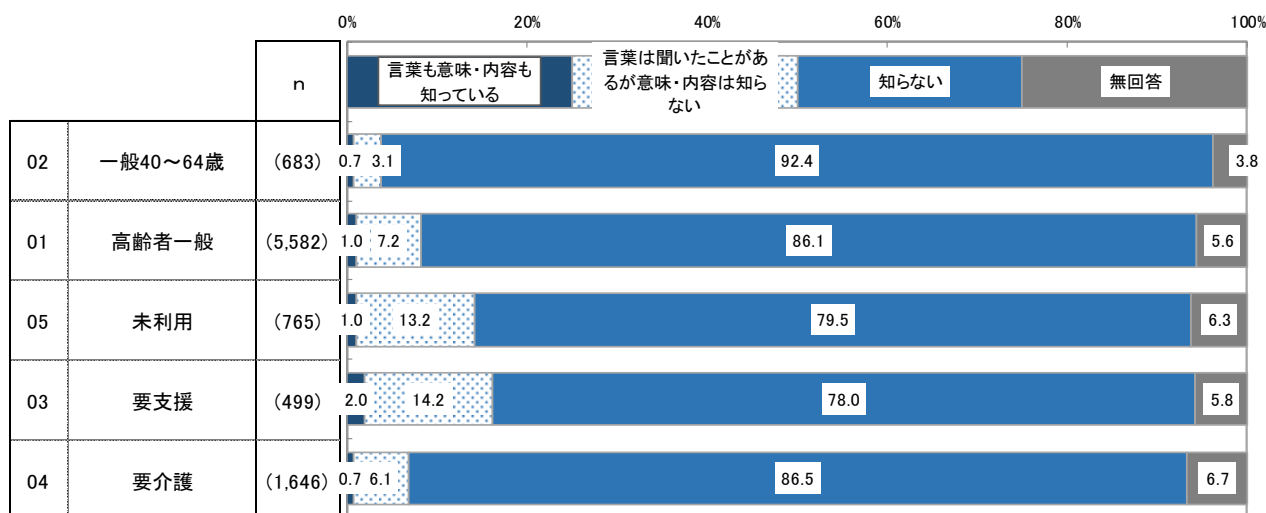
問 あなた（あて名ご本人）は、「よこはまポジティブエイジング計画（第9期横浜市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画・認知症施策推進計画）」を知っていますか。
(○はひとつ)

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
問番号	61	59	42	33	33														

ポジティブエイジング計画の認知度について、「言葉も意味・内容も知っている」は全ての対象で1割を下回っており、「言葉は聞いたことがあるが意味・内容は知らない」は“要支援”で14.2%と最も多く、“未利用”が13.2%と続いている。

なお、“知らない”は全ての対象で7割以上を占めており、特に“一般40～64歳”では92.4%となっている。

図表 I-1-④ ポジティブエイジング計画の認知度



⑤ ポジティブエイジング計画を知った経緯【新規】

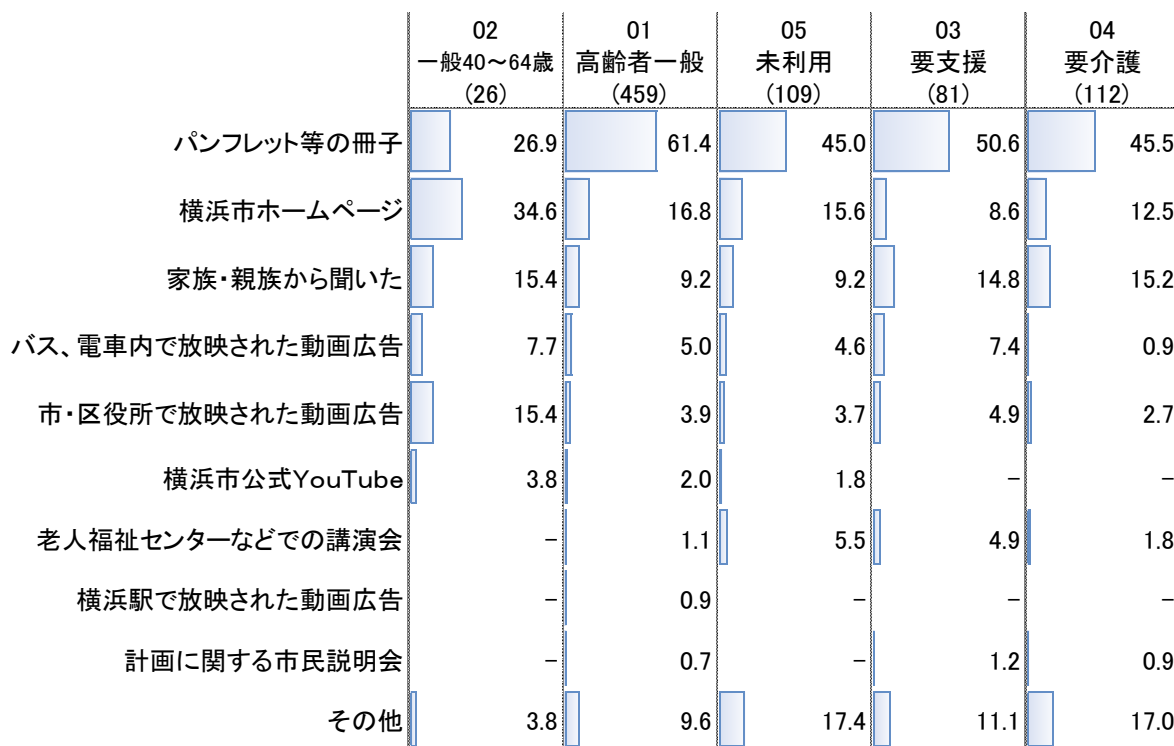
問 あなた（あて名ご本人）が「よこはまポジティブエイジング計画（第9期横浜市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画・認知症施策推進計画）」について知ったのは、何がきっかけですか。
（あてはまるものすべてに○）

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	
問番号	61-1	59-1	42-1	33-1	33-1															

ポジティブエイジング計画を知った経緯について、“一般 40～64 歳”では「横浜市ホームページ」が 34.6%と最も多くなっている。

他の対象では「パンフレット等の冊子」が半数近くを占めている。

図表 I-1-⑤ ポジティブエイジング計画を知った経緯



⑥ ロコモティブシンドロームの認知度

問 あなた（あて名ご本人）は、ロコモティブシンドロームを知っていますか。

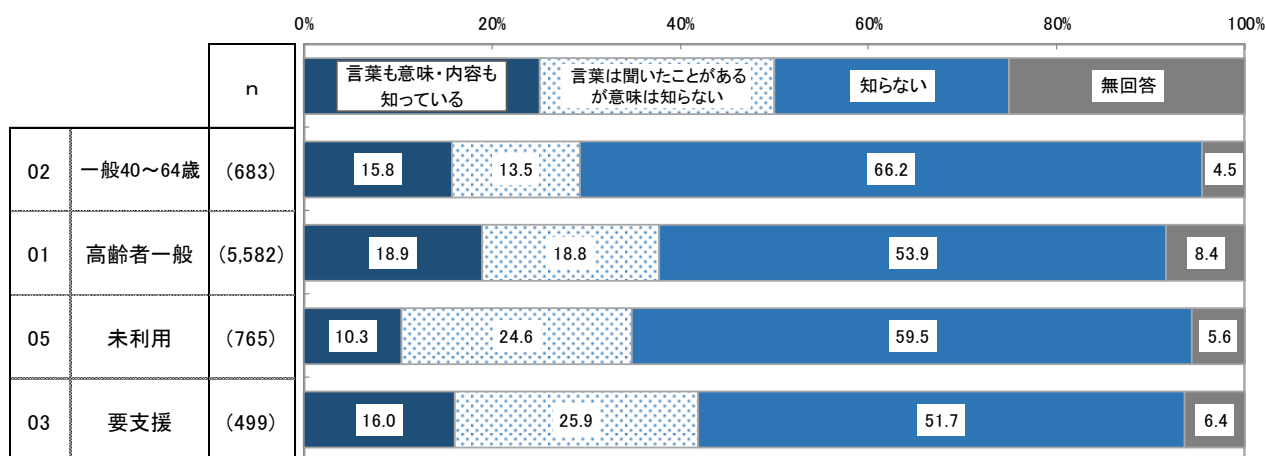
（○はひとつ）

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
問番号	44①	40①	32①		24①														

ロコモティブシンドロームについて、「言葉も意味・内容も知っている」は“一般40～64歳”で15.8%、“高齢者一般”で18.9%となっている。「知らない」は“一般40～64歳”で66.2%となっており、“高齢者一般”“未利用”“要支援”においても5割以上となっている。

過去の結果と比較すると、「言葉も意味・内容も知っている」は令和4年度から大きな変化は見られなかった。

図表 I-1-⑥ ロコモの認知度



【経年比較（言葉も意味・内容も知っている）】

(%)

		R7	R4	R1
		2025年	2022年	2019年
02	一般40～64歳	15.8	15.5	19.3
01	高齢者一般	18.9	19.0	25.2
05	未利用	10.3	13.1	13.9
03	要支援	16.0	15.2	14.4

⑦ 元気づくりステーションの認知度

問 あなた（あて名ご本人）は、元気づくりステーションを知っていますか。

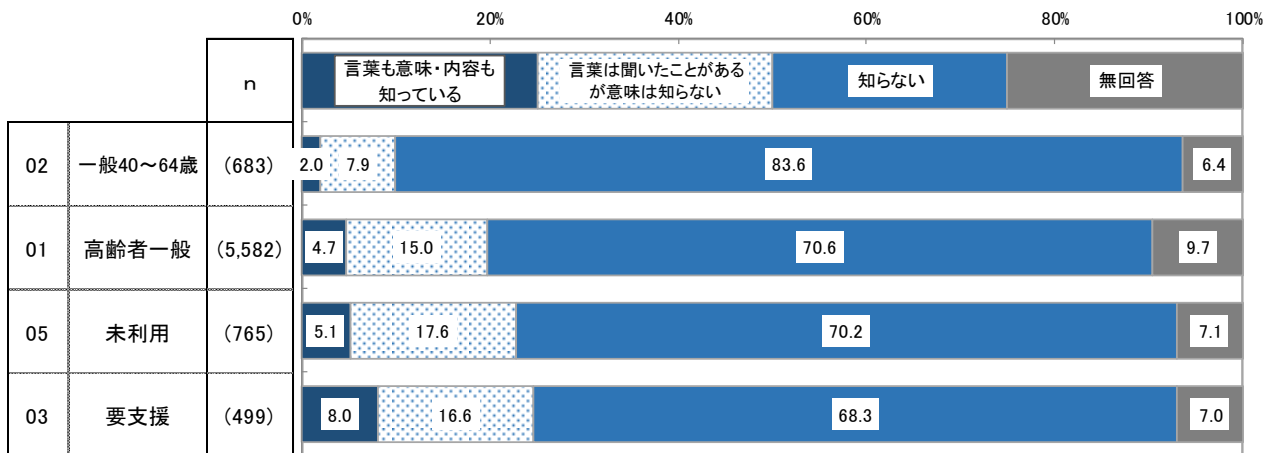
（○はひとつ）

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
問番号	44②	40②	32②		24②														

元気づくりステーションについて、「言葉も意味・内容も知っている」は、“一般40～64歳”では2.0%、“高齢者一般”で4.7%となっている。また、「知らない」は全ての対象で約7割以上を占めている。

過去の結果と比較すると、「言葉も意味・内容も知っている」は全ての対象で1割以下と横ばいとなっている。

図表 I-1-⑦ 元気づくりステーションの認知度



【経年比較（言葉も意味・内容も知っている）】

		（%）		
		R7	R4	R1
		2025年	2022年	2019年
02	一般40～64歳	2.0	2.6	1.3
01	高齢者一般	4.7	5.2	5.2
05	未利用	5.1	5.7	5.9
03	要支援	8.0	4.8	7.5

⑧ フレイルの認知度

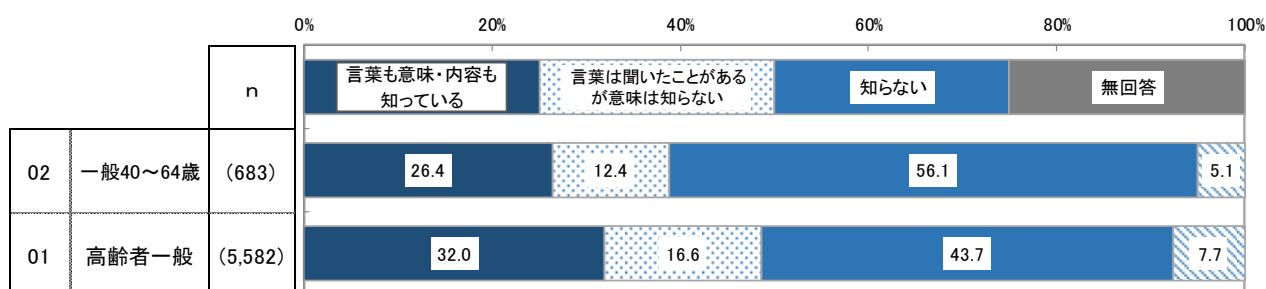
問 あなた（あて名ご本人）は、フレイルを知っていますか。（○はひとつ）

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
問 番号	44③	40③																	

フレイルについて、「言葉も意味・内容も知っている」は、“一般40～64歳”で26.4%、“高齢者一般”では32.0%となっている。

過去の結果と比較すると、「言葉も意味・内容も知っている」は、全ての対象で増加している。

図表 I-1-⑧ フレイルの認知度



【経年比較（言葉も意味・内容も知っている）】

(%)

		R7	R4	R1
		2025年	2022年	2019年
02	一般40～64歳	26.4	15.7	9.2
01	高齢者一般	32.0	20.7	14.0

⑨ オーラルフレイルの認知度

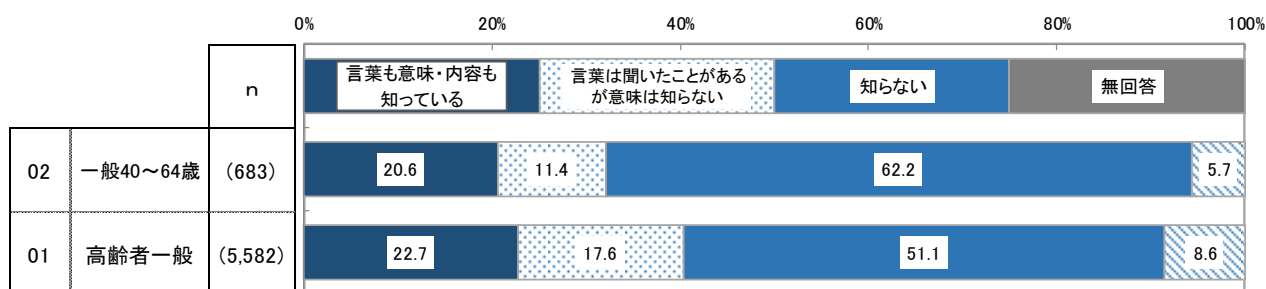
問 あなた（あて名ご本人）は、オーラルフレイルを知っていますか。（○はひとつ）

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
問番号	44④	40④																	

オーラルフレイルについて、「言葉も意味・内容も知っている」は、“一般40～64歳”では20.6%、“高齢者一般”では22.7%となっている。

過去の結果と比較すると、「言葉も意味・内容も知っている」は、全ての対象で増加している。

図表 I-1-⑨ オーラルフレイルの認知度



【経年比較（言葉も意味・内容も知っている）】

(%)

		R7	R4	R1
		2025年	2022年	2019年
02	一般40～64歳	20.6	12.3	6.2
01	高齢者一般	22.7	14.5	9.9

⑩ 老後の生活について考えたこと【新規】

問 ご自身の今後（老後）の暮らしについて考えたり、誰かと話をしたことがあるものはどれですか。
（あてはまるものすべてに○）

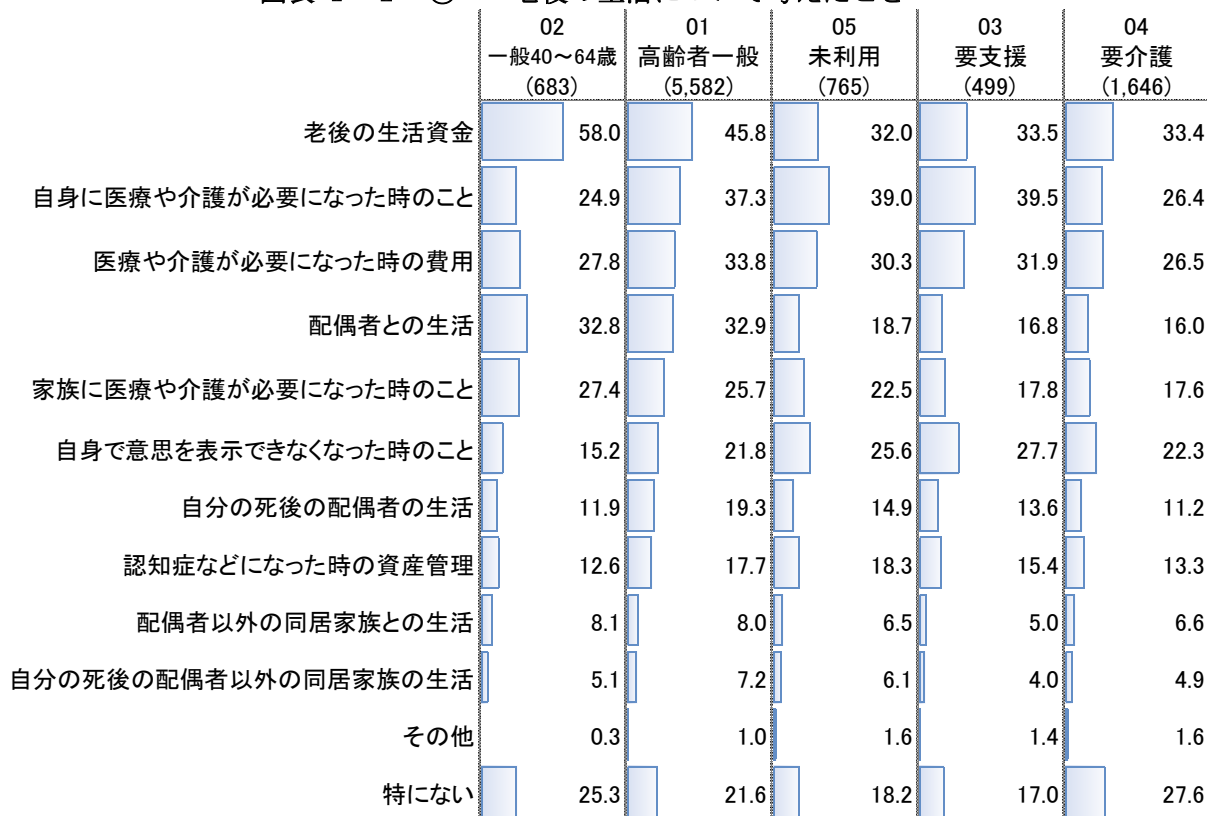
調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	
問 番号	58	56	40	31	31															

老後の生活について考えたことは、“一般40～64歳”“高齢者一般”“要介護”では「老後の生活資金」が最も多くなっており、特に“一般40～64歳”では58.0%と半数以上となっている。

“未利用”“要支援”では「自身に医療や介護が必要になった時のこと」が最も多く約4割となっている。

なお「特にない」は全ての対象で約2割を占めており、“一般40～64歳”“要介護”で多くなっている。

図表 I-1-⑩ 老後の生活について考えたこと



⑪ 老後の生活について書き残したもの

問 考えた結果や話をした結果を何かに書いて残したものはありますか。

(あてはまるものすべてに○)

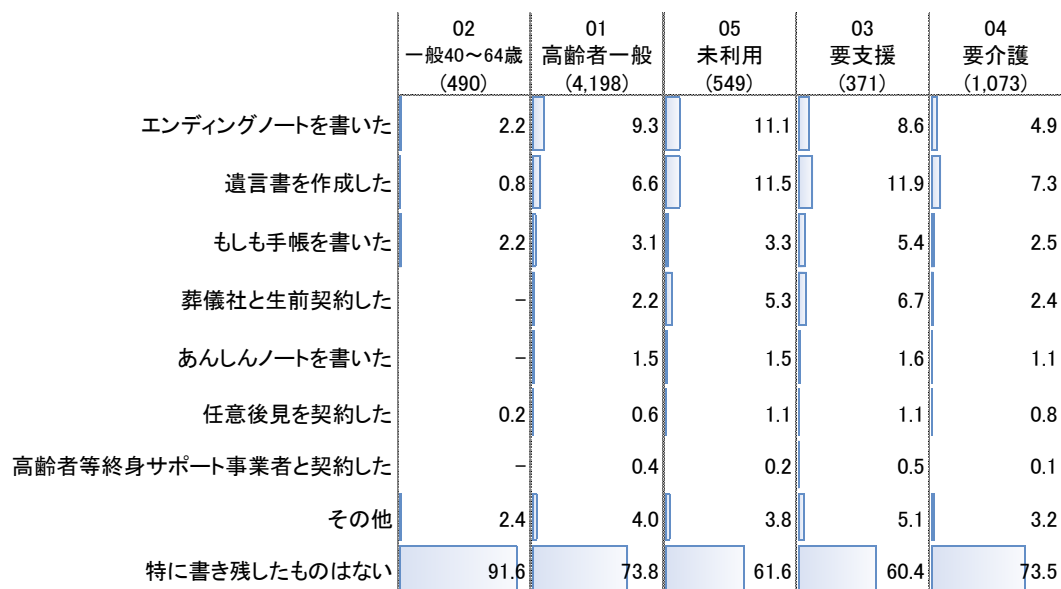
調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	
問番号	58-2	56-2	40-2	31-2	31-2															

老後の生活を書き残したものについて、「エンディングノートを書いた」は“一般40～64歳”“要介護”を除くすべての対象で約1割となっている。

一方で、“未利用”“要支援”“要介護”では「遺言状を作成した」が最も多くなっている。

なお、「特に書き残したものはない」は“一般40～64歳”で91.6%、他の対象でも6～7割を占めている。

図表 I-1-⑪ 老後の生活について書き残したもの



⑫ 老後の生活を意識したきっかけ

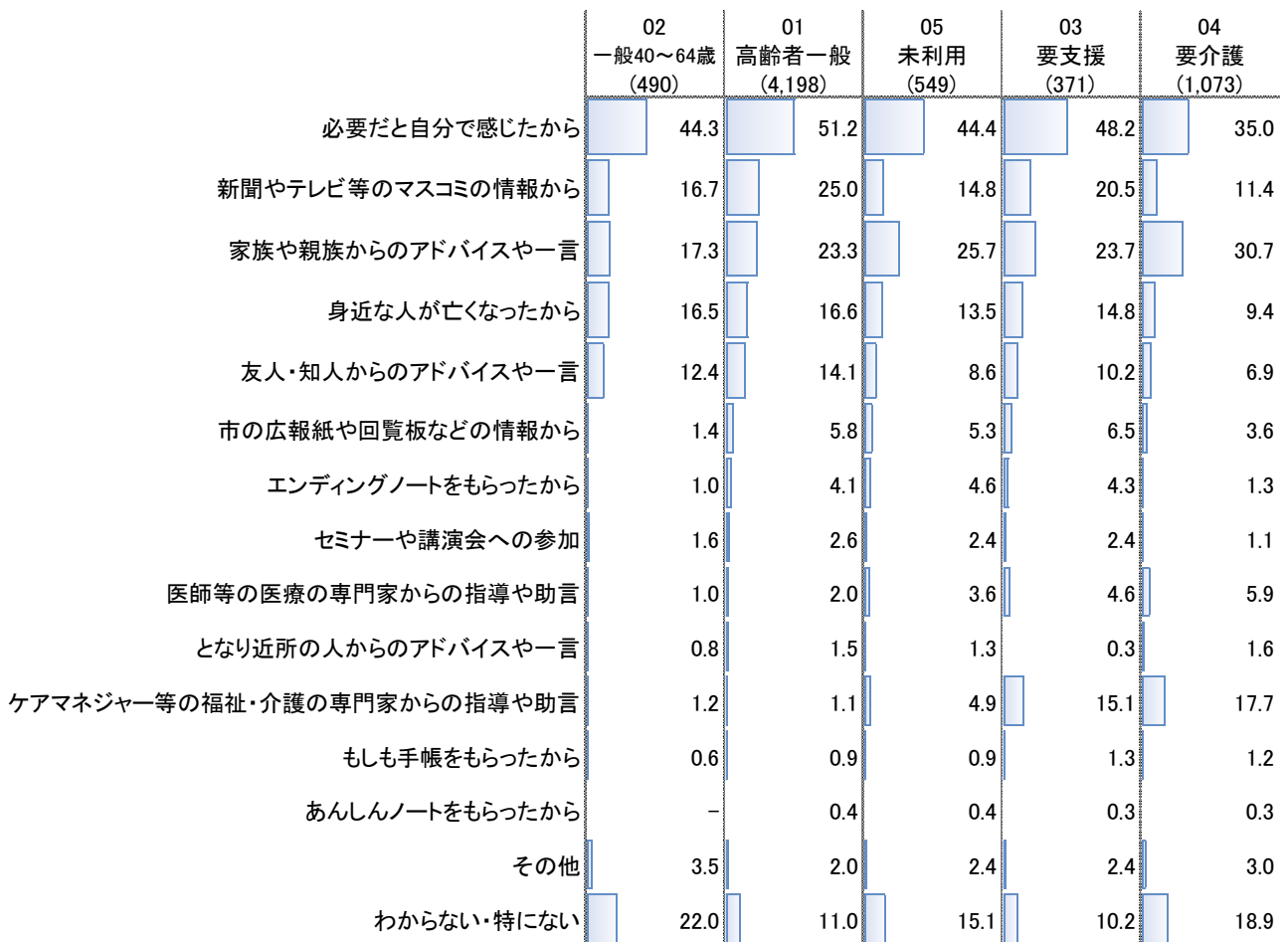
問 考えたり、話をしようと思った主なきっかけは何ですか。 (あてはまるものすべてに○)

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	
問 番 号	58-3	56-3	40-3	31-3	31-3															

老後の生活を意識したきっかけについて、全ての対象者で「必要だと自分で感じた」が最も多く、“要介護”の35.0%を除いて半数近くを占めている。

“要介護”では「家族や親族からのアドバイスや一言」が30.7%となっており、他の対象に比べて多い傾向がある。

図表 I-1-⑫ 老後の生活を意識したきっかけ



⑬ 高齢期のイメージ

問 あなた（あて名ご本人）が「高齢期」と聞いて思い浮かべることは何ですか。
（あてはまるものすべてに○）

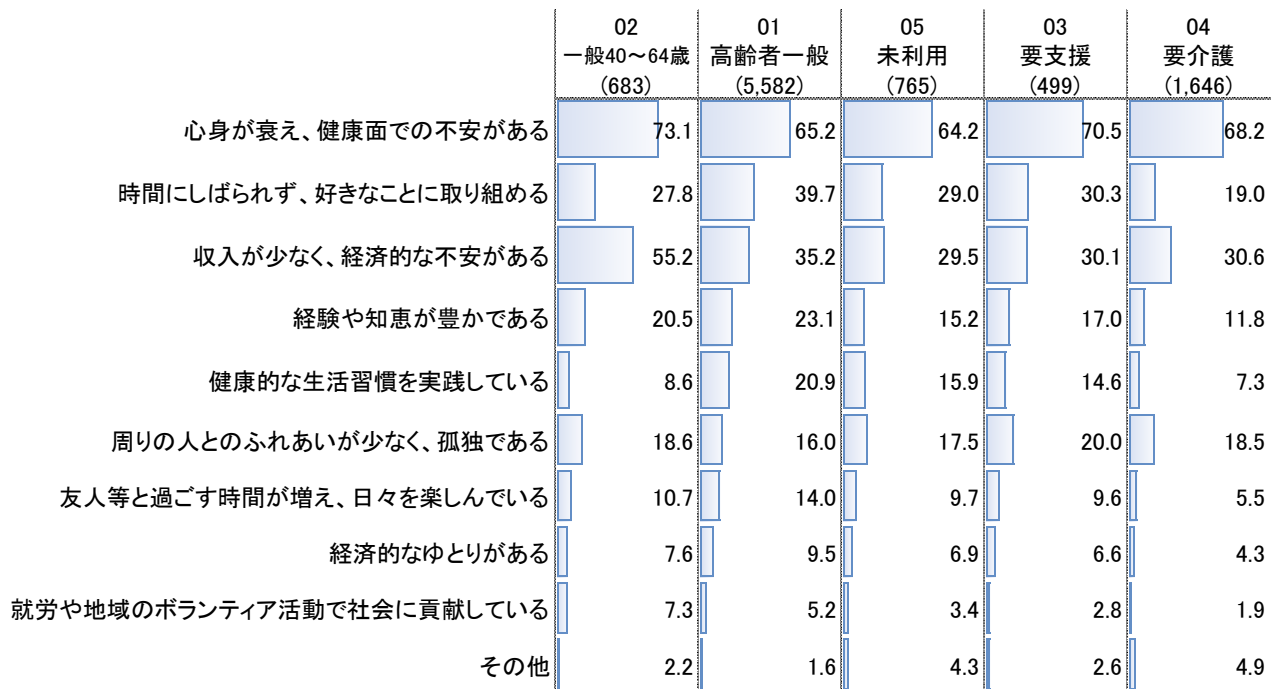
調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	
問番号	60	58	41	32	32															

高齢期のイメージについて、全ての対象者で「心身が衰え、健康面での不安がある」が最も多く約7割を占めている。

“一般40～64歳”では「収入が少なく、経済的な不安がある」が55.2%と半数を占めているが、それ以外の対象では3割前後となっている。

また、「時間にしばられず、好きなことに取り組める」は“高齢者一般”で約4割、“一般40～64歳”“未利用”“要支援”でも約3割となっている。

図表 I-1-⑬ 高齢期のイメージ



⑭ 孤立死に対する意識

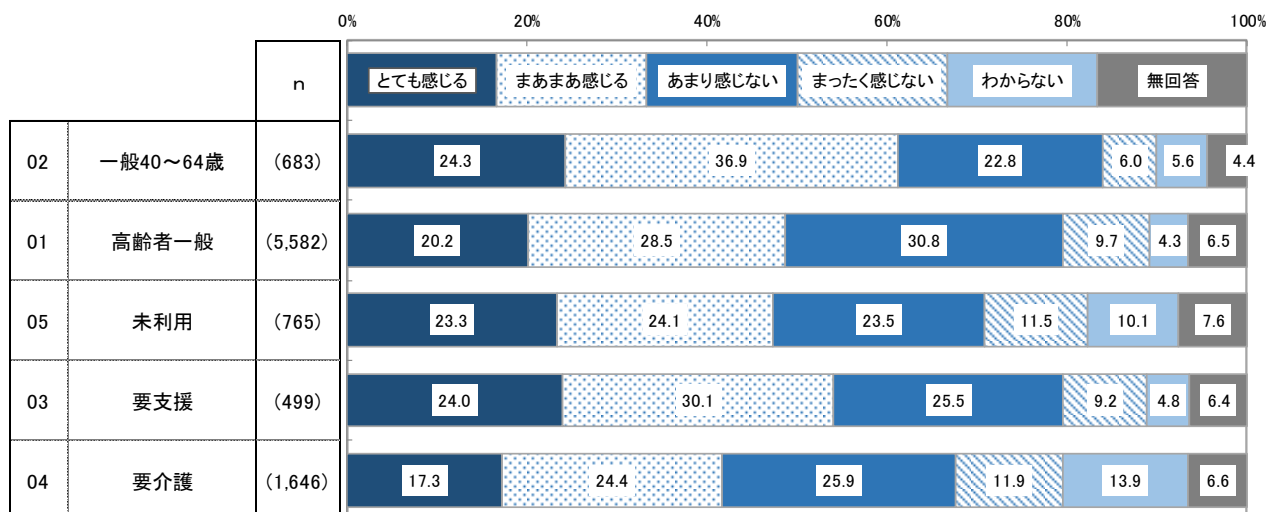
問 孤立死（誰にも看取られることなく、亡くなったあとに発見される死）について、身近な問題だと感じますか。 (〇はひとつ)

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
問 番 号	62	60	43	34	34														

孤立死に対する意識について、「とても感じる」と「まあまあ感じる」を合計した『感じる』は、“一般40～64歳”“要支援”で半数を超えており、その他の対象でも「まったく感じない」「あまり感じない」の合計を上回っている。

過去の結果と比較すると、「とても感じる」が前回から微増傾向があるものの、「とても感じる」「まあまあ感じる」の合計は横ばいとなっている。

図表 I-1-⑭ 孤立死に対する意識



【経年比較】

(%)

	02 一般40～64歳			01 高齢者一般			05 未利用者		
	R7	R4	R1	R7	R4	R1	R7	R4	R1
	2025年	2022年	2019年	2025年	2022年	2019年	2025年	2022年	2019年
とても感じる	24.3	21.3	25.2	20.2	16.6	25.0	23.3	20.8	27.7
まあまあ感じる	36.9	37.7	36.6	28.5	29.7	30.6	24.1	28.1	22.1
あまり感じない	22.8	29.8	26.7	30.8	32.7	27.7	23.5	26.2	22.9
全く感じない	6.0	5.4	5.8	9.7	9.1	7.9	11.5	9.3	8.9
わからない	5.6	4.7	3.7	4.3	5.2	4.7	10.1	10.3	7.3

	03 要支援			04 要介護		
	R7	R4	R1	R7	R4	R1
	2025年	2022年	2019年	2025年	2022年	2019年
とても感じる	24.0	23.8	29.8	17.3	13.6	20.1
まあまあ感じる	30.1	28.5	27.3	24.4	22.6	20.8
あまり感じない	25.5	28.2	18.5	25.9	30.8	26.2
全く感じない	9.2	6.0	6.0	11.9	13.6	12.5
わからない	4.8	7.9	8.1	13.9	13.1	12.2

⑮ 人生の最終段階に向けた心づもり

問 あなたは、病気で意思疎通ができなくなった場合や死が近い場合に備えて、延命措置や看取りなどに関するご自身の希望について、どのように意思表示をしていますか。

(あてはまるものすべてに○)

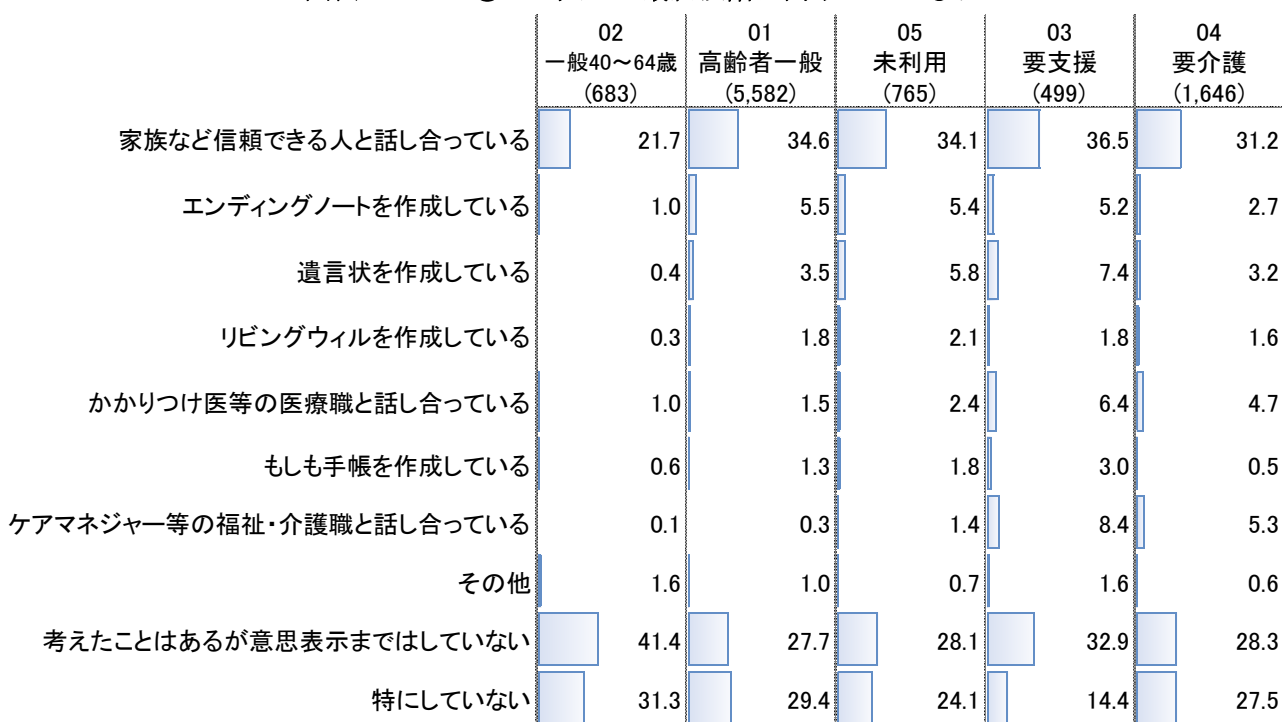
調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	
問番号	63	61	44	35	35															

人生の最終段階に向けた心づもりについて、全ての対象で「家族など信頼できる人と話し合っている」が具体的な取組として最も多く、“高齢者一般”で34.6%、“要介護”で31.2%となっている。

一方で、具体的な取組がない人の中では、“一般40～64歳”“要支援”では「考えたことはあるが意思表示まではしていない」が「特にしていない」を大きく上回っている。

過去の結果と比較すると、「家族と話し合っている」は“一般40～64歳”を除く対象で微減傾向がみられる。

図表 I-1-⑮ 人生の最終段階に向けた心づもり



【年齢別の比較】

		(%)										
		有効回収数 (n)	家族など信頼できる人と話し合っている	かかりつけ医等の医療職と話し合っている	ケアマネジャー等の福祉・介護職と話し合っている	エンディングノートを作成している	もしも手帳を作成している	リビングウィルを作成している	遺言状を作成している	その他	考えたことはあるが意思表示までしていない	特にしていない
一般 40~64歳	40~44歳	(98)	16.3	1.0	1.0	0.0	1.0	1.0	1.0	1.0	38.8	37.8
	45~49歳	(109)	11.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.9	0.0	2.8	44.0	43.1
	50~54歳	(164)	23.8	2.4	0.0	0.6	0.6	0.0	0.6	2.4	40.2	31.7
	55~59歳	(159)	23.3	0.6	0.0	1.9	0.0	0.0	0.0	1.9	42.1	25.8
	60~64歳	(153)	28.8	0.7	0.0	2.0	1.3	0.0	0.7	0.0	41.8	24.2
高齢者 一般	65~69歳	(1,224)	28.8	1.1	0.2	4.2	0.7	1.1	1.6	0.6	32.9	33.8
	70~74歳	(1,328)	32.8	0.8	0.1	4.0	0.9	1.4	1.7	0.6	31.3	30.8
	75~79歳	(1,487)	37.1	1.8	0.1	5.5	1.5	1.8	3.6	1.5	25.4	28.2
	80~84歳	(964)	37.8	1.9	0.7	8.4	1.8	2.3	5.7	0.7	24.8	24.7
	85歳以上	(572)	39.3	3.1	0.5	7.2	1.7	3.3	7.5	1.9	19.1	26.9
未利用	65歳未満	(13)	7.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	46.2	46.2
	65~69歳	(16)	31.3	6.3	0.0	25.0	0.0	6.3	6.3	0.0	25.0	25.0
	70~74歳	(49)	30.6	4.1	2.0	8.2	0.0	0.0	6.1	2.0	36.7	18.4
	75~79歳	(110)	32.7	1.8	0.9	8.2	0.0	3.6	9.1	0.9	26.4	25.5
	80~84歳	(203)	36.5	3.0	1.5	2.0	2.5	1.5	3.4	0.5	26.1	24.6
	85歳以上	(374)	34.8	1.9	1.6	5.3	2.4	2.1	6.1	0.5	28.1	23.3
要支援	65歳未満	(7)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	14.3	57.1	28.6
	65~69歳	(12)	8.3	0.0	8.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	58.3	25.0
	70~74歳	(29)	27.6	0.0	3.4	0.0	3.4	0.0	6.9	0.0	31.0	27.6
	75~79歳	(68)	44.1	4.4	8.8	1.5	2.9	1.5	4.4	2.9	33.8	16.2
	80~84歳	(134)	32.8	3.7	5.2	5.2	3.0	1.5	9.0	1.5	35.8	13.4
	85歳以上	(249)	39.8	9.6	10.8	7.2	3.2	2.4	8.0	1.2	29.3	12.0
要介護	65歳未満	(61)	18.0	8.2	4.9	0.0	1.6	1.6	0.0	1.6	34.4	37.7
	65~69歳	(52)	25.0	0.0	5.8	1.9	0.0	0.0	1.9	0.0	38.5	30.8
	70~74歳	(106)	28.3	1.9	5.7	3.8	0.9	0.0	1.9	0.9	33.0	22.6
	75~79歳	(224)	31.3	7.1	8.0	4.0	0.4	0.4	0.9	0.0	30.8	25.9
	80~84歳	(357)	31.9	3.9	5.0	2.8	0.6	2.5	2.8	0.0	31.9	24.1
	85歳以上	(840)	32.6	4.6	4.5	2.4	0.5	1.9	4.5	0.8	24.5	29.0

【経年比較】

(%)

	02 一般40～64歳			01 高齢者一般			05 未利用者		
	R7	R4	R1	R7	R4	R1	R7	R4	R1
	2025年	2022年	2019年	2025年	2022年	2019年	2025年	2022年	2019年
家族と話し合っている	21.7	20.5	23.9	34.6	41.0	42.4	34.1	39.6	42.3
かかりつけ医と話し合っている	1.0	0.4	0.3	1.5	1.7	2.2	2.4	4.1	3.6
ケアマネジャー等と話し合っている	0.1			0.3			1.4		
エンディングノートを作成している	1.0	3.2	1.7	5.5	7.0	7.6	5.4	6.7	7.1
もしも手帳を書き記している	0.6	0.7	0.2	1.3	1.6	2.4	1.8	3.4	2.8
リビングウィルを作成している	0.3	0.9	0.5	1.8	1.6	2.5	2.1	3.4	3.2
遺言状を作成している	0.4	0.4	0.6	3.5	4.2	4.4	5.8	7.3	7.4
その他	1.6	1.7	1.1	1.0	1.5	1.5	0.7	2.0	1.2
考えたことはあるが 意思表示まではしていない	41.4			27.7			28.1		
特にしていない	31.3	74.9	72.1	29.4	50.0	45.7	24.1	44.1	40.8

	03 要支援			04 要介護		
	R7	R4	R1	R7	R4	R1
	2025年	2022年	2019年	2025年	2022年	2019年
家族と話し合っている	36.5	39.5	42.5	31.2	34.1	35.1
かかりつけ医と話し合っている	6.4	5.5	5.6	4.7	5.2	5.6
ケアマネジャー等と話し合っている	8.4			5.3		
エンディングノートを作成している	5.2	9.1	7.3	2.7	3.2	4.1
もしも手帳を書き記している	3.0	3.3	3.0	0.5	1.7	1.4
リビングウィルを作成している	1.8	3.5	4.3	1.6	2.3	2.2
遺言状を作成している	7.4	7.3	9.7	3.2	5.6	6.3
その他	1.6	2.6	1.7	0.6	1.8	2.0
考えたことはあるが 意思表示まではしていない	32.9			28.3		
特にしていない	14.4	43.0	36.9	27.5	51.5	48.5

⑩ いざという時に頼れる親族【新規】

問 あなたは、「いざという時（病気・事故・亡くなった時など）」に頼ることができる親族はいますか。 (あてはまるものすべてに○)

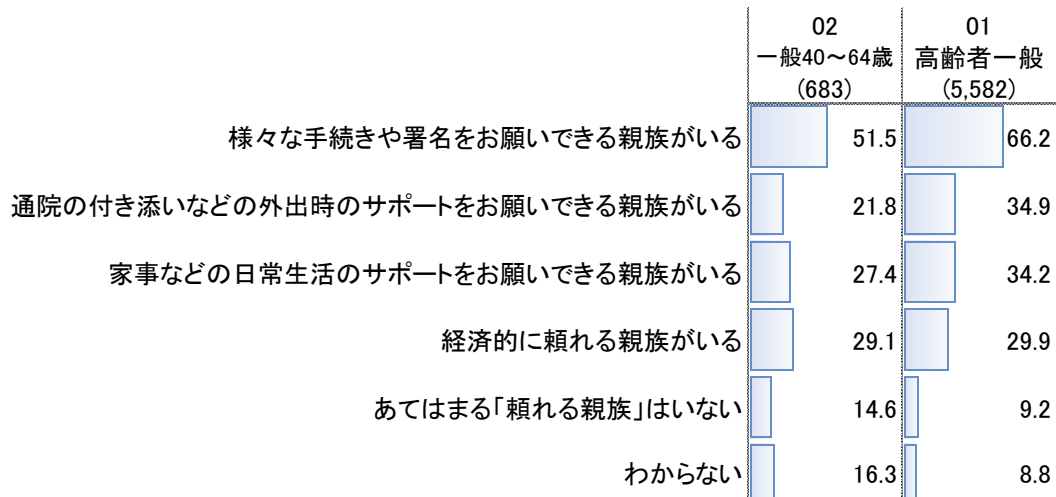
調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	
問番号	59	57																		

いざという時に頼れる親族について、“一般 40～64 歳”“高齢者一般”ともに「様々な手続きや署名をお願いできる親族がいる」が最も多く半数を上回っている。

一方で、「通院の付き添いなどの外出時のサポート」「家事などの日常生活のサポート」「経済的に頼れる」といった具体的なサポートを得られる親族がいる割合は少なく約 3 割となっている。

また「頼れる親族はいない」は“一般 40～64 歳”で 14.6%、“高齢者一般”で 9.2%と、若い世代の方が多くなっている。

図表 I-1-⑩ いざという時に頼れる親族



2 相談体制の構築と市民の利便性向上

① 心配・悩みごと

問 あなた（あて名ご本人）は、現在次のような心配ごとや悩みがありますか。

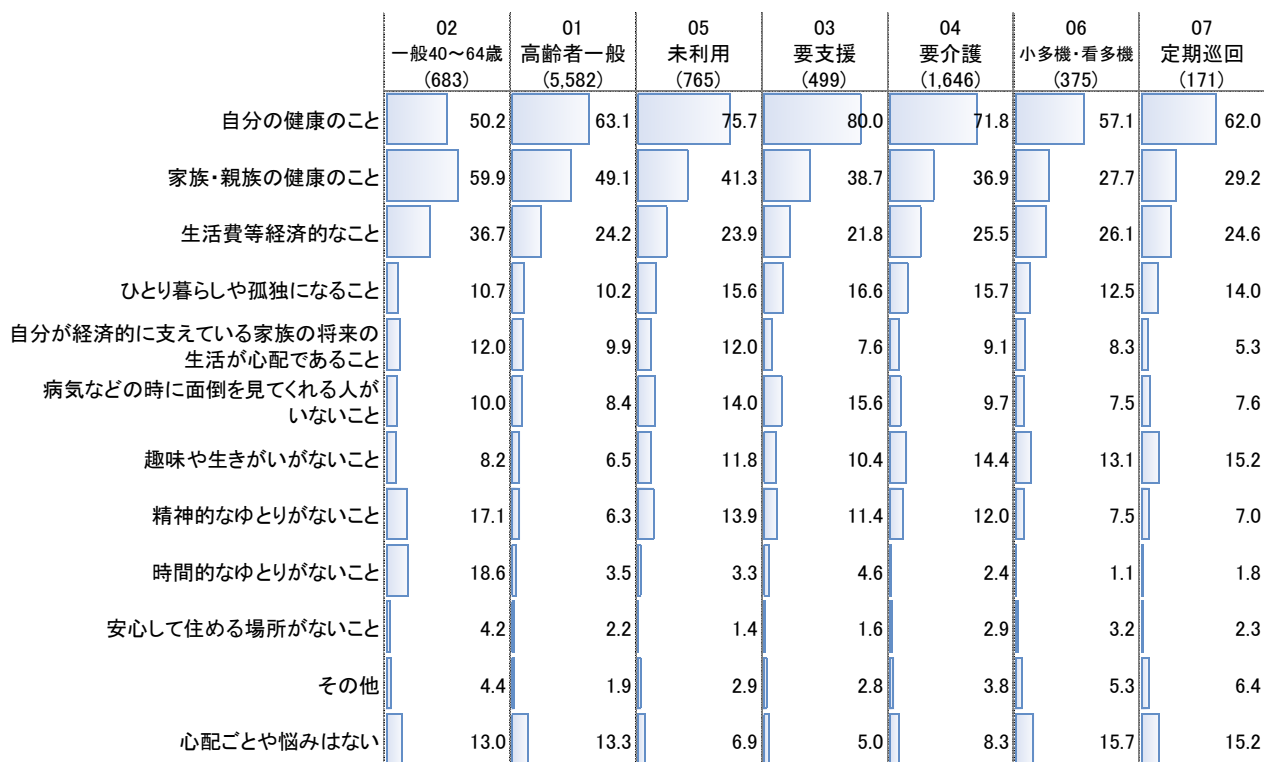
（あてはまるものすべてに○）

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	
問番号	20	20	19	16	17	16	16													

心配や悩み事について、“一般40～64歳”を除くすべての調査対象で「自分の健康のこと」が最も多く約6割以上を占めている。“一般40～64歳”では「家族・親族の健康のこと」が59.9%と最も多く、「生活費等経済的なこと」(36.7%)と「精神的なゆとりがないこと」(17.1%)、「時間的なゆとりがないこと」(18.6%)が他の対象者に比べて高くなっている。

過去の結果と比較すると、全ての対象で悩みの内容について大きな変化はみられなかった。

図表 I-2-① 心配・悩みごと



【経年比較】

(%)

	02 一般40～64歳			01 高齢者一般			05 未利用者		
	R7	R4	R1	R7	R4	R1	R7	R4	R1
	2025年	2022年	2019年	2025年	2022年	2019年	2025年	2022年	2019年
自分の健康のこと	50.2	49.7	47.5	63.1	62.1	61.0	75.7	78.1	76.7
家族・親族の健康のこと	59.9	55.4	51.1	49.1	46.7	37.3	41.3	43.5	34.5
生活費等経済的なこと	36.7	36.1	36.1	24.2	23.6	23.0	23.9	23.1	21.8
ひとり暮らしや孤独になること	10.7	10.5	11.5	10.2	10.1	9.7	15.6	17.6	14.9
病気などの時に面倒を見てくれる人がいないこと	10.0	8.9	9.4	8.4	8.7	7.9	14.0	13.8	14.4
心配ごとや悩みはない	13.0	13.0	13.0	13.3	13.0	14.1	6.9	6.3	5.9

	03 要支援			04 要介護			06 小多機・看多機		
	R7	R4	R1	R7	R4	R1	R7	R4	R1
	2025年	2022年	2019年	2025年	2022年	2019年	2025年	2022年	2019年
自分の健康のこと	80.0	78.2	80.1	71.8	69.7	73.5	57.1	62.9	62.8
家族・親族の健康のこと	38.7	38.4	29.0	36.9	35.9	30.4	27.7	31.5	25.3
生活費等経済的なこと	21.8	22.5	21.9	25.5	22.4	25.3	26.1	24.4	29.7
ひとり暮らしや孤独になること	16.6	16.8	18.0	15.7	14.2	14.8	12.5	14.9	15.5
病気などの時に面倒を見てくれる人がいないこと	15.6	15.0	18.5	9.7	8.7	8.3	7.5	7.5	7.3
心配ごとや悩みはない	5.0	4.6	3.4	8.3	10.5	7.8	15.7	14.1	11.2

	07 定期巡回		
	R7	R4	R1
	2025年	2022年	2019年
自分の健康のこと	62.0	64.4	65.5
家族・親族の健康のこと	29.2	28.3	19.0
生活費等経済的なこと	24.6	24.5	31.5
ひとり暮らしや孤独になること	14.0	18.9	22.0
病気などの時に面倒を見てくれる人がいないこと	7.6	8.6	10.5
心配ごとや悩みはない	15.2	12.4	8.0

② 心配・悩みごとの相談相手

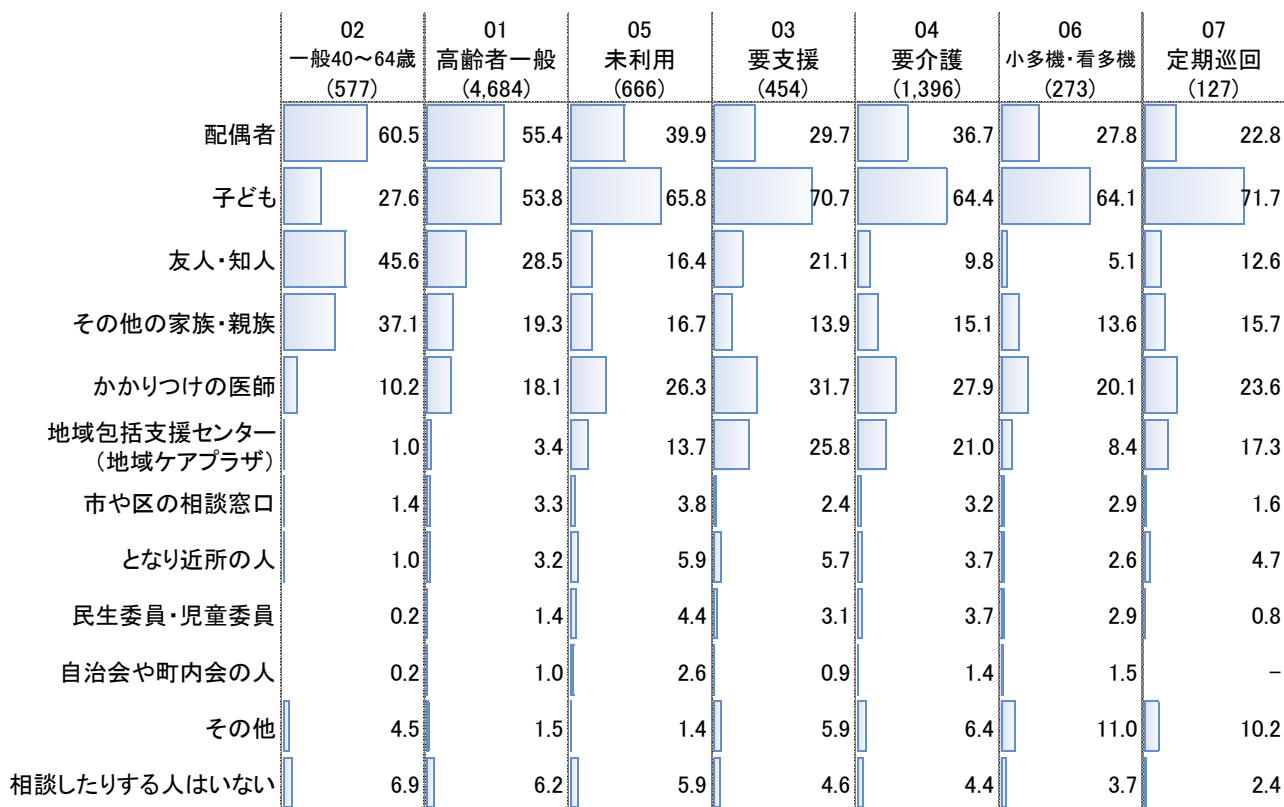
問 あなた（あて名ご本人）は、心配ごとや悩みごとができた場合、誰に（どこで）話を聞いてもらったり、相談をしたりしますか。（あてはまるものすべてに○）

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	
問 番号	20-1	20-1	19-1	16-1	17-1	16-1	16-1													

心配や悩み事の相談相手について、“一般 40～64 歳” “高齢者一般” では「配偶者」が最も多く 5 割以上となっている。一方で、“未利用” “要支援” “要介護” “小多機・看多機” “定期巡回” では「子ども」が最も多く 6 割以上となっている。

「友人・知人」は、“一般 40～64 歳” で 45.6%、“高齢者一般” で 28.5%、“要支援” で 21.1% となっているものの、その他の対象では 2 割を下回っている。

図表 I-2-② 心配・悩みごとの相談相手



③ 地域ケアプラザの認知度

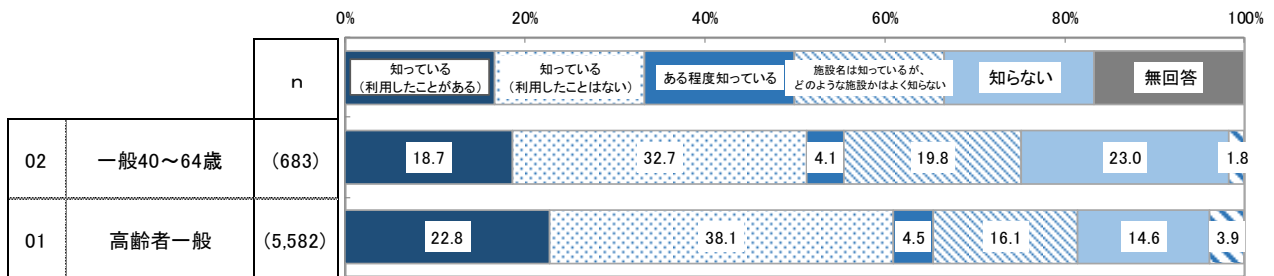
問 あなたは、地域ケアプラザを知っていますか。 (〇はひとつ)

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
問番号	56	54																	

地域ケアプラザの認知度について、「知っている（利用したことがある）」「知っている（利用したことはない）」「ある程度知っている」を合計した『知っている』は、“一般40～64歳”では55.5%、“高齢者一般”では65.4%となっている。

過去の結果と比較すると、“一般40～64歳”“高齢者一般”ともに『知っている』に大きな変化はないものの、“一般40～64歳”では「知らない」が増加している。

図表 I-2-③ 地域ケアプラザの認知度



【経年比較】

	02 一般40～64歳			01 高齢者一般		
	R7	R4	R1	R7	R4	R1
	2025年	2022年	2019年	2025年	2022年	2019年
知っている (利用したことがある)	18.7	22.3	17.6	22.8	22.8	20.7
知っている (利用したことはない)	32.7	33.0		38.1	35.6	
ある程度知っている	4.1	5.3	25.2	4.5	5.8	33.2
施設名は知っているが、どのような施設かはよく知らない	19.8	22.3	35.8	16.1	14.7	26.6
知らない	23.0	15.9	20.4	14.6	14.1	15.9

④ 地域ケアプラザの活動内容で知っているもの

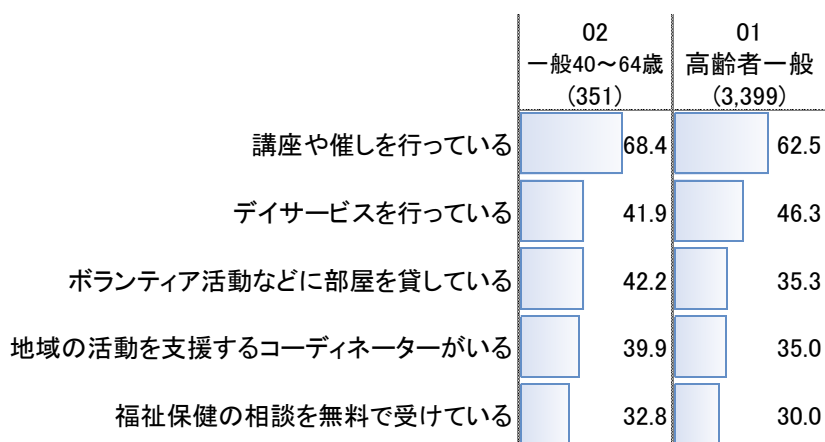
問 知っている内容をお答えください。 (あてはまるものすべてに○)

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
問 番 号	56-1	54-1																	

地域ケアプラザの活動内容で知っているものについて、全ての対象者で「講座や催しを行っている」が最も多く、次いで「デイサービスを行っている」となっている。

一方で、「福祉保健の相談を無料で受けている」は最も少なくなっている。

図表 I-2-④ 地域ケアプラザの活動内容で知っているもの



II. いきいきと暮らせる地域づくりを目指して

1 介護予防・健康づくりと自立支援

① 市民の健康感

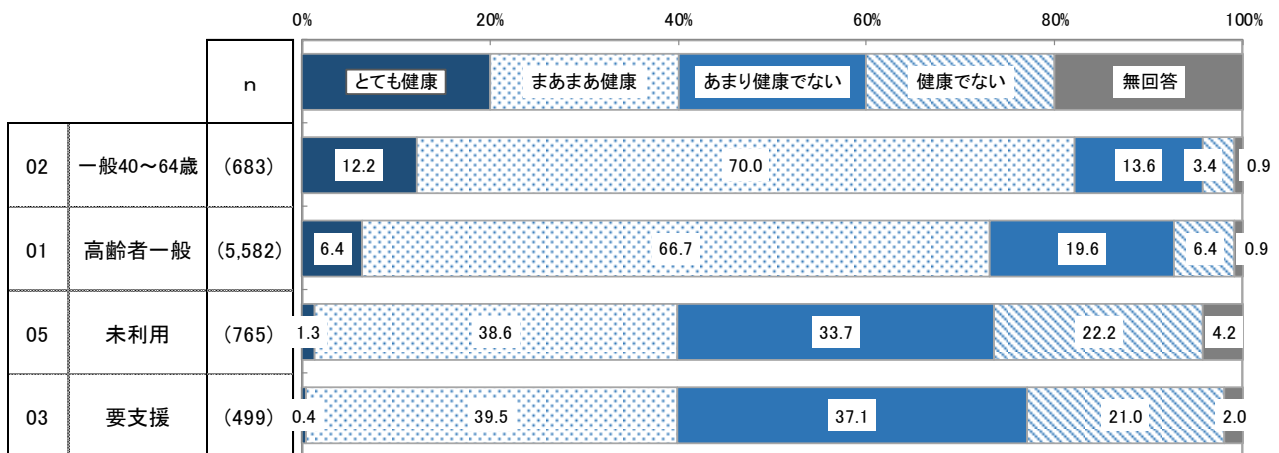
問 あなた（あて名ご本人）はふだん、ご自分で健康だと思いますか。
現在の状況に最も近いものをお選びください。（〇はひとつ）

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
問番号	16	16	16		14														

自身の健康感について、「とても健康」と「まあまあ健康」を合計した『健康である』は、“一般40～64歳”“高齢者一般”では7割以上となっている。一方で、“未利用”と“要支援”では「健康でない」「あまり健康でない」の合計が5割以上となっている。

過去の結果と比較してみると、令和4年度の結果から大きな変化は見られなかった。

図表 II-1-① 市民の健康感



【経年比較（とても健康+まあまあ健康）】

		R7			
		R7	R4	R1	H28
		2025年	2022年	2019年	2016年
02	一般40～64歳	82.2	82.0	82.1	85.1
01	高齢者一般	73.1	73.1	72.9	73.5
05	未利用	39.9	37.2	36.0	36.6
03	要支援	39.9	35.1	31.9	38.4

② 3年前と比べた心身や生活の変化

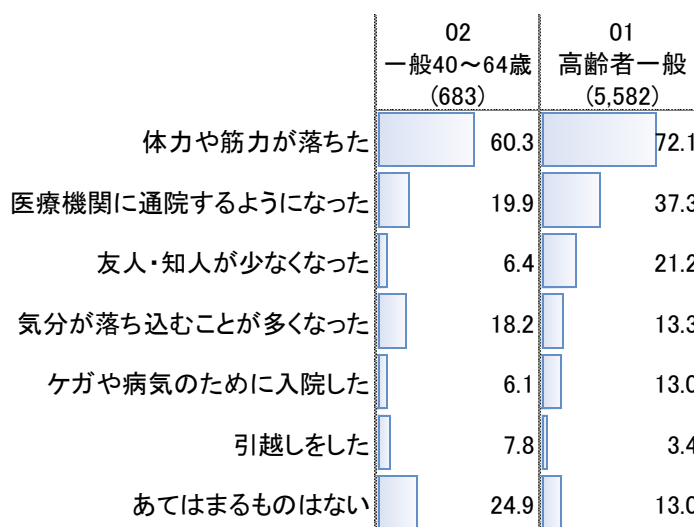
問 3年前の2022年と比べて、あなたの生活状況におきた変化としてあてはまるものをお答えください。
(あてはまるものすべてに○)

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
問 番号	17	17																	

3年前からの心身の変化について、“一般40～64歳”“高齢者一般”ともに、「体力や筋力が落ちた」が最も多く6割を上回っている。

“高齢者一般”では、“一般40～64歳”に比べて「医療機関に通院するようになった」「友人・知人が少なくなった」が多くなり、「あてはまるものはない」が少なくなる傾向がある。

図表 II-1-② 3年前からの変化



③ 生活の状態

問 あなた（あて名ご本人）の現在の状況に最も近いものをお選びください。

（○はひとつ）

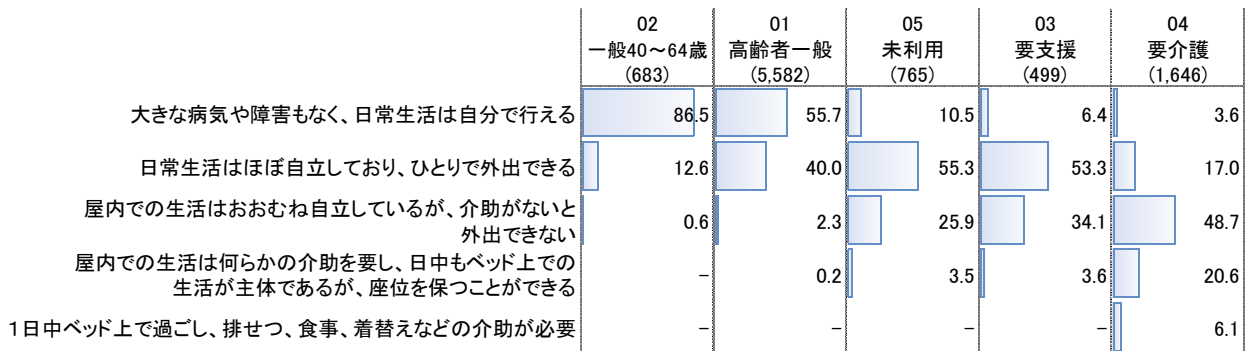
調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	
問番号	18	18	17	14	15															

生活の状態について、“一般40～64歳”と“高齢者一般”では「大きな病気や障害もなく、日常生活は自分で行える」と「日常生活はほぼ自立しており、ひとりで外出できる」を合わせた値は9割以上を占めている。

一方で、“未利用”“要支援”“要介護”では「屋内での生活はおおむね自立しているが、介助がないと外出できない」の割合が多くなっている。

過去の結果と比較すると、“一般40～64歳”“高齢者一般”ともに大きな変化は見られない。

図表 II-1-③ 生活の状態



【経年比較】

	02 一般40～64歳				01 高齢者一般			
	R7	R4	R1	H28	R7	R4	R1	H28
	2025年	2022年	2019年	2016年	2025年	2022年	2019年	2016年
大きな病気や障害もなく、日常生活は自分で行える	86.5	86.0	88.0	86.1	55.7	56.2	57.8	55.2
日常生活はほぼ自立しており、ひとりで外出できる	12.6	12.0	10.6	12.9	40.0	38.2	37.1	35.7
屋内での生活はおおむね自立しているが、介助がないと外出できない	0.6	0.7	0.4	0.6	2.3	2.6	2.4	5.7
屋内での生活は何らかの介助を要し、日中もベッド上での生活が主体であるが、座位を保つことができる	-	0.3	0.2	-	0.2	0.1	0.3	1.5
1日中ベッド上で過ごし、排せつ、食事、着替えなどの介助が必要	-	0.1	-	0.1	-	0.1	-	0.4

④ 介護予防の意識

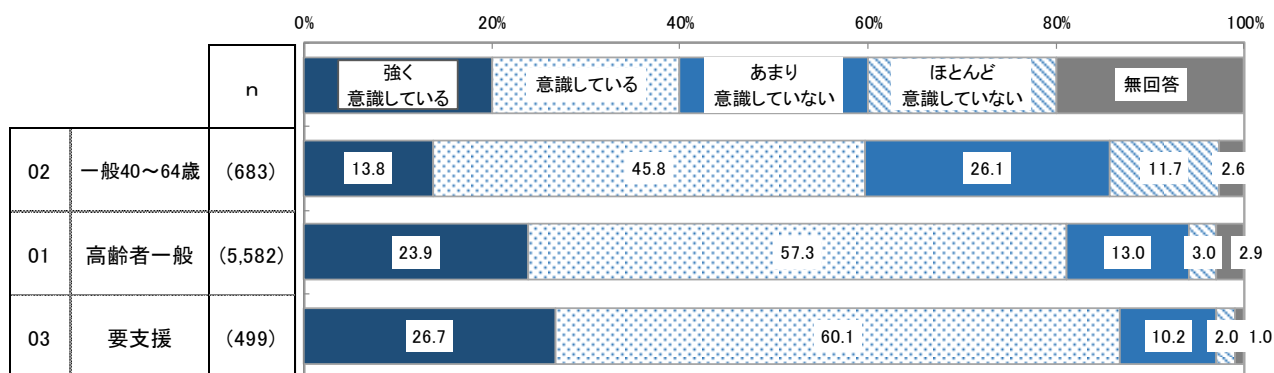
問 あなた（あて名ご本人）は、普段から介護予防のためにご自分の健康の維持・増進を意識していますか。 (〇はひとつ)

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	
問番号	42	38	30																	

介護予防の意識について、「強く意識している」と「意識している」を合計した『意識している』は、“高齢者一般”と“要支援”では8割以上となっている。一方で、“一般40～64歳”では『意識している』は59.6%となっている。

過去の結果と比較すると、『意識している』の割合に大きな変化は見られない。

図表 II-1-④ 介護予防の意識



【経年比較（強く意識している＋意識している）】

		(%)		
		R7	R4	R1
		2025年	2022年	2019年
02	一般40～64歳	59.6	56.5	55.5
01	高齢者一般	81.2	81.5	82.5
03	要支援	86.8	87.2	83.9

⑤ 健康・予防のための取組

問 あなた（あて名ご本人）は、普段から健康や介護予防のために取り組んでいることはありますか。
（あてはまるものすべてに○）

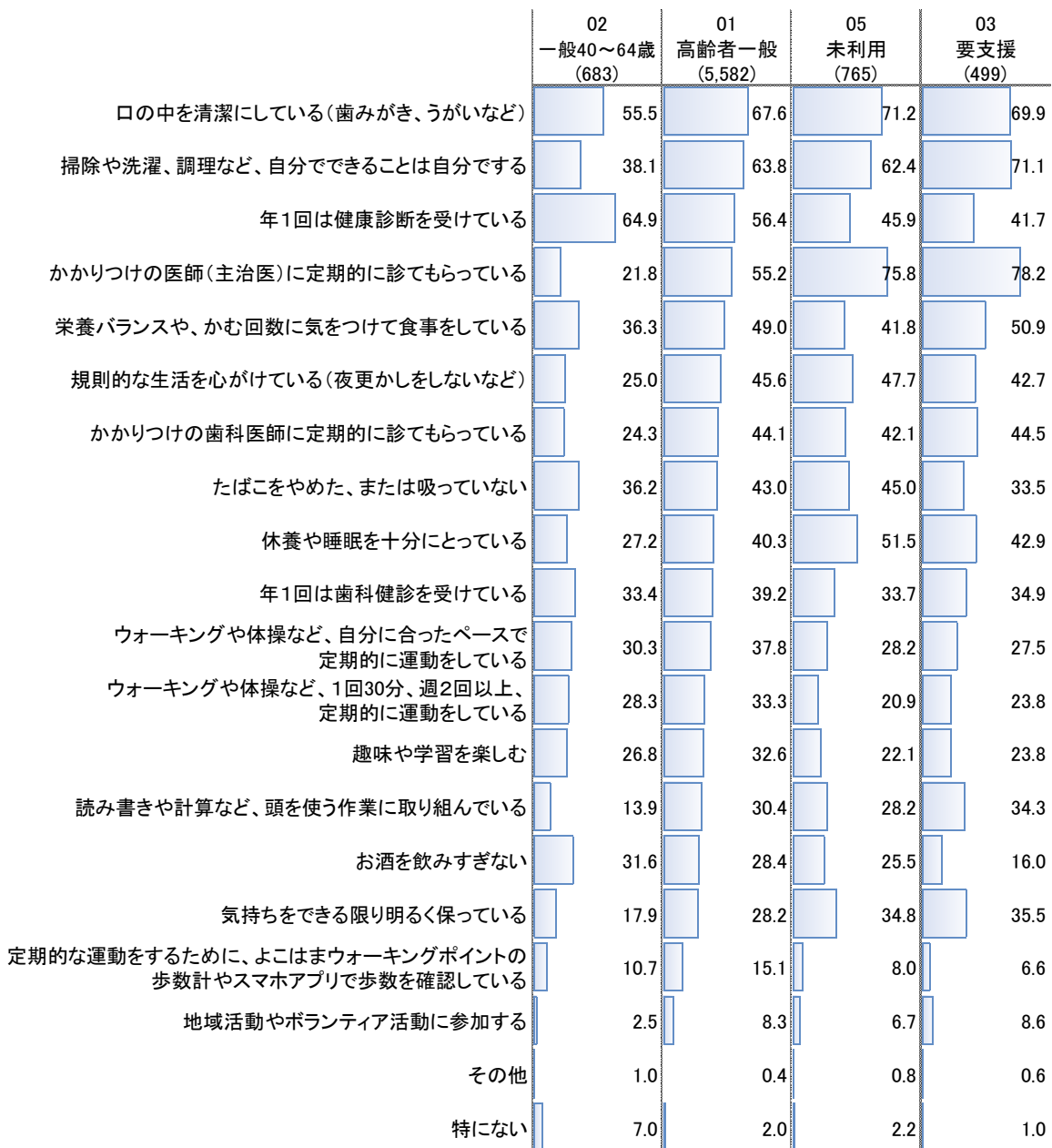
調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	
問 番号	43	39	31		23															

健康や介護予防のための取組について、“高齢者一般”は「口の中を清潔にしている」が67.6%と最も多く、次いで「掃除や洗濯、調理など、自分でできることは自分でする」が63.8%となっている。

“未利用”“要支援”では「かかりつけの医師に定期的に診てもらっている」が7割以上を占めているが、“一般40～64歳”では21.8%となっている。

過去の結果と比較すると、「年1回は健康診断を受けている」については、すべての対象で微増傾向がみられる。

図表 II-1-⑤ 健康・予防のための取組



【経年比較（高齢者一般調査の上位5項目）】

	02 一般40～64歳				01 高齢者一般			
	R7	R4	R1	H28	R7	R4	R1	H28
	2025年	2022年	2019年	2016年	2025年	2022年	2019年	2016年
口の中を清潔にしている(歯みがき、うがいなど)	55.5	53.8	55.3	60.4	67.6	69.4	70.9	68.6
掃除や洗濯、調理など、自分でできることは自分でする	38.1	40.4	44.0		63.8	62.9	65.9	
年1回は健康診断を受けている	64.9	62.0	63.9	69.8	56.4	49.9	55.3	51.7
かかりつけの医師(主治医)に定期的に診てもらっている	21.8	21.5	21.8	33.2	55.2	55.2	57.2	60.6
栄養バランスや、かむ回数に気をつけて食事をしている	36.3	34.0	34.1	36.0	49.0	48.7	53.6	46.1

	05 未利用				03 要支援			
	R7	R4	R1	H28	R7	R4	R1	H28
	2025年	2022年	2019年	2016年	2025年	2022年	2019年	2016年
口の中を清潔にしている(歯みがき、うがいなど)	71.2	72.0	65.4	67.2	69.9	70.6	68.4	76.9
掃除や洗濯、調理など、自分でできることは自分でする	62.4	62.8	57.7		71.1	67.8	65.7	
年1回は健康診断を受けている	45.9	40.8	45.4	37.8	41.7	38.4	42.7	46.0
かかりつけの医師(主治医)に定期的に診てもらっている	75.8	75.6	73.4	72.9	78.2	79.2	76.8	80.7
栄養バランスや、かむ回数に気をつけて食事をしている	41.8	40.4	41.4	42.1	50.9	52.3	46.1	49.2

※ “一般40～64歳” は、H28 調査以前は55～64歳が対象

⑥ 健康や介護予防に取り組むきっかけ

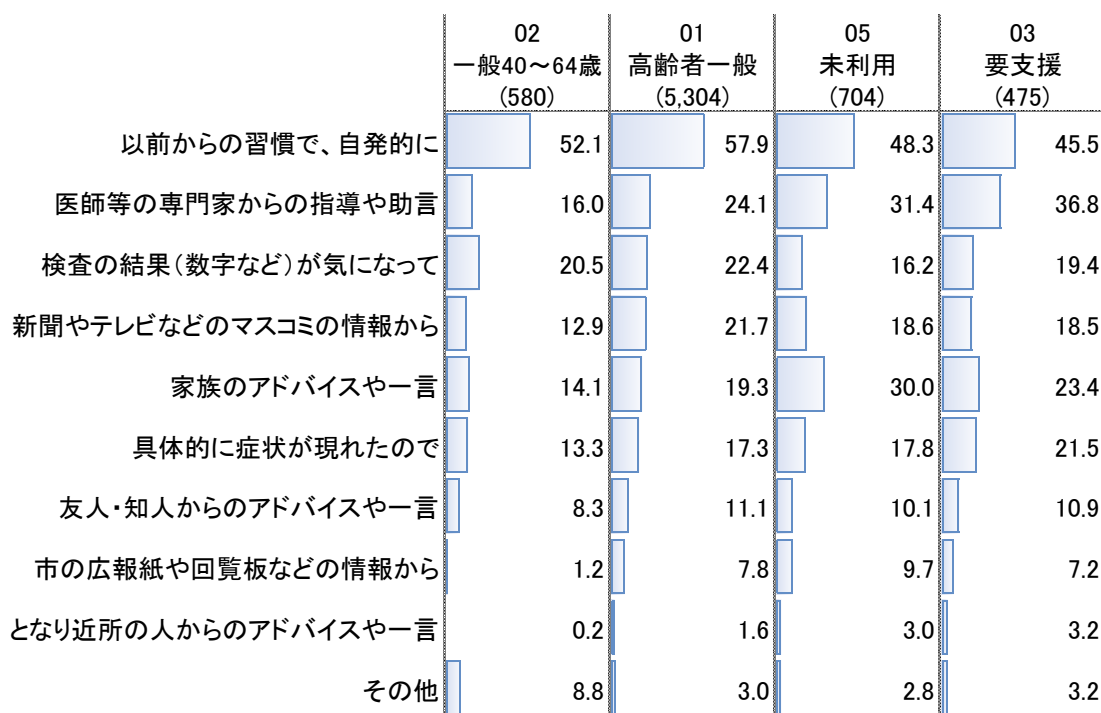
問 介護予防に取り組むこととなった主なきっかけは何ですか。

(あてはまるものすべてに○)

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	
問 番号	43-1	39-1	31-1		23-1															

健康や介護予防に取り組むきっかけについて、全ての対象者で「以前からの習慣で、自発的に」が最も多く約半数を占めている。次いで、“一般40～64歳”では「検査の結果が気になって」、「高齢者一般」「未利用」「要支援」では「医師等の専門家からの指導や助言」といった、医療機関からの指導や助言が多くなっている。

図表 II-1-⑥ 取組のきっかけ



⑦ 今後の健康や介護予防の取組見込み

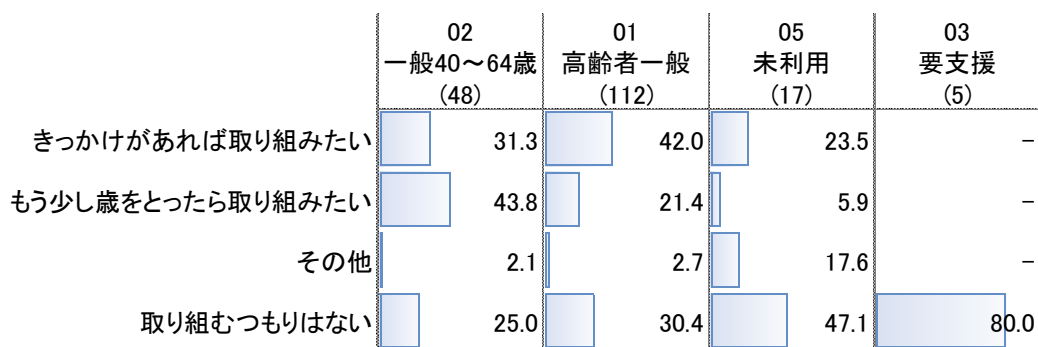
問 今後、健康や介護予防に取り組みたいと思いますか。 (あてはまるものすべてに○)

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	
問 番 号	43-2	39-2	31-2		23-2															

今後の健康や介護予防の取組意向について、“高齢者一般”では「きっかけがあれば取り組みたい」が42.0%と最も多くなっており、“一般40～64歳”では「もう少し歳をとったら取り組みたい」が43.8%と最も多くなっている。

過去の結果との比較は回答数が少ないため参考値とする。

図表 II-1-⑦ 今後の取組見込



【経年比較】

	02 一般40～64歳			01 高齢者一般		
	R7	R4	R1	R7	R4	R1
	2025年	2022年	2019年	2025年	2022年	2019年
きっかけがあれば取り組みたい	31.3	28.4	32.7	42.0	48.0	35.4
もう少し歳をとったら取り組みたい	43.8	33.3	39.4	21.4	16.0	22.9
取り組むつもりはない	25.0	33.3	21.2	30.4	32.0	37.5

	05 未利用			03 要支援		
	R7	R4	R1	R7	R4	R1
	2025年	2022年	2019年	2025年	2022年	2019年
きっかけがあれば取り組みたい	23.5	11.1	20.0	-	16.7	30.8
もう少し歳をとったら取り組みたい	5.9	-	5.0	-	-	7.7
取り組むつもりはない	47.1	77.8	55.0	80.0	66.7	30.8

2 社会参加

① 就労状況

問 あなた（あて名ご本人）は現在、仕事をしていますか。また、どのくらいの頻度ですか。

（○はひとつ）

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	
問番号	14	13																		

就労状況について、“高齢者一般”では「ほぼ毎日」は12.1%、「週に2～3日」は9.3%となっており、「月に数日」と合計した24.6%が、1か月に定期的に働いている。一方で、“一般40～64歳”では「ほぼ毎日」が66.6%となっている。

“高齢者一般”について、過去の結果と比較すると、「ほぼ毎日」「週に2～3日」「月に数日」の合計は、前回調査から大きな変化は見られなかった。

また、年齢別でみると、65～69歳では、「ほぼ毎日」が27.3%となっており、「週に2～3日」「月に数日」と合計した48.5%が1か月に定期的に働いている。

図表 II-2-① 就労状況

		有効回収数（n）	ほぼ毎日	週に2～3日	月に数日	頻度は決まっていない	仕事はしていない	仕事はしたいが働いていない	無回答
02	一般40～64歳	(683)	66.6	13.8	1.0	3.1	9.7	5.1	0.7
01	高齢者一般	(5,582)	12.1	9.3	3.2	4.4	65.1	4.5	1.4

■ 高齢者一般

		有効回収数（n）	ほぼ毎日	週に2～3日	月に数日	頻度は決まっていない	仕事はしていない	仕事はしたいが働いていない	無回答
経年比較	R7年度（2025年度）	(5,582)	12.1	9.3	3.2	4.4	65.1	4.5	1.4
	R4年度（2022年度）	(2,733)	12.4	9.1	3.3	4.2	66.3	3.4	1.2
	R1年度（2019年度）	(3,071)	12.3	10.0	2.9	3.6	64.7	4.9	1.5
	H28年度（2016年度）	(2,108)	9.8	7.5	3.9	1.9	71.1	3.5	2.4
年齢別比較	65～69歳	(1,224)	27.3	16.5	4.7	6.0	38.1	6.9	0.6
	70～74歳	(1,328)	13.3	13.8	4.0	4.7	57.2	6.1	0.9
	75～79歳	(1,487)	8.1	6.5	2.7	4.6	73.6	3.4	1.2
	80～84歳	(964)	4.3	2.8	1.9	3.3	82.3	2.8	2.7
	85歳以上	(572)	0.7	1.6	1.6	1.7	90.2	1.6	2.6

② 就労している理由

問 仕事をしている最も大きな理由は何ですか。 (〇はひとつ)

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	
問 番号	14-1	13-1																		

就労している理由について、“一般40～64歳”では「生活費を得るため」が75.7%と大半を占めている。一方で、“高齢者一般”では「生活費を得るため」が39.8%と最も多く、次いで「経済的に余裕が欲しいから」が18.8%、「生活に張りやリズムができるから」が15.3%となっている。

“高齢者一般”について、年齢別でみると、「生活費を得るため」は年齢が若い層で多い傾向にあり、65～69歳では43.3%、70～74歳では41.8%となっている。一方で、高齢になると、「生活に張りやリズムができるから」が多くなる傾向があり、85歳以上では21.9%と最も多くなっている。

図表 II-2-② 就労している理由

		有効回収数 (n)	生活費を得るため	経済的に余裕が欲しいから	生活に張りやリズムができるから	仕事の都合でやめることができないから	社会の役に立てるから	健康に良いから	同居している子どもに収入がないため	友人が欲しいから	その他
02	一般40～64歳	(577)	75.7	10.9	5.2	0.7	3.1	0.7	0.3	0.0	1.4
01	高齢者一般	(1,619)	39.8	18.8	15.3	7.7	6.5	4.8	0.7	0.0	2.9
■高齢者一般											
年齢別比較	65～69歳	(667)	43.3	22.8	13.3	5.1	5.5	3.3	0.4	0.0	2.7
	70～74歳	(476)	41.8	18.7	16.4	6.3	6.3	4.4	0.4	0.0	2.1
	75～79歳	(325)	37.2	15.1	17.2	11.4	6.2	4.6	1.2	0.0	4.3
	80～84歳	(118)	24.6	11.0	15.3	15.3	11.0	11.9	2.5	0.0	3.4
	85歳以上	(32)	18.8	0.0	21.9	15.6	15.6	18.8	0.0	0.0	3.1

③ 近所付き合いの状況

問 あなた（あて名ご本人）は、ふだん、近所の人とどの程度の付き合いをしていますか。

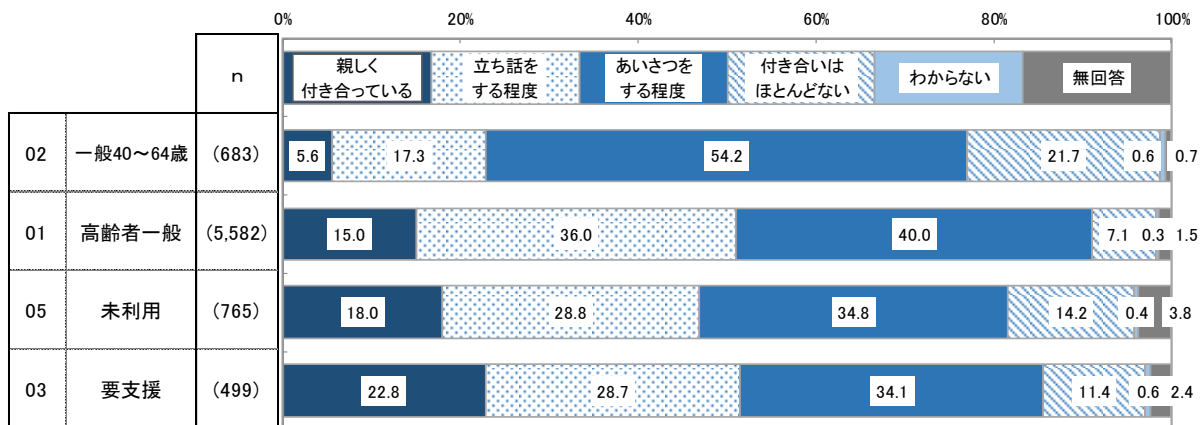
（○はひとつ）

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	
問番号	24	25	22		21															

近所付き合いの状況について、「親しく付き合っている」は“高齢者一般”で15.0%となっており、“未利用”では18.0%、“要支援”では22.8%となっている。一方で、“一般40～64歳”では「親しく付き合っている」は5.6%となっており、「あいさつをする程度」が54.2%と半数以上を占めている。

過去の結果と比較すると、“一般40～64歳”“未利用”“要支援”で「あいさつをする程度」に微増傾向がみられる。

図表 II-2-③ 近所付き合いの状況



【経年比較】

	02 一般40～64歳				01 高齢者一般			
	R7	R4	R1	H28	R7	R4	R1	H28
	2025年	2022年	2019年	2016年	2025年	2022年	2019年	2016年
親しく付き合っている	5.6	4.7	8.0	9.3	15.0	15.8	21.2	23.1
立ち話をする程度	17.3	20.5	20.3	25.1	36.0	32.3	34.5	29.7
あいさつをする程度	54.2	51.0	52.8	53.7	40.0	40.8	34.0	36.7
付き合いはほとんどない	21.7	22.0	18.1	10.8	7.1	8.7	7.6	7.3
わからない	0.6	0.6	0.6	0.1	0.3	0.4	0.3	0.4

	05 未利用				03 要支援			
	R7	R4	R1	H28	R7	R4	R1	H28
	2025年	2022年	2019年	2016年	2025年	2022年	2019年	2016年
親しく付き合っている	18.0	14.4	18.5	26.7	22.8	24.3	19.1	30.9
立ち話をする程度	28.8	34.1	31.0	22.4	28.7	30.9	33.3	27.1
あいさつをする程度	34.8	30.4	30.4	31.4	34.1	26.3	30.7	31.1
付き合いはほとんどない	14.2	16.5	14.1	12.8	11.4	12.1	11.6	7.6
わからない	0.4	0.2	0.7	0.5	0.6	0.5	0.4	0.4

※ “一般40～64歳”は、H28調査以前は55～64歳が対象

④ 近所付き合いのない理由

問 付き合いがほとんどない理由は何ですか。 (あてはまるものすべてに○)

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	
問 番 号	24-1	25-1																		

近所付き合いがほとんどない理由について、“一般40～64歳”“高齢者一般”ともに「普段付き合い機会がないから」が最も多く半数以上を占めており、次いで“一般40～64歳”では「仕事や家事などで忙しく時間がない」、「高齢者一般」では「あまり関わりをもちたくないから」となっている。

年齢別でみると、「普段付き合い機会がないから」は全ての年代で約半数を占めている。

図表 II-2-④ 近所付き合いのない理由

			(%)								
		有効回収数 (n)	普段付き合い機会がないから	あまり関わりをもちたくないから	気の合う人が近くにいないから	仕事や家事などで忙しく時間がない	引っ越してきて間もないから	同世代の人が近くにいないから	その他	特に理由はない	わからない
02	一般40～64歳	(148)	66.9	20.3	12.8	31.8	4.7	8.8	1.4	16.9	0.7
01	高齢者一般	(395)	52.4	22.3	14.4	8.4	7.6	6.3	2.3	28.9	1.3

■年齢別

年齢	有効回収数 (n)	普段付き合い機会がないから	あまり関わりをもちたくないから	気の合う人が近くにいないから	仕事や家事などで忙しく時間がない	引っ越してきて間もないから	同世代の人が近くにいないから	その他	特に理由はない	わからない
一般40～64歳	40～44歳 (20)	60.0	20.0	10.0	25.0	0.0	15.0	0.0	25.0	5.0
	45～49歳 (25)	76.0	32.0	20.0	24.0	4.0	4.0	4.0	8.0	0.0
	50～54歳 (39)	64.1	17.9	12.8	30.8	7.7	7.7	2.6	20.5	0.0
	55～59歳 (40)	72.5	15.0	12.5	35.0	5.0	15.0	0.0	12.5	0.0
	60～64歳 (24)	58.3	20.8	8.3	41.7	4.2	0.0	0.0	20.8	0.0
高齢者一般	65～69歳 (112)	62.5	22.3	10.7	14.3	5.4	11.6	2.7	23.2	0.9
	70～74歳 (100)	53.0	25.0	13.0	9.0	7.0	5.0	1.0	30.0	1.0
	75～79歳 (101)	48.5	20.8	17.8	5.9	7.9	4.0	5.0	36.6	2.0
	80～84歳 (51)	41.2	25.5	19.6	3.9	11.8	3.9	0.0	23.5	2.0
	85歳以上 (31)	45.2	12.9	12.9	0.0	9.7	3.2	0.0	29.0	0.0

⑤ 地域活動への参加状況

問 あなた（あて名ご本人）はこの1年間に、個人・団体で次のような地域活動やボランティアに参加したことがありますか。 （あてはまるものすべてに○）

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	
問 番号	26	27																		

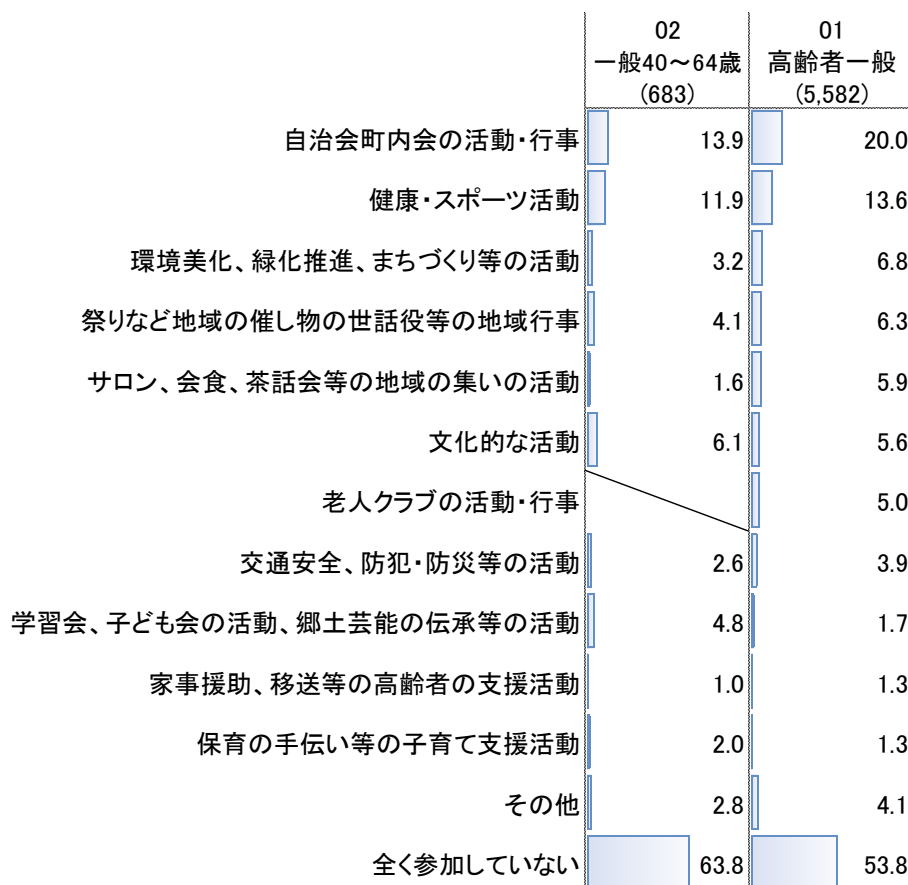
この1年で参加した地域活動について、“一般40～64歳”“高齢者一般”ともに「自治会町内会の活動・行事」が最も高く、次いで「健康・スポーツ活動」となっている。

また、「全く参加していない」は“一般40～64歳”で63.8%、“高齢者一般”で53.8%となっている。

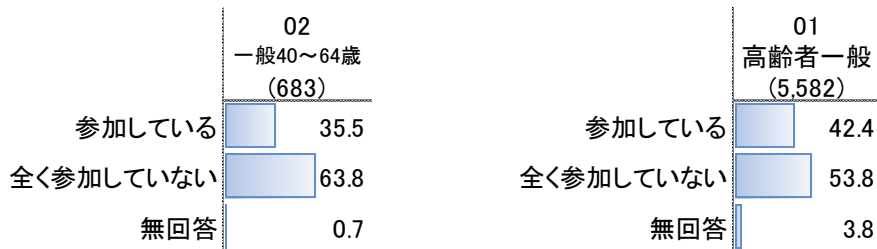
年齢別でみると、「全く参加していない」は高齢になるにつれて低くなる傾向があり、40～44歳で63.3%となっているが、85歳以上では49.1%となっている。

過去の結果と比較すると、「全く参加していない」は、R4調査時に比べると減少傾向がみられるものの、R1調査以前に比べると多くなっている。

図表 II-2-⑤ 地域活動への参加状況



【回答のまとめ】



【年齢別の比較】

		有効回収数 (n)	自治会町内会の活動・行事	健康・スポーツ活動	環境美化、緑化推進、まちづくり等の活動	祭りなど地域の催し物の世話役等の地域行事	サロン、会食、茶話会等の地域の集いの活動	文化的な活動	老人クラブの活動・行事	交通安全、防犯・防災等の活動	学習会、子ども会の活動、郷土芸能の伝承等の活動	家事援助、移送等の高齢者の支援活動	保育の手伝い等の子育て支援活動	その他	全く参加していない (%)
一般40～64歳	40～44歳	(98)	19.4	13.3	3.1	6.1	1.0	3.1		4.1	4.1	0.0	2.0	2.0	63.3
	45～49歳	(109)	11.0	9.2	2.8	3.7	1.8	1.8		3.7	6.4	0.9	1.8	1.8	69.7
	50～54歳	(164)	12.2	9.8	3.0	4.3	1.8	4.9		2.4	6.7	0.6	1.2	4.3	65.2
	55～59歳	(159)	10.1	13.8	2.5	3.8	1.3	8.8		1.9	3.8	1.9	3.1	1.9	66.0
	60～64歳	(153)	18.3	13.1	4.6	3.3	2.0	9.8		2.0	3.3	1.3	2.0	3.3	56.2
高齢者一般	65～69歳	(1,224)	17.9	8.3	6.1	5.7	2.7	4.1	1.3	3.8	1.7	0.9	1.9	3.3	63.6
	70～74歳	(1,328)	21.2	12.8	6.6	6.5	4.1	5.6	2.6	3.9	1.7	1.0	1.8	4.3	55.8
	75～79歳	(1,487)	23.0	15.7	7.9	7.4	6.6	5.4	5.4	5.0	1.7	1.3	1.3	4.4	49.8
	80～84歳	(964)	19.6	17.0	7.1	7.1	9.6	7.0	10.5	3.6	1.8	2.0	0.5	3.9	47.5
	85歳以上	(572)	14.2	15.4	5.2	3.3	8.6	7.5	8.6	1.7	1.4	1.6	0.5	4.9	49.1

【経年比較 (全く参加していない)】

		(%)			
		R7	R4	R1	H28
		2025年	2022年	2019年	2016年
02	一般40～64歳	63.8	71.0	54.8	58.2
01	高齢者一般	53.8	57.7	38.8	42.8

※ “一般40～64歳” は、H28調査以前は55～64歳が対象

⑥ 地域活動やボランティアに参加したきっかけ

問 地域活動やボランティアに参加した主なきっかけは何ですか。(あてはまるものすべてに○)

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	
問 番号	26-1	27-1																		

地域活動やボランティアに参加したきっかけについて、“高齢者一般”では「健康でいたいから」が29.2%と最も多く、次いで「地域や社会貢献したいから」が28.9%となっている。一方で“一般40～64歳”では「内容が楽しそうだったから」が19.0%と最も多く、次いで“地域や社会に貢献したいから”が17.4%となっている。

年齢別でみると、「健康でいたいから」は高齢になるにつれて割合が多くなる傾向があり、特に70歳以上で多くなっている。

また、「地域や社会に貢献したいから」は65～79歳で約3割と最も多くなっている。

図表 II-2-⑥ 地域活動やボランティアに参加したきっかけ

		有効回収数 (n)	健康でいたいから	地域や社会に貢献したいから	以前からの習慣で、自発的に	市からの広報紙や回覧板などの情報から	内容が楽しそうだったから	友人・知人からのアドバイス	自分の能力を活かせると思っ たから	となり近所の人からのアドバイ スや一言	家族のアドバイスや一言	新聞やテレビ等のマスコミの 情報から	医師等の医療の専門家からの 助言	ケアマネジャー等の福祉・介 護の専門家からの助言	その他	(%)
02	一般40～64歳	(242)	13.2	17.4	14.5	12.4	19.0	9.9	10.3	5.0	6.6	2.5	1.2	0.0	24.8	
01	高齢者一般	(2,367)	29.2	28.9	25.3	21.0	20.4	16.2	14.6	8.5	6.8	4.2	1.0	0.5	10.5	
■年齢別																
一般 40 5 6 4 歳	40～44歳	(36)	13.9	16.7	11.1	22.2	19.4	16.7	2.8	8.3	8.3	0.0	0.0	0.0	22.2	
	45～49歳	(32)	12.5	15.6	9.4	15.6	28.1	3.1	3.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	34.4	
	50～54歳	(56)	7.1	16.1	12.5	12.5	21.4	5.4	14.3	8.9	7.1	3.6	3.6	0.0	26.8	
	55～59歳	(53)	15.1	11.3	15.1	5.7	13.2	7.5	15.1	1.9	9.4	1.9	0.0	0.0	22.6	
	60～64歳	(65)	16.9	24.6	20.0	10.8	16.9	15.4	10.8	4.6	6.2	4.6	1.5	0.0	21.5	
高 齢 者 一 般	65～69歳	(432)	16.4	31.5	20.6	18.5	21.5	10.6	13.4	6.5	5.8	2.1	0.2	0.0	18.1	
	70～74歳	(560)	24.5	29.8	22.9	22.9	21.1	13.6	12.9	7.9	7.1	3.4	1.3	0.2	15.0	
	75～79歳	(697)	29.6	32.1	26.1	19.4	19.9	15.6	14.9	9.8	6.6	4.2	0.7	0.9	7.9	
	80～84歳	(433)	40.6	24.5	31.2	23.8	20.1	23.3	16.2	8.8	7.6	5.3	1.4	1.2	4.8	
	85歳以上	(242)	41.3	19.8	26.4	20.7	19.0	21.5	17.4	9.5	7.4	8.3	1.7	0.4	4.5	

⑦ 参加・利用してみたい活動

問 次のうち、参加・利用してみたいと思うものは何ですか。 (あてはまるものすべてに○)

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	
問 番号	28	28																		

参加・利用してみたい活動について、“高齢者一般”では「ウォーキングや体操教室など健康維持のための活動を行う場」が34.2%と最も多く、“一般40～64歳”では「地域貢献となるボランティア」が35.0%となっている。

年齢別でみると、「地域貢献となるボランティア」や「仕事等の知識や経験を活かしたボランティア」は、年齢が若い方の割合が多い傾向がある。

図表 II-2-⑦ 参加・利用してみたい活動

		(%)										
	有効回収数 (n)	ウォーキングや体操教室など健康維持のための活動を行う場	仲間と話をしたり趣味の活動を行うサロン	地域貢献となるボランティア	鑑賞等(書道、俳句等)を中心とした仲間と集まる場	文化(書道、俳句等)、芸術(絵画、美術)	パソコンやインターネットなどの学習がで	農作業を中心とした仲間との活動の場	仕事等の知識や経験を活かしたボランティア	社会参加など、セカンドライフの充実に向けた高齢者のための相談窓口	その他	特にな
02	一般40～64歳	(683)	28.8	18.7	35.0	18.0	14.6	18.0	22.7	5.4	2.0	34.0
01	高齢者一般	(5,582)	34.2	18.5	16.6	14.4	14.3	7.1	6.1	2.8	1.6	37.1

■年齢別

年齢	有効回収数 (n)	ウォーキングや体操教室など健康維持のための活動を行う場	仲間と話をしたり趣味の活動を行うサロン	地域貢献となるボランティア	鑑賞等(書道、俳句等)を中心とした仲間と集まる場	文化(書道、俳句等)、芸術(絵画、美術)	パソコンやインターネットなどの学習がで	農作業を中心とした仲間との活動の場	仕事等の知識や経験を活かしたボランティア	社会参加など、セカンドライフの充実に向けた高齢者のための相談窓口	その他	特にな
一般40～64歳	40～44歳	(98)	23.5	15.3	26.5	10.2	10.2	14.3	17.3	2.0	1.0	42.9
	45～49歳	(109)	22.9	18.3	33.0	20.2	8.3	19.3	22.9	4.6	1.8	38.5
	50～54歳	(164)	25.0	17.7	35.4	16.5	13.4	20.1	22.0	3.0	3.0	37.8
	55～59歳	(159)	38.4	16.4	37.1	19.5	14.5	20.8	25.8	8.2	1.9	26.4
	60～64歳	(153)	30.7	24.8	39.2	21.6	23.5	14.4	23.5	7.8	2.0	28.8
高齢者一般	65～69歳	(1,224)	37.0	16.3	23.9	15.7	15.8	11.1	10.0	4.4	2.4	34.6
	70～74歳	(1,328)	38.9	19.1	16.5	16.0	17.8	7.2	6.3	2.6	1.4	35.8
	75～79歳	(1,487)	32.6	18.3	15.6	13.0	13.5	6.7	5.4	2.4	1.3	38.4
	80～84歳	(964)	31.7	20.4	12.1	13.9	12.1	4.6	4.0	2.5	1.9	37.9
	85歳以上	(572)	25.5	19.8	11.4	12.6	8.9	3.8	2.6	1.4	1.2	41.1

⑧ 地域に対する愛着や考え方

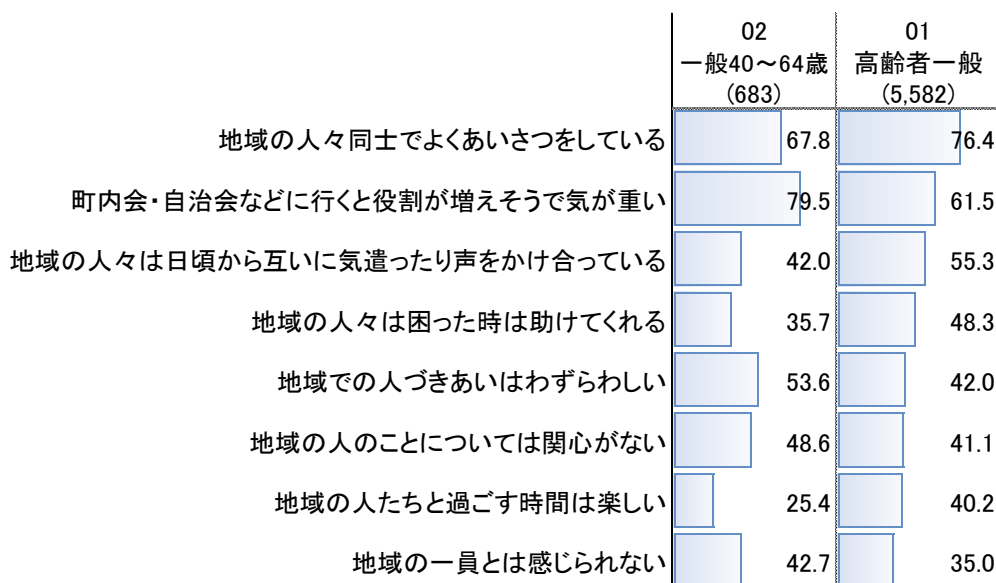
問 地域に対する愛着や考え方について、あなた（あて名ご本人）のお考えにもっとも近いものをお選びください。（それぞれ〇はひとつ）

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	
問 番号	29	29																		

地域に対する愛着や考え方について、“高齢者一般”では、「地域の人々同士でよくあいさつをしている」が76.4%と最も多く、次いで「町内会・自治会などに行くと役割が増えそうで気が重い」が61.5%となっている。

“一般40～64歳”では、「町内会・自治会などに行くと役割が増えそうで気が重い」が79.5%と最も多くなっている。

図表 II-2-⑧ 地域に対する愛着や考え方
【とてもそう思う+ややそう思うの合計】



⑨ 月に1回以上行っている取組・活動

問 あなたが複数人で、月に1回以上行っている取組や活動はありますか。

(あてはまるものすべてに○)

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	
問番号	27	23																		

月に1回以上行っている取組や活動について、“高齢者一般”では「共通の趣味嗜好を持つ人との交流」が最も多く25.9%となっており、“一般40～64歳”では「気分転換やストレス解消のための活動」が23.3%と最も多くなっている。

「あてはまるものはない」は“一般40～64歳”で49.2%、“高齢者一般”で46.3%となっており、半数が何らかの取組や活動を行っている。

年齢別でみると、「共通の趣味嗜好を持つ人との交流」は80～84歳で最も多く、高齢になるにつれて増加する傾向がある。

また、「あてはまるものはない」についても、60～64歳で41.2%となっているものの、65～69歳で53.8%に増加し、70歳を超えると減少する傾向がある。

図表 II-2-⑨ 月に1回以上行っている取組・活動

		有効回収数 (n)	共通の趣味嗜好を持つ人との交流	健康維持のための活動	楽しめる活動	気分転換やストレス解消のための活動	近所の住民との交流	知識や技能を活かせる活動	社会への貢献度の高い活動	あてはまるものはない
02	一般40～64歳	(683)	20.5	21.1	18.3	23.3	4.5	11.1	5.6	49.2
01	高齢者一般	(5,582)	25.9	20.0	14.7	9.0	8.9	7.0	5.6	46.3
■年齢別										
一般40～64歳	40～44歳	(98)	17.3	16.3	21.4	30.6	2.0	8.2	6.1	53.1
	45～49歳	(109)	13.8	17.4	11.0	15.6	2.8	8.3	2.8	58.7
	50～54歳	(164)	20.7	16.5	18.9	22.0	3.7	4.9	3.7	52.4
	55～59歳	(159)	22.0	23.9	19.5	25.8	4.4	17.6	6.9	44.7
	60～64歳	(153)	25.5	28.8	19.6	22.9	8.5	15.0	7.8	41.2
高齢者一般	65～69歳	(1,224)	23.8	16.8	12.4	11.4	4.0	6.5	6.0	53.8
	70～74歳	(1,328)	25.7	20.3	13.8	10.3	7.2	6.9	6.6	48.8
	75～79歳	(1,487)	26.8	21.8	15.8	7.0	9.9	6.8	6.3	44.3
	80～84歳	(964)	29.1	21.4	17.9	8.2	14.3	7.5	4.3	38.8
	85歳以上	(572)	23.6	19.1	13.3	7.5	11.5	7.5	3.0	42.3

⑩ 取組や活動の場

問 あなたはどのような活動に取り組んでいますか。活動にあてはまる場を全てお答えください。
(あてはまるものすべてに○)

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	
問 番号	27-1	23-1																		

活動の場について、“一般 40～64 歳”“高齢者一般”ともに「仲間同士の集まり」が最も多く、次いで、“一般 40～64 歳”では「有料の民間サービス」、「高齢者一般」では「自治会などの住民組織の活動」が多くなっている。

年齢別でみると、「自治会などの住民組織の活動」「行政や地域ケアプラザ等が主催する教室やイベントなどの活動」は年齢が高くなるにつれて多くなる傾向があり、「有料の民間サービス」は 60～74 歳で多くなっている。

図表 II-2-⑩ 取組や活動の場

		(%)						
		有効回収数 (n)	仲間同士の集まり	自治会などの住民組織の活動	有料の民間サービス (フィットネス)	行政や地域ケアプラザ等が主催する教室やイベントなどの活動	NPO やボランティア団体の活動	その他
02	一般40～64歳	(338)	59.5	5.0	20.7	6.2	5.6	16.9
01	高齢者一般	(2,726)	55.4	22.7	20.2	19.1	7.3	9.9

■年齢別

年齢	有効回収数 (n)	仲間同士の集まり	自治会などの住民組織の活動	有料の民間サービス (フィットネス)	行政や地域ケアプラザ等が主催する教室やイベントなどの活動	NPO やボランティア団体の活動	その他
一般 40～64 歳	40～44 歳	(45)	62.2	2.2	13.3	8.9	6.7
	45～49 歳	(44)	56.8	6.8	18.2	2.3	18.2
	50～54 歳	(76)	63.2	1.3	21.1	5.3	17.1
	55～59 歳	(87)	59.8	5.7	19.5	3.4	13.8
	60～64 歳	(86)	55.8	8.1	26.7	10.5	24.4
高齢者一般	65～69 歳	(552)	52.5	15.0	28.4	11.8	11.6
	70～74 歳	(645)	56.0	19.5	24.8	17.1	9.9
	75～79 歳	(762)	56.0	26.5	17.3	22.3	7.7
	80～84 歳	(499)	56.3	27.7	14.2	25.3	10.2
	85 歳以上	(265)	55.8	25.7	12.1	19.2	12.5

⑪ 暮らしの考え方【新規】

問 あなたの暮らしの考え方としてあてはまるものをお選びください。(それぞれ〇はひとつ)

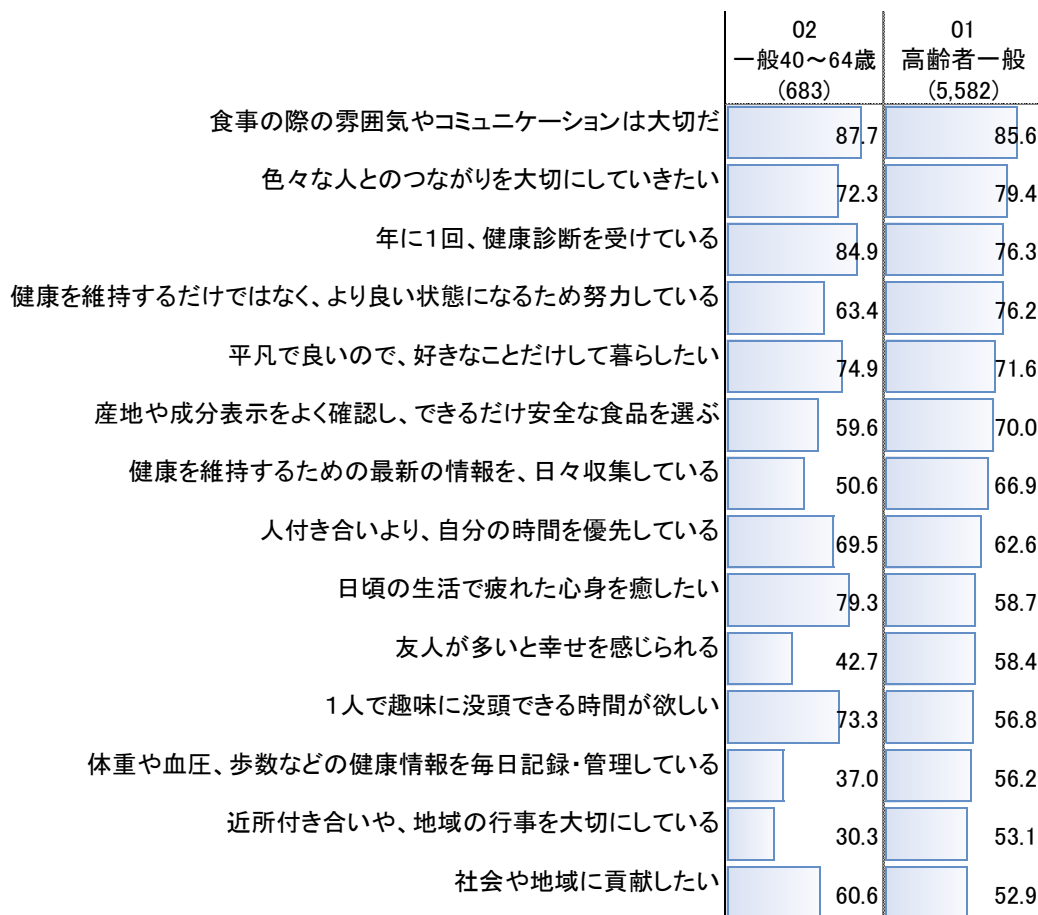
調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	
問 番号	23	24																		

暮らしの考え方について、“一般40～64歳”“高齢者一般”ともに「食事の際の雰囲気やコミュニケーションは大切」が最も多く8割以上を占めている。

“一般40～64歳”に比べて“高齢者一般”では「色々な人とのつながりを大切にしていきたい」「健康を維持するだけでなく、より良い状態になるために努力している」「産地や成分表示をよく確認し、できるだけ安全な食品を選ぶ」「健康を維持するための最新の情報を日々収集している」「友人が多いと幸せを感じられる」「体重や血圧、歩数などの健康情報を毎日記録・管理している」「近所づきあいや、地域の行事を大切にしている」が多くなっている。

一方で、“一般40～64歳”の方が多い考え方は「年に1回、健康診断を受けている」「人付き合いより、自分の時間を優先している」「日頃の生活で疲れた心身を癒したい」「1人で趣味に没頭できる時間が欲しい」「社会や地域に貢献したい」となっている。

図表 II-2-⑪ 暮らしの考え方
【非常にあてはまる+ややあてはまるの合計】



⑫ 施設（事業所）で受け入れているボランティア

問 ボランティアの受入れ頻度とよこはまシニアボランティアポイント事業の実施状況について教えてください。（あてはまるものすべてに○）

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	
問 番号									28	28	23									

施設（事業所）のボランティア受入れについて、“特養”ではシニアボランティアを受け入れている施設（事業所）が51.6%と最も多く、次いで“老健”が40.0%となっている。

その他のボランティアについては、全ての対象施設（事業所）で5～6割程度となっている。

過去の結果と比較すると、全ての対象施設でその他のボランティアの受け入れが大幅に増加している。

図表 II-2-⑫ ボランティアの受入状況

			(%)							
			有効回収数 (n)	ほぼ毎日	週1日程度	月2回程度	月1回程度	年に数回程度	受け入れていない	無回答
ボラシニア ボランティア	09	特養	(66)	4.5	19.7	9.1	10.6	7.6	43.9	4.5
	10	老健	(30)	3.3	10.0	3.3	13.3	10.0	40.0	20.0
	11	居住系	(205)	0.5	2.9	-	1.5	3.4	73.2	18.5
ボラその 他の ボランティア	09	特養	(66)	-	16.7	10.6	10.6	28.8	24.2	9.1
	10	老健	(30)	-	20.0	3.3	3.3	26.7	36.7	10.0
	11	居住系	(205)	-	3.9	7.8	10.7	23.4	42.9	11.2

【経年比較（受け入れている）】

			(%)		
			R7	R4	R1
			2025年	2022年	2019年
ボラシニア ボランティア	09	特養	51.6	40.0	73.0
	10	老健	40.0	46.6	75.0
	11	居住系	8.3	9.6	13.9
ボラその 他の ボランティア	09	特養	66.7	24.0	53.9
	10	老健	53.3	28.9	57.5
	11	居住系	45.9	18.2	41.0

⑬ 外出についての考え

問 あなた（あて名ご本人）は、外出することについてどのようにお考えですか。

（あてはまるものすべてに○）

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
問 番号	30	31	25																

外出時に困ることについて、全ての対象者で「特に負担には感じない」が最も多くなっている。
“要支援”では、「外出は、なんとなくおっくうである・好きではない」「身体が不自由、あるいは健康面で不安なので、外出しようと思わない・したくてもできない」といった、心身を理由に外出をしない割合が多くなっている。

年齢別でみると、“高齢者一般”では、「特に負担には感じない」は高齢になるにつれて少なくなる傾向がある。

図表 II-2-⑬ 外出時に困ること

		有効回収数（n）	特に負担には感じない	が外出するより、家にいて過ごす方が好き	外出は、なんとなくおっくうである・好きではない	行く場所や用事もないので外出したいとは思わない	自宅の周りに坂や段差が多いので、外出するのが負担に感じる	トイレの心配（失禁など）がある	不安なので、外出しようと思わない	身体が不自由、あるいは健康面で負担に感じる	交通が不便なので、外出するのが	外での楽しみがない	その他
02	一般40～64歳	(683)	81.6	8.5	7.6	4.0	2.3	0.7	1.2	2.2	0.3	1.0	
01	高齢者一般	(5,582)	79.9	8.8	7.5	6.1	4.6	3.9	3.7	2.7	2.0	1.2	
03	要支援	(499)	40.3	17.2	20.8	16.8	17.0	13.0	20.8	11.4	5.4	7.4	

■年齢別

高齢者一般	65～69歳	(1,224)	85.7	7.4	7.2	5.2	2.2	1.6	1.3	1.3	1.5	0.6
	70～74歳	(1,328)	84.5	7.5	6.2	4.5	2.6	2.9	2.3	1.4	1.8	1.0
	75～79歳	(1,487)	80.0	9.5	8.2	6.5	4.9	4.1	3.6	2.7	2.2	1.3
	80～84歳	(964)	75.5	9.8	7.4	7.2	6.4	5.9	5.2	3.6	2.0	1.5
	85歳以上	(572)	64.3	11.5	10.0	8.7	10.5	7.3	10.0	6.8	3.1	2.1
要支援	65歳未満	(7)	28.6	28.6	0.0	0.0	14.3	0.0	42.9	14.3	14.3	28.6
	65～69歳	(12)	16.7	25.0	33.3	16.7	33.3	16.7	25.0	8.3	8.3	16.7
	70～74歳	(29)	41.4	13.8	17.2	13.8	24.1	10.3	31.0	6.9	6.9	0.0
	75～79歳	(68)	44.1	14.7	13.2	16.2	19.1	14.7	20.6	16.2	2.9	5.9
	80～84歳	(134)	40.3	19.4	22.4	20.1	15.7	14.2	23.9	11.2	3.7	6.7
	85歳以上	(249)	40.6	16.5	22.5	16.1	15.7	12.4	17.3	10.8	6.4	8.0

⑭ 平日の日中の外出頻度

問 あなた（あて名ご本人）は、平日の日中には、どのくらい外出されていますか。
(○はひとつ)

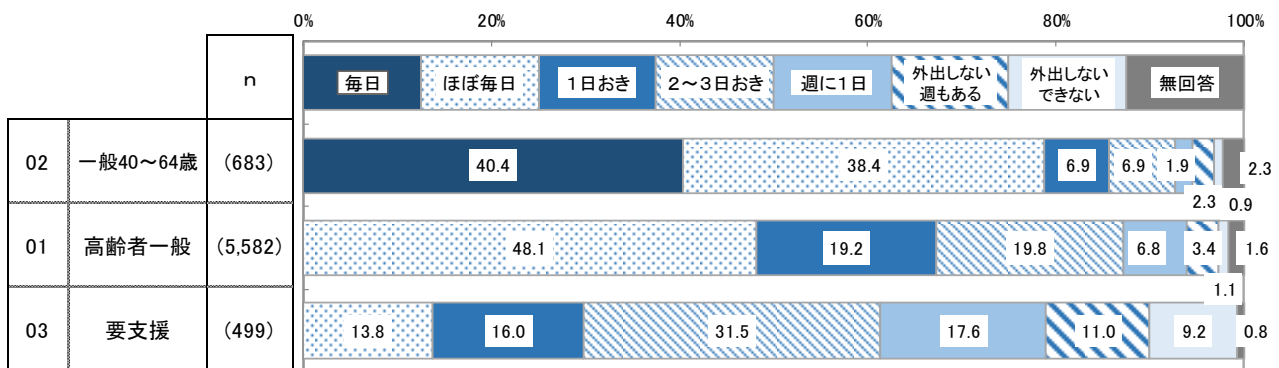
調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
問番号	31	30	24																

平日の日中の外出頻度について、「高齢者一般」では「ほぼ毎日」が48.1%となっており、「外出しない週もある」「外出しない・できない」の合計は4.5%となっている。一方、「要支援」では「ほぼ毎日」は13.8%となっており、「外出しない週もある」「外出しない・できない」の合計は20.2%となっている。

過去の結果と比較すると、大きな変化はみられない。

年齢別でみると、「ほぼ毎日」は“高齢者一般”“要支援”ともに、高齢になると少なくなる傾向がある一方で、「2～3日おき」「週に1回」が多くなる傾向がある。

図表 II-2-⑭ 平日の日中の外出頻度



【経年比較】

	01 高齢者一般				03 要支援			
	R7	R4	R1	H28	R7	R4	R1	H28
	2025年	2022年	2019年	2016年	2025年	2022年	2019年	2016年
ほぼ毎日	48.1	47.2	54.7	52.8	13.8	15.2	16.3	21.2
1日おき	19.2	18.9	18.7	19.7	16.0	12.6	18.2	15.5
2~3日おき	19.8	19.9	16.1	15.6	31.5	31.1	31.5	32.0
週に1日	6.8	6.4	4.3	4.2	17.6	16.3	16.9	13.4
外出しない週もある	3.4	4.3	2.4	3.0	11.0	10.8	7.9	9.3
外出しない・できない	1.1	1.5	1.1	2.5	9.2	9.7	5.1	6.5

【年齢別の比較】

			(%)						
		有効回収数 (n)	ほぼ毎日	1日おき	2～3日おき	週に1日	外出しない週もある	外出しない・できない	無回答
高齢者一般	65～69歳	(1,224)	62.3	17.6	13.0	4.1	1.9	0.4	0.7
	70～74歳	(1,328)	52.9	18.9	19.0	5.2	2.7	0.4	1.0
	75～79歳	(1,487)	45.7	21.3	20.9	6.0	3.6	1.2	1.3
	80～84歳	(964)	38.6	18.5	25.7	9.5	4.7	0.9	2.1
	85歳以上	(572)	29.5	18.7	23.4	13.6	6.1	4.2	4.4
要支援	65歳未満	(7)	42.9	0.0	14.3	0.0	14.3	28.6	0.0
	65～69歳	(12)	33.3	16.7	16.7	16.7	16.7	0.0	0.0
	70～74歳	(29)	13.8	17.2	37.9	13.8	10.3	6.9	0.0
	75～79歳	(68)	14.7	22.1	25.0	20.6	7.4	10.3	0.0
	80～84歳	(134)	14.9	18.7	33.6	13.4	11.2	6.7	1.5
	85歳以上	(249)	11.2	13.3	32.5	20.1	11.6	10.4	0.8

⑮ 平日の外出目的

問 平日の外出の主な目的は何ですか。 (あてはまるものすべてに○)

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	
問 番号	31-1	30-1	24-1																	

平日の外出の主な目的について、“高齢者一般”では外出目的は「買い物」が80.0%と最も多く、“要支援”では「通院やりハビリ」が75.1%と最も多くなっている。

年齢別でみると、“高齢者一般”では高齢になるにつれて「通院やりハビリ」が多くなり、「仕事」が少なくなる傾向がある。

図表 II-2-⑮ 外出目的

		有効回収数 (n)	買い物	散歩	通院やりハビリ	趣味活動	友人・知人と会う	仕事	身内の者と会う	地域活動(地域のイベントへの参加・協力)	ボランティア活動	その他
02	一般40~64歳	(661)	58.2	20.1	13.8	20.4	19.5	79.7	9.4	1.8	1.7	5.7
01	高齢者一般	(5,434)	80.0	43.5	38.2	31.6	28.9	24.3	13.0	7.5	5.2	3.7
03	要支援	(449)	68.4	34.3	75.1	17.6	18.7	2.0	9.6	6.2	3.6	4.7

■年齢別

高齢者一般	65~69歳	(1,210)	78.7	37.2	29.0	32.4	28.2	48.5	13.8	4.8	4.0	4.0
	70~74歳	(1,310)	83.0	41.1	35.8	33.9	30.6	30.2	16.1	6.4	5.1	3.7
	75~79歳	(1,450)	80.2	47.7	40.2	31.7	28.7	16.8	11.9	9.1	6.6	3.1
	80~84歳	(935)	80.2	46.0	44.4	30.8	29.2	7.9	11.1	10.5	5.3	4.0
	85歳以上	(523)	75.1	48.4	48.9	26.0	27.0	3.4	9.9	6.9	4.2	3.8
要支援	65歳未満	(5)	80.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	0.0	0.0	0.0	20.0
	65~69歳	(12)	75.0	33.3	75.0	8.3	16.7	8.3	0.0	0.0	0.0	0.0
	70~74歳	(27)	66.7	40.7	66.7	11.1	22.2	0.0	7.4	7.4	7.4	0.0
	75~79歳	(61)	75.4	36.1	78.7	11.5	23.0	4.9	4.9	1.6	4.9	3.3
	80~84歳	(123)	74.8	38.2	76.4	23.6	24.4	0.8	12.2	8.9	4.1	6.5
	85歳以上	(221)	62.4	31.2	75.6	17.2	14.0	1.4	10.4	6.3	2.7	4.5

⑩ 外出時の移動手段

問 あなた（あて名ご本人）が、ふだん外出する手段はどれですか。

（あてはまるものすべてに○）

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	
問 番号	31-3	30-3	24-3																	

外出時の移動手段について、全ての対象者で「徒歩」が最も多くなっており、次いで、“一般 40～64 歳”では「私鉄」、「高齢者一般」“要支援”では「バス」が多くなっている。また、“要支援”では「家族等が運転する自動車」「タクシー」「送迎サービス」といった、他人が運転する自動車での移動が多くなっている。

年齢別でみると、「バス」は高齢になるにつれて多くなる傾向があり、一方で、「私鉄」「JR」といった電車の利用は、“要支援”では高齢になるにつれて少なくなる傾向がある。

図表 II-2-⑩ 外出時の移動手段

(%)

	有効回収数 (n)	徒歩	バス	車・自分で運転する自動車	私鉄	市営地下鉄	JR	自動車	家族等が運転する自動車	自転車	タクシー	金沢シーサイドライ	送迎サービス	その他
02 一般40～64歳	(661)	71.9	32.8	41.9	43.4	24.5	41.9	11.8	22.7	3.6	1.1	0.2	0.5	
01 高齢者一般	(5,434)	74.1	55.8	31.6	30.3	29.0	29.0	15.2	14.2	6.3	3.7	0.5	0.4	
03 要支援	(449)	59.0	53.5	4.5	15.6	23.2	12.9	31.0	4.5	34.7	2.4	26.1	3.3	

■年齢別

高齢者一般	65～69歳	(1,210)	74.1	39.2	42.8	40.4	20.5	38.2	17.2	18.2	3.7	1.8	0.1	0.2
	70～74歳	(1,310)	74.5	56.9	36.4	31.7	32.4	31.9	15.3	15.6	3.7	3.5	0.2	0.3
	75～79歳	(1,450)	75.0	59.1	31.5	28.1	31.4	27.0	13.4	14.3	6.4	4.1	0.4	0.6
	80～84歳	(935)	72.2	66.1	21.1	23.7	32.8	22.9	14.0	11.4	9.4	5.0	0.5	0.4
	85歳以上	(523)	73.2	64.2	12.6	21.2	26.2	17.6	17.6	6.5	13.2	4.8	2.7	0.2
要支援	65歳未満	(5)	20.0	60.0	0.0	0.0	0.0	40.0	20.0	0.0	40.0	0.0	0.0	40.0
	65～69歳	(12)	41.7	25.0	16.7	33.3	8.3	16.7	50.0	16.7	8.3	8.3	0.0	8.3
	70～74歳	(27)	48.1	55.6	14.8	22.2	25.9	18.5	25.9	0.0	22.2	3.7	25.9	3.7
	75～79歳	(61)	62.3	55.7	8.2	18.0	31.1	8.2	23.0	6.6	34.4	3.3	27.9	4.9
	80～84歳	(123)	69.9	58.5	4.1	18.7	31.7	22.0	26.8	7.3	37.4	1.6	27.6	1.6
	85歳以上	(221)	55.2	51.1	1.8	11.8	17.2	7.7	35.3	2.3	36.2	2.3	26.7	2.7

⑰ 敬老パスの所持状況

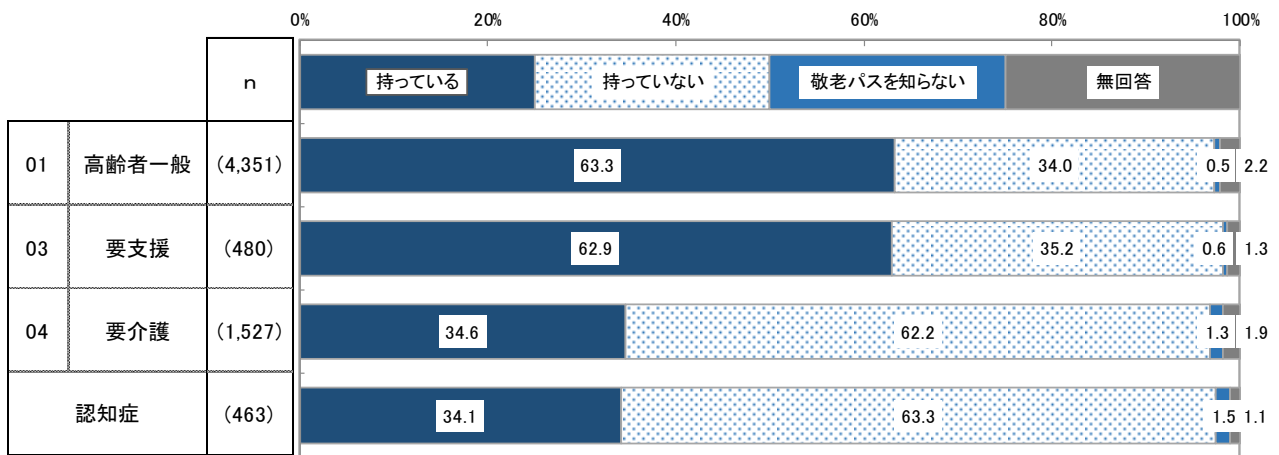
問 あなたは、敬老パス（横浜市敬老特別乗車証）を持っていますか。 (〇はひとつ)

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	
問番号	32		26	20																

敬老パスの所持状況について、“高齢者一般”と“要支援”では「持っている」が約6割となっており、“要介護”では34.6%、“認知症”では34.1%となっている。

過去の結果と比較すると、“要支援”“要介護”で「持っている」割合が多くなっている。

図表 II-2-⑰ 敬老パスの所持状況



※70歳以上の回答のみ集計

【経年比較】

	01 高齢者一般			03 要支援			04 要介護		
	R7	R4	R1	R7	R4	R1	R7	R4	R1
	2025年	2022年	2019年	2025年	2022年	2019年	2025年	2022年	2019年
持っている	63.3	61.4	67.3	62.9	57.6	68.8	34.6	28.3	31.8
持っていない	34.0	34.9	28.4	35.2	39.3	28.0	62.2	68.4	63.4
敬老パスを知らない	0.5	1.0	0.6	0.6	0.8	1.2	1.3	1.3	2.1

3 生活支援・助け合い

① 買い物で利用するお店【新規】

問 あなたが日常生活における買い物（食品・日用品等）で、利用する手段はどれですか。
(あてはまるものすべてに○)

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	
問番号	37	33	14																	

買い物で利用するお店について、全ての対象で「店舗」が最も多くなっている。

“一般40～64歳”では「オンラインショッピング」が42.6%となっており、“要支援”では「宅配サービス」が37.7%となっている。

年齢別でみると、「オンラインショッピング」は“高齢者一般”“要支援”ともに65～69歳の若い年代での利用が多く、高齢になると「宅配サービス」に移行する傾向がみられる。

図表 II-3-① 買い物で利用するお店

		有効回収数 (n)	(%)				
	店舗		オンライン ショッピング	宅配 サービス	移動 販売	その他	
02	一般40～64歳	(683)	96.5	42.6	17.9	0.1	0.4
01	高齢者一般	(5,582)	96.0	20.1	19.0	0.9	1.3
03	要支援	(499)	78.2	14.8	37.7	5.2	12.2

■年齢別

高齢者 一般	65～69歳	(1,224)	98.1	33.5	15.8	0.4	0.2
	70～74歳	(1,328)	98.1	23.4	19.1	1.0	0.3
	75～79歳	(1,487)	97.0	15.9	19.2	0.9	1.3
	80～84歳	(964)	93.8	11.2	21.0	1.3	1.8
	85歳以上	(572)	88.1	9.4	22.4	1.0	5.4
要 支 援	65歳未満	(7)	71.4	71.4	28.6	0.0	0.0
	65～69歳	(12)	100.0	41.7	41.7	0.0	0.0
	70～74歳	(29)	89.7	24.1	24.1	0.0	6.9
	75～79歳	(68)	85.3	23.5	33.8	4.4	10.3
	80～84歳	(134)	81.3	11.2	38.1	8.2	8.2
	85歳以上	(249)	72.3	10.4	40.2	4.8	16.5

② 買い物をする方法

問 あなたが日常生活における買い物（食品・日用品等）をする場合は、どの方法が多いですか。

（あてはまるものすべてに○）

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
問番号	38	34	15																

買い物の方法について、全ての対象者で「自分で行く」が最も多くなっている。

次いで、「家族に頼む」が多く、“要支援”では52.7%、“一般40～64歳”では22.4%、“高齢者一般”では28.6%となっている。

年齢別でみると、“高齢者一般”では85歳以上でも「自分で行く」が8割以上を占めている。

図表 II-3-② 買い物の方法

		有効回収数（n）	自分で行く	家族に頼む	友人・知人に頼む	介護ヘルパーなどに頼む	家事代行サービスを利用する	地域のボランティアに頼む	その他
02	一般40～64歳	(683)	96.2	22.4	0.3	0.1	-	0.1	1.2
01	高齢者一般	(5,582)	93.9	28.6	0.4	0.1	0.1	-	1.4
03	要支援	(499)	66.5	52.7	3.0	6.8	0.2	-	7.0

■年齢別

高齢者一般	65～69歳	(1,224)	96.8	22.6	0.2	0.1	0.0	0.1	0.7
	70～74歳	(1,328)	96.7	24.1	0.0	0.0	0.1	0.0	1.3
	75～79歳	(1,487)	95.0	28.9	0.3	0.0	0.1	0.0	1.2
	80～84歳	(964)	90.9	34.9	0.4	0.0	0.1	0.0	2.0
	85歳以上	(572)	83.6	40.9	1.4	0.3	0.2	0.0	2.6
要支援	65歳未満	(7)	85.7	42.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	65～69歳	(12)	83.3	50.0	0.0	16.7	0.0	0.0	0.0
	70～74歳	(29)	69.0	55.2	3.4	13.8	0.0	0.0	6.9
	75～79歳	(68)	75.0	50.0	2.9	8.8	0.0	0.0	10.3
	80～84歳	(134)	68.7	50.7	5.2	6.0	0.0	0.0	4.5
	85歳以上	(249)	61.4	54.6	2.0	5.6	0.4	0.0	8.0

③ 今後必要になる生活支援

問 今後必要と考える活動やサービスはありますか。

(〇は5つまで)

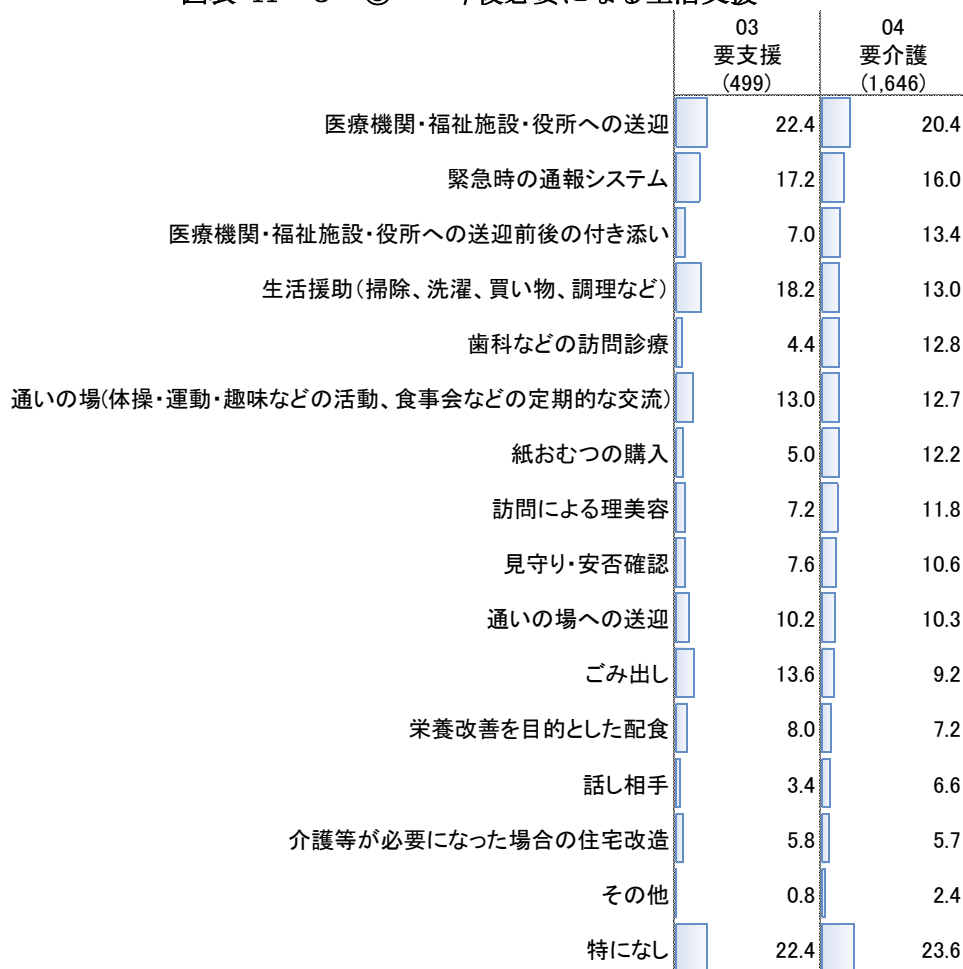
調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
問 番 号			37	28															

今後必要になる生活支援について、“要支援”“要介護”ともに「医療機関・福祉施設・役所への送迎」が最も多く約2割となっている。

次いで、“要支援”では「生活援助」が18.2%となっており、“要介護”では「緊急時の通報システム」が16.0%となっている。

なお、「特になし」はともに約2割となっている。

図表 II-3-③ 今後必要になる生活支援



4 地域づくりを支える基盤

① 老人福祉センターの利用状況【新規】

問 あなた（あて名ご本人）は、老人福祉センターを利用したことがありますか。利用したことがある場合はこの1年間の利用頻度を教えてください。（〇はひとつ）

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	
問番号	39	35																		

老人福祉センターの利用状況について、“一般40～64歳”“高齢者一般”ともに「これまで利用したことが一度もない」が9割以上と大半を占めている。

図表 II-4-① 老人福祉センターの利用状況

	02 一般40～64歳 (683)	01 高齢者一般 (5,582)
これまで利用したことが1度もない	97.2	90.3
この1年間は利用していない	0.9	2.2
年に1回程度、利用している	-	0.6
半年に1回程度、利用している	0.1	0.4
2～3カ月に1回程度、利用している	0.1	0.3
月に1回程度、利用している	0.1	0.9
月に2回程度、利用している	-	1.5
週に1回程度、利用している	-	0.6
週に2～4回程度、利用している	-	0.4
週に5～7回程度、利用している	-	0.1
無回答	1.5	2.6

② 老人福祉センターに期待する機能・設備【新規】

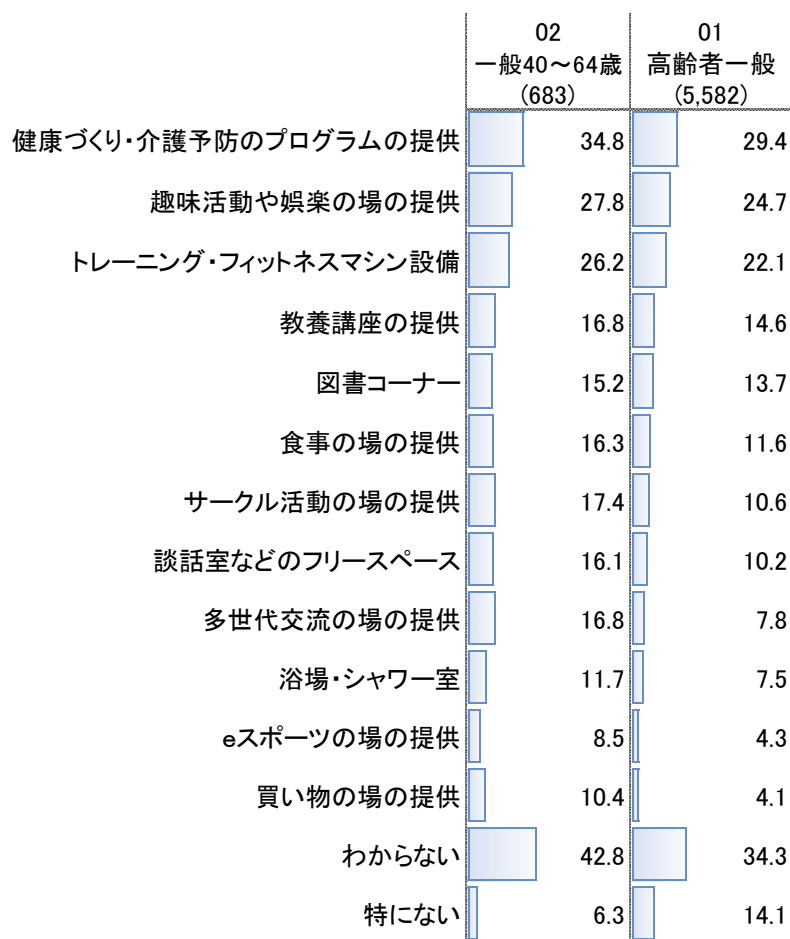
問 あなた（あて名ご本人）は、老人福祉センターにどのような機能・設備が必要だと思いますか。（あてはまるものすべてに○）

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	
問 番号	40	36																		

老人福祉センターに期待する機能・設備について、“一般40～64歳”“高齢者一般”ともに「健康づくり・介護予防のプログラムの提供」が最も多く、次いで「趣味活動や娯楽の場の提供」となっている。

一方で、「わからない」は“一般40～64歳”で42.8%、“高齢者一般”で34.3%となっている。

図表 II-4-② 老人福祉センターへの期待



III. 在宅生活を支えるサービスの充実と連携強化を目指して

1 在宅介護

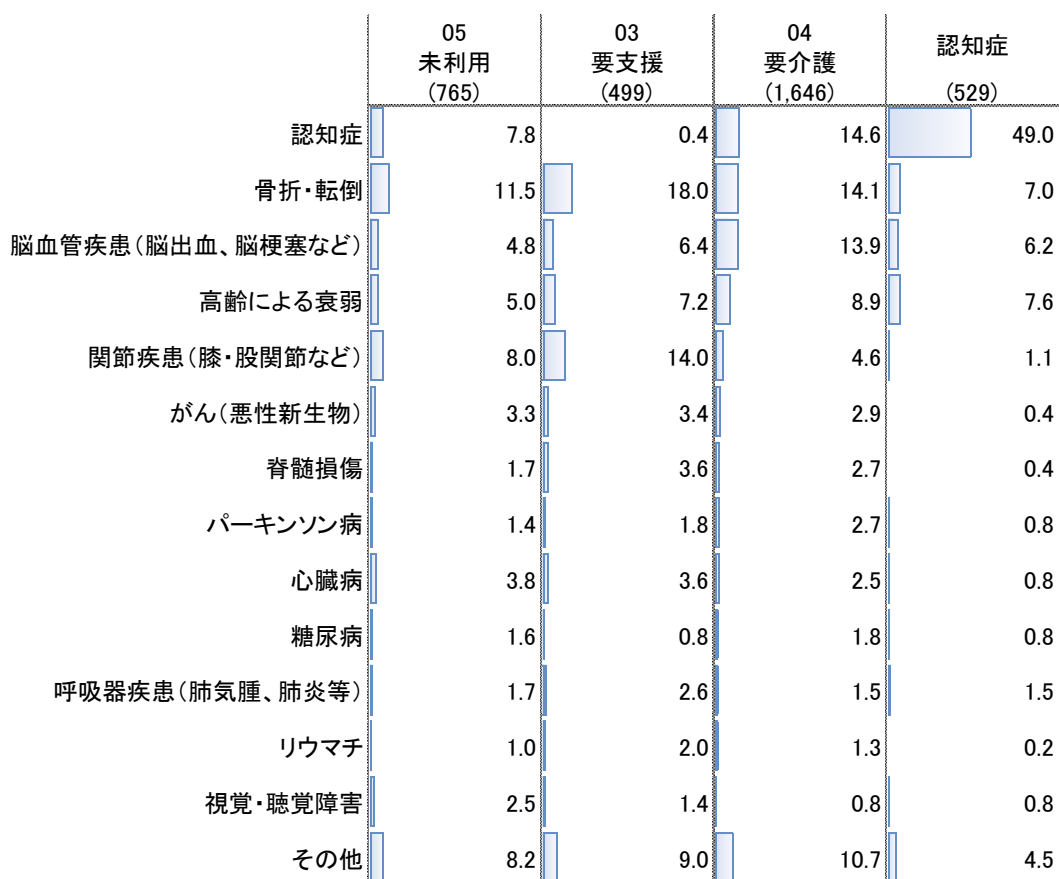
① 介護が必要になった主な要因

問 あなたに介護が必要となった主な原因は何ですか。 (〇はひとつ)

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
問 番号			33	23	25														

介護が必要になった主な要因について、“要介護”“認知症”では「認知症」が最も多く、“要介護”では14.6%、“認知症”では49.0%となっている。“未利用”“要支援”では「骨折・転倒」が最も多く、“未利用”では11.5%、“要支援”では18.0%となっている。

図表 III-1-① 介護が必要になった主な要因



② 在宅生活の不安

問 あなたは現在、在宅で生活する上で、不安を感じることはありますか。

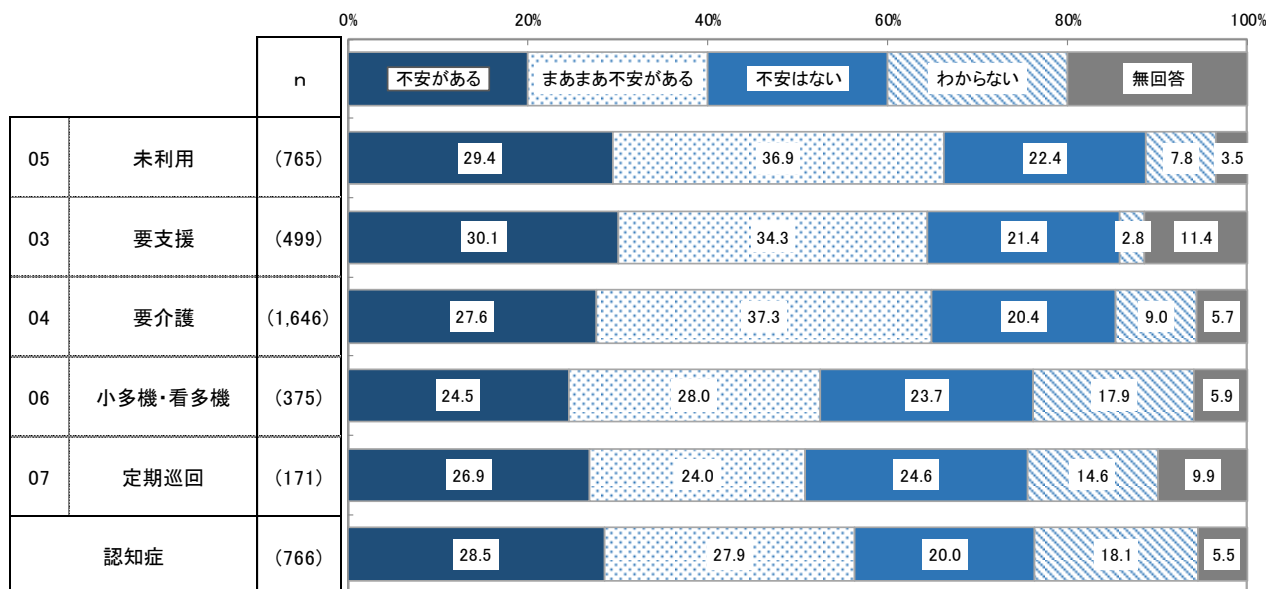
(○はひとつ)

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	
問番号			35	25	27	34	31													

在宅での生活の不安について、全ての対象者で「不安がある」「まあまあ不安がある」の合計が半数を上回っている。特に、“未利用”“要支援”“要介護”は6割以上と多くなっている。

一方で、「不安はない」の割合は、全ての対象者で2割程度となっている。

図表 III-1-② 在宅生活の不安



③ 在宅生活の不安の内容

問 あなたが在宅生活で不安に感じていることをお答えください。

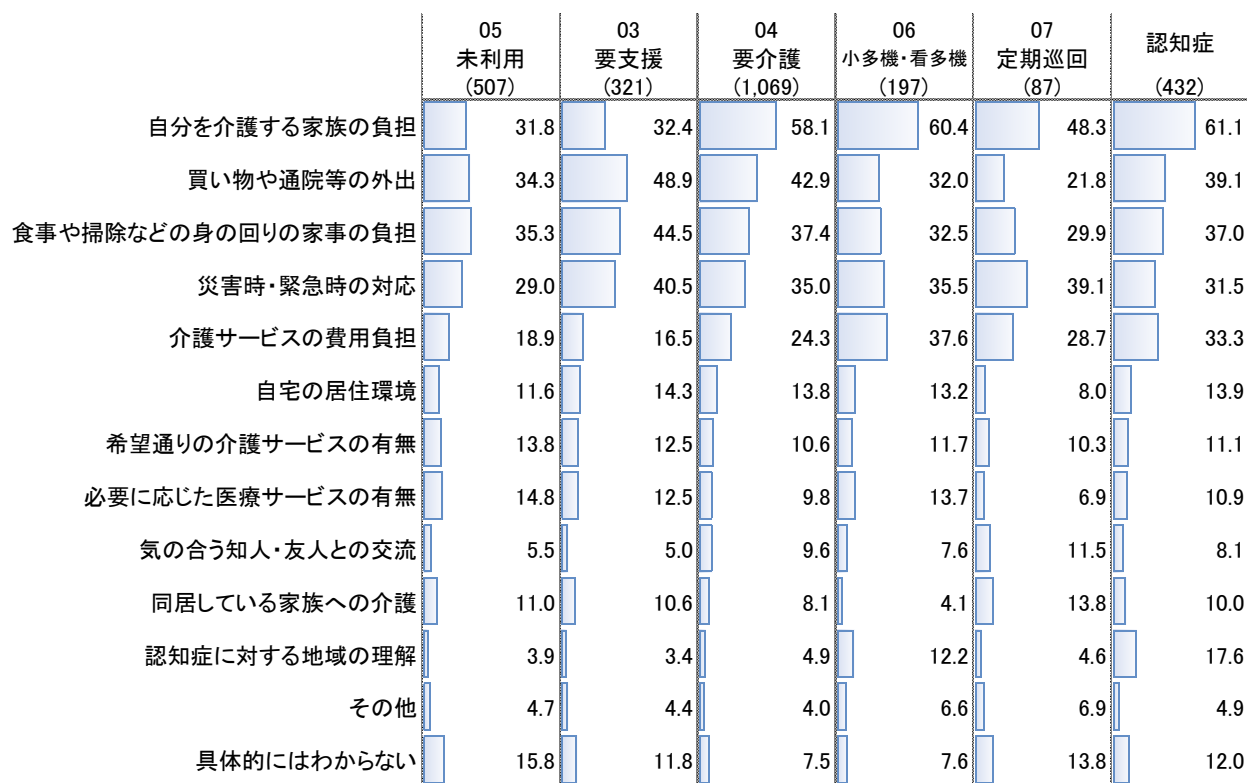
(あてはまるものすべてに○)

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	
問 番号			35-1	25-1	27-1	34-1	31-1													

在宅生活の不安の内容について、“要介護”“小多機・看多機”“定期巡回”“認知症”では、「自分を介護する家族の負担」が最も多くなっている。一方で、“未利用”“要支援”では、「買い物や通院等の外出」「食事や掃除などの身の回りの家事の負担」が多くなっている。

また、“認知症”では、「認知症に対する地域の理解」が17.6%と他に比べて多くなっている。

図表 III-1-③ 在宅生活の不安の内容



④ 在宅介護サービスの利用状況

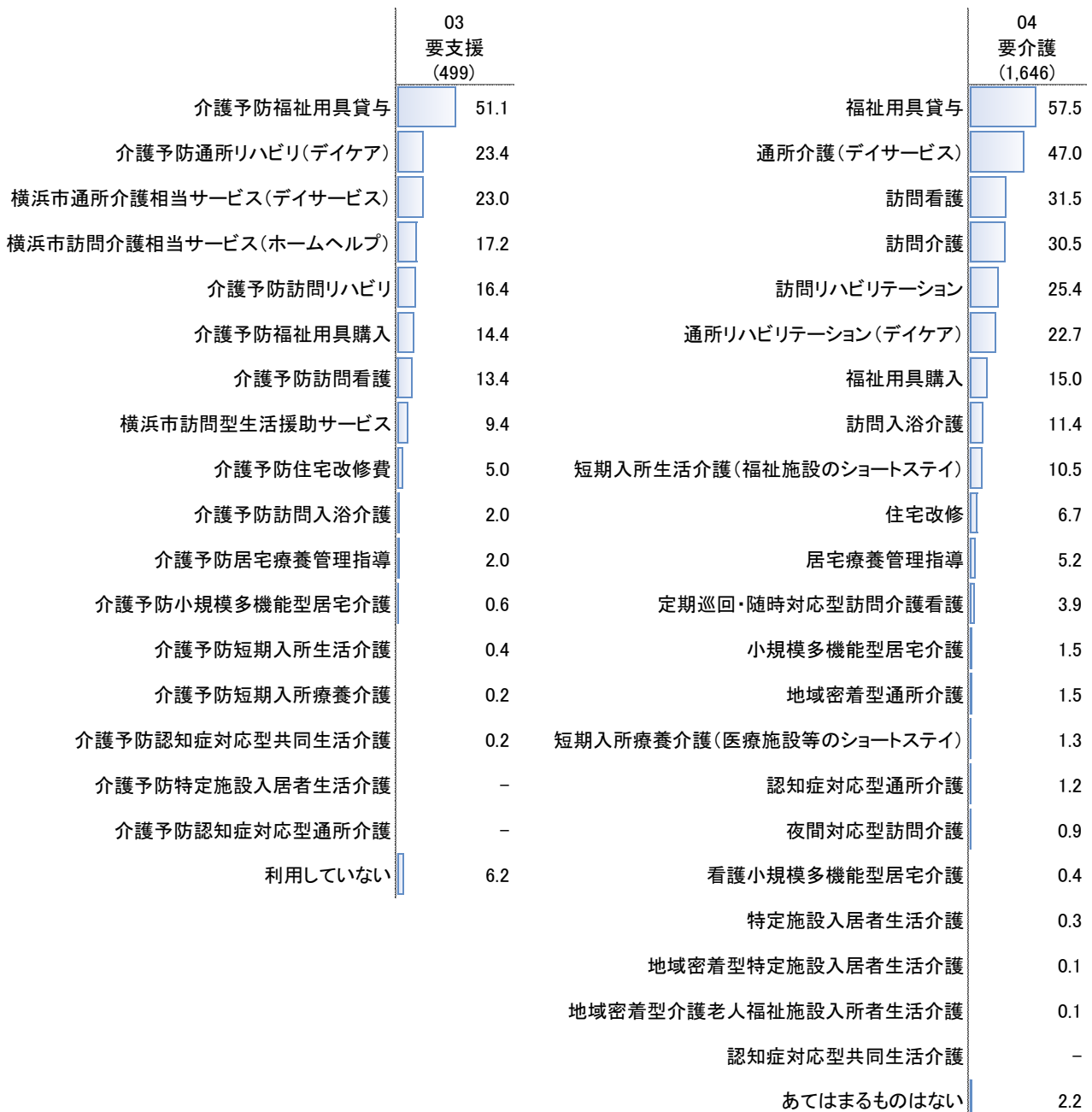
問 介護保険の在宅サービスのうち、令和7年9月に利用したサービスをすべてお答えください。
(あてはまるものすべてに○)

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	
問 番 号			34	24																

在宅介護サービスの利用状況について、“要支援”では、「介護予防福祉用具貸与」が51.1%と最も多く、次いで「介護予防通所リハビリ」が23.4%となっている。

“要介護”では、「福祉用具貸与」が57.5%と最も多く、次いで「通所介護」が47.0%となっている。

図表 III-1-④ 在宅介護サービスの利用状況



⑤ 介護サービスの満足度

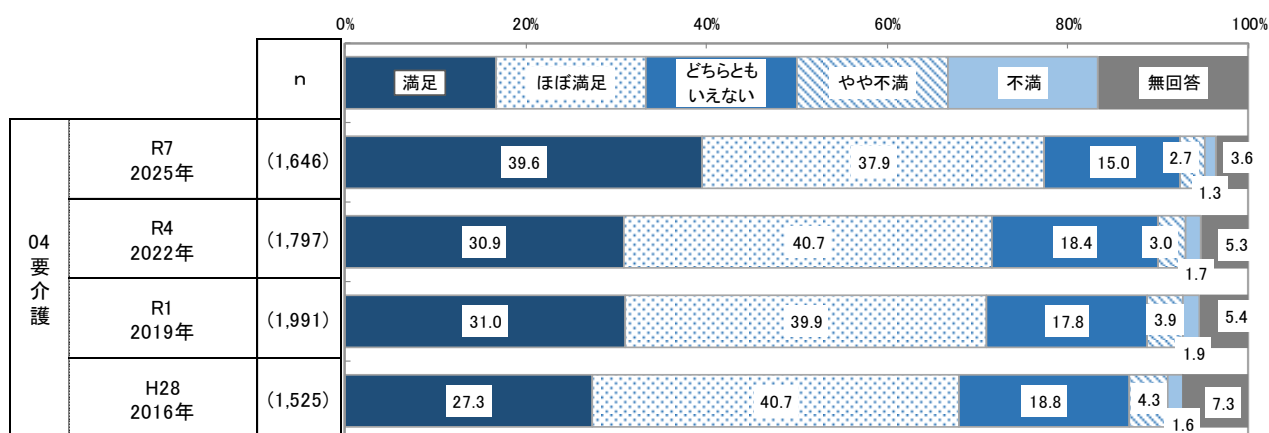
問 現在受けている介護サービスの質に、満足していますか。 (○はひとつ)

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	
問 番号				27																

現在受けている介護サービスの満足度について、「満足」と「ほぼ満足」を合計した『満足』は、77.5%となっている。

過去の結果と比較すると、『満足』は前回結果から増加している。

図表 III-1-⑤ サービスの満足度



⑥ 小規模多機能型居宅介護の利用状況

問 あなた（ご利用者本人）が現在利用している小規模多機能等のサービスは何ですか。

（あてはまるものすべてに○）

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	
問番号						20														

利用している小規模多機能等のサービスについて、「通いサービス」が81.8%と最も高く、次いで「宿泊サービス」が46.9%となっている。

過去の結果と比較すると、サービス利用に大きな変化はみられなかった。

図表 III-1-⑥ 小規模多機能型居宅介護の利用状況

		(%)				
		(有効回収数)	通いサービス	宿泊サービス	訪問サービス	看護サービス
06 小多機・看多機	R7 2025年	(375)	81.8	46.9	27.7	18.1
	R4 2022年	(483)	78.5	44.5	25.9	17.2
	R1 2019年	(438)	79.0	49.8	25.8	18.0
	H28 2016年	(473)	84.4	59.2	34.2	26.8

⑦ 小規模多機能型居宅介護の満足度（通い・訪問・宿泊・看護）

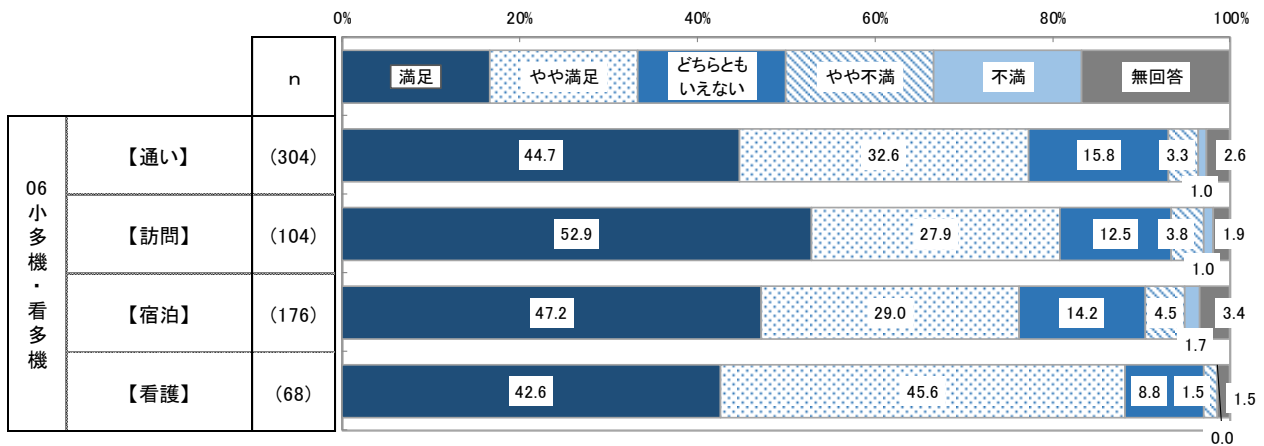
問 あなた（ご利用者本人）は「通い／訪問／宿泊／看護サービス」にどの程度満足していますか。（それぞれ〇はひとつ）

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
問 番 号						21 27 29 32													

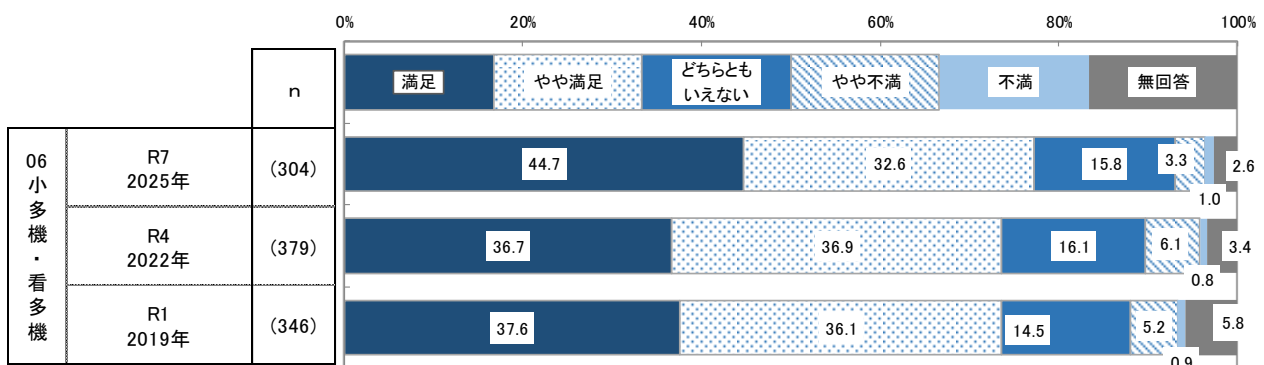
小規模多機能型居宅介護の満足度について、「満足」と「やや満足」を合計した『満足』は、“通い”で77.3%、“訪問”で80.8%、“宿泊”で76.2%、“看護”で88.2%となっている。

過去の結果と比較すると、全てのサービスで『満足』が増加している。

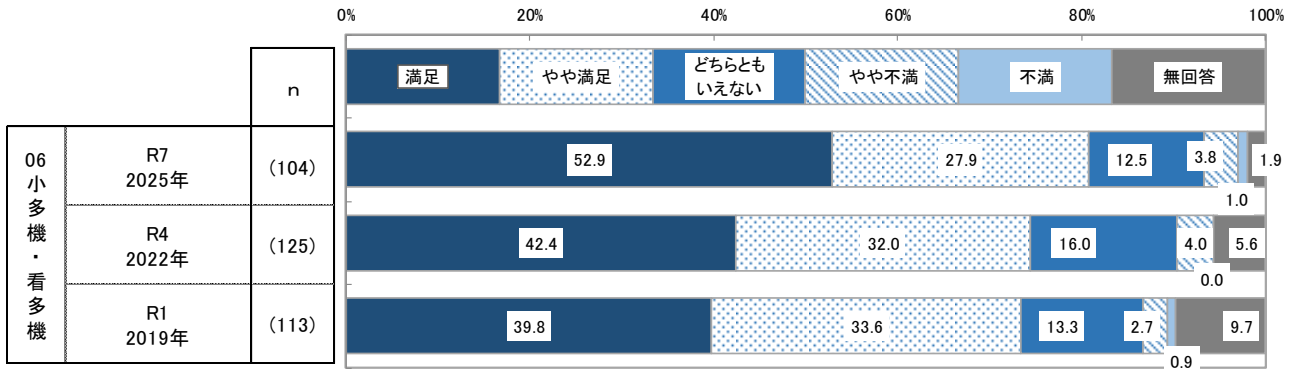
図表 III-1-⑦ 小規模多機能型居宅介護の満足度



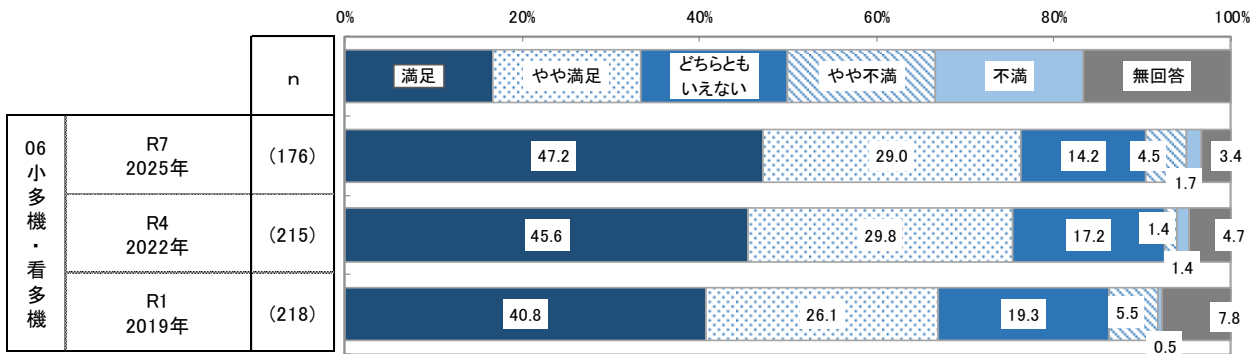
図表 III-1-⑦ 小規模多機能型居宅介護の満足度（経年比較_通い）



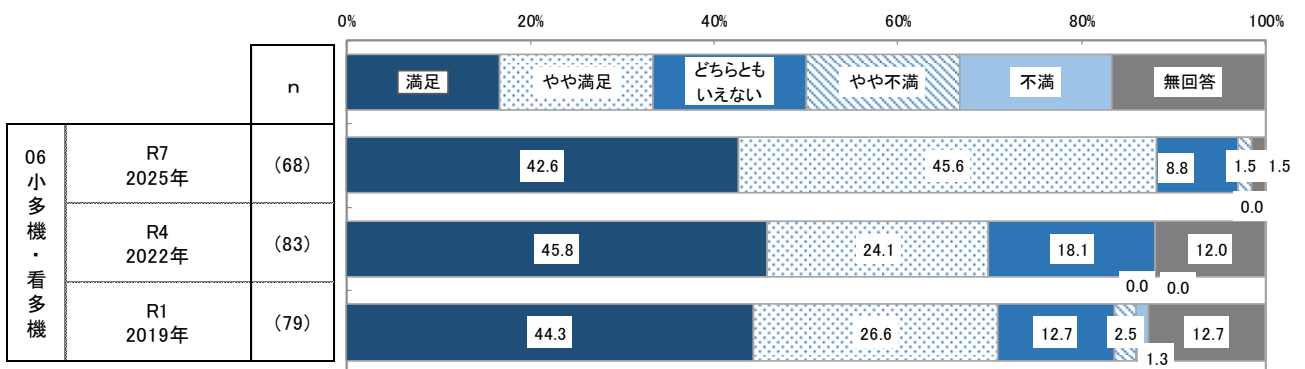
図表 III-1-⑦ 小規模多機能型居宅介護の満足度 (経年比較_訪問)



図表 III-1-⑦ 小規模多機能型居宅介護の満足度 (経年比較_宿泊)



図表 III-1-⑦ 小規模多機能型居宅介護の満足度 (経年比較_看護)



⑧ 小規模多機能型居宅介護を利用して良かったこと

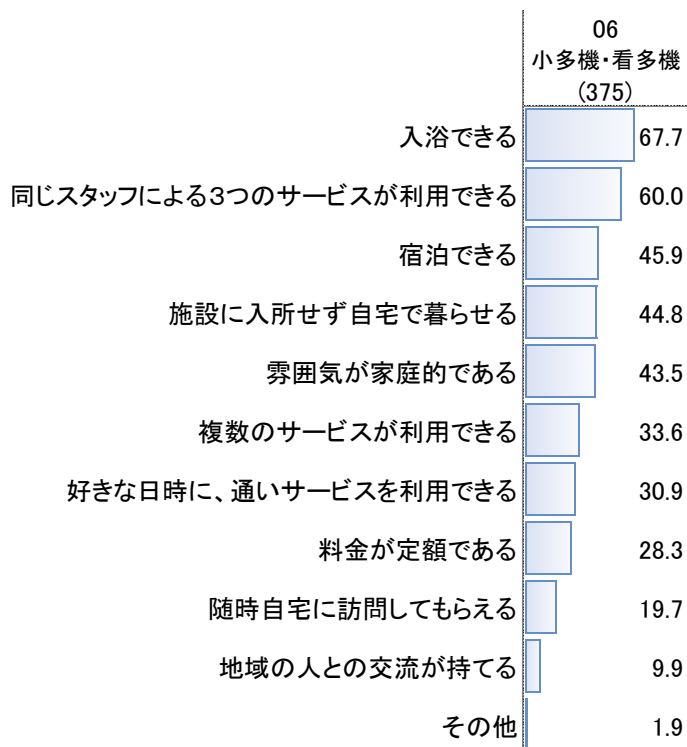
問 これまで小規模多機能等を利用して、「良い」と感じることは何ですか。

(あてはまるものすべてに○)

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	
問番号						19														

小規模多機能等のサービスを利用して良かったことについて、「入浴ができる」が67.7%と最も多く、次いで「同じスタッフによる3つのサービスが利用できる」が60.0%となっている。

図表 III-1-⑧ 小規模多機能型居宅介護の良かったこと



⑨ 定期巡回サービスの満足度

問 あなた（ご利用者本人）は「定期巡回サービス」にどの程度満足していますか。

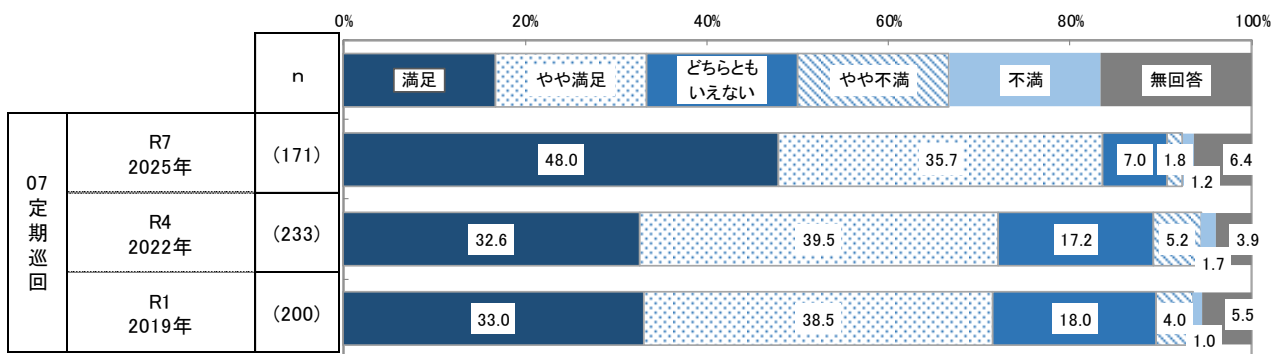
（○はひとつ）

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
問番号							24												

定期巡回サービスの満足度について、「満足」と「やや満足」を合計した『満足』は、83.7%となっている。

過去の結果と比較すると、『満足』が増加している。

図表 III-1-⑨ 定期巡回サービスの満足度



⑩ 定期巡回サービスを利用して良かったこと

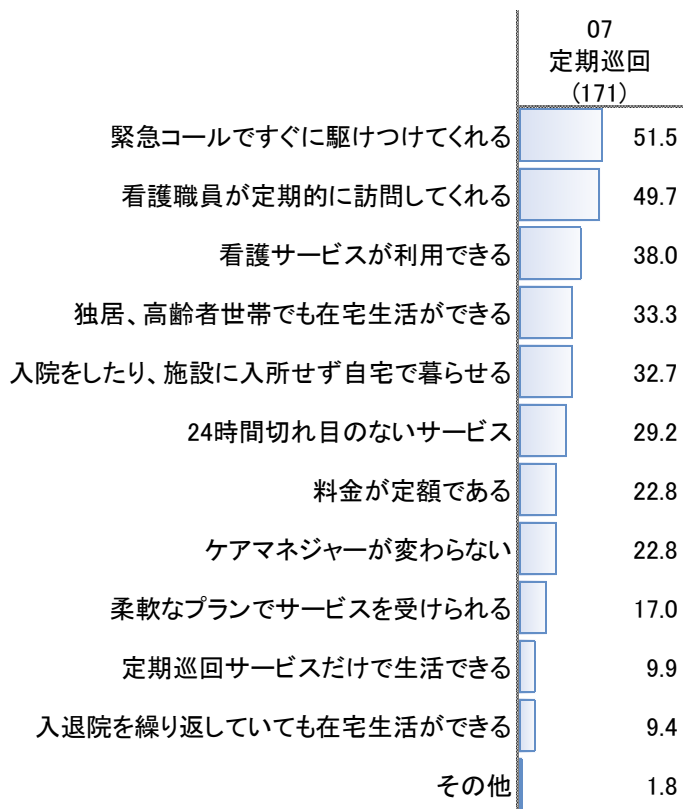
問 これまで定期巡回サービスを利用して、「良い」と感じることは何ですか。

(あてはまるものすべてに○)

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
問 番 号							19												

定期巡回サービスを利用して良かったことについて、「緊急コールですぐに駆けつけてくれる」が51.5%と最も多く、次いで「看護職員が定期的に訪問してくれる」が49.7%となっている。

図表 III-1-⑩ 定期巡回サービスの良かったこと



⑪ 要介護認定後の状態の回復状況

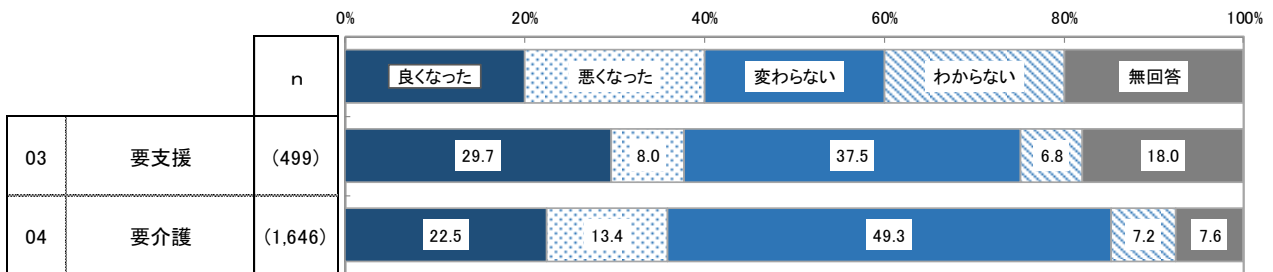
問 直近の要介護認定を受けた後、状態はどのように変わりましたか。 (〇はひとつ)

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
問 番号			45	36															

要介護認定を受けた後の回復状況について、“要支援”では「良くなった」は29.7%となっており、「悪くなった」は8.0%となっている。一方で、“要介護”では、「良くなった」は22.5%、「悪くなった」は13.4%となっている。

過去の結果と比較すると、ほぼ横ばいとなっている。

図表 III-1-⑪ 要介護認定後の状態の回復状況



図表 III-1-⑪ 要介護認定後の状態の回復状況（経年比較）

	03 要支援			04 要介護		
	R7	R4	R1	R7	R4	R1
	2025年	2022年	2019年	2025年	2022年	2019年
良くなった	29.7	28.5	27.0	22.5	24.0	23.3
悪くなった	8.0	8.4	6.9	13.4	13.7	13.7
変わらない	37.5	40.8	42.3	49.3	46.7	46.1
わからない	6.8	10.2	6.2	7.2	8.8	8.1

⑫ 要介護状態が回復した要因

問 要介護状態が良くなった原因は何だと思われますか。 (あてはまるものすべてに○)

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	
問 番号			45-1	36-1																

要介護状態が回復した要因について、全ての対象者で「介護保険サービスを利用し、改善したため」が最も多く半数以上を占めている。また、“要支援”では「自分でできる限り動くようにしたため」「医療機関等で専門家の指導を受けてリハビリを受けたため」「治療を受け、時間の経過とともに、けがや骨折が治ったため」が“要介護”に比べて多くなっている。

年齢別でみると、85歳以上になると、「自分でできる限り動くようにしたため」「医療機関等で専門家の指導を受けてリハビリを受けたため」は少なくなる傾向がある。

図表 III-1-⑫ 要介護状態が回復した要因

		有効回収数 (n)	(%)							
要支援	要介護		介護保険サービスを利用し、改善したため	自分でできる限り動くようにしたため	医療機関等で専門家の指導を受けてリハビリを受けたため	治療を受け、時間の経過とともに、けがや骨折が治ったため	治療を受け、病気が治ったため	認知症が改善もしくは安定したため	その他	わからない
03	要支援	(148)	59.5	46.6	44.6	23.6	8.8	1.4	2.7	1.4
04	要介護	(371)	64.7	37.7	36.9	17.8	14.8	4.6	5.1	0.5

■年齢別

要支援	年齢	有効回収数 (n)	(%)							
			介護保険サービスを利用し、改善したため	自分でできる限り動くようにしたため	医療機関等で専門家の指導を受けてリハビリを受けたため	治療を受け、時間の経過とともに、けがや骨折が治ったため	治療を受け、病気が治ったため	認知症が改善もしくは安定したため	その他	わからない
要支援	65歳未満	(1)	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	65～69歳	(4)	50.0	0.0	75.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	70～74歳	(10)	20.0	70.0	60.0	30.0	10.0	0.0	0.0	0.0
	75～79歳	(34)	73.5	38.2	52.9	8.8	8.8	0.0	0.0	0.0
	80～84歳	(37)	67.6	59.5	45.9	24.3	10.8	2.7	5.4	0.0
	85歳以上	(62)	53.2	41.9	35.5	30.6	8.1	1.6	3.2	3.2
要介護	65歳未満	(11)	63.6	45.5	54.5	0.0	0.0	9.1	0.0	0.0
	65～69歳	(14)	85.7	64.3	28.6	14.3	0.0	0.0	7.1	0.0
	70～74歳	(30)	73.3	36.7	30.0	10.0	16.7	3.3	3.3	3.3
	75～79歳	(50)	70.0	42.0	46.0	12.0	18.0	6.0	0.0	0.0
	80～84歳	(93)	59.1	36.6	45.2	25.8	15.1	4.3	6.5	0.0
	85歳以上	(173)	63.0	34.7	30.6	17.9	15.6	4.6	6.4	0.6

2 在宅医療

① かかりつけ医の有無

問 あなたには、健康について気軽に相談できる、かかりつけ医がいますか。

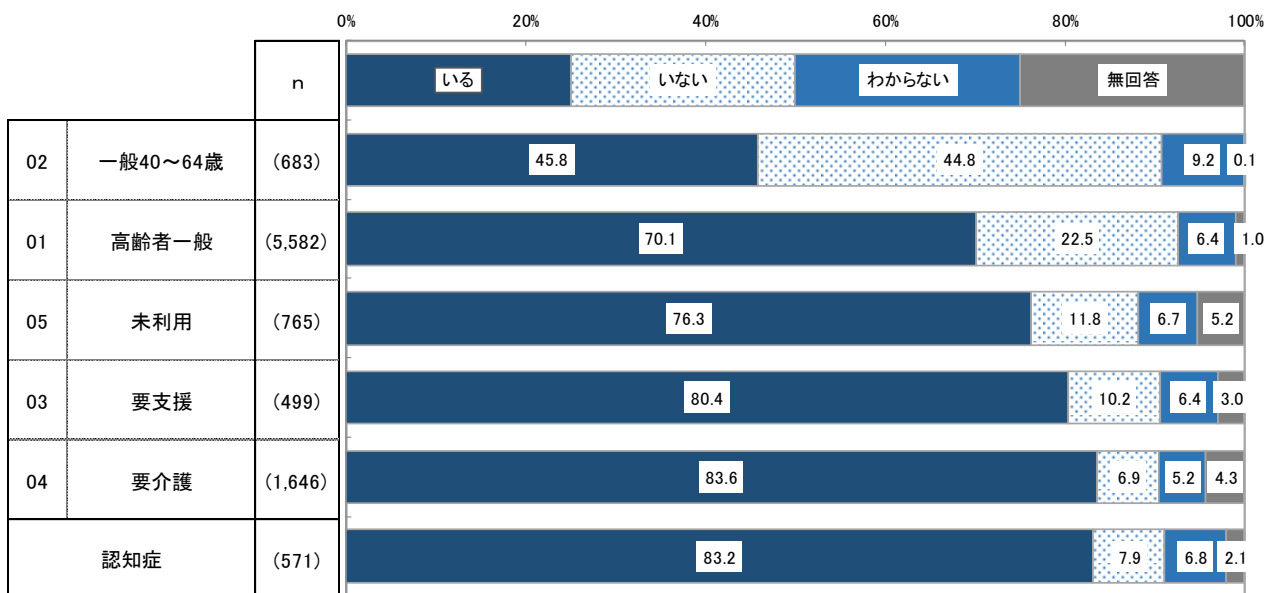
(○はひとつ)

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	
問番号	19	19	18	15	16															

かかりつけ医の有無について、“要支援”“要介護”“認知症”では、かかりつけ医が「いる」が8割以上を占めているのに対し、“一般40～64歳”では45.8%、“高齢者一般”では70.1%、“未利用”では76.3%となっている。

過去の結果と比較すると、かかりつけ医が「いる」割合は“一般40～64歳”で増加しているものの、他の対象では横ばいとなっている。

図表 III-2-① かかりつけ医の有無



【経年比較（「いる」の割合）】

		R7		
		2025年	R4	R1
		2025年	2022年	2019年
02	一般40～64歳	45.8	40.7	40.6
01	高齢者一般	70.1	69.0	69.8
05	未利用	76.3	79.4	78.2
03	要支援	80.4	80.4	80.9
04	要介護	83.6	84.8	83.6

② 通院・往診の有無【新規】

問 あなたは現在、通院や往診などで治療を受けていますか。 (〇はひとつ)

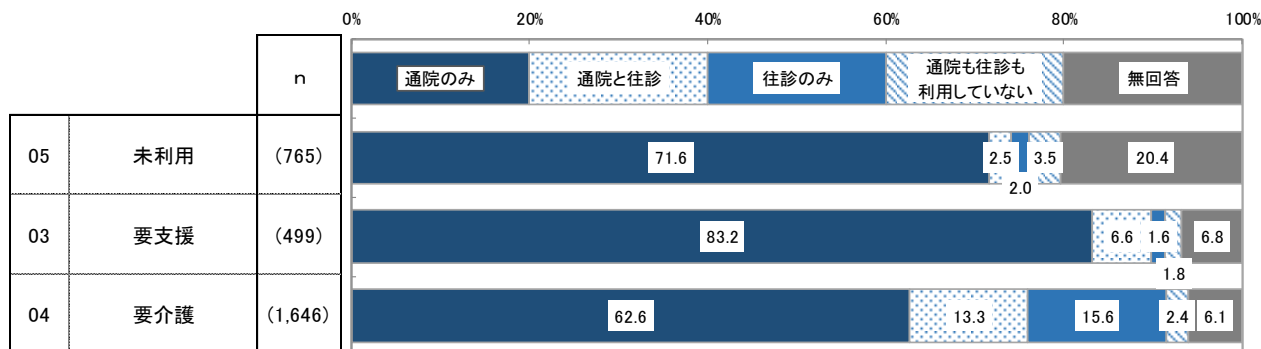
※この調査票中の「往診」には緊急時の「往診」に加え、定期的な「訪問診療」も含まれます。

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
問番号			46	37	36														

通院・往診の有無について、「通院のみ」は“要支援”で83.2%と最も多く、「往診のみ」は“要介護”で15.6%となっている。

全ての対象で「通院も往診も利用していない」は1割以下となっている。

図表 III-2-② 通院・往診の有無



③ かかりつけ医とケアマネジャーの連携（ケアマネジャー）

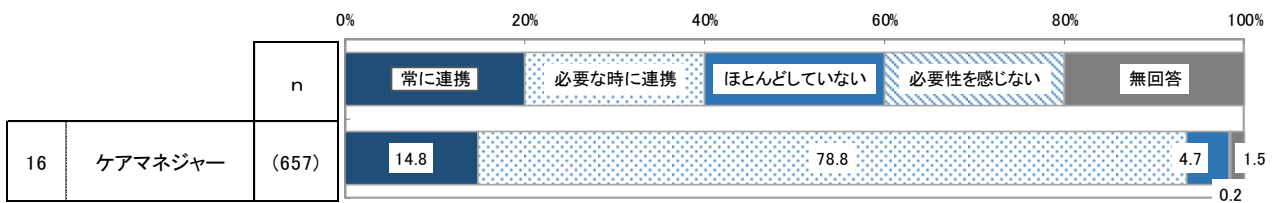
問 かかりつけ医（主治医）との連携状況について教えてください。

（〇はひとつ）

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
問 番 号																24			

かかりつけ医とケアマネジャーとの連携について、「必要な時に連携」が78.8%と最も多くなっている。また「ほとんどしていない」「必要性を感じない」は合わせて4.9%となっている。

図表 III-2-③ かかりつけ医とケアマネジャーの連携



④ ケアプラン作成にあたっての医療機関からの情報収集（ケアマネジャー）

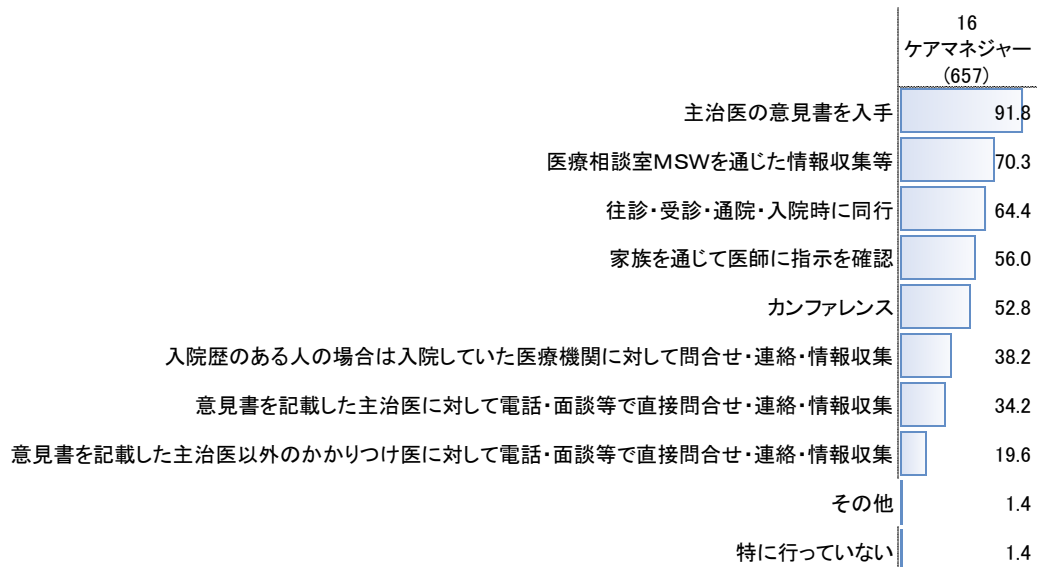
問 ケアプラン作成にあたって、医療機関等からの情報収集などを行っていますか。

（あてはまるものすべてに〇）

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
問 番 号																25			

ケアプラン作成にあたっての医療機関からの情報収集について、「主治医の意見書を入手する」が91.8%と最も多く、次いで「医療相談室MSWを通じた情報収集等」が70.3%となっている。

図表 III-2-④ ケアプラン作成にあたっての医療機関からの情報収集



⑤ 医療連携を円滑に進めるための工夫（ケアマネジャー）

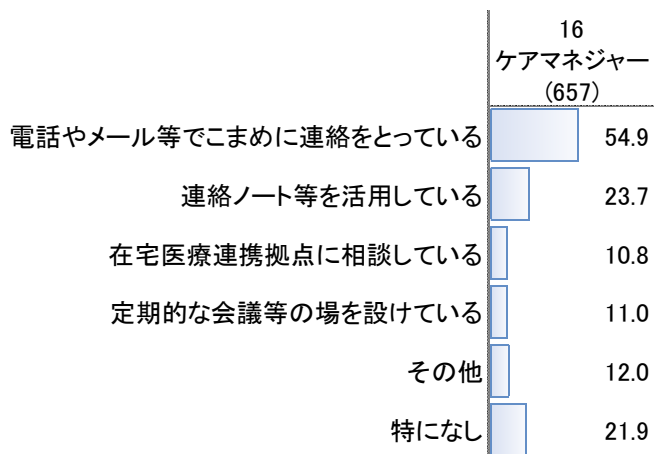
問 医療連携を円滑に進めるために工夫していることはありますか。

（あてはまるものすべてに○）

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
問 番 号																26			

医療連携を円滑に進めるための工夫について、「電話やメール等でこまめに連絡をとっている」が54.9%と最も高く、次いで「連絡ノート等を活用している」が23.7%となっている。また、「特になし」が21.9%となっている。

図表 III-2-⑤ 医療連携を円滑に進めるための工夫



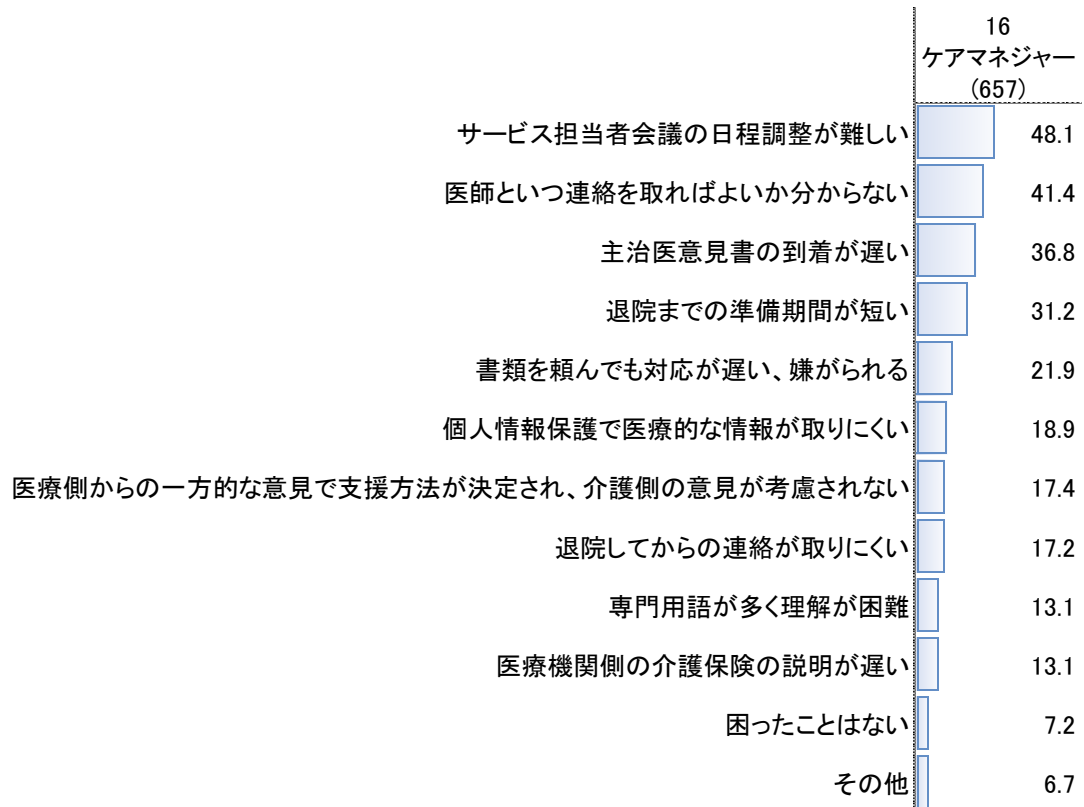
⑥ 医療機関との連携で困っていること（ケアマネジャー）

問 医療機関との連携で困ることがあれば教えてください。（あてはまるものすべてに○）

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
問 番 号																27			

医療機関との連携で困っていることについて、「サービス担当者会議の日程調整が難しい」が48.1%と最も多く、次いで「医師といつ連絡を取ればよいか分からない」が41.4%となっている。

図表 III-2-⑥ 医療機関との連携で困っていること



3 保健・福祉

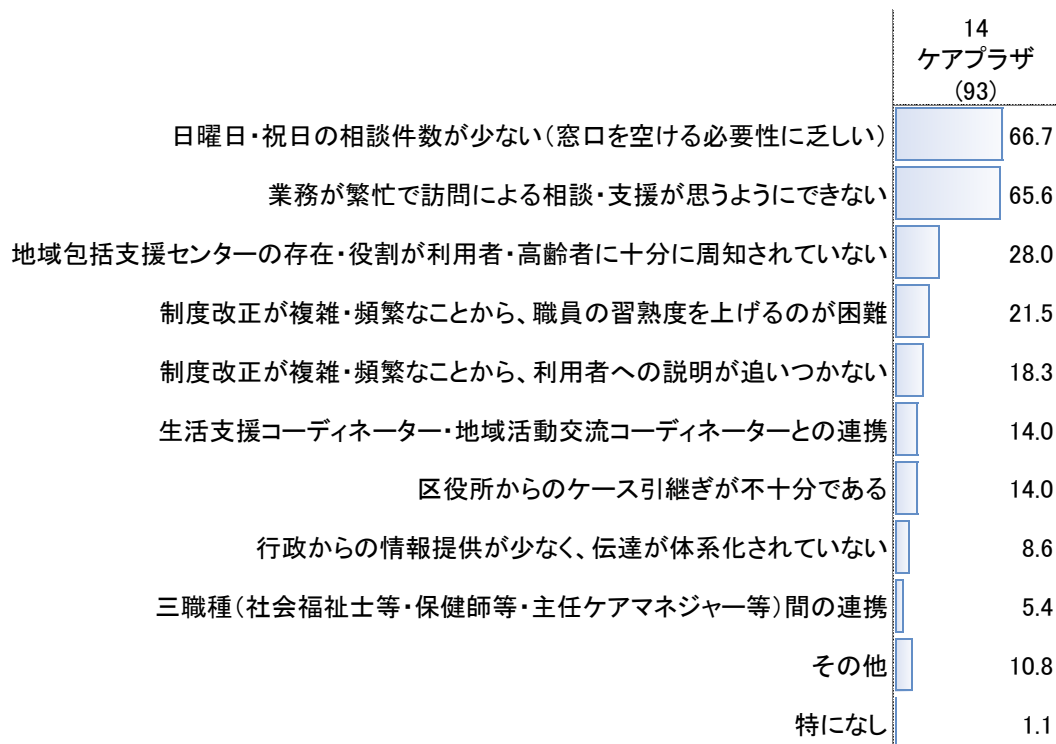
① 総合相談・支援業務の課題（地域ケアプラザ）

問 総合相談・支援業務の課題と考えることは何ですか。 (〇は3つまで)

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
問 番 号														8					

総合相談・支援業務の課題について、「日曜日・祝日の相談件数が少ない」が66.7%と最も多く、次いで「業務が繁忙で訪問による相談・支援が思うようにできない」が65.6%となっている。

図表 III-3-① 総合相談・支援業務の課題



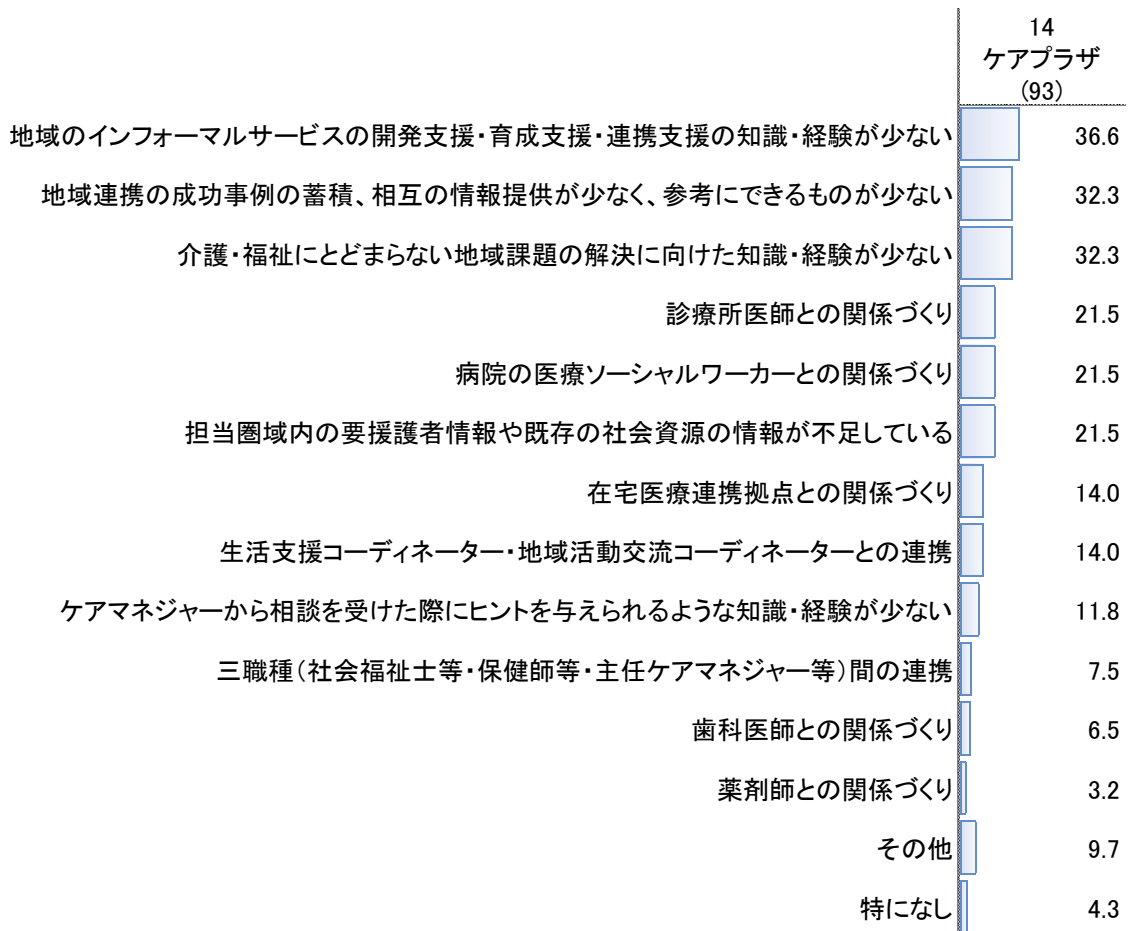
② 包括的・継続的ケアマネジメント支援の課題（地域ケアプラザ）

問 包括的・継続的ケアマネジメント支援の課題と考えることは何ですか。（〇は3つまで）

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
問 番 号														10					

包括的・継続的ケアマネジメント支援の課題について、「地域のインフォーマルサービスの開発支援・育成支援・連携支援の知識・経験が少ない」が36.6%と最も多く、次いで「地域連携の成功事例の蓄積、相互の情報提供が少なく、参考にできるものが少ない」「介護・福祉にとどまらない地域課題の解決に向けた知識・経験が少ない」が32.3%となっている。

図表 III-3-② 包括的・継続的ケアマネジメント支援の課題



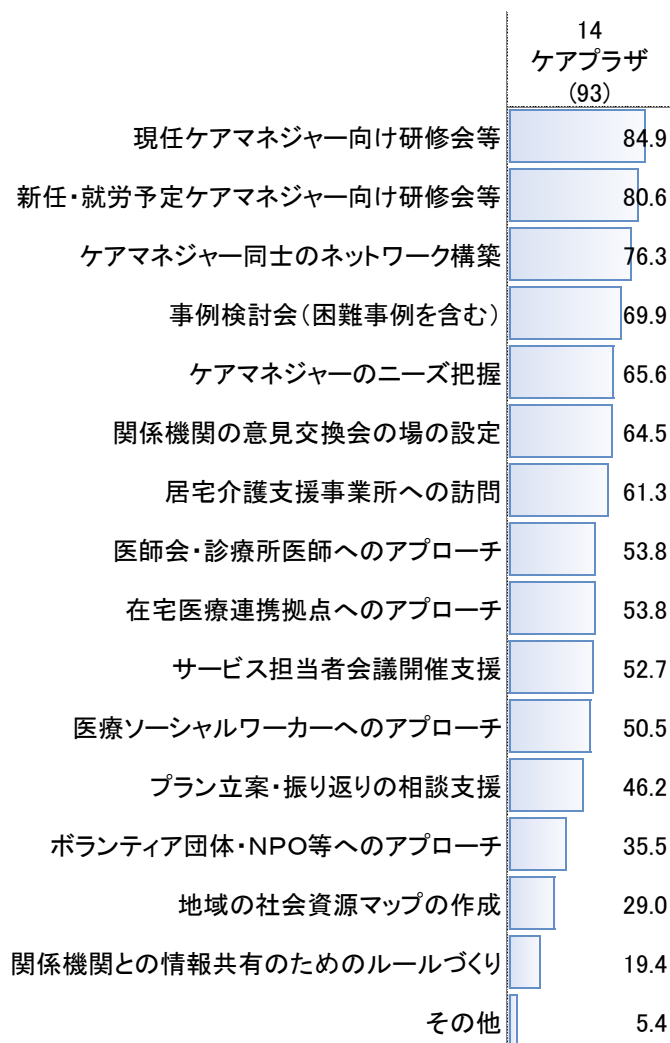
③ 実施した包括的・継続的ケアマネジメント支援（地域ケアプラザ）

問 これまでに実施した包括的・継続的ケアマネジメント支援は何ですか。（〇は3つまで）

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
問 番号														11					

実施した包括的・継続的ケアマネジメント支援について、「現任ケアマネジャー向け研修会等」が84.9%と最も多く、次いで「新任・就労予定ケアマネジャー向け研修会等」が80.6%となっている。

図表 III-3-③ 実施した包括的・継続的ケアマネジメント支援



④ 地域包括支援センターの役割評価（ケアマネジャー）

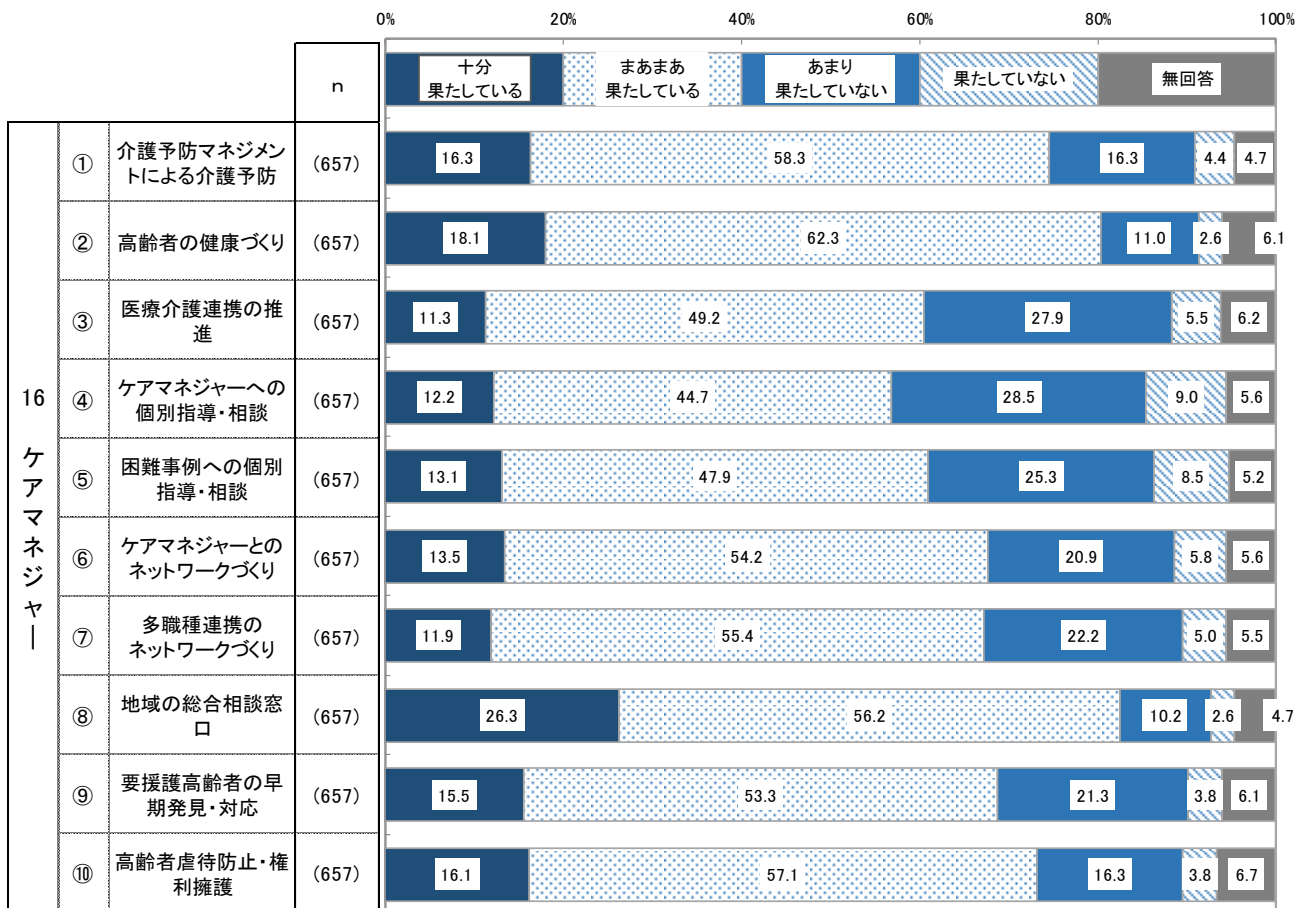
問 地域包括支援センターはその役割を果たしていると思いますか。次の各項目それぞれについてお答えください。（それぞれ〇はひとつ）

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
問 番 号																40			

地域包括支援センターの役割評価について、①から⑩の全ての項目で、「十分果たしている」「まあまあ果たしている」の合計が半数を上回っている。

一方で、③医療介護連携の推進、④ケアマネジャーへの個別指導・相談、⑤困難事例への個別指導・相談については、「果たしていない」「あまり果たしていない」の合計が3割を上回り多くなっている。

図表 III-3-④ 地域包括支援センターの評価



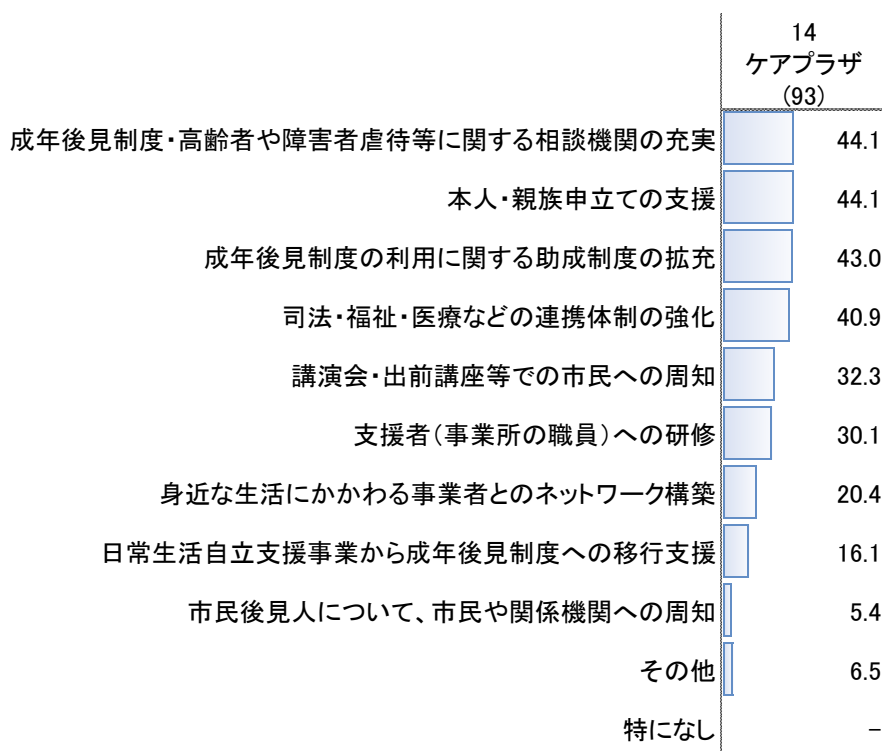
⑤ 成年後見制度の利用促進に必要なこと（地域ケアプラザ）

問 権利擁護業務について、成年後見制度の利用を促進するためにはどのようなことが必要だと思いますか。
(該当するもの上位3つまで○をつけてください)

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
問 番 号														9					

成年後見制度の利用促進に必要なことについて、「成年後見制度・高齢者や障害者虐待等に関する相談機関の充実」「本人・親族申立ての支援」が44.1%と最も多く、次いで「成年後見制度の利用に関する助成制度の拡充」が43.0%となっている。

図表 III-3-⑤ 成年後見制度の利用促進に必要なこと



⑥ インフォーマルサービスの共有・把握のために活用しているもの【新規】

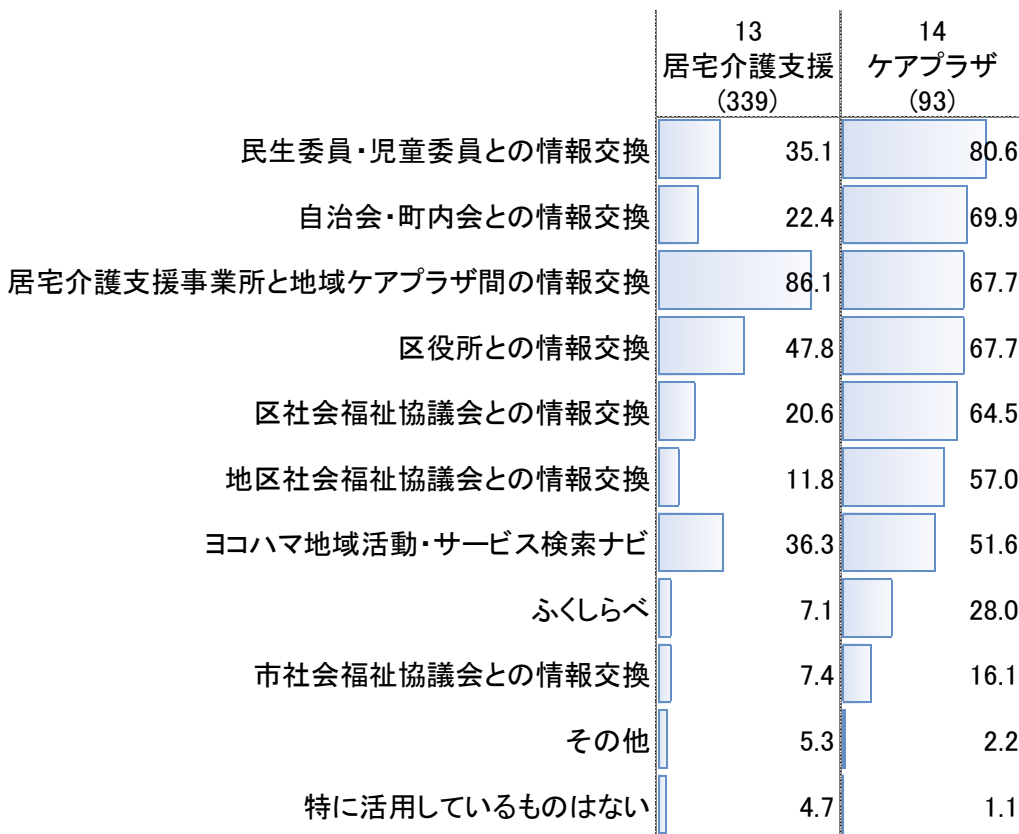
問 地域の住民活動や介護保険外のサービス等に関する地域資源を共有するために活用しているものがあれば教えてください。 (あてはまるものすべてに○)

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
問 番 号													9	13					

インフォーマルサービスの共有・把握のために活用しているものについて、“ケアプラザ”では「民生委員・児童委員との情報交換」が共有の手段として最も多く、その他にも多様な方法での共有が半数以上を占めている。

一方で“居宅介護支援”が把握のために活用している手段は「地域ケアプラザとの情報交換」が86.1%と最も多く、次いで「区役所との情報交換」が47.8%となっている。

図表 III-3-⑥ インフォーマルサービスの共有のために活用しているもの



⑦ インフォーマルサービスの把握のために活用しているもの【新規】

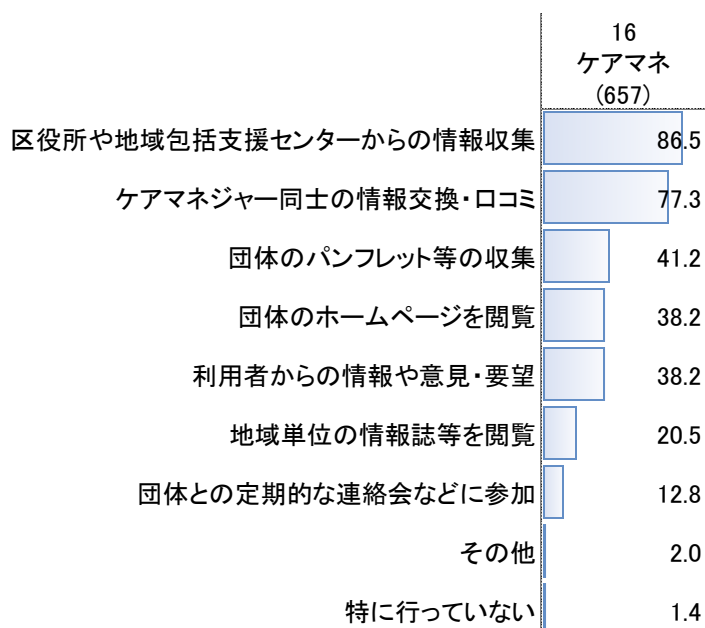
問 保険外のサービス等に関する情報収集はどのようにしていますか。

(あてはまるものすべてに○)

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
問 番 号																21			

ケアマネジャーのインフォーマルサービスの情報収集手段について、「区役所や地域包括支援センターからの情報収集」が 86.5%と最も多く、次いで「ケアマネジャー同士の情報交換・ロコミ」が 77.3%となっている。

図表 III-3-⑦ インフォーマルサービスの把握のために活用しているもの



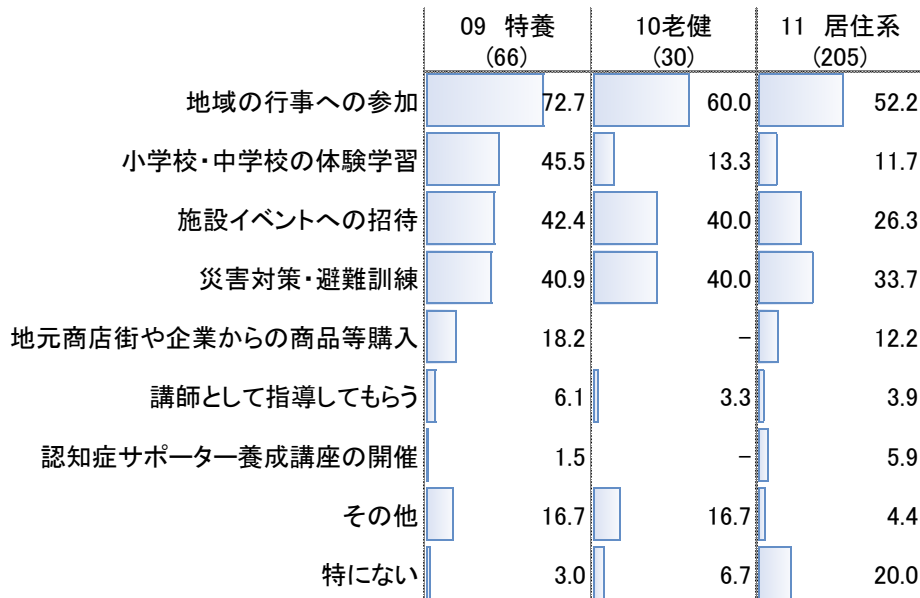
⑧ 介護施設（事業所）の地域との連携の内容

問 地域とどのような内容で連携をとっていますか。 (あてはまるものすべてに○)

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
問 番 号									26	26	21								

地域との連携の内容について、全ての対象施設（事業所）で「地域の行事への参加」が最も多くなっている。“特養”では次いで「小学校・中学校の体験学習」が多く、“老健”“居住系”では「災害対策・避難訓練」が続いている。

図表 III-3-⑧ 地域との連携の内容



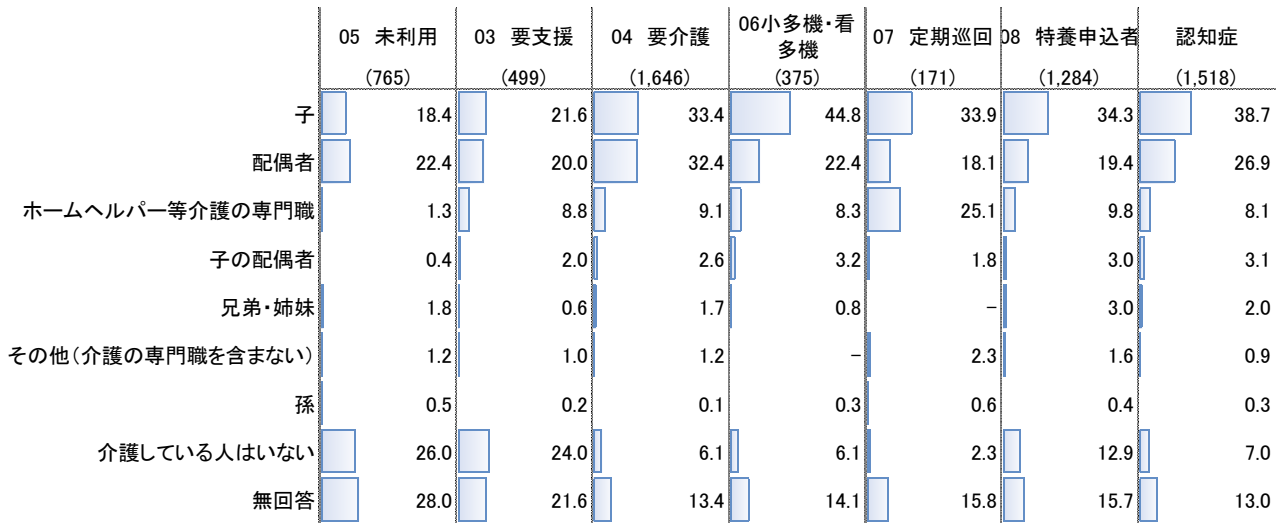
⑨ 主な介護者

問 自宅で主にあなた（あて名ご本人）を介護しているのはどなたですか。（〇はひとつ）

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	
問 番号			48	38	37	35	32	30												

主な介護者について、“小多機・看多機”では「子」が44.8%と最も多くなっている。
一方で、“未利用”“要支援”“要介護”は「子」と「配偶者」が同程度であり、“未利用”“要支援”は加えて「介護している人はいない」も多くなっている。
“小多機・看多機”“定期巡回”“特養申込者”“認知症”では「配偶者」に比べて「子」の割合が多くなっている。

図表 III-3-⑨ 主な介護者



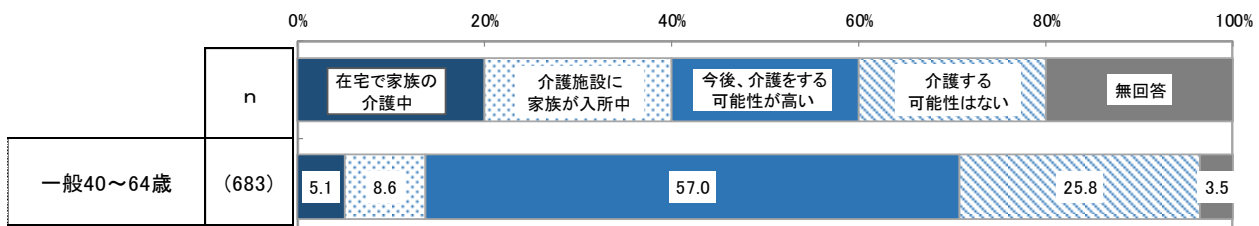
⑩ 家族への介護の有無

問 あなた（あて名ご本人）は、ご家族などの介護をしていますか。（〇はひとつ）

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	
問 番号		48																		

自分が介護をしている家族の有無について、「現在、在宅で介護をしている」は5.1%となっており、「現在は介護していないが、今後は可能性が高い」は57.0%となっている。

図表 III-3-⑩ 家族への介護の有無



⑪ 家族介護者の負担感

問 在宅での介護について、困ったり、負担に感じていることはありますか。

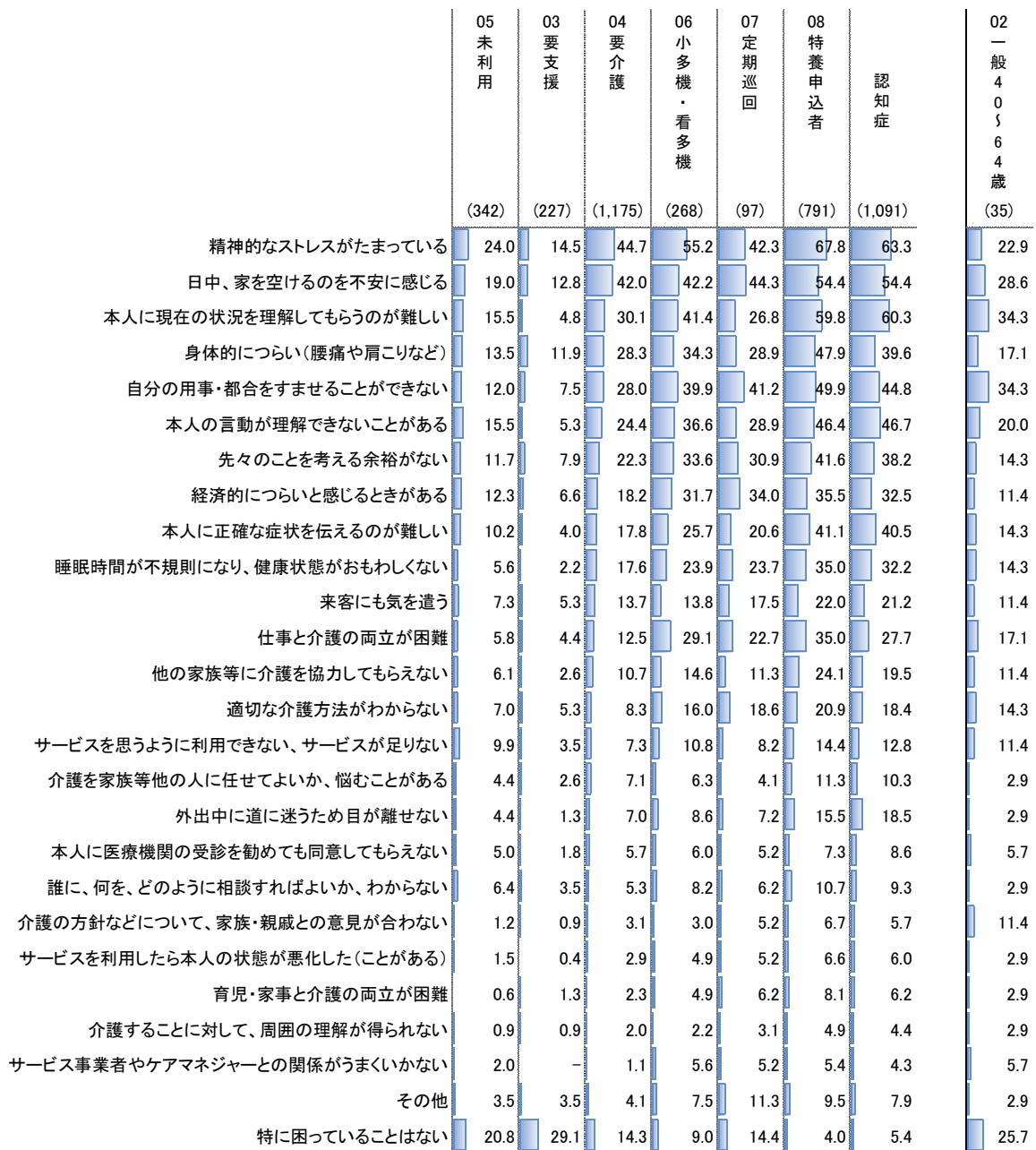
(あてはまるものすべてに○)

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	
問 番 号		48-3	54	46	45	39	36	38												

介護者の負担感について、「要介護」「小多機・看多機」「定期巡回」「特養申込者」「認知症」では負担感が強く、特に「精神的なストレスがたまっている」が約半数を占めている。

また、「小多機・看多機」「定期巡回」「特養申込者」「認知症」「一般 40～64 歳」では、「仕事との両立が困難」が約 2～3 割となっている。

図表 III-3-⑪ 介護者の負担感



※ 「未利用者」～「認知症」は調査対象者を介護している方が回答

※ 「一般 40～64 歳」は調査対象者のうち、家族等の介護をしている方が回答

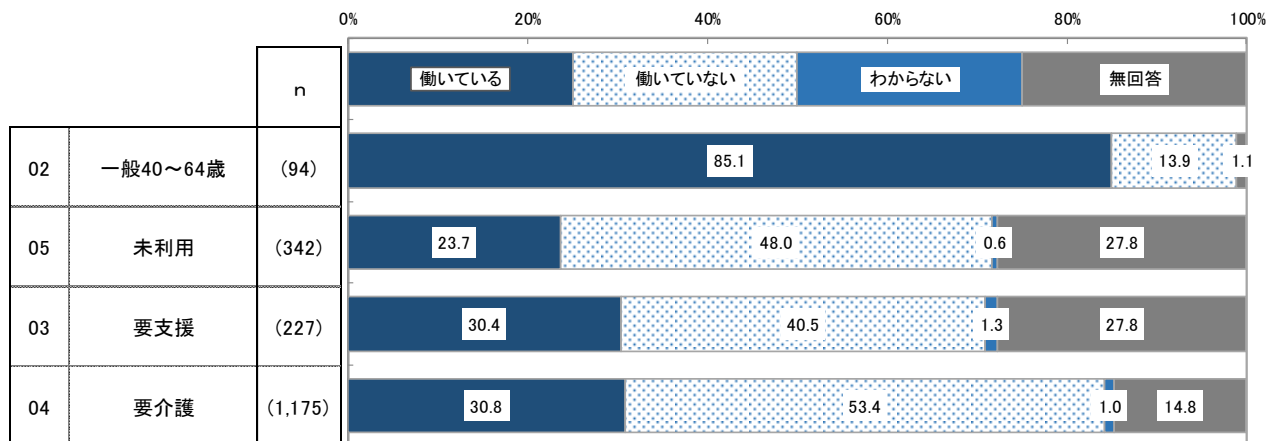
⑫ 家族介護者の就労状況

<調査 02>
問 あなた（あて名ご本人）は、現在、仕事をしていますか。 (○はひとつ)
<調査 03～05>
問 主な介護者の方の現在の勤務形態について、ご回答ください。 (○はひとつ)

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	
問 番号		13	55	47	46															

介護者の就労状況について、“一般 40～64 歳”では「働いている」が 85.1%となっており、“未利用”“要支援”“要介護”では約 3 割となっている。

図表 III-3-⑫ 家族介護者の就労状況



- ※ 「未利用者」～「認知症」は調査対象者を介護している方が回答
- ※ 「一般 40～64 歳」は調査対象者のうち、家族等の介護をしている方が回答
- ※ 各調査の選択肢の分類は以下の通り

集計区分	選択肢の内容	
	調査 02	調査 03～05
働いている	<ul style="list-style-type: none"> ・ ほぼ毎日仕事をしている ・ 週に 2～3 日仕事をしている ・ 月に数日仕事をしている ・ 仕事をしているが頻度は決まっていない 	<ul style="list-style-type: none"> ・ フルタイムで働いている ・ パートタイムで働いている
働いていない	<ul style="list-style-type: none"> ・ 仕事はしていない ・ 仕事はしたいが働いていない 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 働いていない
わからない		<ul style="list-style-type: none"> ・ わからない

⑬ 介護と仕事の両立に効果的な勤め先からの支援

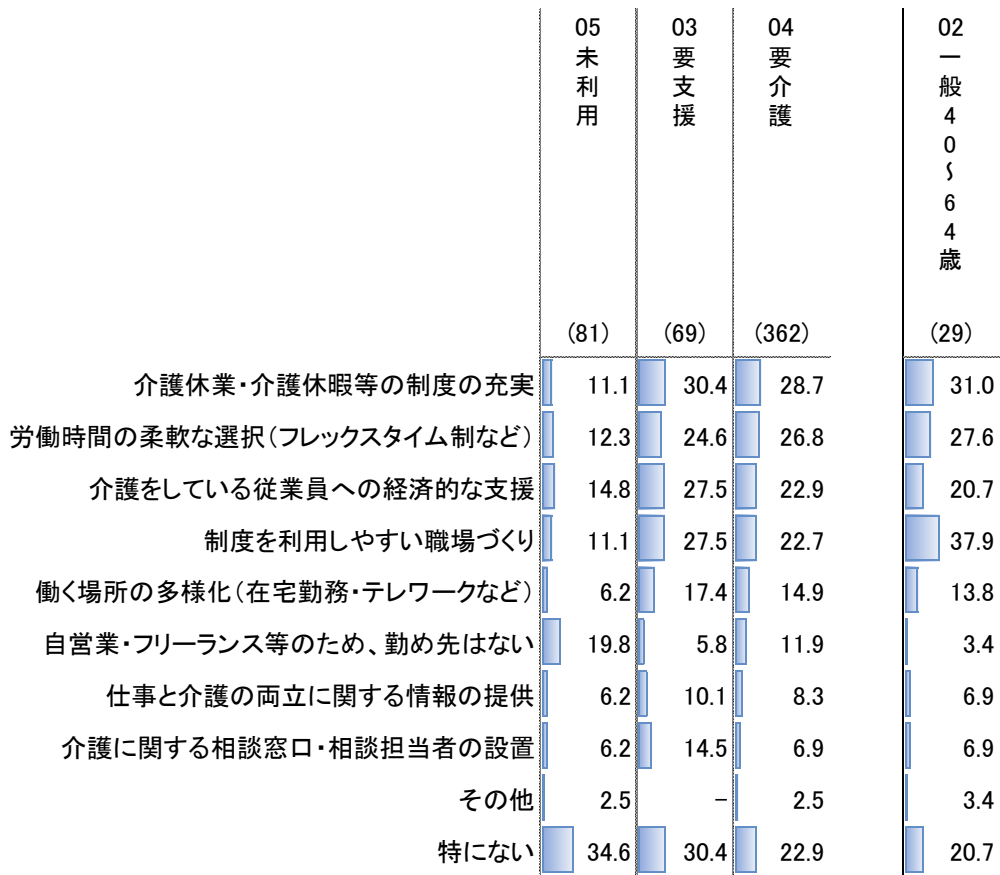
問 あなたは、勤め先からどのような支援があれば、仕事と介護の両立に効果があると思いますか。
(あてはまるものすべてに○)

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	
問 番 号		48-6	55-2	47-2	46-2															

介護と仕事の両立に効果的な勤め先からの支援について、“要支援”“要介護”で「介護休業・介護休暇等の制度の充実」が最も多くなっている。

“一般 40～64 歳”では「制度を利用しやすい職場づくり」が 37.9%と最も多くなっている。

図表 III-3-⑬ 介護と仕事の両立に効果的な勤め先からの支援



※ 「未利用者」～「要介護」は調査対象者を介護している方が回答

※ 「一般 40～64 歳」は調査対象者のうち、家族等の介護をしている方が回答

⑭ 介護者の仕事と介護の両立見込み

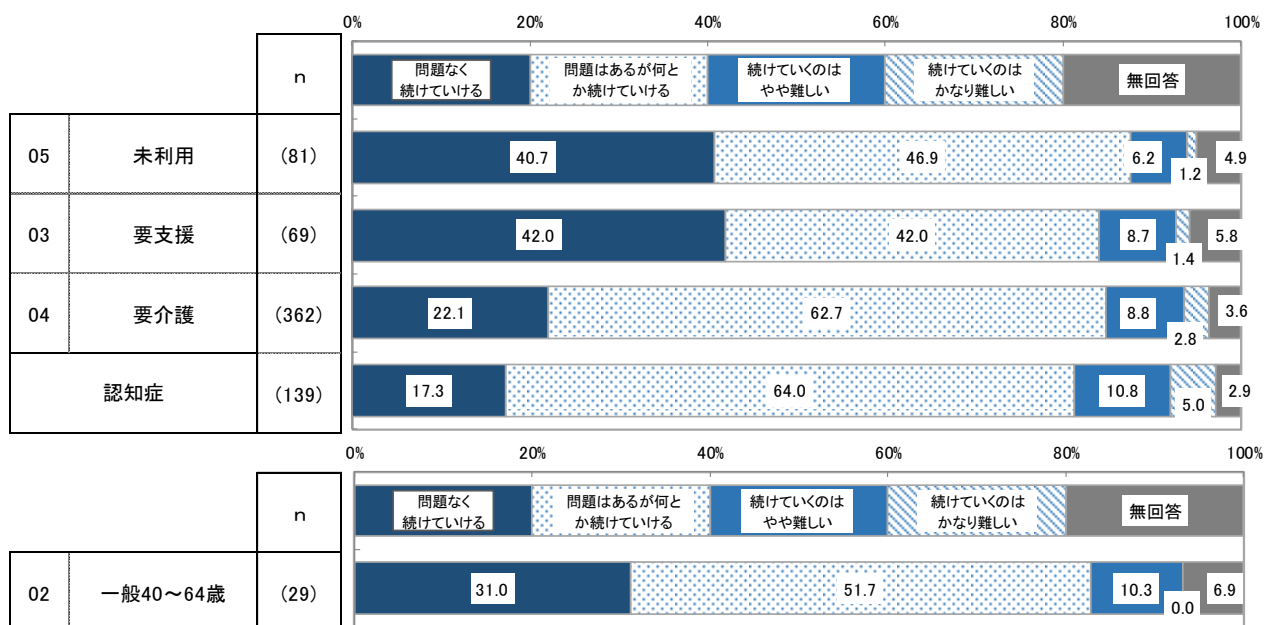
問 今後も働きながら介護を続けていけそうですか。 (〇はひとつ)

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	
問 番号		48-7	55-3	47-3	46-3															

介護者の仕事と介護の両立について、全ての対象者で「問題はあるが何とか続けていける」が最も多くなっている。

一方で、「続けていくのはかなり難しい」「続けていくのは、やや難しい」の合計は、“認知症”で15.8%と最も多くなっている。

図表 III-3-⑭ 介護者の仕事と介護の両立



※「未利用者」～「認知症」は調査対象者を介護している方が回答

※「一般40～64歳」は調査対象者のうち、家族等の介護をしている方が回答

4 医療、介護、保健・福祉の連携

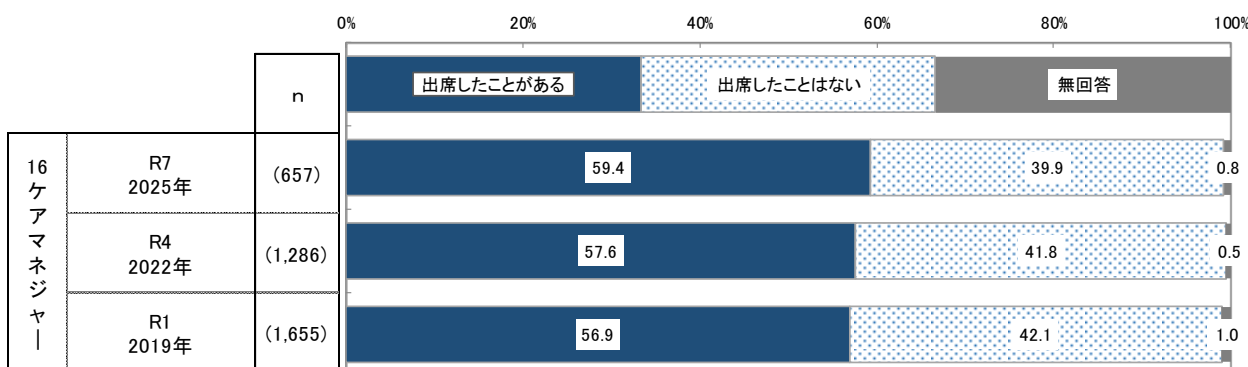
① ケアマネジャーの地域ケア会議への参加状況

問 横浜市地域ケア会議（個別ケース、包括レベル）に出席したことはありますか。
(○はひとつ)

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
問番号																31			

地域ケア会議への参加状況について、「出席したことがある」が59.4%となっている。
過去の結果と比較すると、前回調査からは横ばいとなっている。

図表 III-4-① ケアマネジャーの地域ケア会議への参加状況



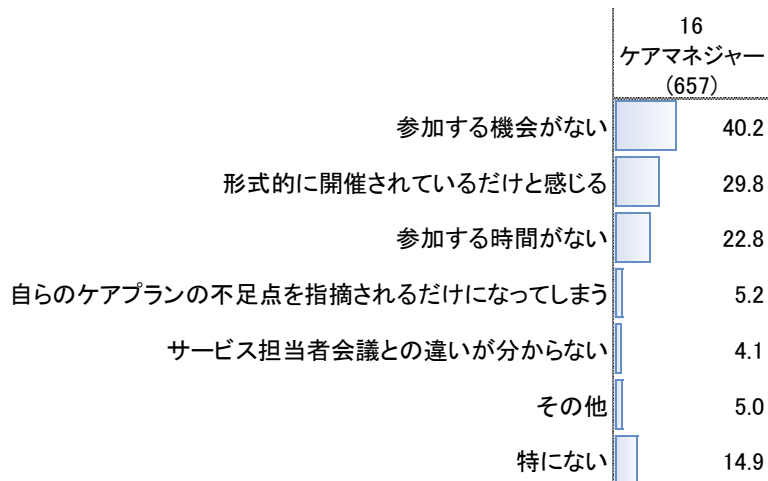
② ケアマネジャーが感じる地域ケア会議の課題

問 現時点で、地域ケア会議で課題に思うことは何ですか。（あてはまるものすべてに○）

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
問番号																33			

ケアマネジャーが感じる地域ケア会議の課題について、「参加する機会がない」が40.2%と最も多く、次いで「形式的に開催されているだけと感じる」が29.8%となっている。

図表 III-4-② ケアマネジャーが感じる地域ケア会議の課題



③ 地域ケアプラザにおける地域ケア会議の課題

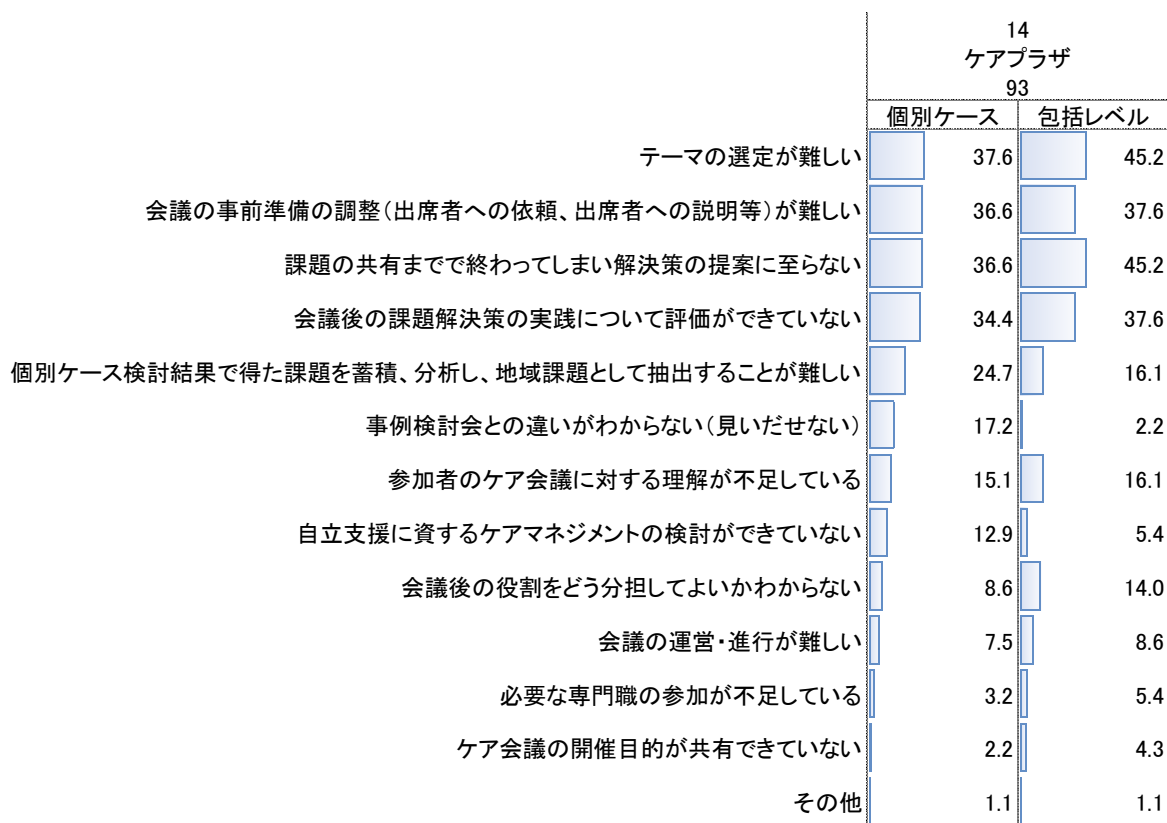
問 現時点で、地域ケア会議（個別ケース、包括レベル）で課題に思うことは何ですか。
（個別ケース、包括レベルそれぞれ、○は3つまで）

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
問 番号														18					

地域ケアプラザにおける地域ケア会議の課題について、個別ケースでは「テーマの選定が難しい」が37.6%と最も多く、次いで「会議の事前準備の調整（出席者への依頼、出席者への説明等）が難しい」「課題の共有までで終わってしまい解決策の提案に至らない」が36.6%となっている。

包括レベルでは「テーマの選定が難しい」「課題の共有までで終わってしまい解決策の提案に至らない」が45.2%と最も多く、次いで「会議の事前準備の調整が難しい」「会議後の課題解決策の実践について評価ができていない」が37.6%となっている。

図表 III-4-③ 地域ケア会議の課題



④ 地域ケアプラザにおける介護予防支援・介護予防ケアマネジメント業務の課題

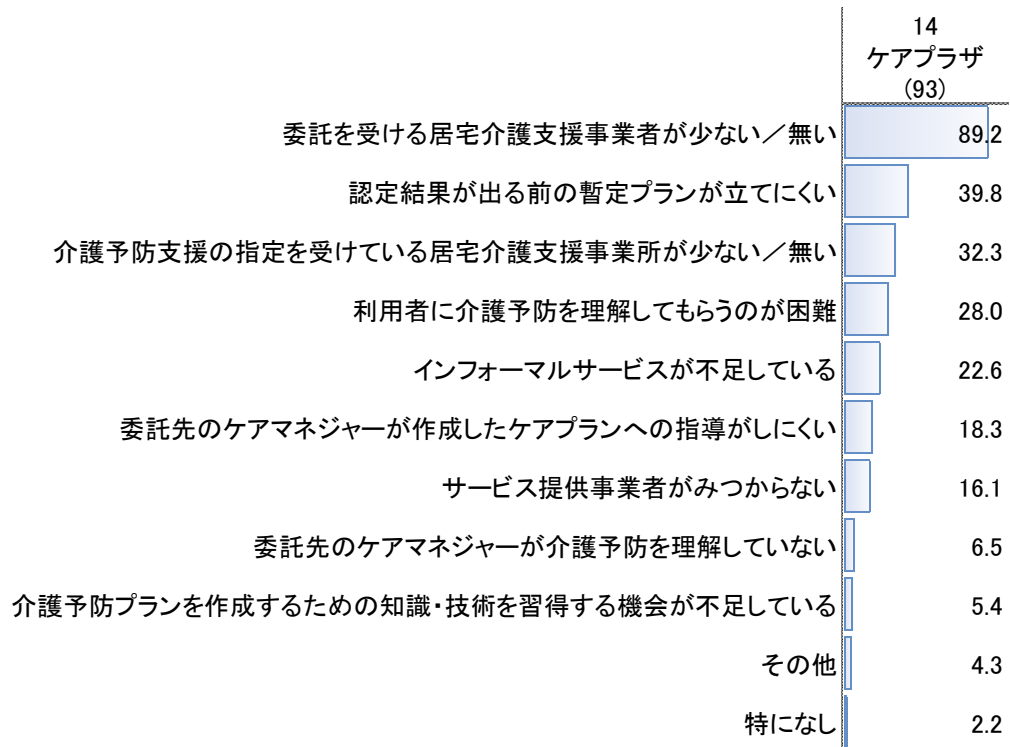
問 介護予防支援・介護予防ケアマネジメント業務の課題と考えることは何ですか。

(〇は3つまで)

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
問 番 号														7					

地域ケアプラザにおける介護予防支援・介護予防ケアマネジメント業務の課題について、「委託を受ける居宅介護支援事業者が少ない／無い」が89.2%と最も多く、次いで「認定結果が出る前の暫定プランを立てにくい」が39.8%となっている。

図表 III-4-④ 介護予防支援・介護予防ケアマネジメント業務の課題



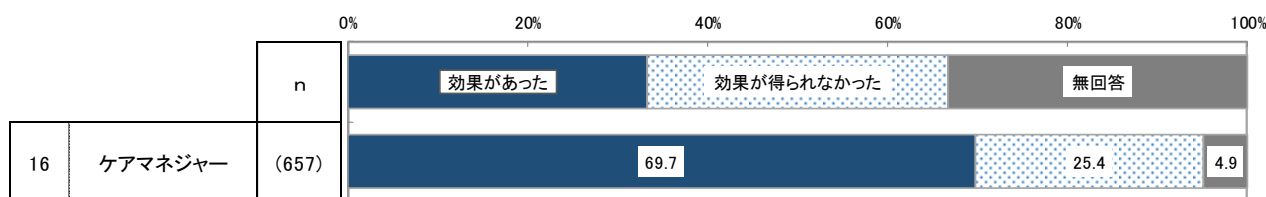
⑤ ケアマネジャーが考える介護予防ケアマネジメントの効果

問 介護予防ケアマネジメントが利用者の状態の改善や生活機能の向上に効果的であったと思いますか。 (〇はひとつ)

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
問 番 号																42			

介護予防ケアマネジメントの効果について、「効果があった」が69.7%となっている。

図表 III-4-⑤ 介護予防ケアマネジメントの効果



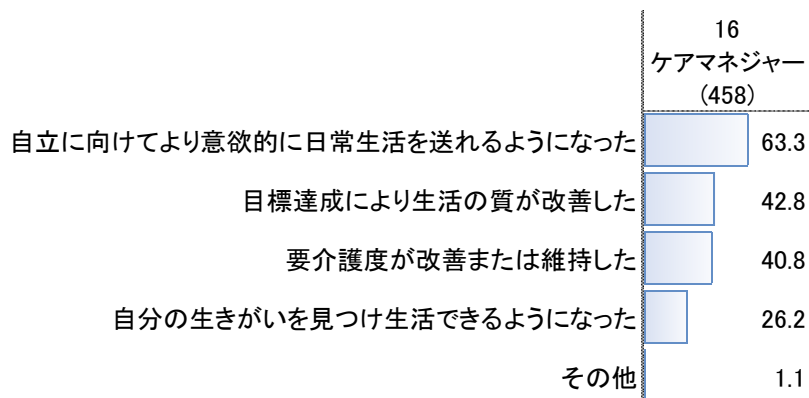
⑥ 介護予防ケアマネジメントの効果の内容【新規】

問 どのような効果がありましたか。 (あてはまるものすべてに〇)

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
問 番 号																42-1			

介護予防ケアマネジメントの効果の内容について、「自立に向けて意欲的に日常生活を送れるようになった」が63.3%と最も多く、次いで「目標達成により生活の質が改善した」が42.8%となっている。

図表 III-4-⑥ 介護予防ケアマネジメントの効果の内容



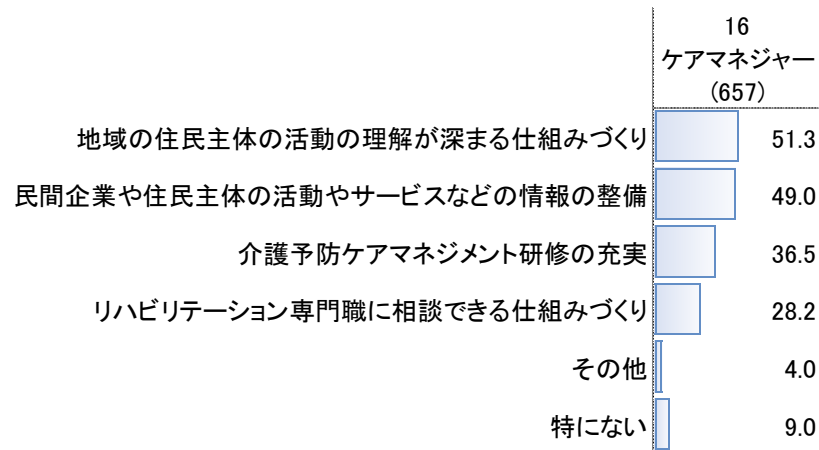
⑦ 介護予防ケアマネジメントの充実に向けた支援【新規】

問 自立に向けた介護予防ケアマネジメントができるようになるために、ケアマネジャーに対して必要な支援はありますか。 (あてはまるものすべてに○)

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
問 番 号																43			

介護予防ケアマネジメントの充実に向けて、「地域の住民主体の活動の理解が深まる仕組みづくり」が 51.3%と最も多く、次いで「民間企業や住民主体の活動やサービスなどの情報の整備」が 49.0%となっている。

図表 III-4-⑦ 介護予防ケアマネジメント充実への支援



⑧ 地域ケアプラザからのケアマネジャーの業務内容への評価

問 所管する圏域を営業エリアとする居宅介護支援事業所のケアマネジャーは、その業務を適切に行っていると思いますか。次の各項目についてお答えください。

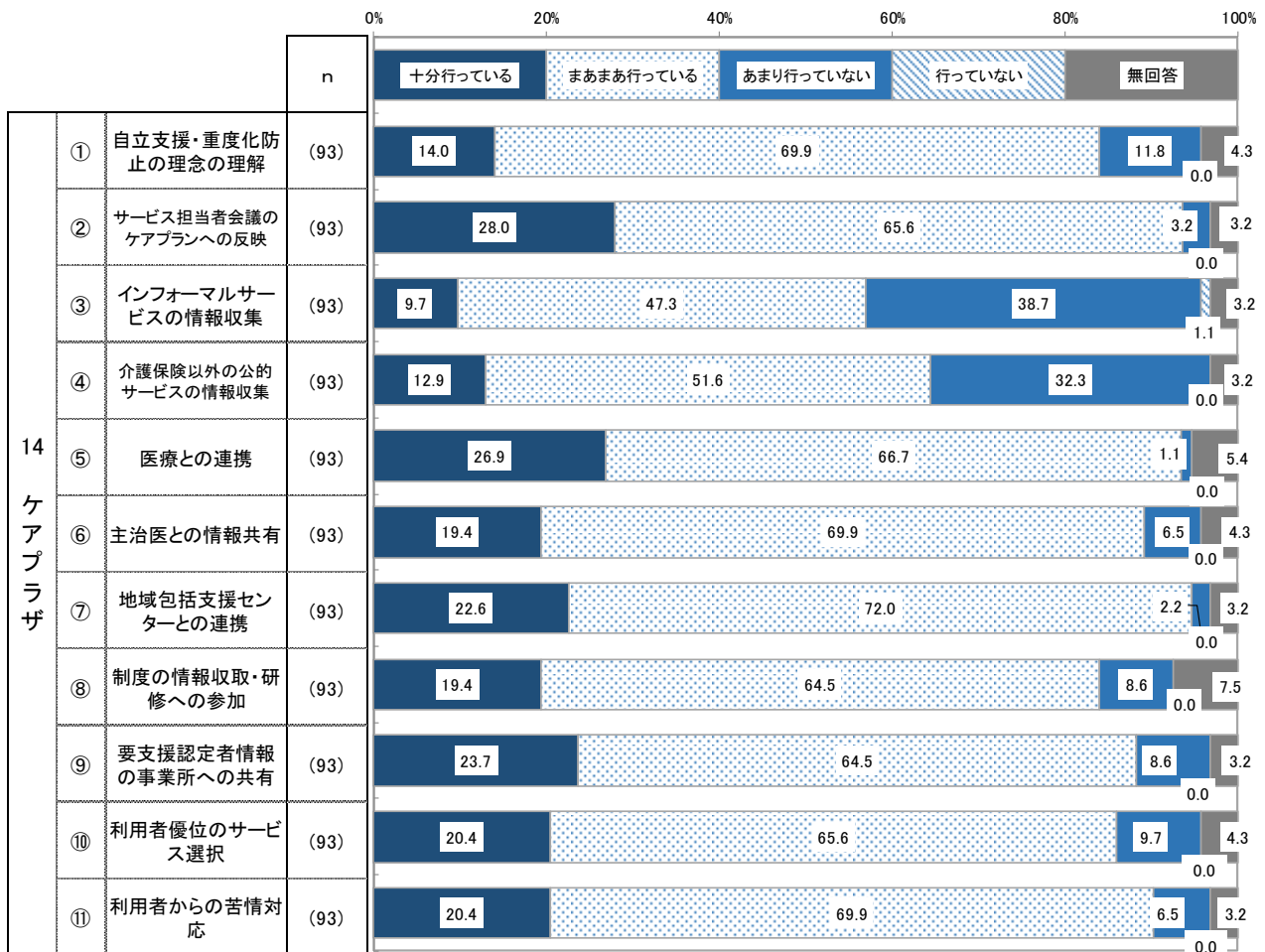
(それぞれあてはまる番号に○はひとつ)

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
問 番 号														15					

ケアマネジャーの業務について、③インフォーマルサービスの情報収集、④介護保険以外の公的サービスの情報収集は、他の業務に比べて「行っていない」「あまり行っていない」の合計が圧倒的に多くなっている。

一方で、他の業務については、「十分行っている」「まあまあ行っている」の合計が8割以上となっている。

図表 III-4-⑧ ケアマネジャーの業務内容の評価



⑨ ケアマネジャー業務を行う上での課題

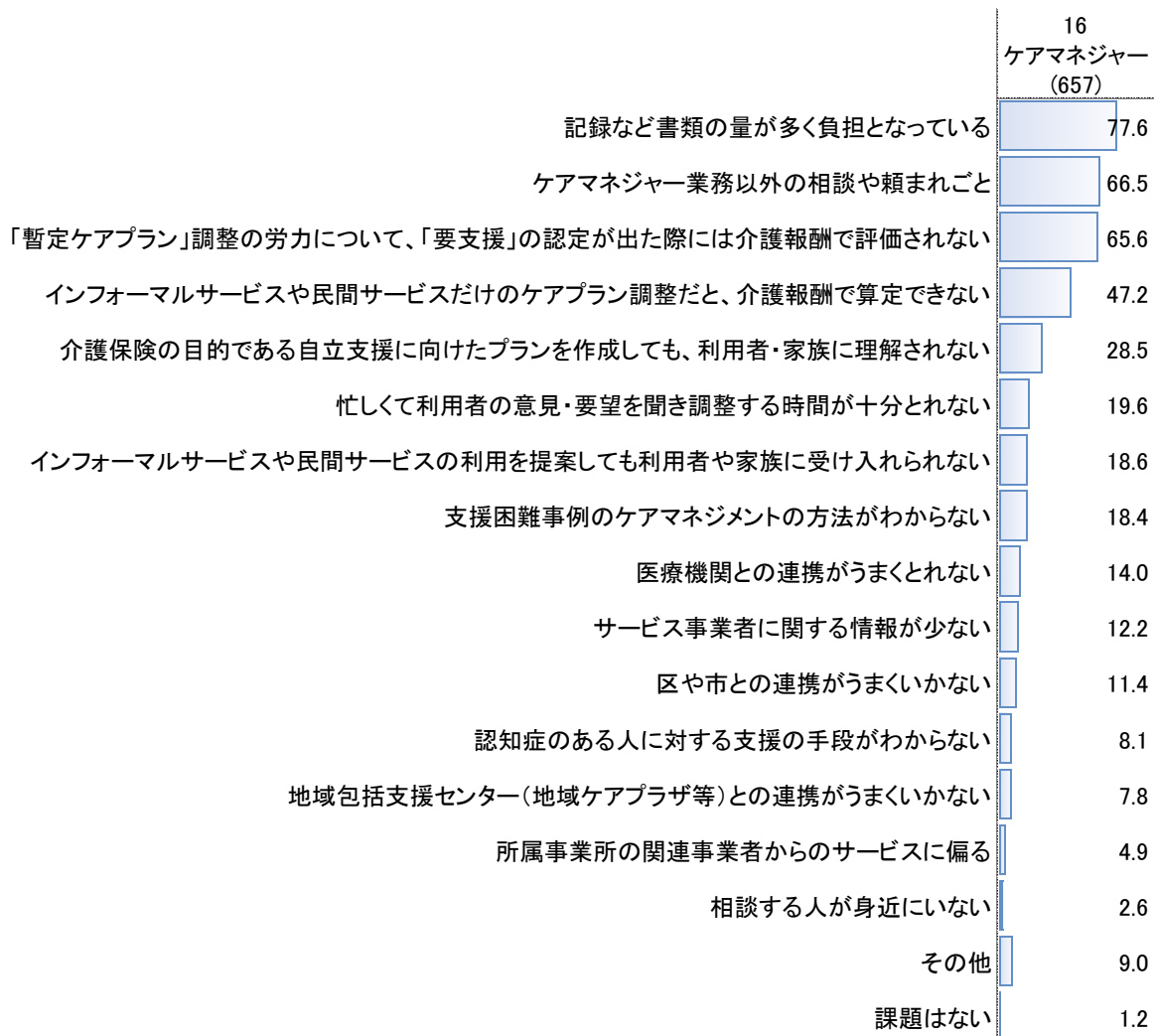
問 ケアマネジャー業務を行う上で、課題として考えているのはどのようなことですか。

(あてはまるものすべてに○)

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
問 番号																34			

ケアマネジャー自身が業務を行う上での課題について、「記録など書類の量が多く負担となっている」が77.6%と最も多く、次いで「ケアマネジャー業務以外の相談や頼まれごと」が66.5%となっている。

図表 III-4-⑨ ケアマネジャー自身が業務を行う上での課題



⑩ ケアマネジャー業務の中での負担

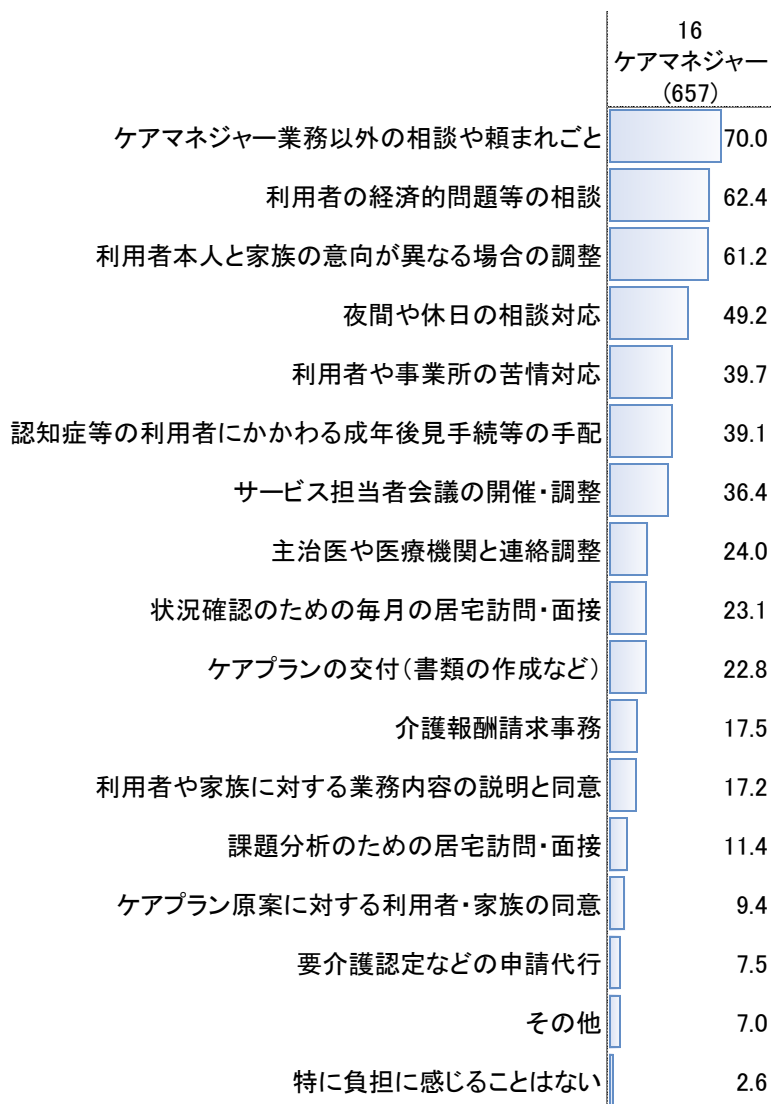
問 ケアマネジャー業務の中で、どのようなことに負担感を感じますか。

(あてはまるものすべてに○)

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
問 番号																35			

ケアマネジャー業務の中で負担になっていることについて、「ケアマネジャー業務以外の相談や頼まれごと」が70.0%と最も多く、次いで「利用者の経済的問題等の相談」が62.4%となっている。

図表 III-4-⑩ ケアマネジャー業務の中で負担になっていること



IV. ニーズや状況に応じた施設・住まいを目指して

1 個々の状況に応じた施設や住まいの整備・供給

① 介護が必要になった場合の暮らし方の希望

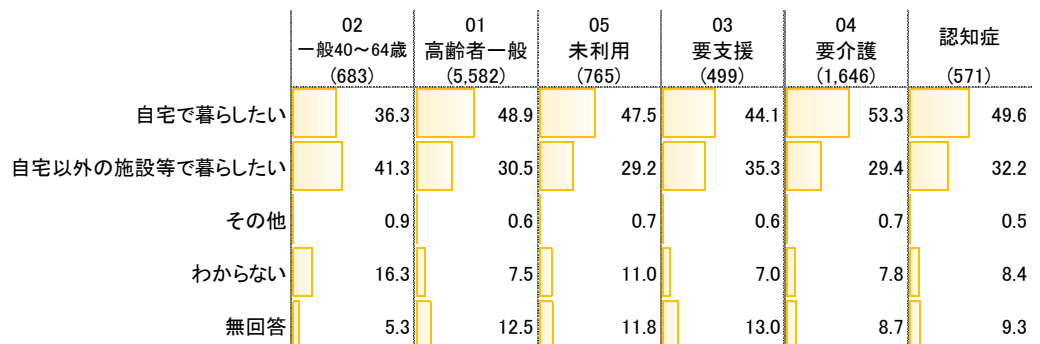
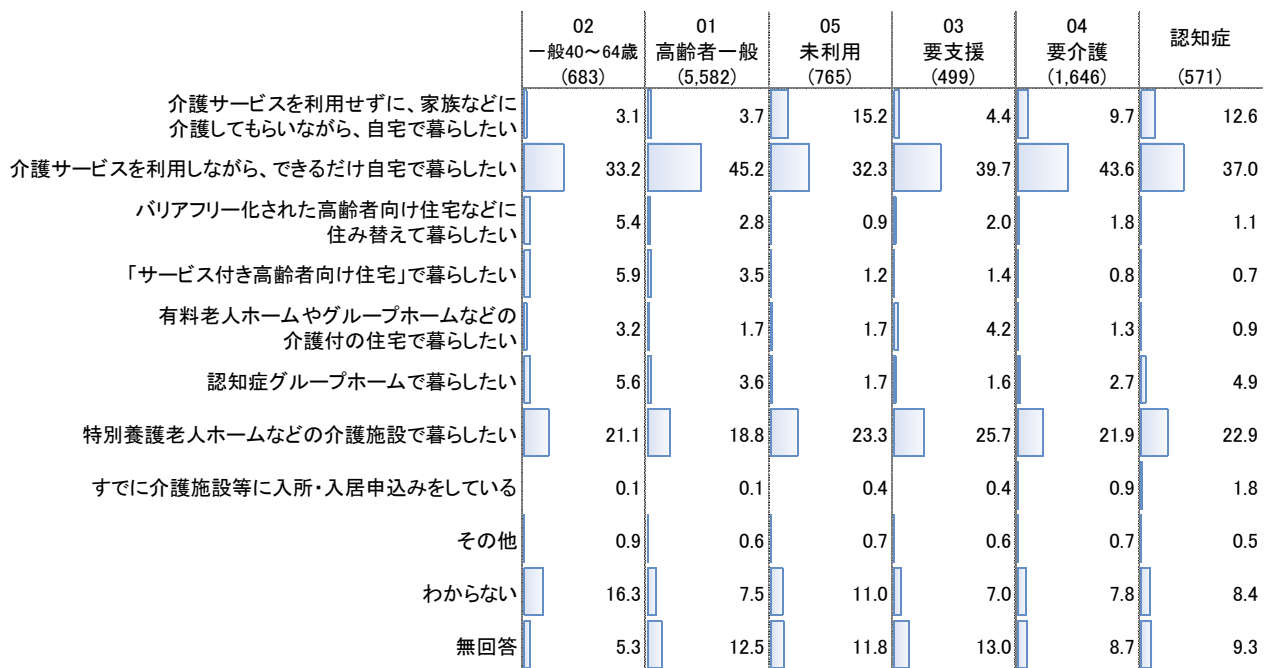
問 あなた（あて各ご本人）は、介護サービスの利用と住まいについて、どのようにお考えですか。最も近いものをお選びください。（〇はひとつ）

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
問 番号	51	49	39	30	30														

介護が必要になった場合の暮らし方について、“一般 40～64 歳”“高齢者一般”“未利用”“要支援”“要介護”“認知症”ともに「介護が必要になったら、介護サービスを利用しながら、できるだけ自宅で暮らしたい」が最も多く、“要介護”では 43.6%となっている。次いで「特別養護老人ホームなどの介護施設で暮らしたい」が約 2～3 割となっている。

過去の結果と比較すると、「特別養護老人ホームなどの介護施設に入りたい」は“一般 40～64 歳”“高齢者一般”“未利用”“要介護”で減少している。

図表 IV-1-① 介護が必要になった場合の暮らし方の希望



【経年比較】

(%)

	02 一般40～64歳			01 高齢者一般			05 未利用		
	R7	R4	R1	R7	R4	R1	R7	R4	R1
	2025年	2022年	2019年	2025年	2022年	2019年	2025年	2022年	2019年
介護サービスを利用せずに、家族などに介護してもらいながら、自宅で暮らしたい	3.1	3.2	2.7	3.7	3.8	4.3	15.2	17.7	15.2
介護サービスを利用しながら、できるだけ自宅で暮らしたい	33.2	38.4	39.1	45.2	46.6	46.1	32.3	29.3	35.2
バリアフリー化された高齢者向け住宅などに住み替えて暮らしたい	5.4	7.0	7.1	2.8	2.2	2.9	0.9	1.7	2.1
「サービス付き高齢者向け住宅」で暮らしたい	5.9	6.4	6.3	3.5	3.8	4.0	1.2	1.8	1.8
健康なうちから有料老人ホームやグループホームなどの介護付の住宅で暮らしたい	3.2	2.6	3.7	1.7	1.9	2.1	1.7	2.3	1.9
認知症グループホームで暮らしたい	5.6			3.6			1.7		
特別養護老人ホームなどの介護施設で暮らしたい	21.1	26.5	24.9	18.8	23.4	20.1	23.3	29.3	25.9
すでに介護施設等に入所・入居申込みをしている	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.2	0.4	0.4	0.3
その他	0.9	0.9	0.6	0.6	0.6	0.8	0.7		
わからない	16.3	10.7	10.7	7.5	6.5	6.4	11.0	8.9	8.5

(%)

	03 要支援			04 要介護		
	R7	R4	R1	R7	R4	R1
	2025年	2022年	2019年	2025年	2022年	2019年
介護サービスを利用せずに、家族などに介護してもらいながら、自宅で暮らしたい	4.4	9.1	4.5	9.7		
介護サービスを利用しながら、できるだけ自宅で暮らしたい	39.7	40.4	40.8	43.6	54.4	54.2
バリアフリー化された高齢者向け住宅などに住み替えて暮らしたい	2.0	1.8	1.9	1.8	0.9	1.4
「サービス付き高齢者向け住宅」で暮らしたい	1.4	2.0	1.5	0.8	0.5	1.0
健康なうちから有料老人ホームやグループホームなどの介護付の住宅で暮らしたい	4.2	1.5	2.2	1.3	1.1	1.0
認知症グループホームで暮らしたい	1.6			2.7		
特別養護老人ホームなどの介護施設で暮らしたい	25.7	24.9	29.4	21.9	25.9	26.4
すでに介護施設等に入所・入居申込みをしている	0.4	0.2	0.7	0.9	0.9	1.7
その他	0.6	0.9	0.7	0.7		
わからない	7.0	7.5	8.1	7.8	10.3	9.1

※ “一般 40～64 歳” は、H28 調査以前は 55～64 歳が対象

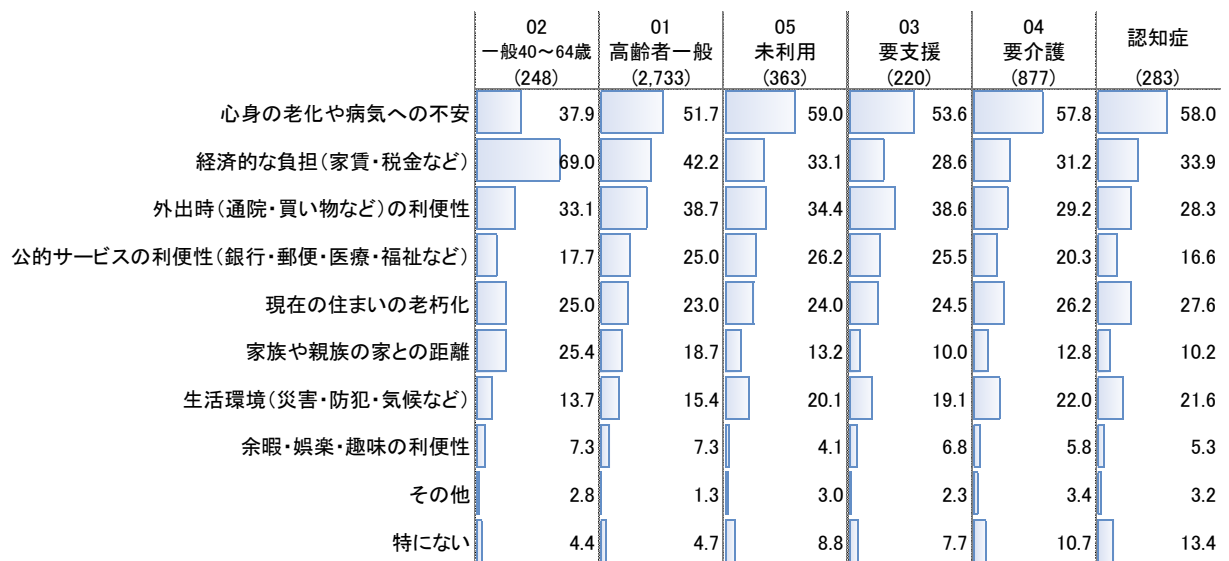
② 現在の住まいで将来的に困ること【新規】

問 介護が必要になっても、現在の住まいでの生活を継続する際に、将来的に困ることは何だと
思いますか。 (あてはまるものすべてに○)

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	
問 番 号	51-1	49-1	39-1	30-1	30-1															

現在の住まいで将来的に困ることについて、“一般 40～64 歳”では「経済的な負担」が 69.0%と最も多くなっている。その他の対象では「心身の老化や病気への不安」が多く、半数以上を占めている。

図表 IV-1-② 現在の住まいで将来的に困ること



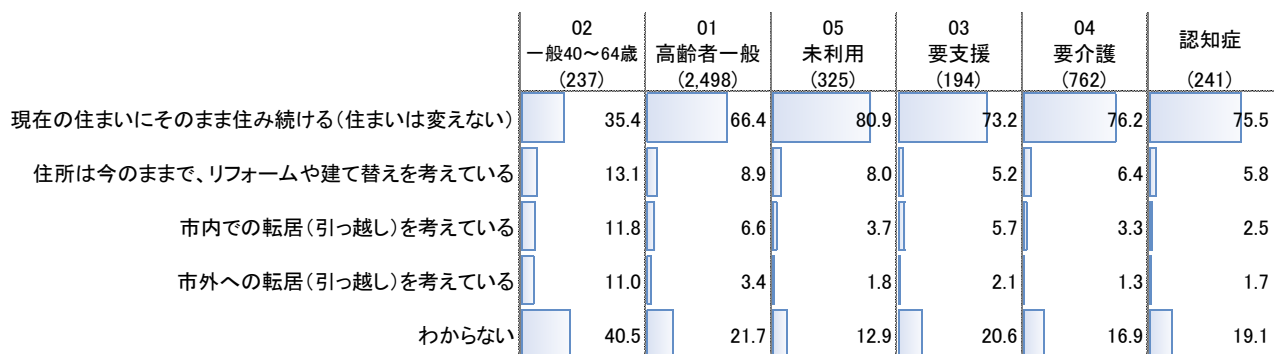
③ 住み替えの意向【新規】

問 現在の住まいがある地域で「困ること」が解決できない場合、「住まい」を変えたいと思いま
すか。 (あてはまるものすべてに○)

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	
問 番 号	51-2	49-2	39-2	30-2	30-2															

将来的な住み替えの意向について、“一般 40～64 歳”では「わからない」が 40.5%と最も多くなっている。その他の対象では「現在の住まいにそのまま住み続ける」が半数以上を占めており、特に要介護認定を受けている“未利用”“要支援”“要介護”では7割を上回っている。

図表 IV-1-③ 住み替えの意向



④ 建替えや転居を検討する上での困りごと【新規】

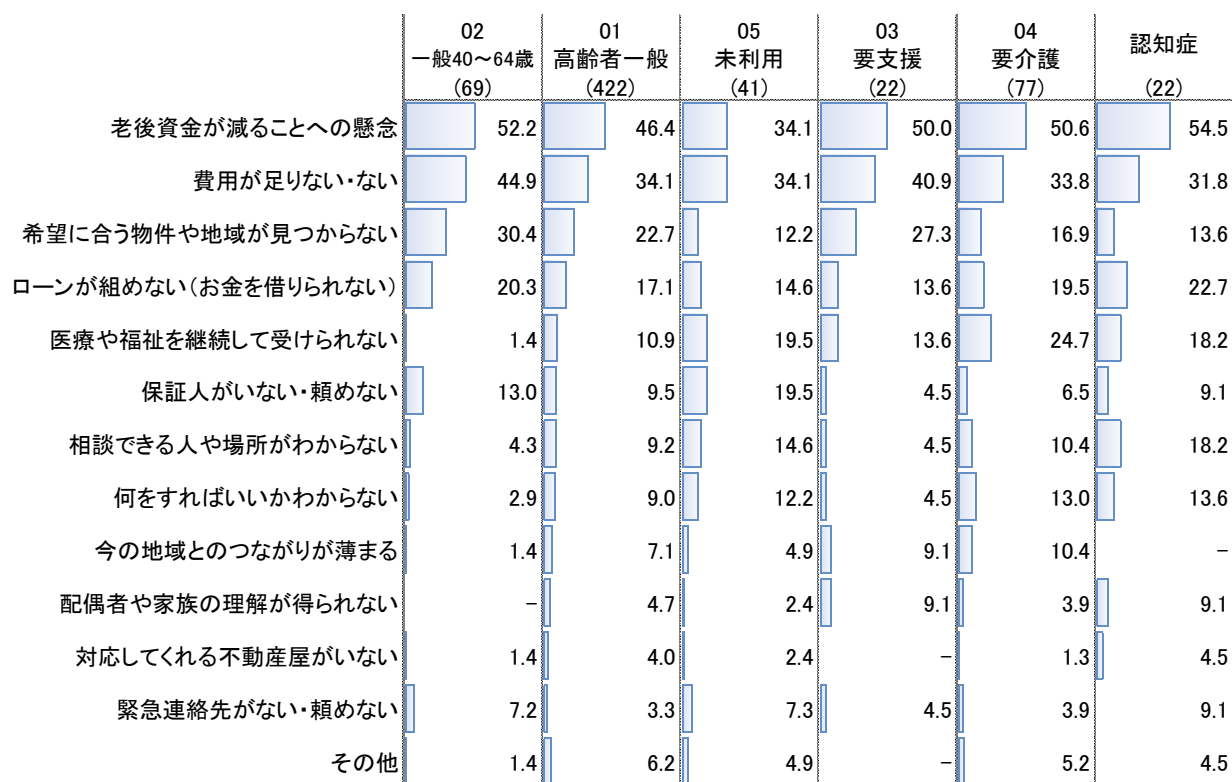
問 建替えや転居を考える上で困ることはありますか。

(あてはまるものすべてに○)

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	
問 番号	51-3	49-3	39-3	30-3	30-3															

建替えや転居で困ることについて、全ての対象で「老後資金が減ることへの懸念」が最も多く、次いで「費用が足りない・ない」となっており、経済的な側面への困りごとが上位となっている。

図表 IV-1-④ 住み替えに困ること



⑤ 建替えや転居先の希望【新規】

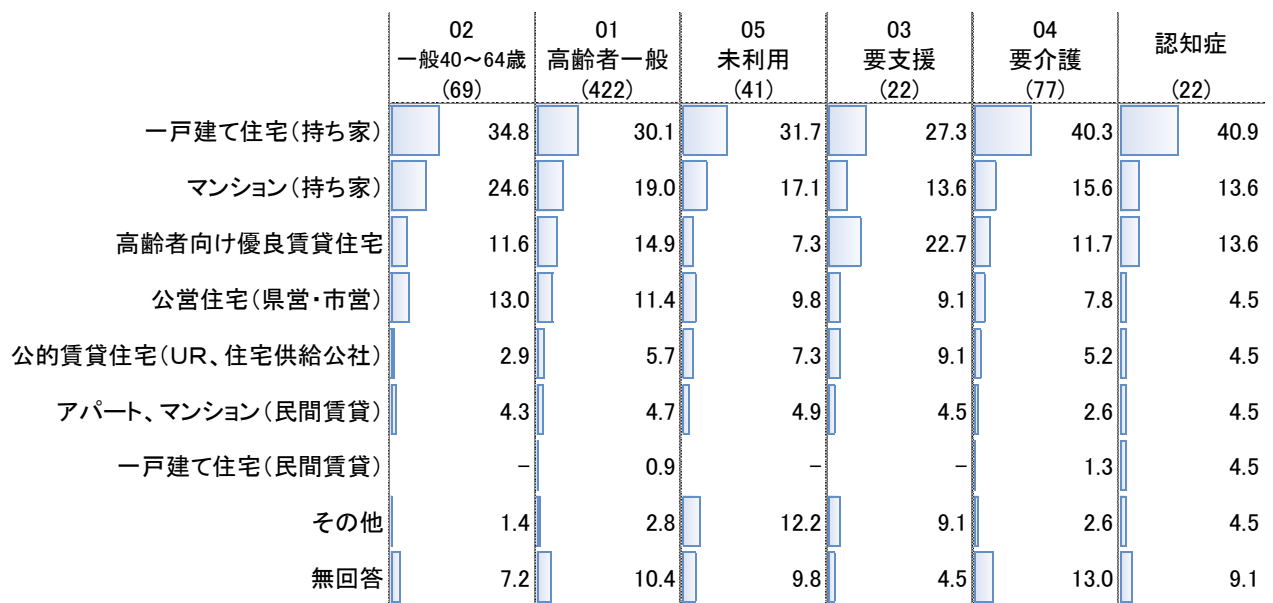
問 建替えや転居をするとしたら、どのような住まいを希望しますか。

(〇はひとつ)

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	
問 番 号	51-4	49-4	39-4	30-4	30-4															

建替えや転居をする場合の住まいの希望について、全ての対象で「一戸建て住宅（持ち家）」が最も多くなっており、特に“要介護”では40.3%と他の対象と比べても多くなっている。

図表 IV-1-⑤ 建替えや転居の意向



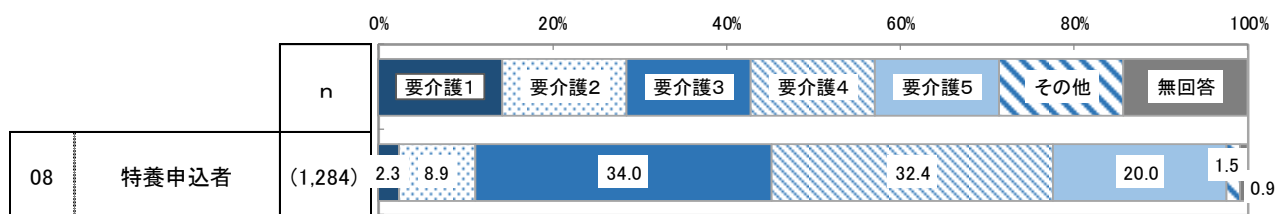
⑥ 特別養護老人ホーム申込者の現時点の要介護度

問 あなた（特養入所希望者）の令和7年10月1日現在の要介護度をお伺いします。
(〇はひとつ)

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	
問番号								12												

特別養護老人ホームへの申込時と現在の要介護度について、「要介護3」が34.0%と最も多く、「要介護1」「要介護2」の合計は11.2%となっている。

図表 IV-1-⑥ 現在の要介護度



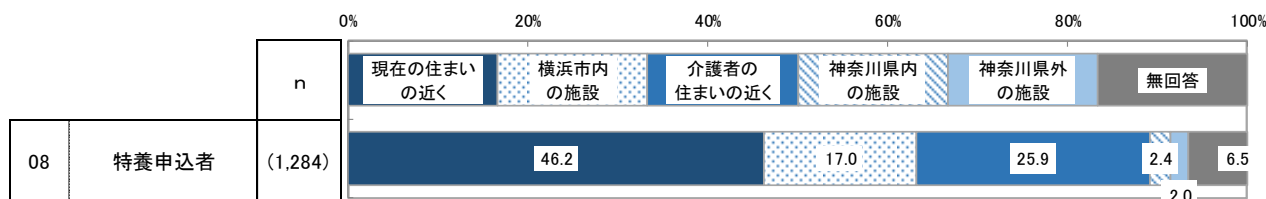
⑦ 特別養護老人ホームへの入所を希望する地域

問 どちらの場所にある特別養護老人ホームへの入所を希望しますか。
(〇はひとつ)

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	
問番号								19												

特別養護老人ホームへの入所希望地域について、「現在の住まいの近く」が46.2%と最も多く、次いで「介護者の住まいの近く」が25.9%となっている。
市外の施設への希望は4.4%となっている。

図表 IV-1-⑦ 入所希望地域



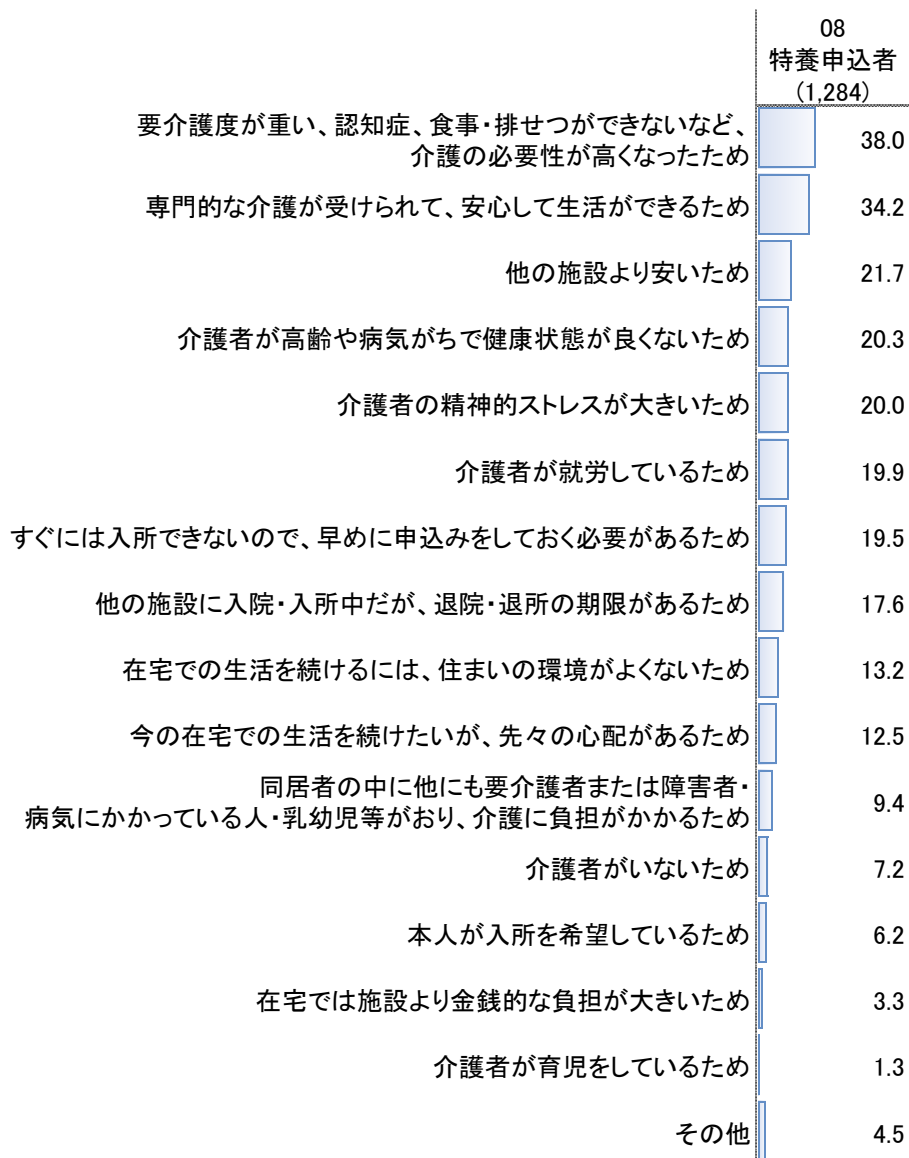
⑧ 特別養護老人ホームを希望する理由

問 特別養護老人ホームに入所の申込みをした理由は何ですか。あてはまる理由を3つまでお選びください。 (〇は3つまで)

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
問 番 号								20											

特別養護老人ホームへの入所を希望する理由について、「要介護度が重い、認知症、食事・排せつができないなど、介護の必要性が高くなったため」が38.0%と最も多く、次いで「専門的な介護が受けられて、安心して生活ができるため」が34.2%となっている。

図表 IV-1-⑧ 特別養護老人ホームへの入所を希望する理由



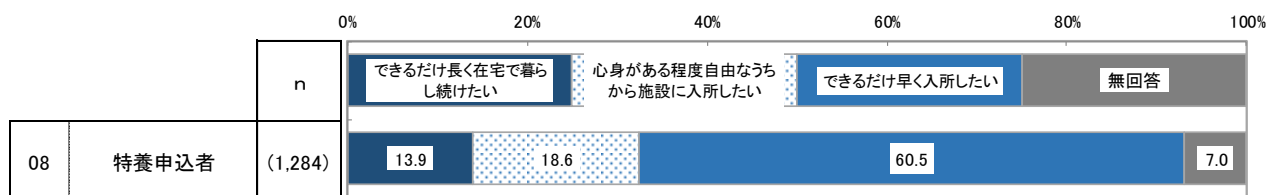
⑨ 特別養護老人ホームへの入所に対する考え方

問 あなた(特養入所希望者)の施設への入所に対する考えは、どれに最も近いですか。(〇はひとつ)

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	
問番号								21												

特別養護老人ホームへの入所に対する考えについて、「できるだけ早く入所したい」が60.5%と最も多く、次いで「心身がある程度自由なうちから施設に入所したい」が18.6%となっている。

図表 IV-1-⑨ 特別養護老人ホームへの入所に対する考え方



⑩ 特別養護老人ホームに入所を希望する時期

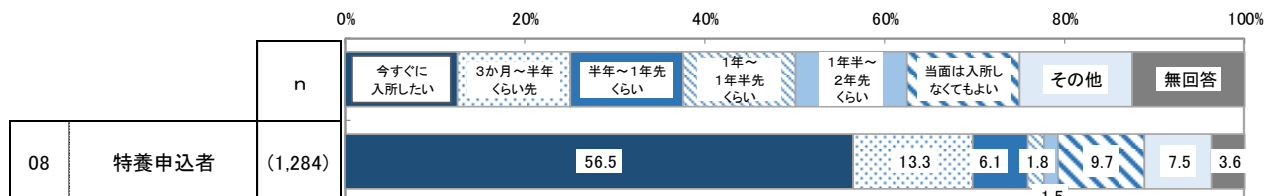
問 特別養護老人ホームに入所したい時期はいつ頃ですか。(〇はひとつ)

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
問番号								22											

特別養護老人ホームに入所したい時期について、「今すぐに入所したい」が56.5%と最も多く、次いで「3か月～半年くらい先」が13.3%となっている。

「今すぐ入所したい」「3か月～半年くらい先」「半年～1年先くらい」の合計が75.9%を占めている。

図表 IV-1-⑩ 特別養護老人ホームに入所を希望する時期



⑪ 特別養護老人ホーム以外で利用したい入所系サービス

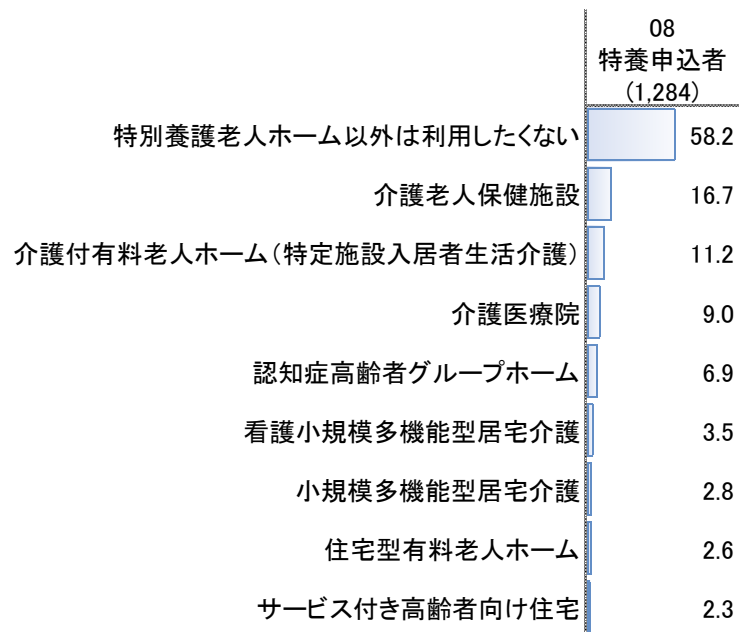
問 特別養護老人ホーム以外で利用したいサービスがありますか。

(あてはまるものすべてに○)

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
問 番 号								15											

特別養護老人ホーム以外で利用したいサービスについて、「特別養護老人ホーム以外は利用したくない」が58.2%と最も多く、「介護老人保健施設」が16.7%、「介護付有料老人ホーム」が11.2%となっている。

図表 IV-1-⑪ 特別養護老人ホーム以外のサービスの希望



⑫ 特別養護老人ホーム以外を利用したくない理由

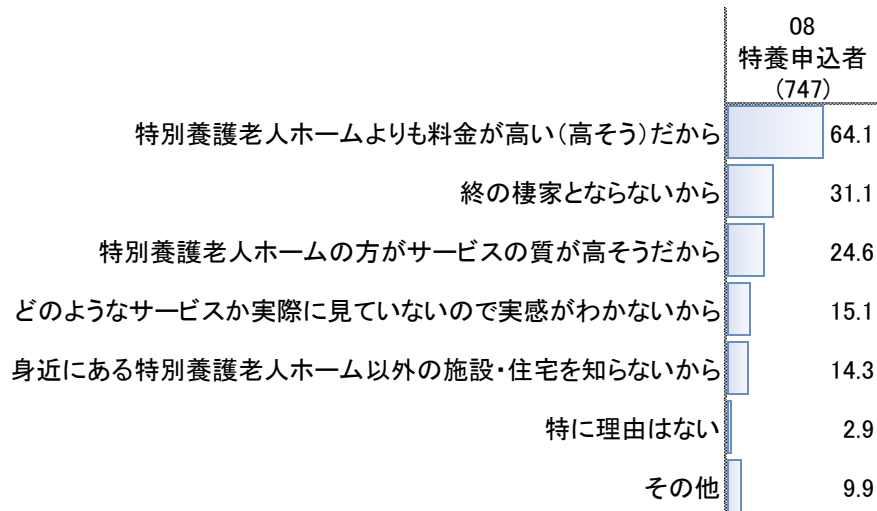
問 特別養護老人ホーム以外のサービスを利用したくない理由は何ですか

(あてはまるものすべてに○)

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
問 番 号								15-1											

特別養護老人ホーム以外を利用したくない理由について、「特別養護老人ホームよりも料金が
高い(高そう)だから」が64.1%と最も多く、次いで「終の棲家とならないから」が31.1%となっ
ている。

図表 IV-1-⑫ 特別養護老人ホーム以外を利用したくない理由



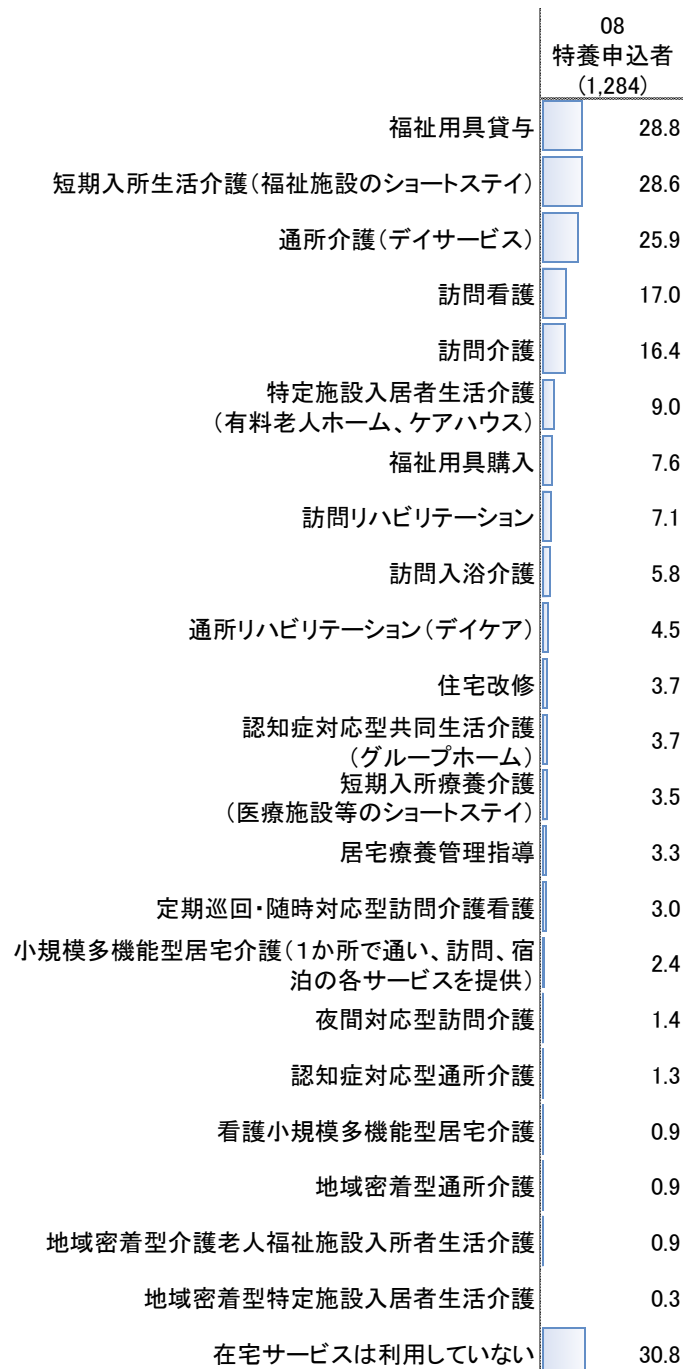
⑬ 特養入所希望者が、令和7年9月に利用した介護サービス

問 介護保険の在宅サービスのうち、令和7年9月に利用したサービスすべてに○をつけてください。
(あてはまるものすべてに○)

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
問 番号								14											

令和7年9月に利用した介護サービスについて、「福祉用具貸与」が28.8%と最も多く、次いで「短期入所生活介護」が28.6%となっている。
一方で、「在宅サービスは利用していない」は30.8%となっている。

図表 IV-1-⑬ 介護サービスの利用状況



2 相談体制や情報提供の充実

① 高齢者施設・住まいの相談センターの利用状況

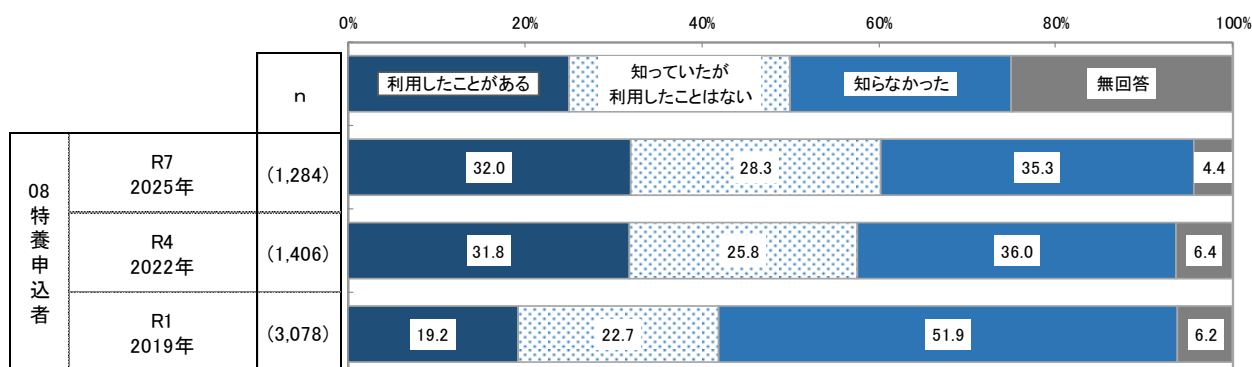
問 「高齢者施設・住まいの相談センター」で高齢者の施設や住まいについての相談を受け付けています。利用したことがありますか。(〇はひとつ)

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	
問番号								26												

高齢者施設・住まいの相談センターの利用状況について、「利用したことがある」は32.0%となっており、「知らなかった」は35.3%となっている。

過去の結果と比較すると、「利用したことがある」に大きな変化はみられなかった。

図表 IV-2-① 高齢者施設・住まいの相談センターの利用状況



② 高齢者施設・住まいの相談センターを利用しない理由

問 利用したことはない理由は何ですか。 (あてはまるものすべてに○)

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	
問 番号								26-2												

高齢者施設・住まいの相談センターを利用しない理由について、「どういった情報を得られるのかわからないから」が30.0%と最も多く、次いで「相談することがないから」が23.4%となっている。

過去の結果と比較すると、「相談することがないから」が増加し、「どういった情報を得られるのかわからないから」が減少している。

図表 IV-2-② 高齢者施設・住まいの相談センターを利用しない理由

			有効回収 (n)	困がわらなから情報得られる範囲か	どういった情報を得られるのか	相談することがないから (困つ	忙しいから相談する時間がないか	自宅から遠いから	平日しか受け付けていないから	日中(9時～17時)しか受け付けていないから	その他	無回答
08 特養 申込 者	R7 2025年	(363)	30.0	23.4	18.5	18.2	15.2	12.1	15.4	5.0		
	R4 2022年	(363)	38.8	14.9	20.4	16.0	14.3	13.5	15.4	2.2		
	R1 2019年	(699)	35.9	21.9	17.3	9.6	13.0	10.0	16.7	5.4		

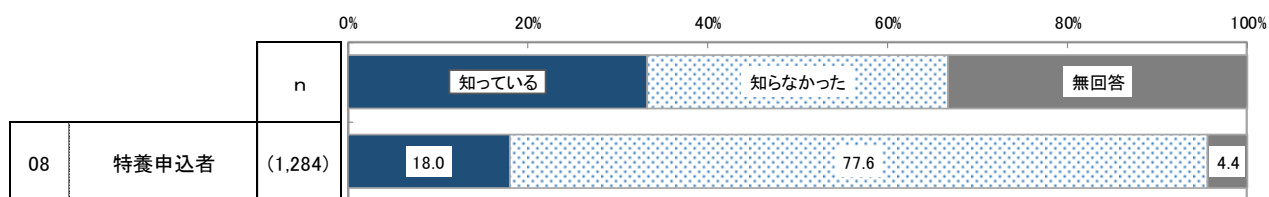
③ 出張相談の認知度

問 港南区を除く17区の地域ケアプラザ等で「高齢者施設・住まいの相談センター」が「出張相談」を行っていることを知っていますか。 (〇はひとつ)

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	
問番号								28												

出張相談の認知度について、「知っている」は18.0%となっており、「知らなかった」は77.6%となっている。

図表 IV-2-③ 出張相談の認知度



④ 特別養護老人ホーム探し的手段（高齢者施設・住まいの相談センター以外）

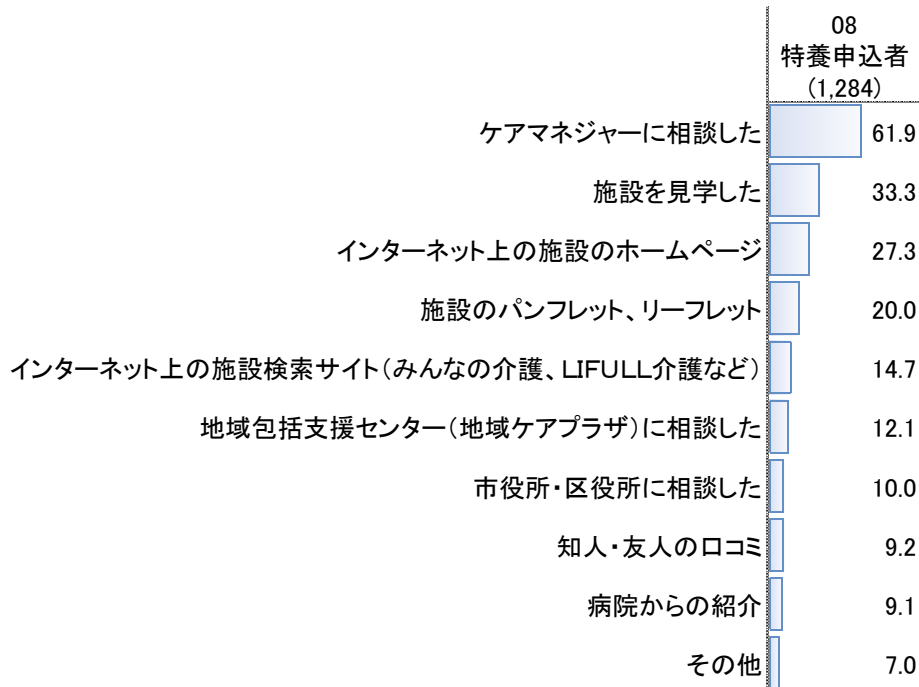
問 特別養護老人ホームの入所申込にあたり、「高齢者施設・住まいの相談センター」以外に、どのような方法・ツールで申請した特養を探しましたか。

（あてはまるものすべてに○）

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
問番号								29											

特別養護老人ホームの申込みに関する相談先について、「ケアマネジャーに相談した」が 61.9%と最も多く、次いで「施設を見学した」が 33.3%となっている。

図表 IV-2-④ 特別養護老人ホームの申込みに関する相談先



V. 安心の介護を提供するために

1 新たな介護人材の確保

① 施設（事業所）を運営する上での課題

問 貴施設を運営する上での問題点はどれですか。

調査 09～12（○は3つまで）
調査 13（あてはまるものすべてに○）

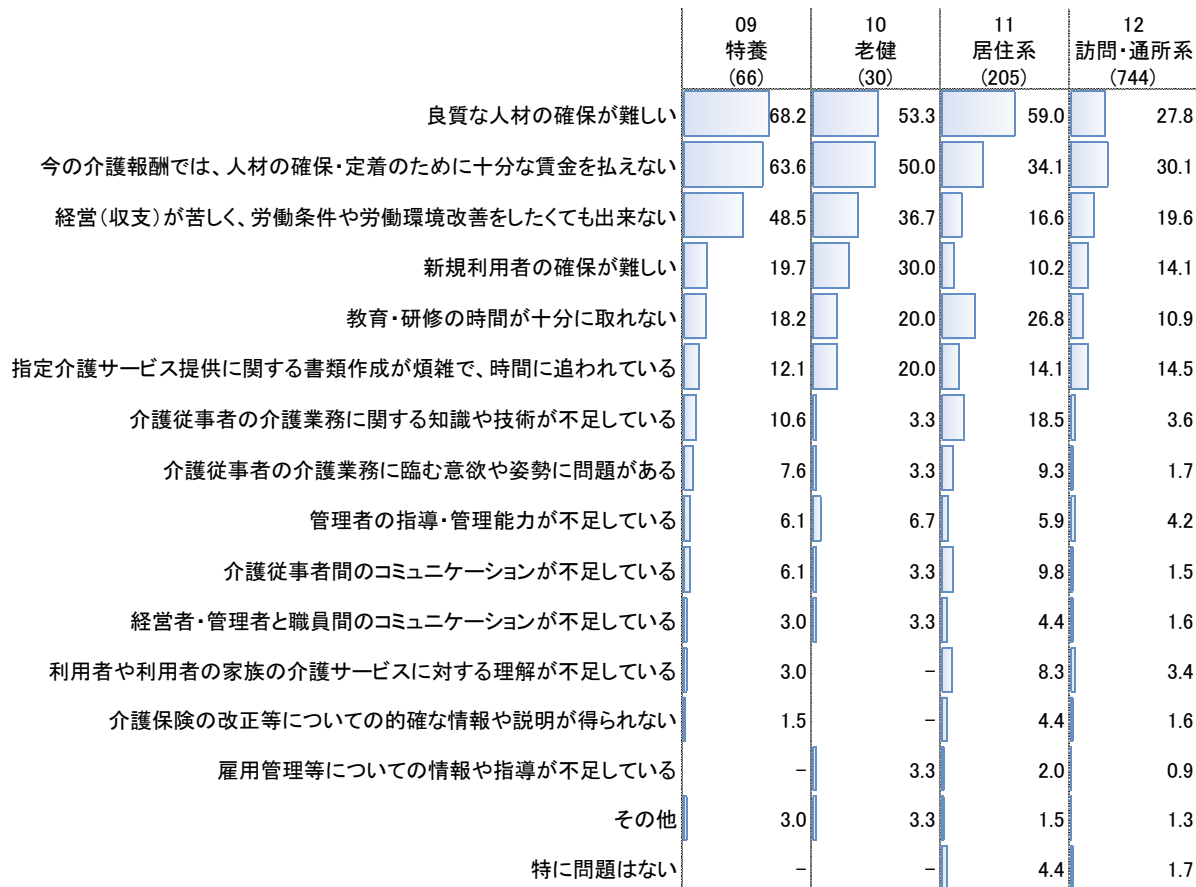
調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
問 番号									29	29	24	20	10						

施設（事業所）を運営する上での課題について、「良質な人材の確保が難しい」は“特養”“老健”“居住系”で最も多く半数以上を占めており、次いで「今の介護報酬では、人材の確保・定着のために十分な賃金を払えない」となっている。

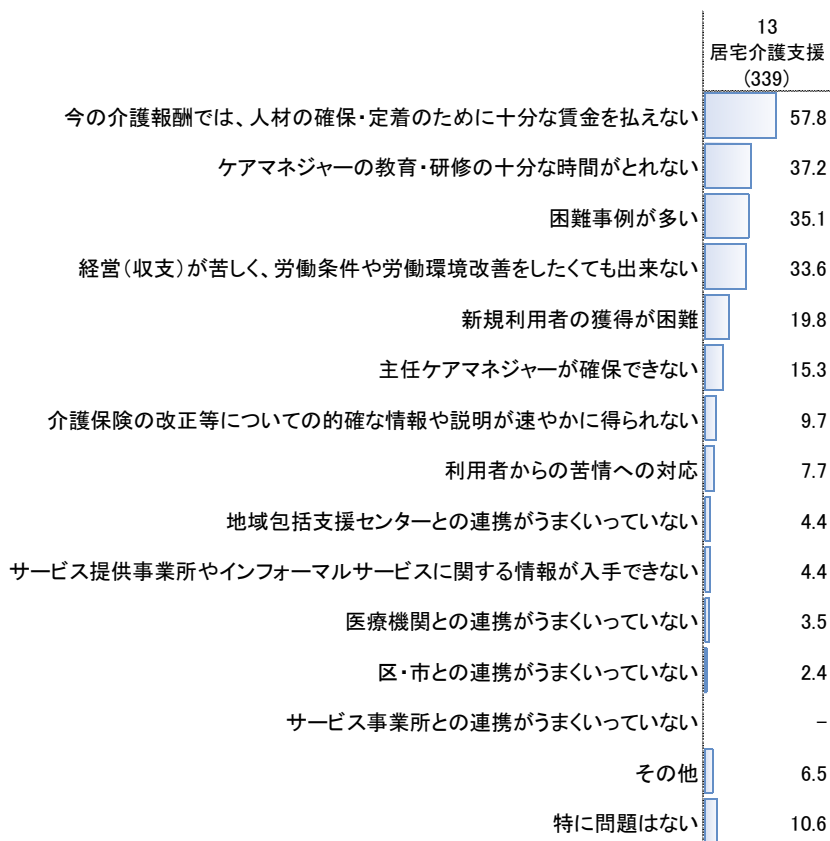
“訪問・通所系”では「今の介護報酬では、人材の確保・定着のために十分な賃金を払えない」が30.1%と最も多くなっている。

“居宅介護支援”では、「今の介護報酬では、人材の確保・定着のために十分な賃金を払えない」が最も多く57.8%となっており、全ての対象施設（事業所）で『人材の確保』に関連する課題が上位となっている。

図表 V-1-① 施設（事業所）を運営する上での課題（特養、老健、居住系、訪問・通所系）



図表 V-1-① 事業所を運営する上での課題（居宅介護支援）



② 施設（事業所）職員の不足状況（全体）

問 貴施設（事業所）では、従業員の過不足の状況はいかがですか。「不足している」とは、募集を必要としていることを指します。 (〇はひとつ)

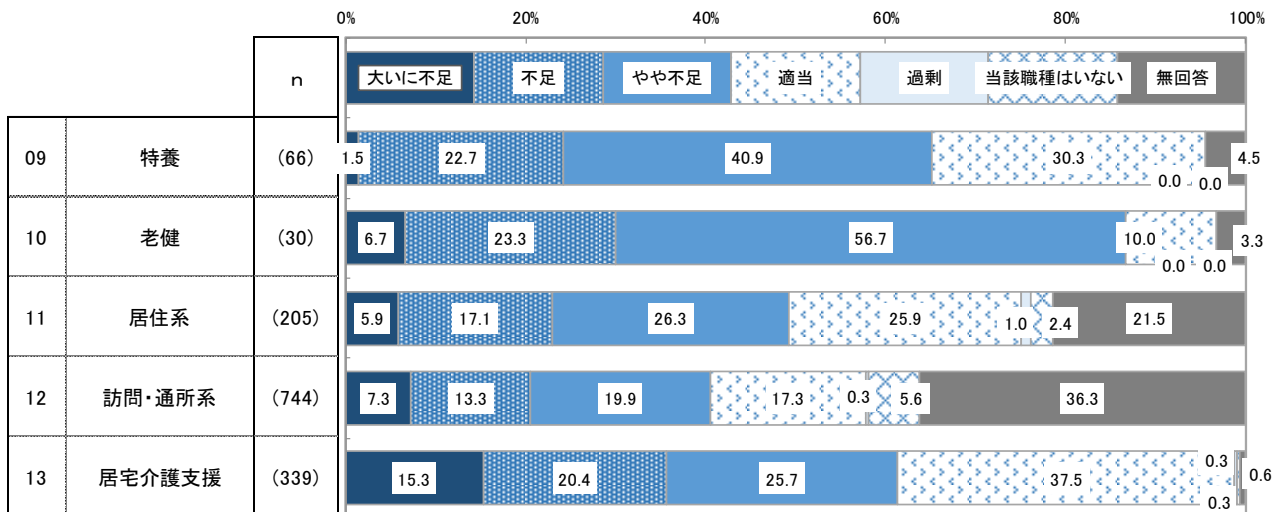
調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
問 番 号									5	4	5	4	4						

施設（事業所）職員の不足状況について、“特養”“老健”“居宅介護支援”では、「大いに不足」「不足」「やや不足」を合計した『不足』が、6割以上を占めている。

一方で、“居住系”“訪問・通所系”では、『不足』は半数を下回っているものの、「無回答」の割合も多くなっている。

過去の結果と比較すると、「大いに不足」「不足」「やや不足」の合計は、“老健”“居住系”“居宅介護支援”で増加している。

図表 V-1-② 施設（事業所）職員の不足状況



【経年比較（大いに不足・不足・やや不足の合計）】

		R7		
		2025年		
		2022年		
		2019年		
09	特養	65.1	70.0	67.4
10	老健	86.7	66.6	72.5
11	居住系	49.3	40.0	50.3
12	訪問・通所系	40.5	41.9	48.8
13	居宅介護支援	61.4	50.8	31.8

③ 施設（事業所）職員が不足している理由

問 不足している理由はどれですか。 (あてはまるものすべてに○)

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
問 番 号									5-1	4-1	5-1	4-1	4-1						

施設（事業所）職員の不足理由について、全ての対象施設（事業所）で「採用が困難である」が約9割と大半を占めている。

また、“特養”“居住系”では「離職率が高い」が約2割となっている。

図表 V-1-③ 不足している理由

	09 特養 (43)	10 老健 (26)	11 居住系 (101)	12 訪問・通所系 (301)	13 居宅介護支援 (208)
採用が困難である	97.7	92.3	87.1	87.4	87.5
離職率が高い(定着率が低い)	23.3	11.5	23.8	18.9	13.5
事業拡大によって必要人数が増大した	-	11.5	7.9	11.0	12.5
その他	9.3	7.7	6.9	9.3	12.5

④ 施設（事業所）での職員採用の工夫

問 貴施設（事業所）では職員の採用に際し、どのような工夫を行っていますか。

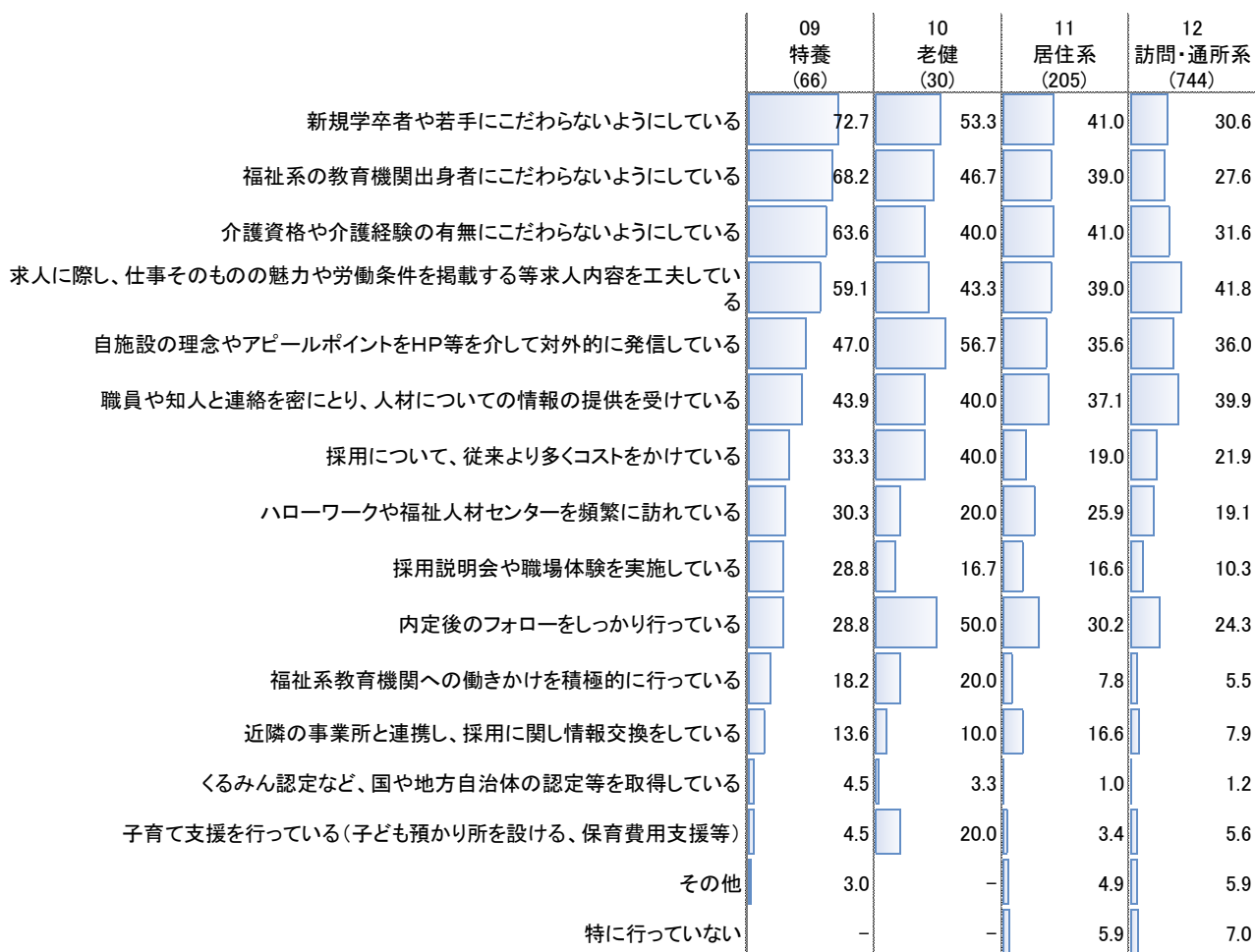
（あてはまるものすべてに○）

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	
問 番 号									7	6	7	6								

施設（事業所）での職員採用の工夫について、“特養”では「新規学卒者や若手にこだわらない」「福祉系の教育機関出身者にこだわらない」「介護資格や介護経験の有無にこだわらない」が6割以上となっている。

一方で、“特養”以外の対象施設（事業所）では、「福祉系の教育機関出身者にこだわらない」「介護資格や介護経験の有無にこだわらない」は半数以下となっている。

図表 V-1-④ 職員採用の工夫



⑤ 介護職のイメージ

問 介護職に対するイメージとしてあてはまるものを選択してください。

(あてはまるものすべてに○)

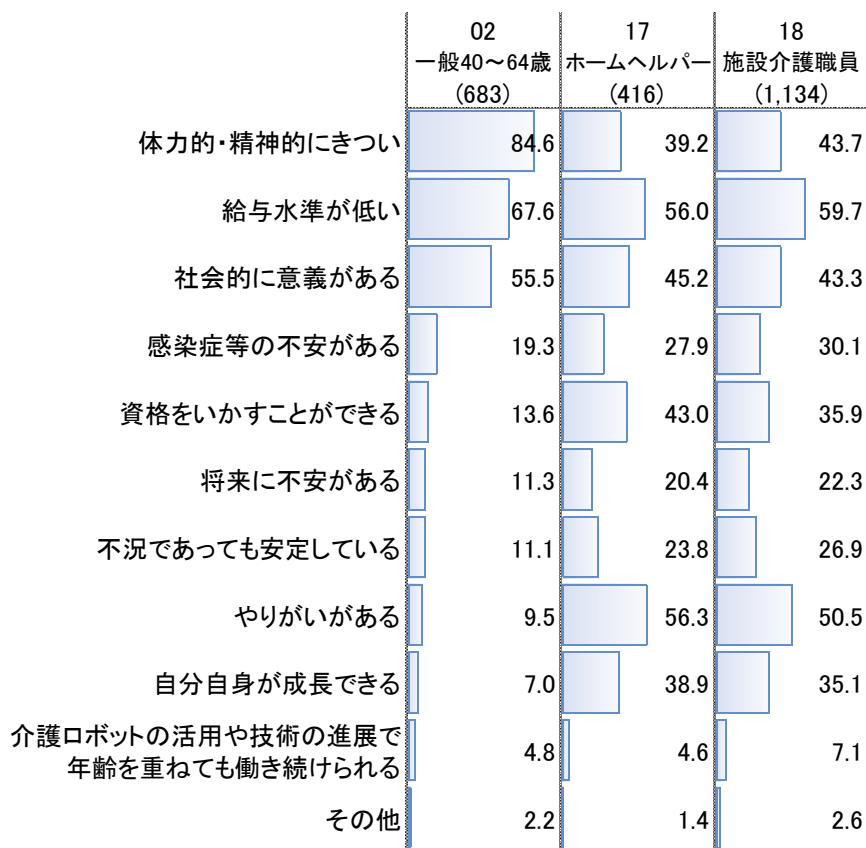
調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
問 番 号		15															8	8	

介護職のイメージについて、“一般40～64歳”では「体力的・精神的にきつい」が84.6%と最も多く、次いで「給与水準が低い」が67.6%となっている。

一方で、“ホームヘルパー”“施設介護職員”では「体力的・精神的にきつい」は4割程度となっており、“一般40～64歳”との差が大きくなっている。

また、「資格をいかすことができる」「やりがいがある」「自分自身が成長できる」についても、“一般40～64歳”に比べて、“ホームヘルパー”“施設介護職員”では多くなっている。

図表 V-1-⑤ 介護職のイメージ



⑥ 外国人介護職員の採用状況

問 貴施設（事業所）における外国人介護職員の採用人数についてご記入ください。

（令和7年10月1日現在）

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	
問 番号									4-2	3-2	4-2	3-2								

介護施設（事業所）における外国人介護職員の採用状況について、「訪問・通所系」を除く対象で「特定技能1号」が最も多くなっており、過去の結果と比較しても大幅に増加している。

また、「介護」についても過去の結果と比較して増加している一方で、「技能実習」は“特養”において大幅な減少となっている。

図表 V-1-⑥ 外国人介護職員の採用状況

		有効回収数 (n)	（%）					平均人数 (施設当たり※)	
	定「特定活動」 (EPA)		「介護」	「技能実習」 (介護)	「特定技能1号」 (介護)	「留学」	その他		
09	特養	(66)	16.7	43.9	16.7	78.8	4.5	19.7	8.8
10	老健	(30)	6.7	33.3	20.0	66.7	-	20.0	6.8
11	居住系	(205)	1.0	13.2	6.8	20.5	0.5	12.7	3.0
12	訪問・通所系	(744)	0.4	4.3	2.0	3.9	0.3	4.3	2.8

※平均人数は、外国人介護職員数÷外国人介護職員を採用している施設（事業所）数

【経年比較】

	09 特養		10 老健		11 居住系		12 訪問・通所系	
	R7	R4	R7	R4	R7	R4	R7	R4
	2025年	2022年	2025年	2022年	2025年	2022年	2025年	2022年
特定活動	16.7	20.0	6.7	13.3	1.0	2.4	0.4	0.5
介護	43.9	20.0	33.3	22.2	13.2	9.0	4.3	3.8
技能実習	16.7	41.0	20.0	15.6	6.8	9.3	2.0	1.1
特定技能1号	78.8	31.0	66.7	17.8	20.5	9.9	3.9	1.1
留学	4.5	8.0	0.0	0.0	0.5	1.5	0.3	0.2
その他	19.7	14.0	20.0	17.8	12.7	8.1	4.3	2.6

※在留資格の説明

1	『特定活動』(経済連携協定(EPA))	経済連携協定(EPA)(日本と相手国との経済活動の連携強化を図るもの)等に基づき、インドネシア、フィリピン、ベトナムの3カ国から来日した外国人、及び、同制度で来日後に介護福祉士資格を取得した外国人。
2	『介護』	介護福祉士の国家資格を取得し、『介護』の在留資格で働く外国人。
3	『技能実習』(介護)	技能実習制度に基づく技能実習生として来日した外国人のうち、介護の職種での就労を目的とした外国人。
4	『特定技能1号』(介護)	平成31年4月から始まった特定技能制度に基づき、介護の職種での就労を目的とした外国人。
5	『留学』	介護福祉士を目指し、日本語学校や介護福祉士養成校に通う外国人留学生。

⑦ 外国人介護職員の採用予定

問 今後、外国人介護職員を採用する予定はありますか。採用する予定がある場合、どの区分での受入れを考えていますか。
(あてはまるものすべてに○)

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	
問 番 号									9	8	9	8								

今後の外国人介護職員の採用予定について、“特養”“老健”“居住系”ともに「特定技能1号」が最も多く、特に“特養”では59.1%と半数を上回っている。次いで「介護」が多く、“特養”で34.8%、“老健”で30.0%となっている。

受け入れ予定のある施設・事業所は、“特養”“老健”で7割を上回っており、“居住系”で41.0%、“訪問・通所系”では21.9%となっている。

経年で比較すると、受け入れ予定がある施設・事業所は全ての対象で増加しており、特に“特定技能1号”が多くなっている。

図表 V-1-⑦ 今後の外国人介護職員の採用予定

		有効回収数 (n)	有効回収数に対する割合 (%)							採用予定の有無 (%)	
			携協定(EPA)・経済連	『介護』	『技能実習』(介護)	『特定技能1号』(介護)	『留学』	い 在留資格にこだわらな	その他	受け入れ予定がある	ない
09	特養	(66)	6.1	34.8	13.6	59.1	3.0	3.0	3.0	72.7	24.2
10	老健	(30)	10.0	30.0	16.7	43.3	3.3	6.7	3.3	70.0	23.3
11	居住系	(205)	3.4	14.1	10.2	20.5	-	5.9	2.9	41.0	51.2
12	訪問・通所系	(744)	0.9	9.7	3.6	7.1	0.4	5.4	2.7	21.9	69.8

【経年比較】

	09 特養		10 老健		11 居住系		12 訪問・通所系	
	R7	R4	R7	R4	R7	R4	R7	R4
	2025年	2022年	2025年	2022年	2025年	2022年	2025年	2022年
特定活動	6.1	11.0	10.0	8.9	3.4	6.0	0.9	2.9
介護	34.8	16.0	30.0	11.1	14.1	11.3	9.7	6.8
技能実習	13.6	22.0	16.7	20.0	10.2	10.7	3.6	4.2
特定技能1号	59.1	35.0	43.3	15.6	20.5	12.5	7.1	3.5
留学	3.0	11.0	3.3	2.2	0.0	3.3	0.4	2.2
在留資格に こだわらない	3.0	9.0	6.7	4.4	5.9	4.2	5.4	4.4
その他	3.0	3.0	3.3	4.4	2.9	2.7	2.7	1.5
予定がある	72.7	55.0	70.0	42.2	41.0	27.2	21.9	11.4
ない	24.2	45.0	23.3	57.8	51.2	72.8	69.8	88.6

⑧ 介護施設（事業所）が新規人材の確保に効果的だと思う自治体の取組

問 介護職員の人材不足に対し、新たな人材の確保に向けた自治体の取組として、効果的と考えるものは次のうちどれですか。（あてはまるものすべてに○）

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	
問 番号									8	7	8	7								

新規人材の確保に効果的だと思う取組について、“特養”“老健”では「人材紹介料の補助」が最も多く半数を上回っている。

一方で、“居住系”“訪問・通所系”では「若い世代に向けた介護業界のイメージアップ」「多様な働き方の導入支援」が多くなっている。

図表 V-1-⑧ 新規人材の確保のための取組



2 介護人材の定着支援

① 悩みのある介護職員の有無

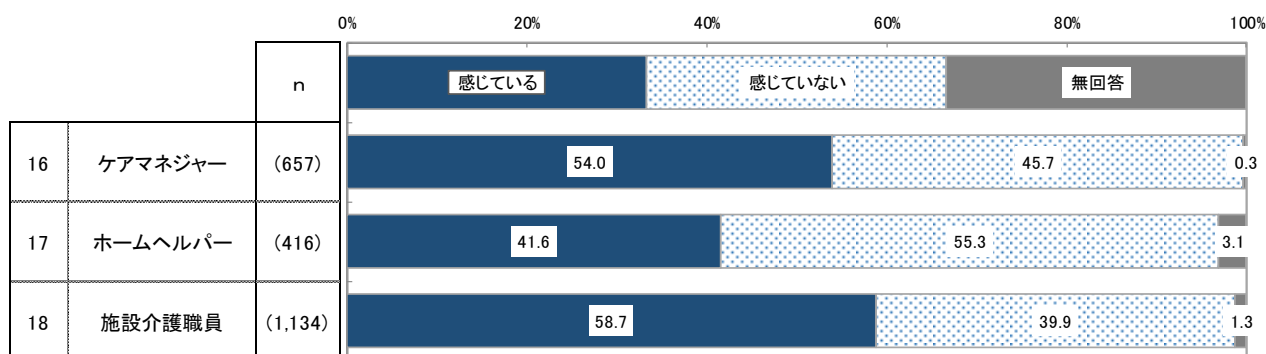
問 あなたは、現在の職場の労働条件や労働環境に対して、悩みや不満を感じていますか。
(〇はひとつ)

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
問番号																7	5	5	

現在の職場での悩みや不満の有無について、“ケアマネジャー”“施設介護職員”では「感じている」が半数を上回っている。一方で、“ホームヘルパー”では「感じていない」が半数を上回っている。

過去の結果と比較すると、大きな変化はみられなかった。

図表 V-2-① 現在の職場での悩みや不満の有無



【経年比較（悩みや不満を感じている）】

		(%)		
		R7	R4	R1
		2025年	2022年	2019年
16	ケアマネジャー	54.0	53.2	63.3
17	ホームヘルパー	41.6	43.9	56.1
18	施設介護職員	58.7	62.8	73.8

② 労働条件や労働環境で抱えている悩みの内容

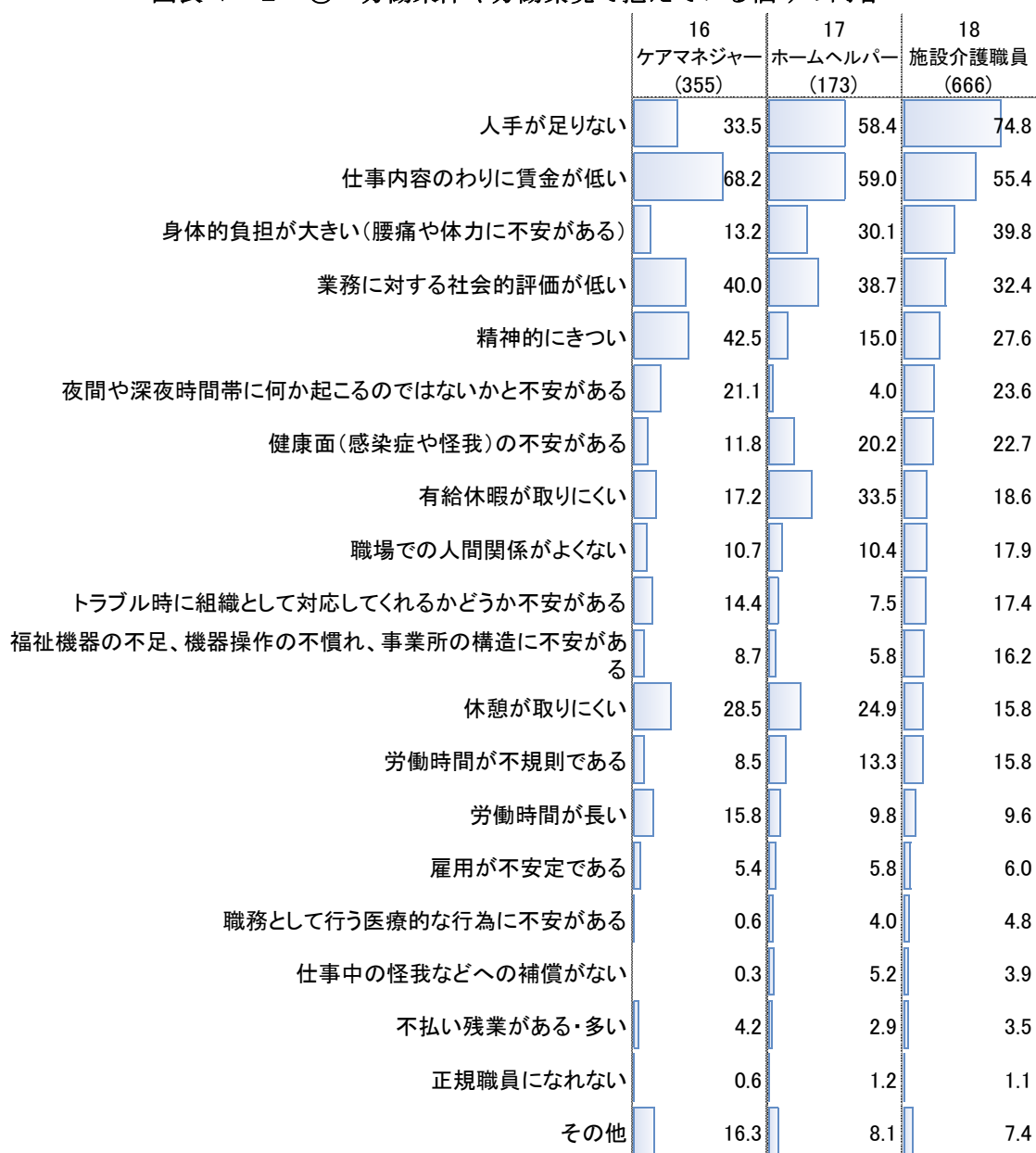
問 労働条件や労働環境のどこに悩みや不満を感じていますか。(あてはまるものすべてに○)

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
問 番号																7-1	5-1	5-1	

悩みや不満の内容について、“ケアマネジャー”では「仕事内容のわりに賃金が低い」が68.2%と最も多く、次いで「精神的にきつい」が42.5%となっている。

“ホームヘルパー”では「仕事内容のわりに賃金が低い」が59.0%と最も多く、“施設介護職員”では「人手が足りない」が74.8%と最も多くなっている。

図表 V-2-② 労働条件や労働環境で抱えている悩みの内容



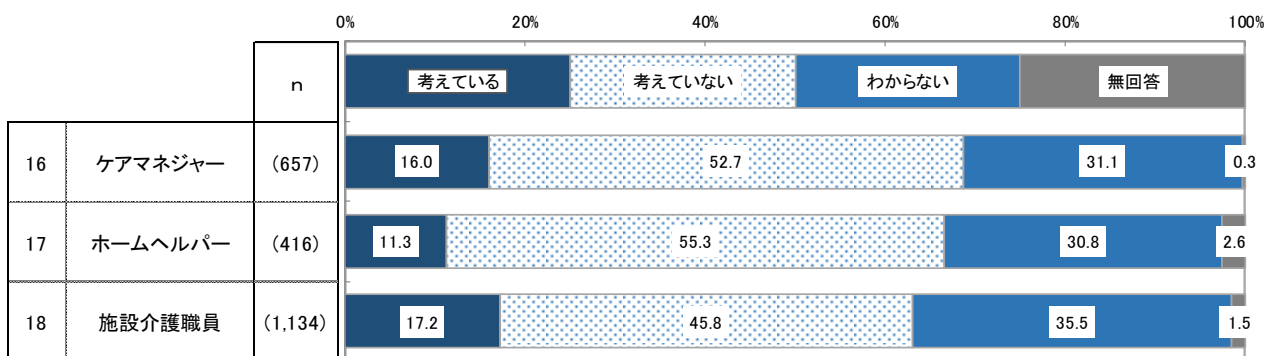
③ 今後の転職意向

問 あなたは、今後、他の職場へ転職することを考えていますか。(〇はひとつ)

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
問番号																9	7	7	

今後の転職意向について、“ケアマネジャー”“施設介護職員”では「考えている」が約2割となっており、“ホームヘルパー”は約1割となっている。

図表 V-2-③ 今後の転職意向



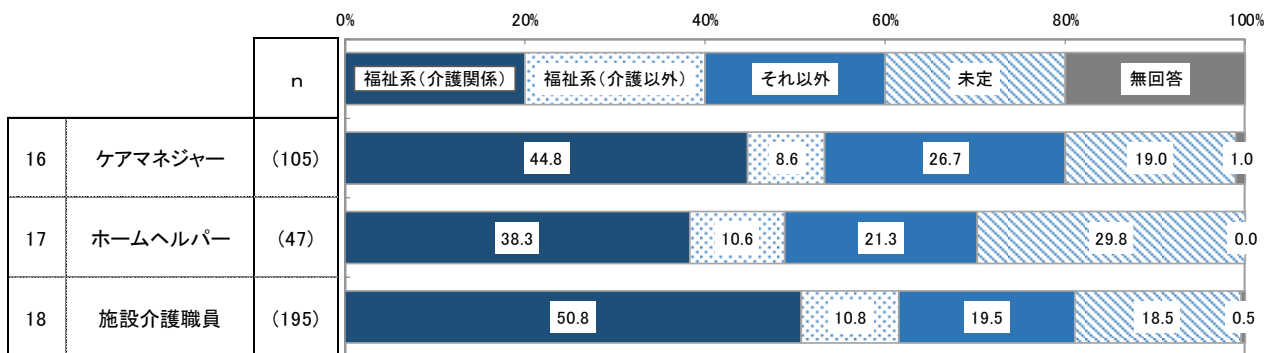
④ 転職先として検討している業界

問 今後どのような分野への転職を考えていますか。(〇はひとつ)

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
問番号																9-1	7-1	7-1	

転職先として検討している業界について、全ての職種で「福祉系(介護関係)」が最も多くなっており、福祉以外への転職「それ以外」は約2割となっている。

図表 V-2-④ 転職先として検討している業界



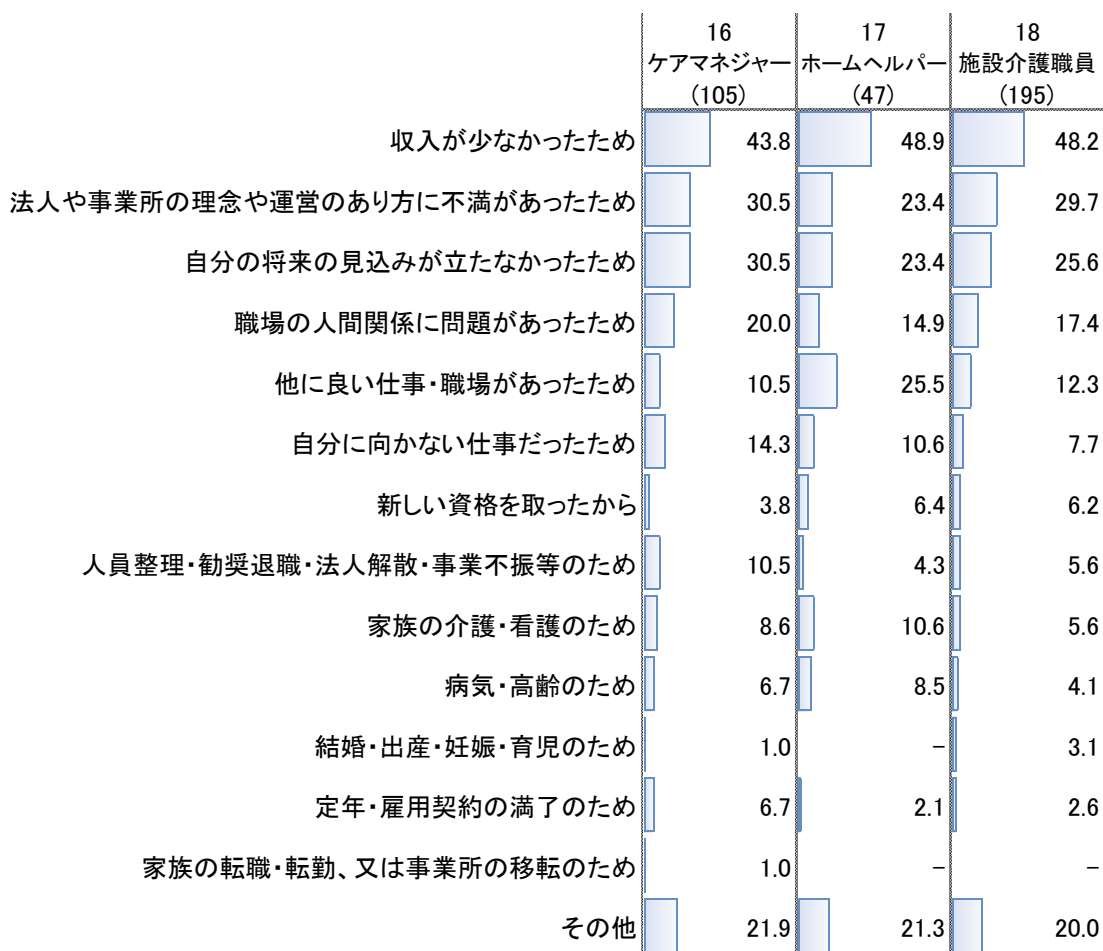
⑤ 転職を検討している理由

問 他の職場へ転職することを考えている理由は何ですか。 (あてはまるものすべてに○)

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
問 番号																9-2	7-2	7-2	

転職を検討している理由について、全ての職種で「収入が少なかったため」が最も多くなっており、「法人や事業所の理念や運営のあり方に不満があったため」「自分の将来の見込みが立たなかったため」が全ての職種で2割を上回っている。

図表 V-2-⑤ 転職を検討している理由



⑥ 待遇面で法人等に希望する取組

問 法人や施設（事業所）に待遇面で取り組んでほしいことは何ですか。

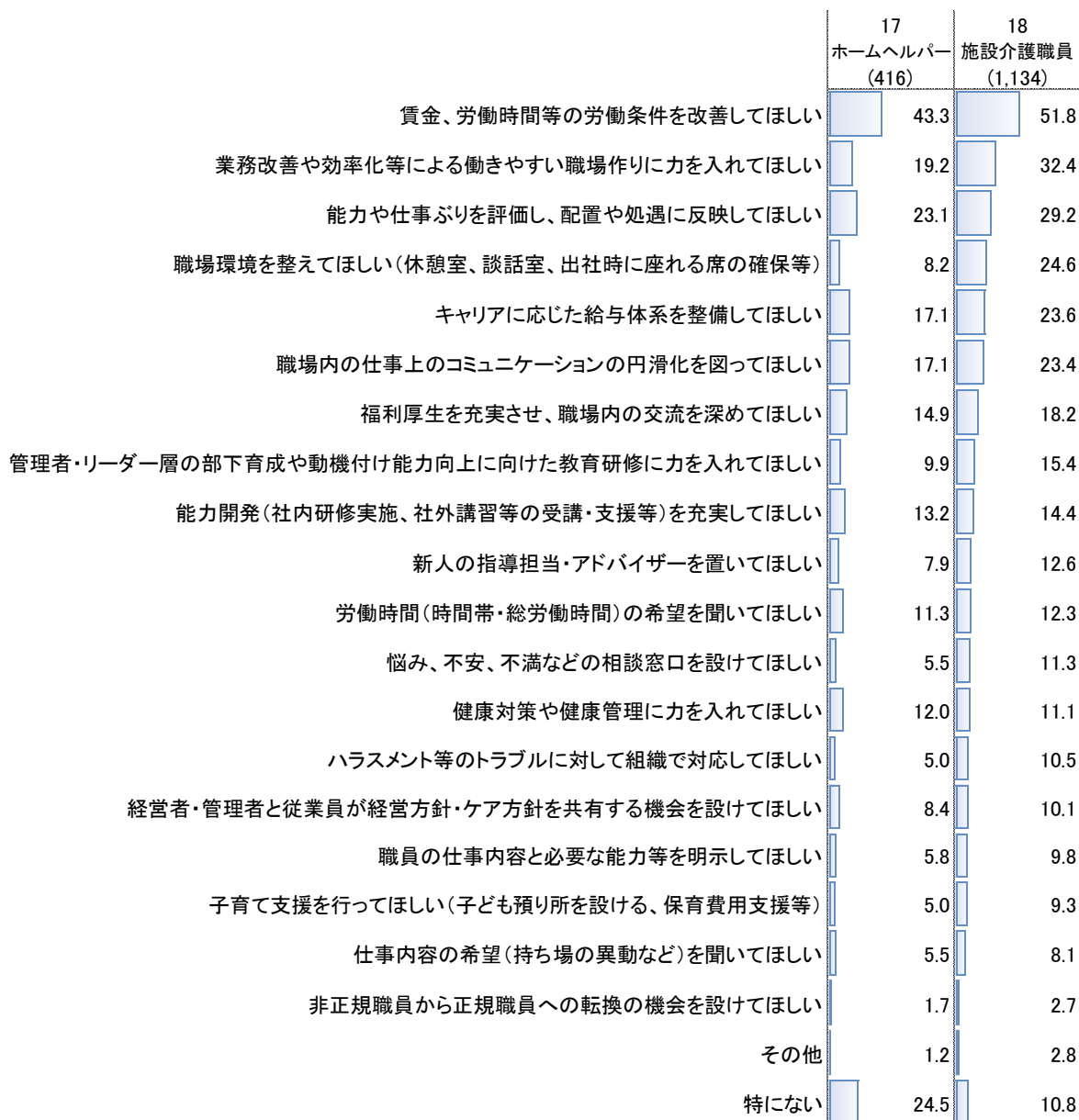
（あてはまるものすべてに○）

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
問 番 号																	14	11	

待遇面で法人等に希望する取組について、全ての職種で「賃金、労働時間等の労働条件を改善してほしい」が最も多く約半数を占めており、次いで「能力や仕事を評価し、配置や処遇に反映してほしい」「業務改善や効率化等による働きやすい職場作りに力を入れてほしい」が上位となっている。

“ホームヘルパー”では「特にない」が24.5%となっており“施設介護職員”と比較して多くなっている。

図表 V-2-⑥ 待遇面で法人等に希望する取組



⑦ 職員の早期離職防止や定着のための事業所の取組

問 職員の早期離職防止や定着促進を図るために、実施しているものを教えてください。

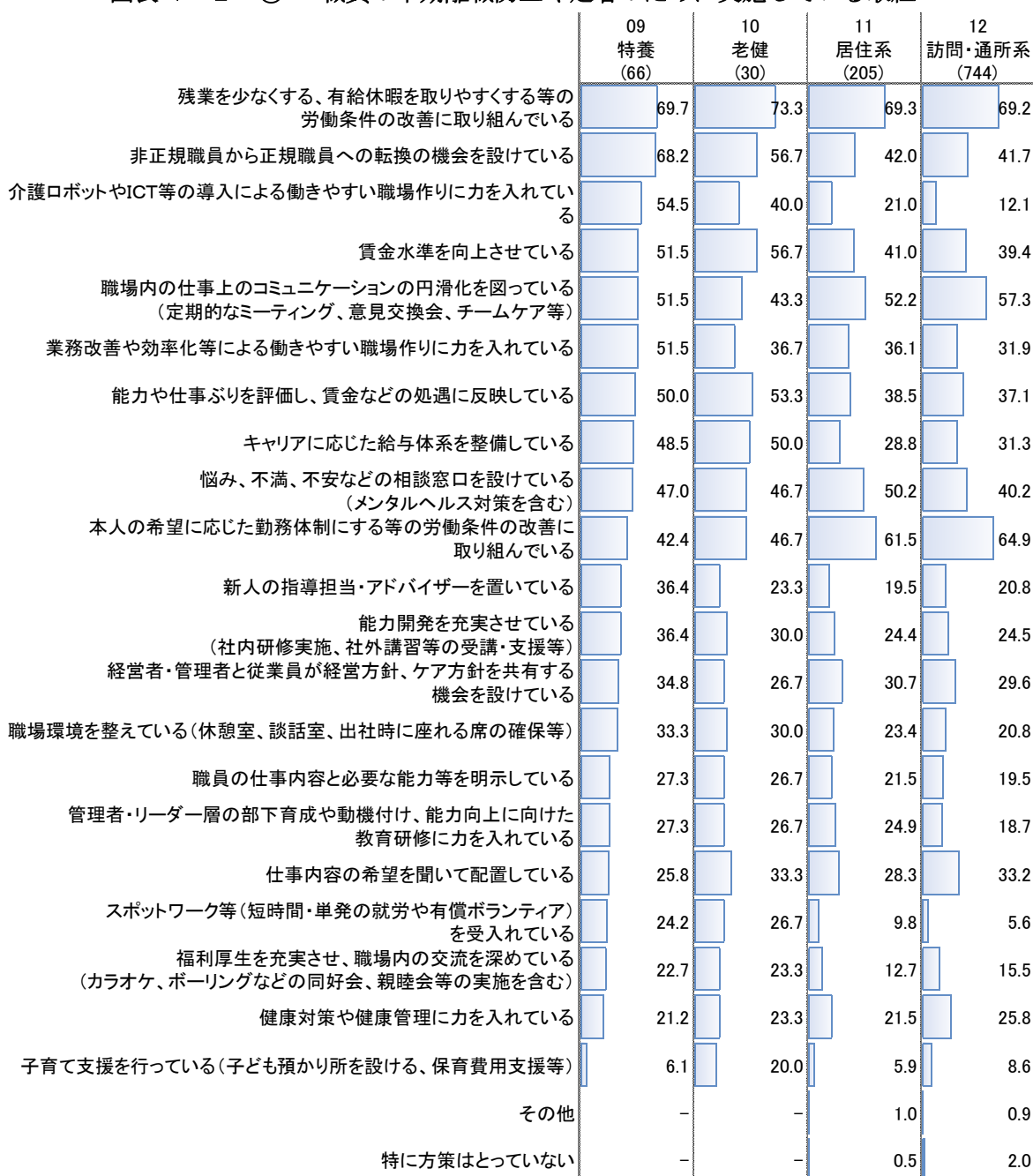
(あてはまるものすべてに○)

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	
問 番 号									11	10	11	10								

職員の早期離職防止や定着のために実施している取組について、全ての対象で「残業を少なくする、有給休暇を取りやすくする等の労働条件の改善に取り組んでいる」が最も多くなっている。

“特養”“老健”では「非正規職員から正規職員への転換の機会を設けている」が半数を上回っており、“居住系”“訪問・通所系”では「本人の希望に応じた勤務体制にする等の労働条件の改善」「職場内の仕事上のコミュニケーションの円滑化を図っている」が半数を上回っている。

図表 V-2-⑦ 職員の早期離職防止や定着のために実施している取組



⑧ 介護職員処遇改善計画書の周知方法

問 貴施設では、どのように介護職員等処遇改善計画書の周知を行っていますか。

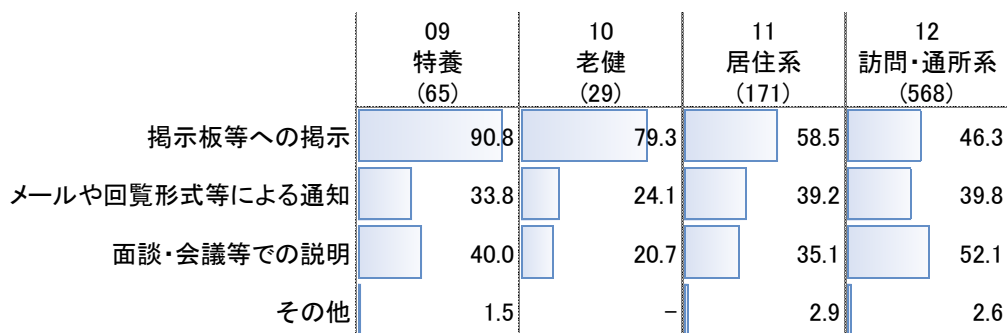
(あてはまるものすべてに○)

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
問 番 号									16-1	15-1	16-1	15-1							

介護職員処遇改善計画書の周知方法について、“特養”“老健”“居住系”では「掲示板等への掲示」が最も多く、“特養”で90.8%、“老健”で79.3%、“居住系”で58.5%となっている。

一方で、“訪問・通所系”では「面談・会議等での説明」が52.1%と最も多くなっている。

図表 V-2-⑧ 介護職員処遇改善加算計画書の周知状況



3 専門性の向上

① 介護職員の研修への参加状況

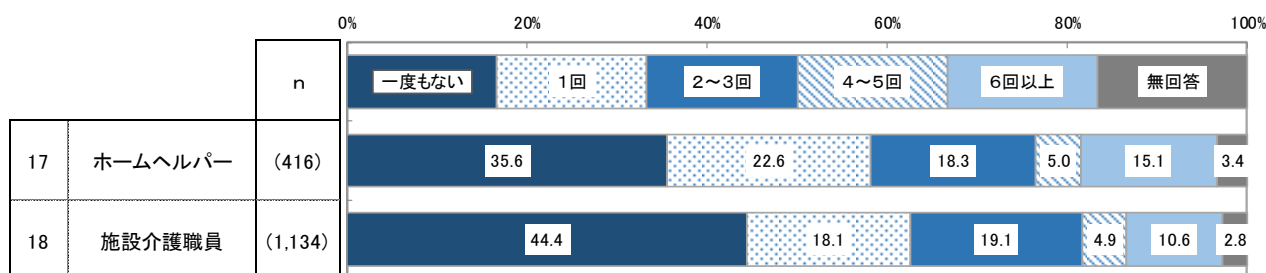
問 あなたは、今の施設（事業所）で過去1年間に外部研修に参加したことはありますか。
(〇はひとつ)

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
問番号																	15	12	

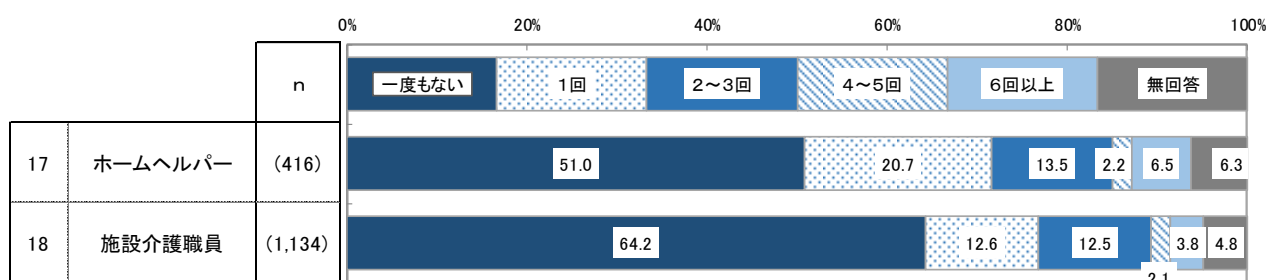
介護職員の外部研修への参加状況について、事業所指定の研修では、「一度もない」が“ホームヘルパー”で35.6%、“施設介護職員”で44.4%となっており、『1～3回』が“ホームヘルパー”では40.9%、“施設介護職員”では37.2%となっている。

自主参加の研修では、「一度もない」が半数以上となっており、事業所指定の研修に比べて参加自体が少なくなっている。

図表 V-3-① 介護職員の研修への参加状況
【事業所指定の研修】



【自主参加の研修】



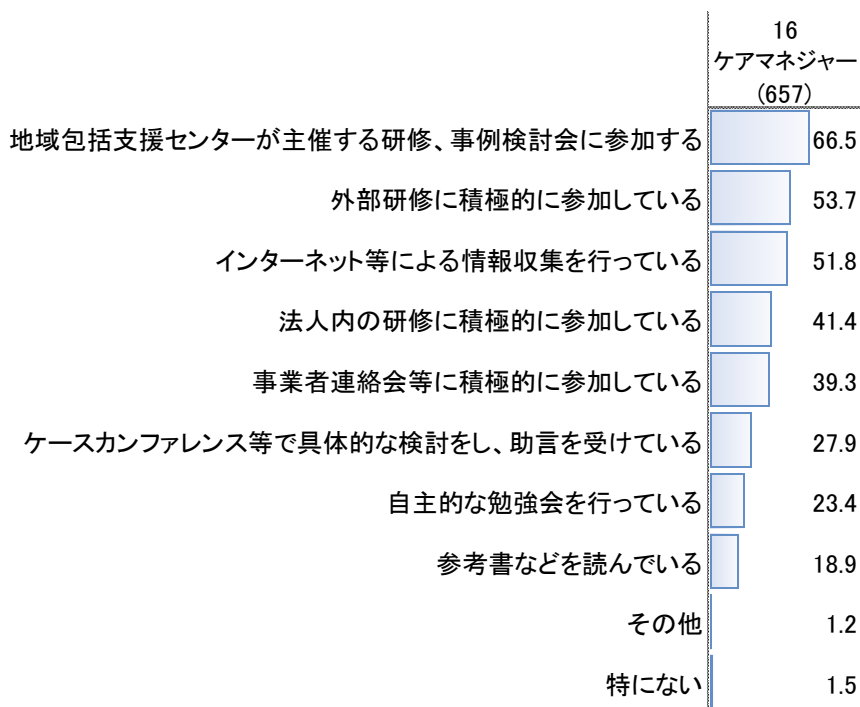
② ケアマネジャーのスキルアップの取組

問 自分自身の「ケアマネジャー業務のレベルアップ」のために、現在、どのような取組を行っていますか。
(あてはまるものすべてに○)

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
問 番 号																38			

ケアマネジャーが自身のスキルアップのために取り組んでいることについて、「地域包括支援センターが主催する研修、事例検討会に参加する」が66.5%で最も多く、次いで「外部研修に積極的に参加している」が53.7%となっている。

図表 V-3-② ケアマネジャーがスキルアップのために取り組んでいること



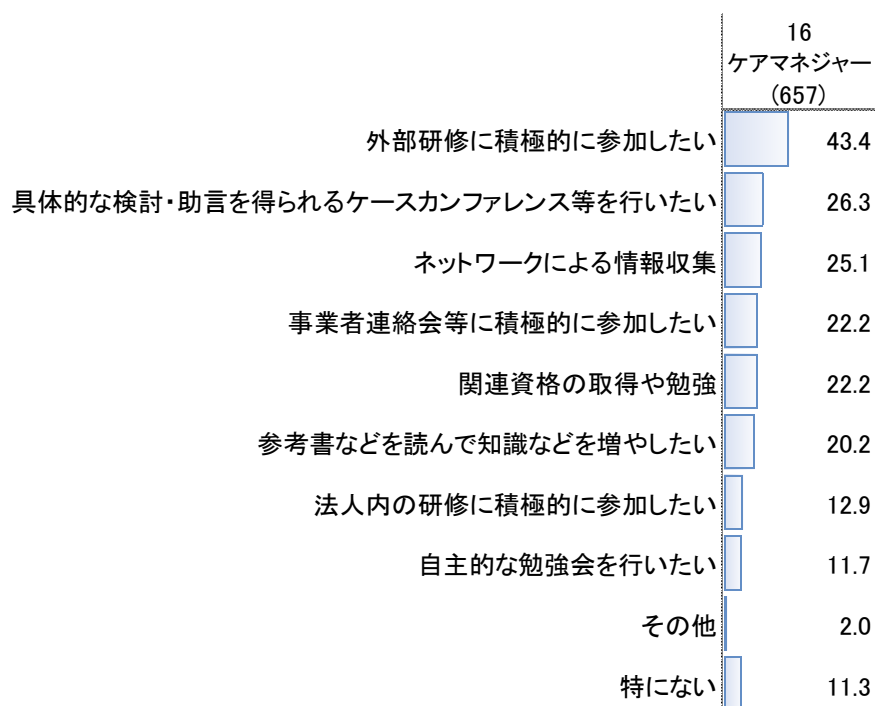
③ ケアマネジャーがスキルアップのために取り組みたいこと

問 自分自身の「ケアマネジャー業務のレベルアップ」のために、現在は行っていないが、今後始めたいと思っている取組はありますか。 (あてはまるものすべてに○)

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
問 番 号																39			

ケアマネジャーが自身のスキルアップのために今後取り組みたいことについて、「外部研修に積極的に参加したい」が43.4%と最も多く、次いで「具体的な検討・助言を得られるケースカンファレンス等を行いたい」が26.3%となっている。

図表 V-3-③ ケアマネジャーがスキルアップのために今後取り組みたいこと



4 介護現場の業務改善（生産性向上）

① スポットワークの受入れ状況【新規】

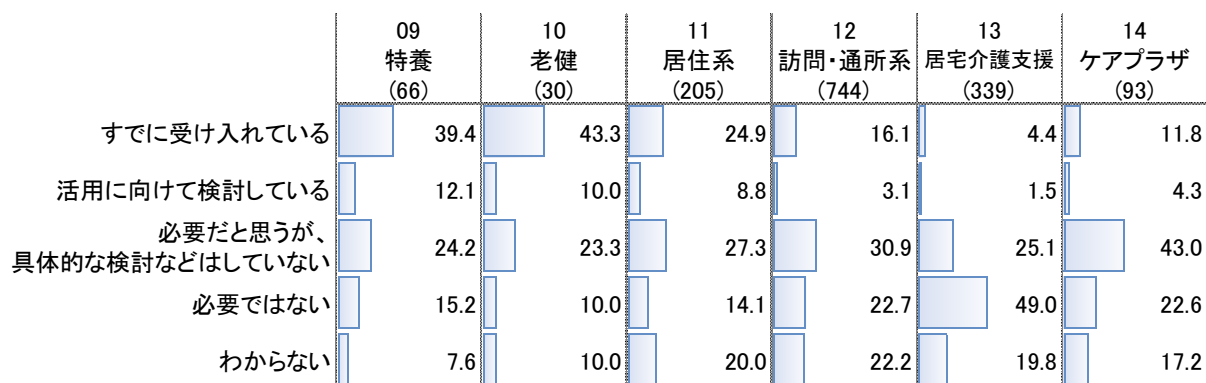
問 『スポットワーク等（短時間・単発の就労や有償ボランティア）』の受入れについてどのよう
に考えていますか。 (〇はひとつ)

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
問 番 号									12	11	12	11	5	3					

スポットワークの受け入れについて、“特養”“老健”では「すでに受け入れている」が約4割となっている。

一方で、“居住系”“訪問・通所系”“ケアプラザ”では「必要だと思うが、具体的な検討などはしていない」が最も多く、“居宅介護支援”では「必要ではない」が49.0%と最も多くなっている。

図表 V-4-① スポットワークの受け入れ状況



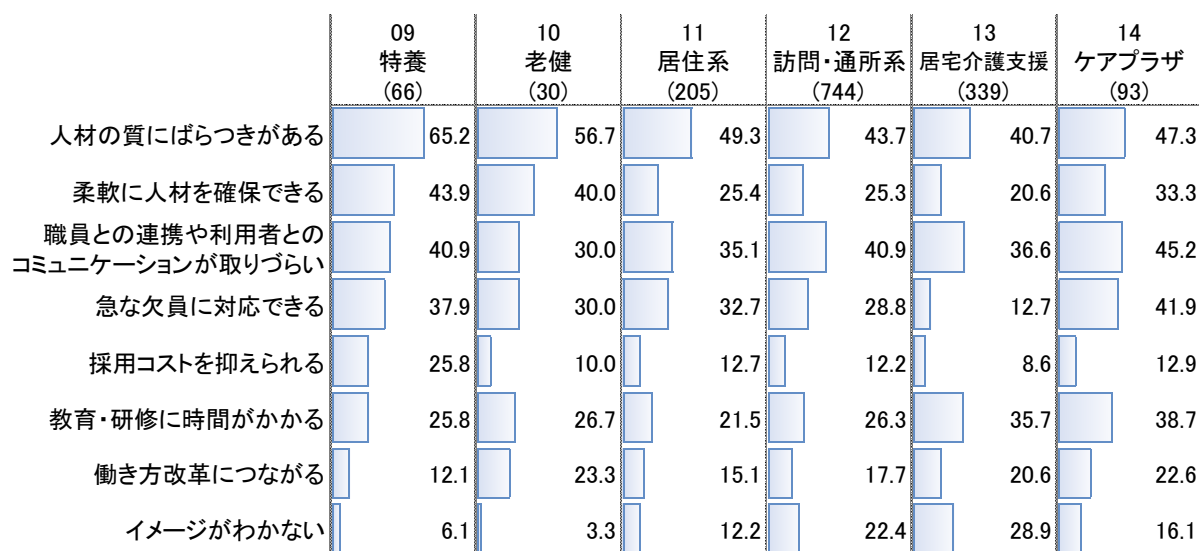
② スポットワーク等のイメージ【新規】

問 『スポットワーク等（短時間・単発の就労や有償ボランティア）』についてどのようなイメージを持っていますか。
(あてはまるものすべてに○)

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
問 番号									13	12	13	12	6	4					

スポットワーク等へのイメージについて、全ての対象で「人材の質にばらつきがある」が最も多くなっており、次いで「柔軟に人材を確保できる」「急な欠員に対応できる」といったポジティブなイメージや、「職員との連携や利用者とのコミュニケーションが取りづらい」といったネガティブなイメージが混在している。

図表 V-4-② スポットワーク等のイメージ



③ 採用しているスポットワーク等の働き方【新規】

問 貴施設で採用しているスポットワーク等の働き方について教えてください。

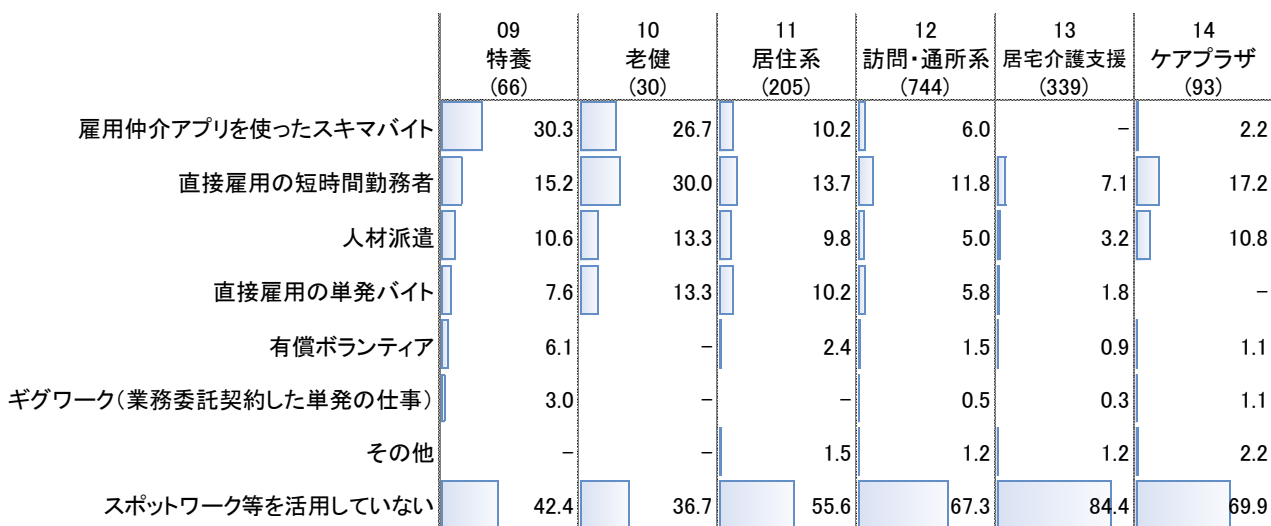
(あてはまるものすべてに○)

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
問 番 号									14	13	14	13	7	5					

採用しているスポットワーク等の働き方について、“特養”“老健”では「雇用仲介アプリを使ったスキマバイト」が多く約3割となっており、“老健”では「直接雇用の短時間勤務者」も同程度となっている。

また、“居住系”“訪問・通所系”“ケアプラザ”では「直接雇用の短時間勤務者」が1割程度となっている。

図表 V-4-③ 採用しているスポットワーク等



④ 介護助手の受け入れ状況【新規】

問 『介護助手』の受入れについてどのように考えていますか。

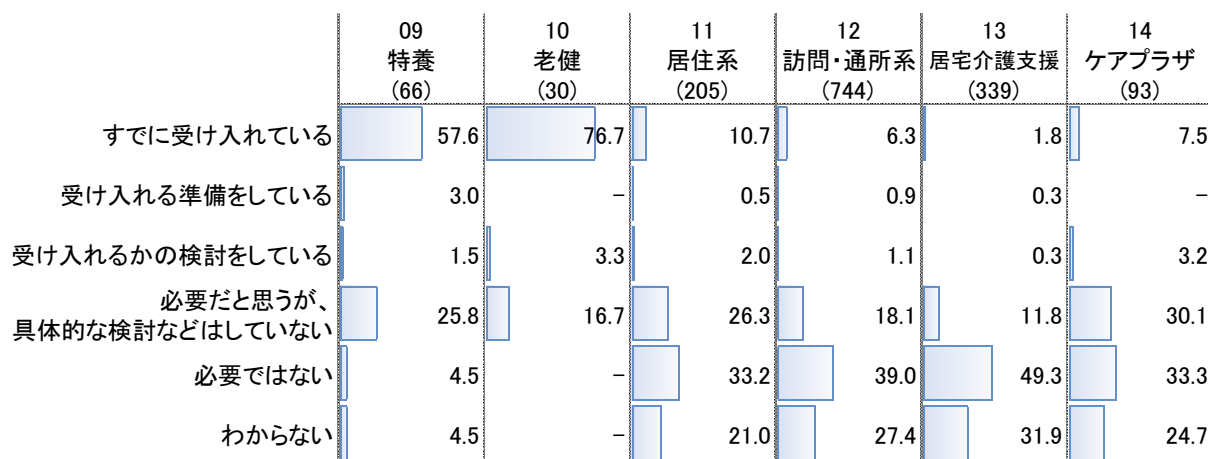
(〇はひとつ)

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
問 番 号									15	14	15	14	8	6					

介護助手の受入状況について、“特養”“老健”では「すでに受け入れている」が半数を上回っている。

一方で、“居住系”“訪問・通所系”“居宅介護支援”“ケアプラザ”では「必要ではない」が最も多く3～4割となっている。

図表 V-4-④ 介護助手の受け入れ時状況



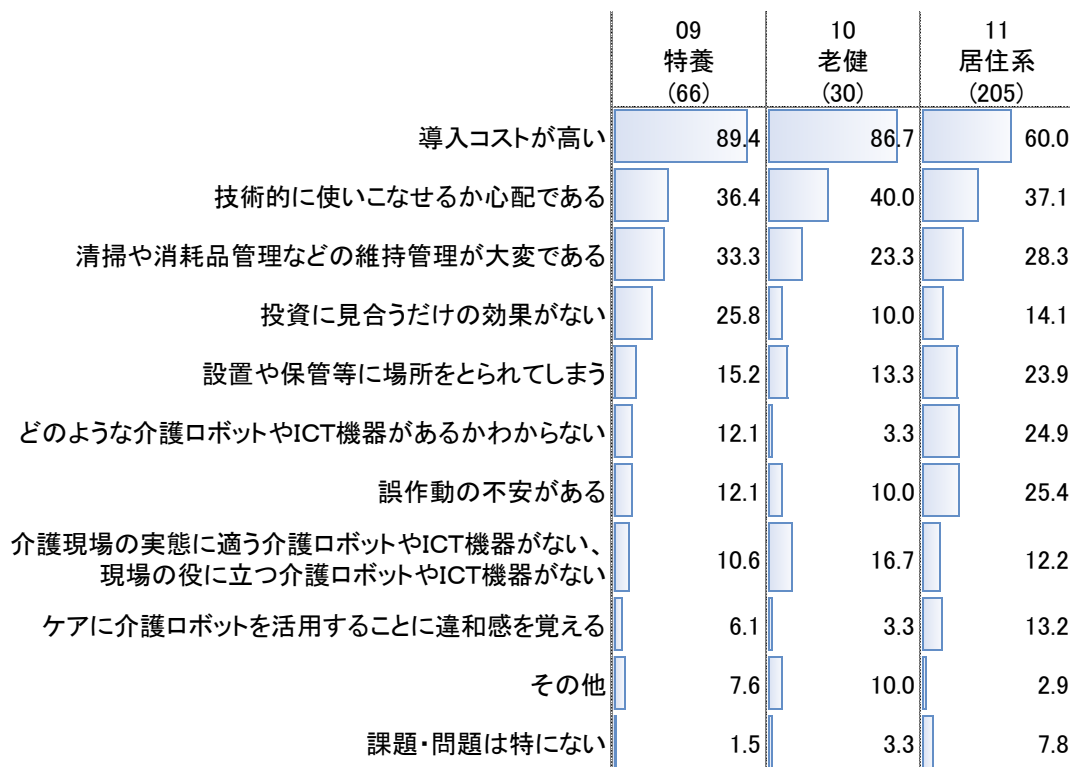
⑤ 介護ロボット・ICT 機器の導入の課題

問 介護ロボット等、ICT 機器の導入や利用についてどのような課題・問題があるとお考えですか。
(あてはまるものすべてに○)

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	
問 番号									27	27	22									

介護ロボットなどの導入の課題について、全ての対象で「導入コストが高い」が最も多く半数を上回っている。次いで「技術的に使いこなせるか心配である」が約4割となっている。

図表 V-4-⑤ 介護ロボット・ICT 機器の導入の課題



VI. 安定した介護保険制度の運営に向けて

1 介護サービスの適正化・質の向上

① 地域ケアプラザが考える地域包括ケアシステムの深化・推進に向けた優先課題

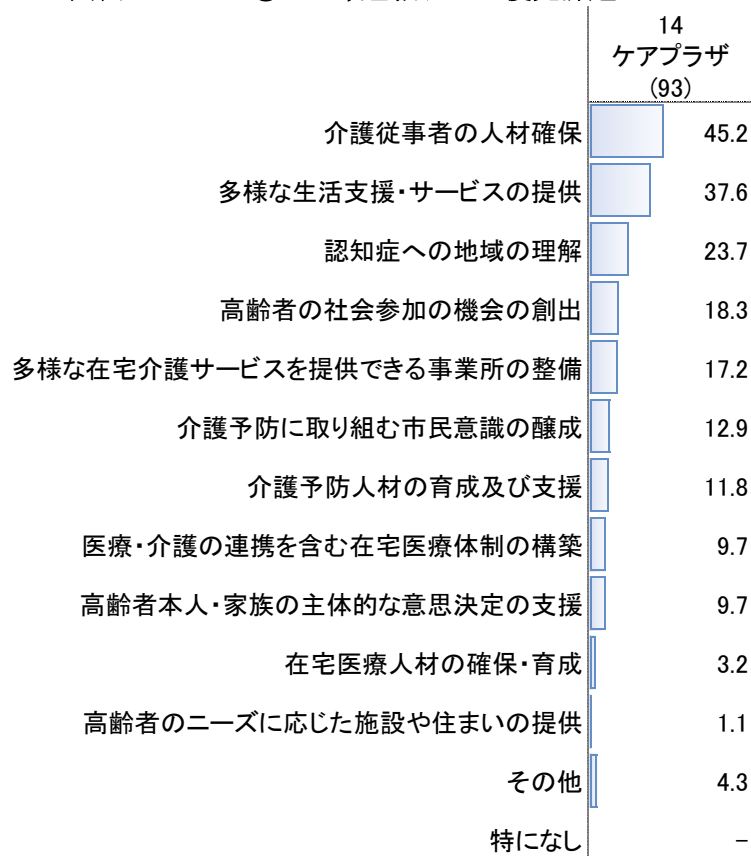
問 地域包括ケアシステムの深化・推進に向けて優先度の高いと思う課題は何ですか。

(〇は2つまで)

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
問 番 号														16					

地域包括ケアシステムの優先課題について、「介護従事者の人材確保」が45.2%と最も多く、次いで「多様な生活支援・サービスの提供」が37.6%となっている。

図表 VI-1-① 地域包括ケアの優先課題



② 施設の運営・質の向上に必要な情報や支援【新規】

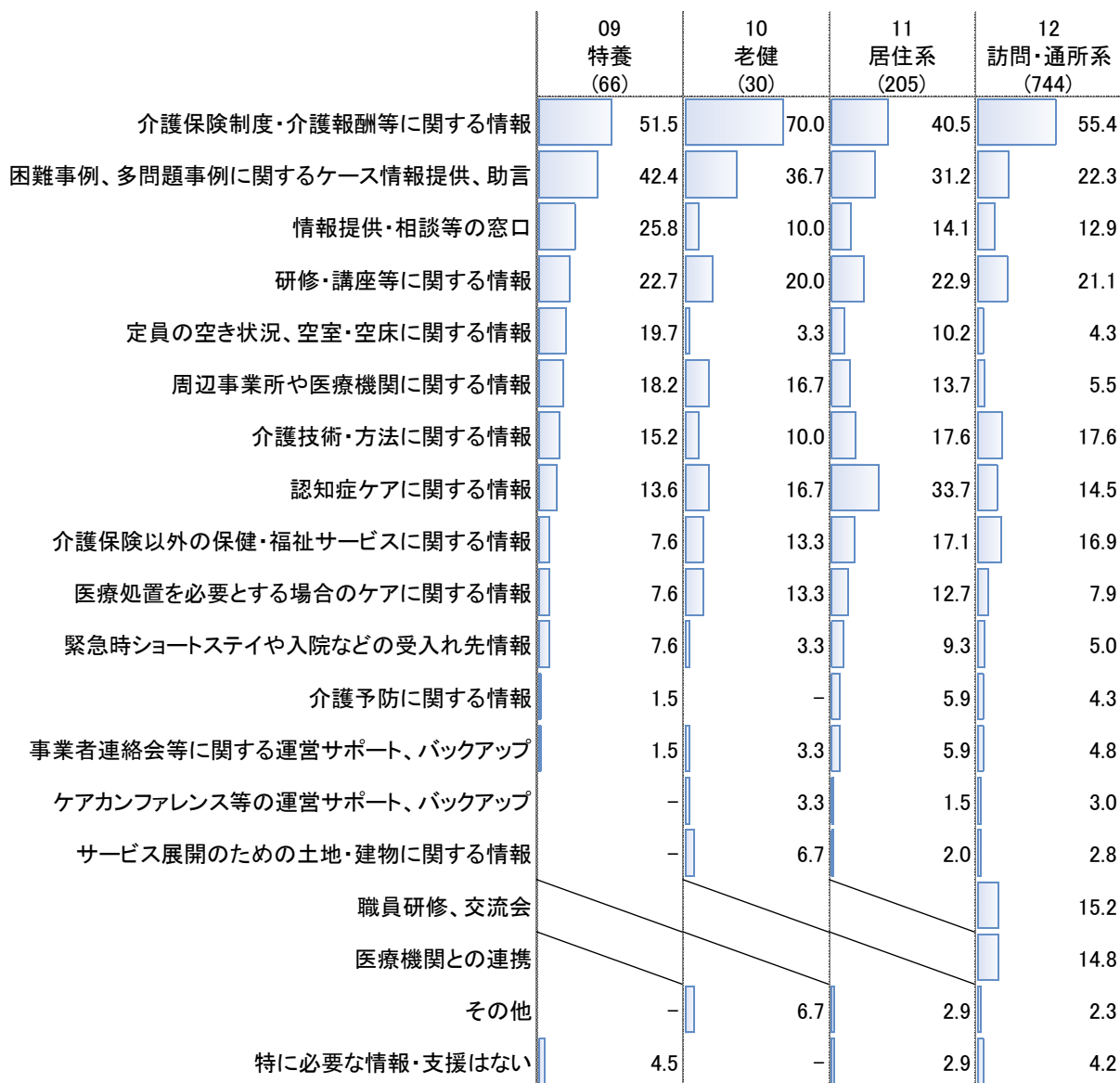
問 貴施設の運営やサービス向上のために、どのような情報や支援が必要ですか。
(〇は3つまで)

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
問 番 号									25	25	20	17							

施設の運営に必要な支援について、全ての対象で「介護保険制度・介護報酬等に関する情報」が最も多くなっている。

“特養”“老健”“訪問・通所系”では、「困難事例、多問題事例に関するケース情報提供、助言」が次いで多く、“居住系”では「認知症ケアに関する情報」となっている。

図表 VI-1-② 施設の運用に必要な支援



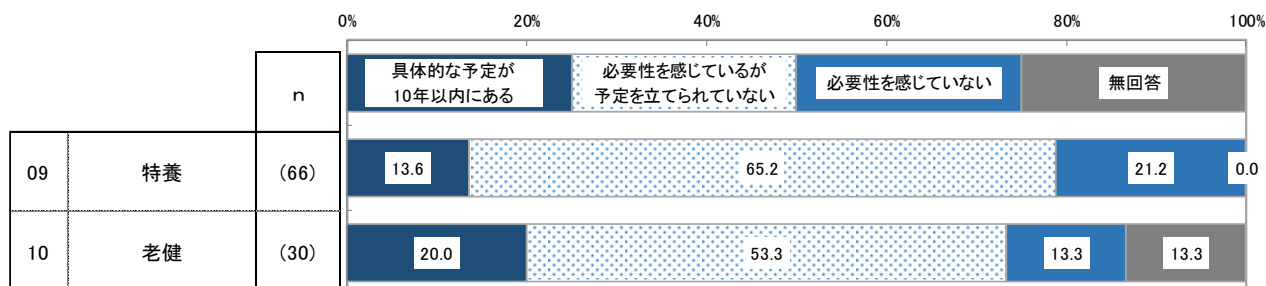
③ 施設の大規模修繕の予定【新規】

問 施設の大規模修繕の予定をお選びください。(あてはまるもの1つに○)

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	
問 番号									31	31										

施設の大規模修繕の予定について、全ての対象で「必要性を感じているが予定を立てられない」が半数以上を占めており、「必要性を感じていない」は約2割となっている。

図表 VI-1-③ 施設の大規模修繕の予定



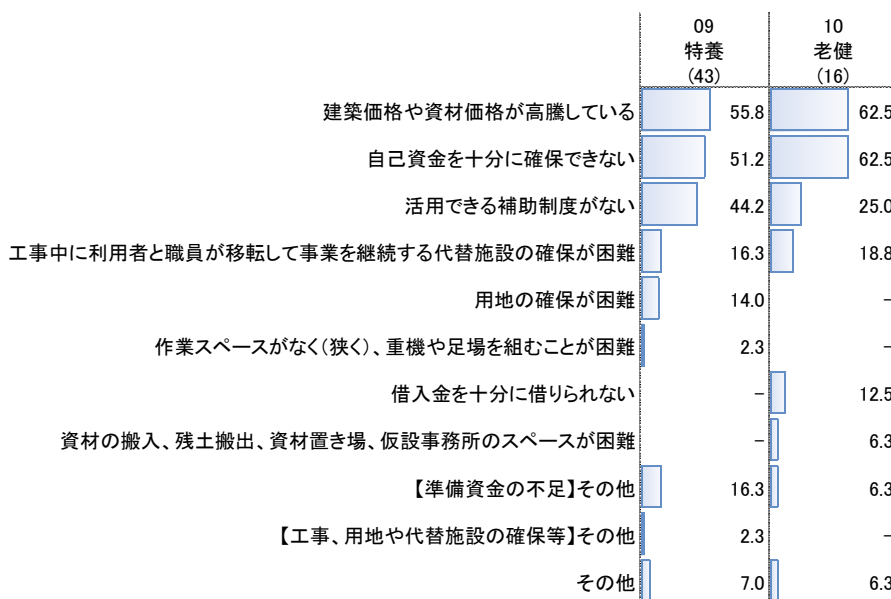
④ 大規模修繕の具体的な予定が立てられない理由【新規】

問 大規模修繕の具体的な予定が立てられない理由をお選びください。(あてはまるものすべてに○)

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	
問 番号									31-2	31-2										

大規模修繕の予定が立てられない理由について、「建築価格や資材価格が高騰している」「自己資金を十分に確保できない」が多く半数以上を占めており、次いで「活用できる補助制度がない」となっており、財政面での課題が上位を占めている。

図表 VI-1-④ 大規模修繕の予定が立てられない理由



⑤ 施設運営に期待する支援【新規】

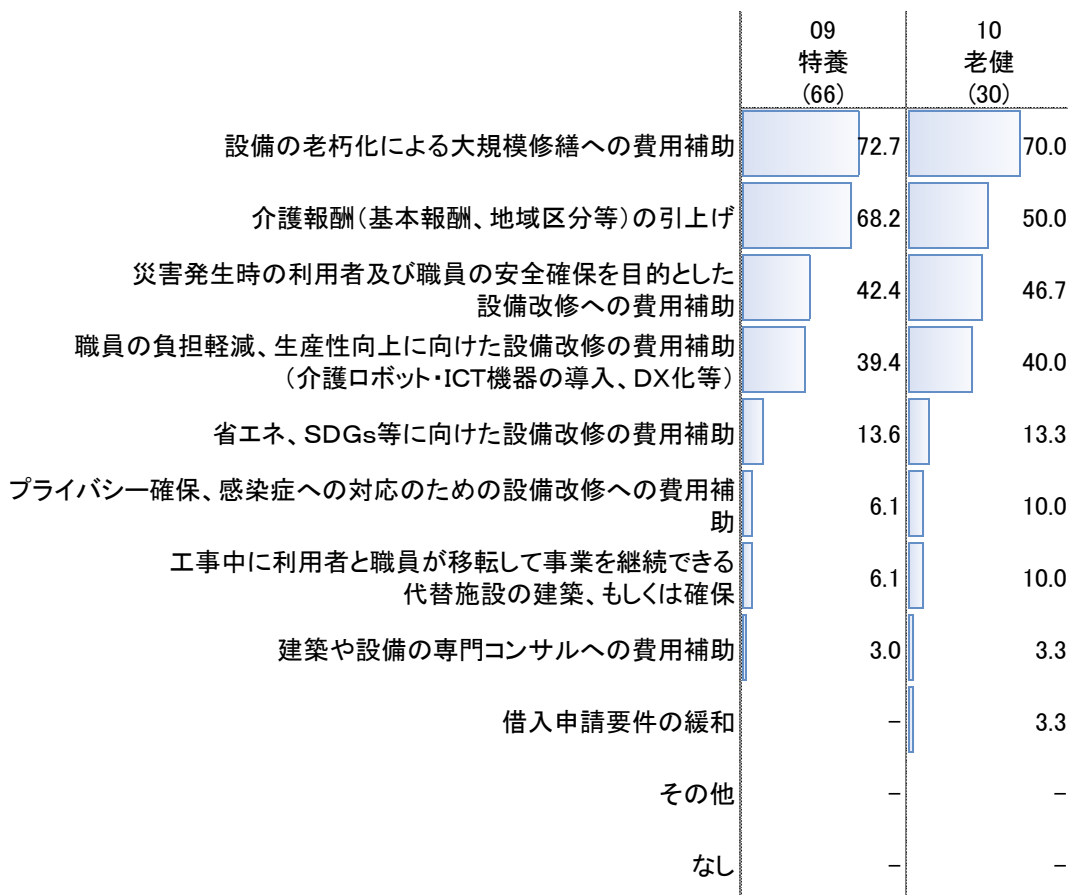
問 期待する支援策について、該当するものをお選びください。

(あてはまるもの最大3つまで)

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
問 番 号									39	39									

期待する施設運営への支援について、“特養”“老健”ともに「設備の老朽化による大規模修繕への費用補助」が最も多く約7割を占めており、次いで「介護報酬（基本報酬、地域区分等）の引き上げ」となっている。

図表 VI-1-⑤ 施設運営に期待する支援



2 緊急時に備えた体制整備

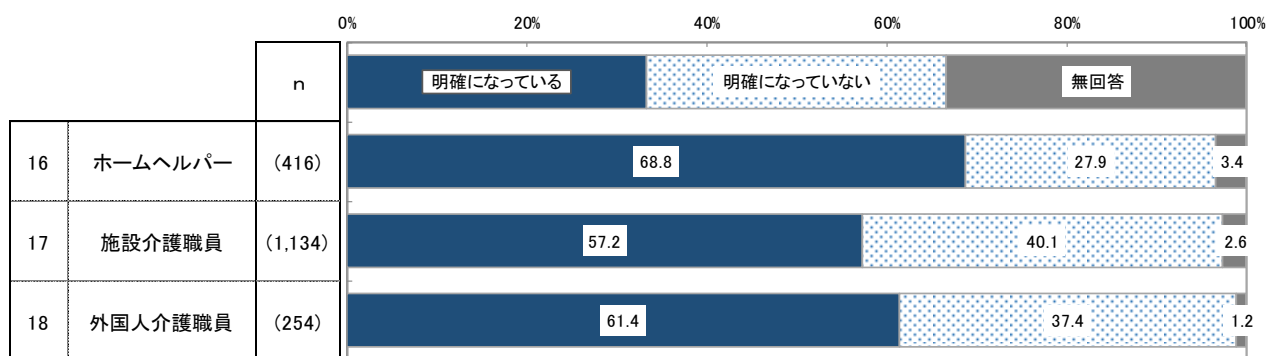
① 災害発災時の介護職の役割【新規】

問 現在の職場が地震などの災害で被害を受けた際に、職場の中でのご自分の役割が明確になっていますか。 (〇はひとつ)

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
問 番号																	18	15	10

災害発災時の職場における介護職の役割について、「明確になっている」は全ての対象で半数を上回っているものの、「明確になっていない」は“ホームヘルパー”で27.9%、“施設介護職員”で40.1%、“外国人介護職員”で37.4%となっている。

図表 VI-2-① 災害発災時の介護職の役割



認知症施策の推進

1 正しい知識・理解の普及

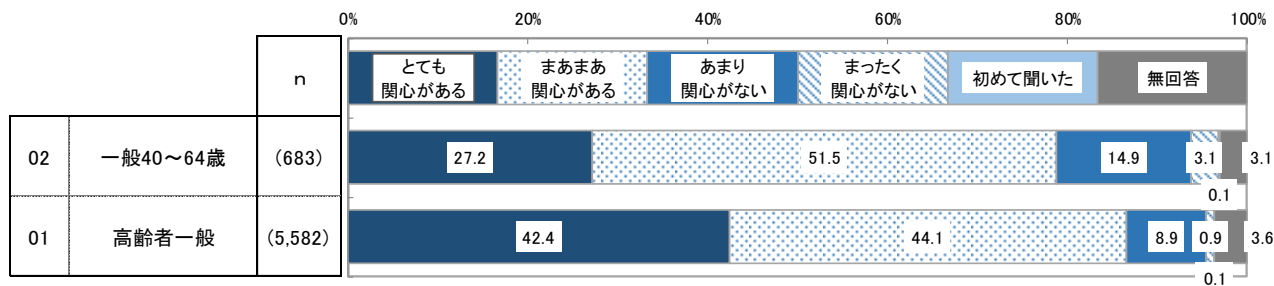
① 認知症への関心度

問 あなた（あて名ご本人）は、認知症について、どの程度関心がありますか。（〇はひとつ）

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	
問番号	45	41																		

認知症の関心度について、「とても関心がある」と「まあまあ関心がある」を合計した『関心がある』は、“一般40～64歳”では78.7%、“高齢者一般”では86.5%となっている。

図表 認知症－1－① 認知症への関心度



【経年比較（とても関心がある・まあまあ関心があるの合計）】

		（％）		
		R7	R4	R1
		2025年	2022年	2019年
02	一般40～64歳	78.7	79.9	82.4
01	高齢者一般	86.5	84.9	87.1

② 認知症に対する理解

問 あなた（あて名ご本人）は、認知症について、どのように考えていますか。

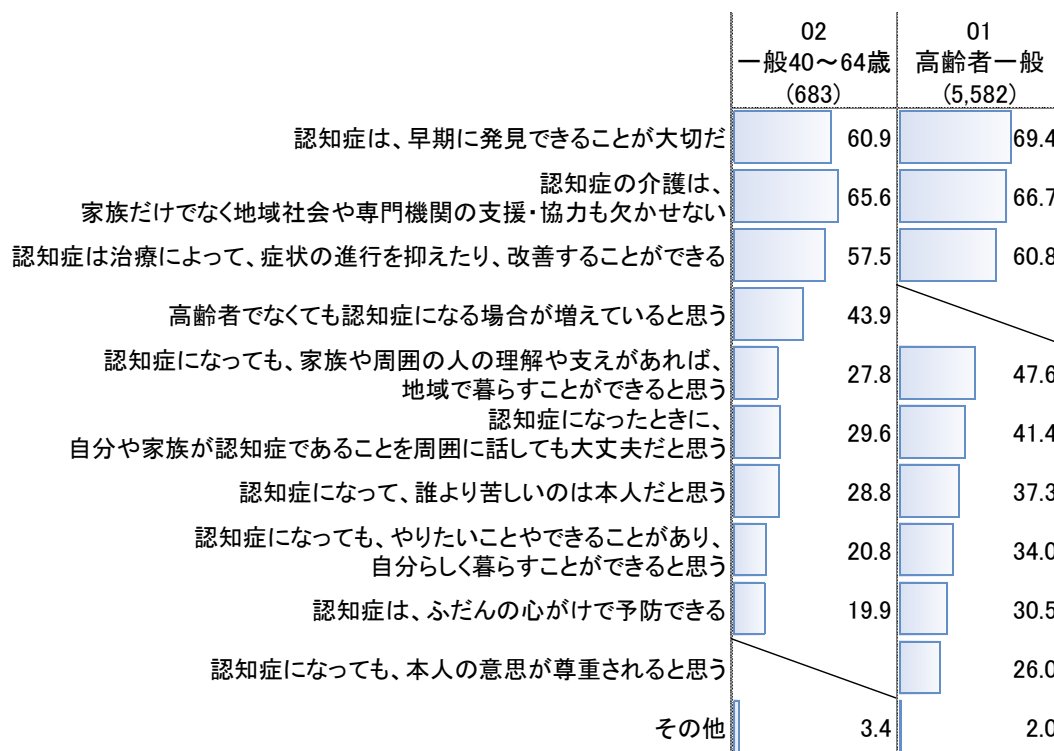
（あてはまるものすべてに○）

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	
問番号	46	42																		

認知症に対する理解について、“高齢者一般”では「認知症は、早期に発見できることが大切だ」が69.4%と最も多く、次いで「認知症の介護は、家族だけでなく地域社会や専門機関の支援・協力も欠かせない」が66.7%となっている。

“一般40～64歳”では、「認知症の介護は、家族だけでなく地域社会や専門機関の支援・協力も欠かせない」が最も多く、次いで「認知症は、早期に発見できることが大切だ」となっている。

図表 認知症－1－② 認知症に対する理解



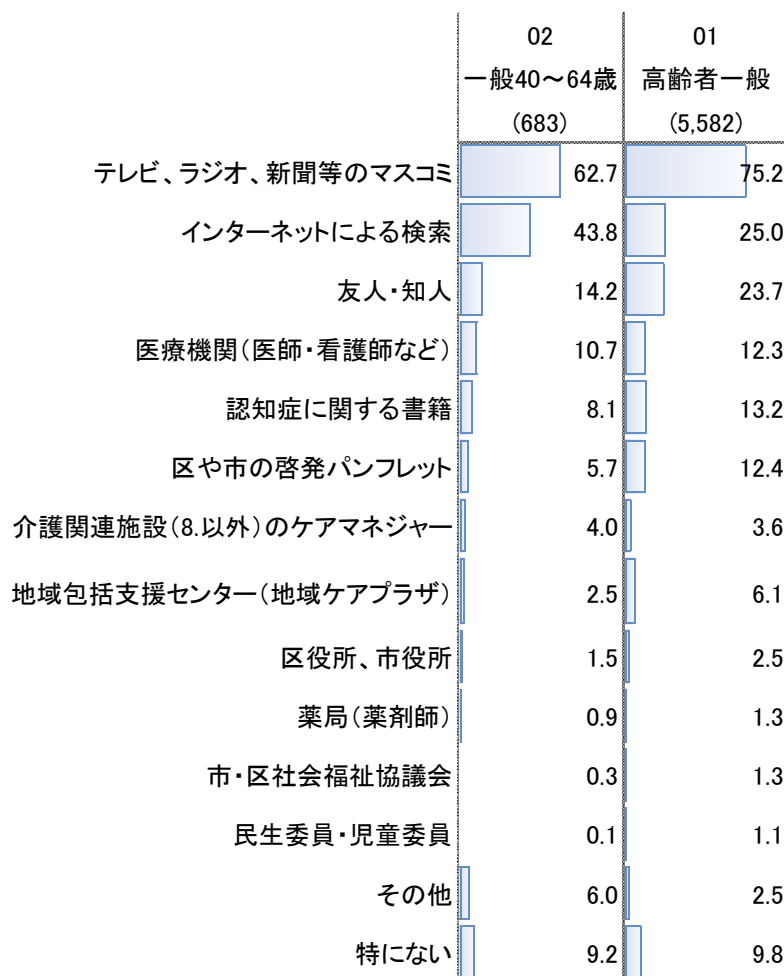
③ 認知症に関する情報

問 あなた（あて名ご本人）は、認知症に関する情報を何から入手していますか。
(あてはまるものすべてに○)

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
問 番号	48	45																	

認知症に関する情報について、全ての対象で「テレビ、ラジオ、新聞等のマスコミ」が最も多く6割以上を占めている。次いで、「インターネットによる検索」「友人・知人」が多くなっている。

図表 認知症－1－③ 認知症に関する情報



2 予防・社会参加

① 認知症に関する取組の認知度

問 認知症に関する取組について知っているものをお選びください。

(あてはまるものすべてに○)

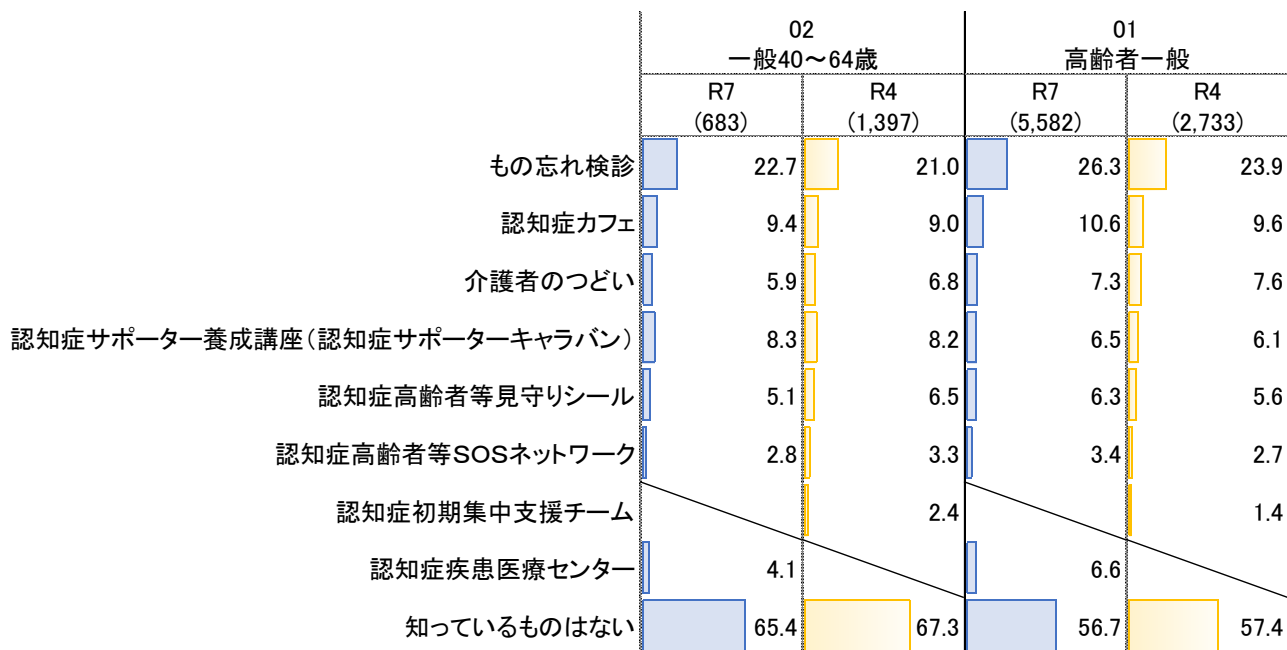
調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	
問番号	50	47																		

認知症に関する取組の認知度について、全ての対象で「もの忘れ検診」が約2割と最も多く、その他の取組については1割以下となっている。

また、「知っているものはない」は“一般40～64歳”で65.4%、“高齢者一般”で56.7%と半数を上回っている。

過去の結果と比較すると、大きな変化はみられなかった。

図表 認知症－2－① 認知症に関する取組の認知度



② 認知機能の状態

問 次の各項目について、それぞれ「はい（している）」、「いいえ（していない）」のどちらかをお選びください。 (それぞれ〇はひとつ)

※認知機能に該当する項目を抜粋（詳細はP7【認知症の人の回答の集計方法について】参照）

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
問 番号	22	22	21	19	20														

認知症の人の基本チェックリストの認知機能に関する回答について、全体では3つの項目全てであてはまる割合が7割を超えている。

年齢別での大きな差はみられなかった。

要介護度別で見ると、要介護度が重い方があてはまる割合が多くなる傾向があり、特に「自分で電話番号を調べて、電話をかけることをしていない」は要介護度3～5で9割を超える。

図表 認知症－2－② 基本チェックリストでの認知機能の状況

		有効回収数（n）	（％）		
			周りの人から「いつも同じ事を聞く」	自分で電話番号を調べて、電話をかけることをしていない	今日が何月何日かわからない時がある
認知症の人(全体)		(571)	70.2	75.3	75.8
年齢別	65歳未満	(3)	33.3	100.0	100.0
	65～69歳	(13)	69.2	61.5	76.9
	70～74歳	(12)	50.0	58.3	75.0
	75～79歳	(67)	68.7	71.6	71.6
	80～84歳	(146)	68.5	75.3	71.9
	85歳以上	(329)	72.3	76.9	78.1
要介護度	認定なし	(38)	68.4	36.8	47.4
	要支援	(42)	64.3	42.9	66.7
	要介護1～2	(336)	75.9	74.4	77.7
	要介護3～5	(155)	60.0	95.5	81.3

③ 若年性認知症の認知度

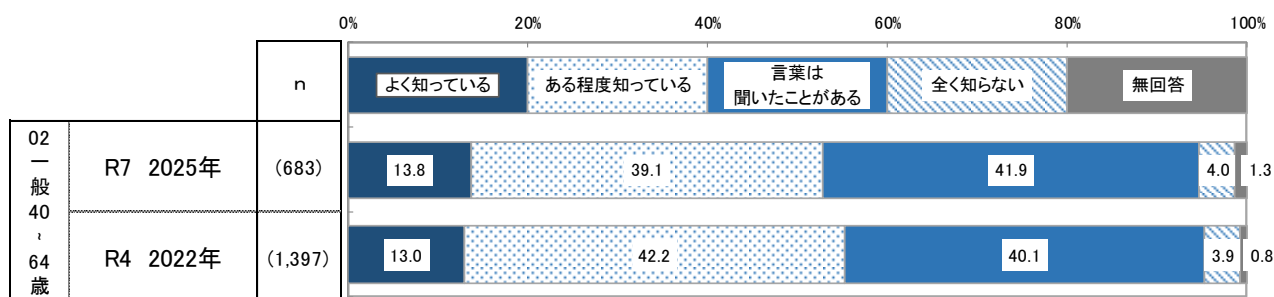
問 あなた（あて名ご本人）は65歳未満で発症する「若年性認知症」のことを知っていますか。
(○はひとつ)

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
問番号		44																	

若年性認知症の認知度について、「よく知っている」と「ある程度知っている」を合計した『知っている』は、52.9%となっている。

過去の結果と比較すると、大きな変化はみられなかった。

図表 認知症－2－③ 若年性認知症の認知度



3 医療・介護

① 地域ケアプラザでの認知症に関する取組

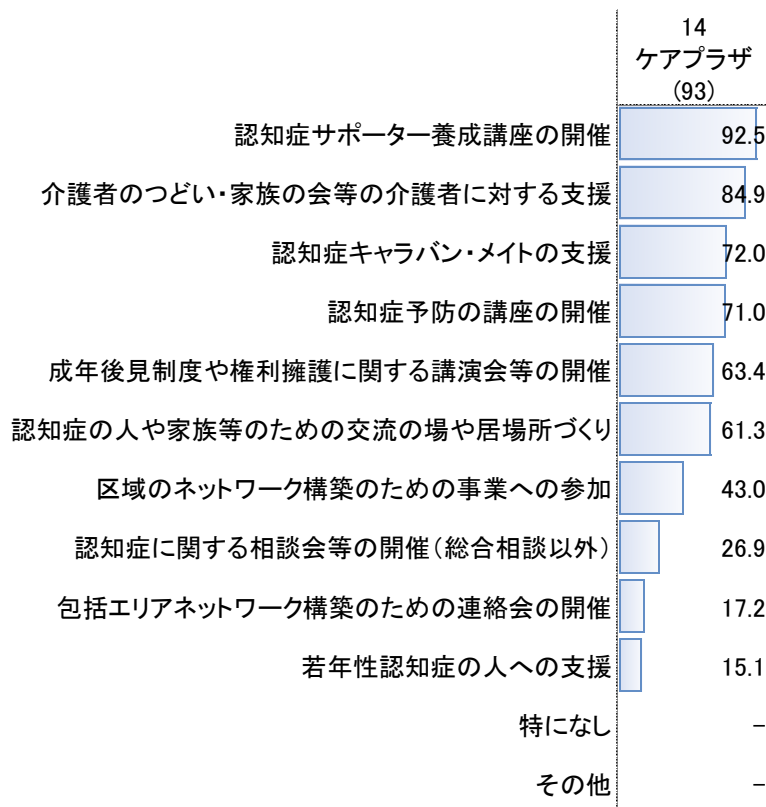
問 認知症に関してどのような取組を行なっていますか。 (あてはまるものすべてに○)

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
問 番 号														19					

地域ケアプラザでの認知症に関する取組について、「認知症サポーター養成講座の開催」が92.5%と最も多く、次いで「介護者のつどい・家族の会等の介護者に対する支援」が84.9%となっている。

一方で、「若年性認知症の人への支援」は15.1%、「包括エリアネットワーク構築のための連絡会の開催」は17.2%となっている。

図表 認知症－3－① 地域ケアプラザでの認知症の取組



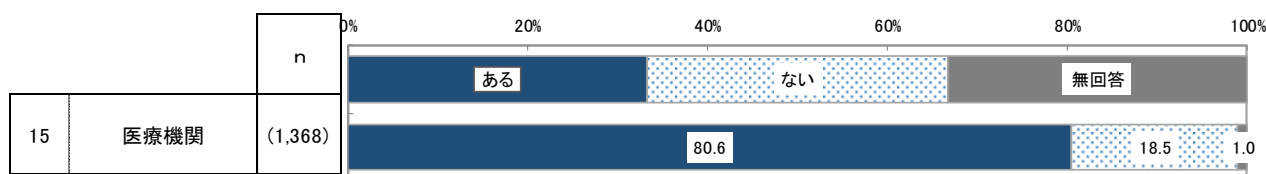
② 医療機関での認知症患者への対応状況

問 診療で認知症（疑い含む）の人に対応することはありますか。 (○はひとつ)

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
問 番号															1				

医療機関での認知症の人への対応状況について、「ある」が80.6%となっている。

図表 認知症－3－② 医療機関での認知症患者への対応



③ 医療機関での認知症患者支援

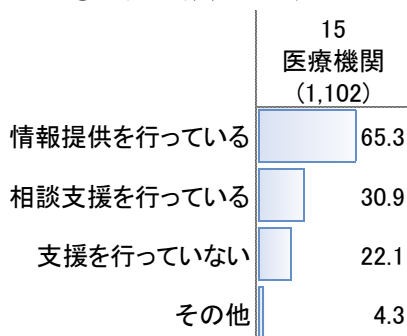
問 認知症患者への支援について、本人や家族等にどのような支援を行っていますか。
(あてはまるものすべてに○)

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
問 番号															3				

医療機関で実施している認知症の人への支援について、「情報提供を行っている」が65.3%と最も多く、「相談支援を行っている」が30.9%となっている。

一方で、「支援を行っていない」は22.1%となっている。

図表 認知症－3－③ 医療機関での認知症患者等への支援



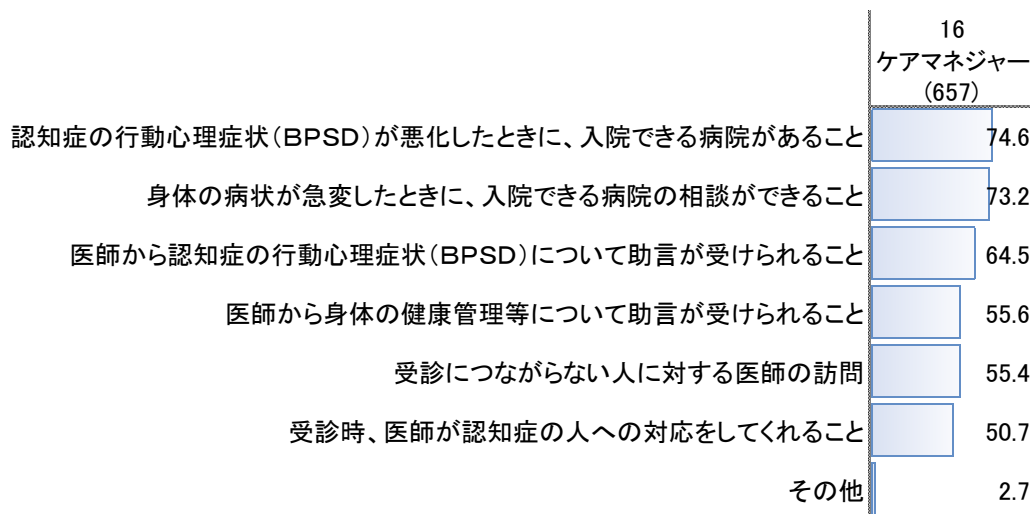
④ ケアマネジャーが認知症高齢者の医療連携を進める上で必要なこと

問 認知症の人の医療連携を進める上で必要なことは何ですか。（あてはまるものすべてに○）

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
問 番 号																29			

ケアマネジャーが必要だと思う認知症高齢者の対応に向けた医療連携について、「認知症の行動心理症状が悪化したときに、入院できる病院があること」が74.6%と最も多く、次いで「身体の病状が急変したときに、入院できる病院の相談ができること」が73.2%となっている。

図表 認知症－3－④ 認知症高齢者の対応に向けて必要な医療連携



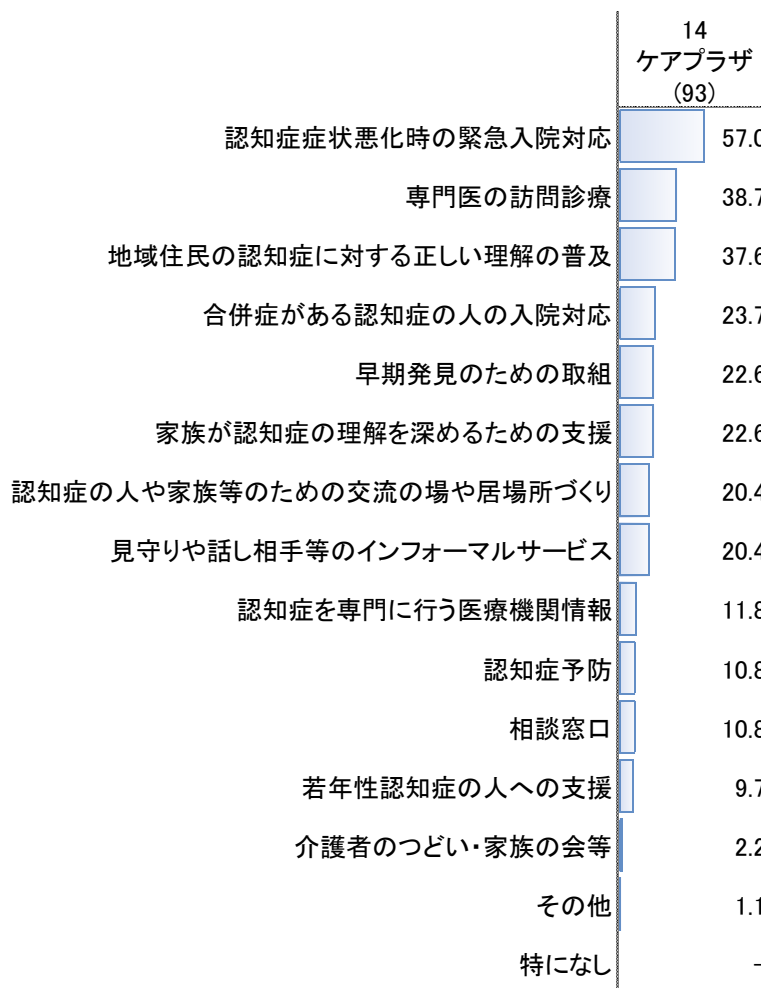
⑤ 地域ケアプラザが必要だと思う認知症施策【新規】

問 横浜市の認知症施策について、今後充実が必要と思うものは何ですか。（〇は3つまで）

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
問 番号														20					

地域ケアプラザが必要だと思う認知症施策について、「認知症症状悪化時の緊急入院対応」が57.0%と最も多く、次いで「専門医の訪問診療」が38.7%となっている。

図表 認知症－3－⑤ 必要だと思う市の認知症施策



⑥ 医療機関における市の認知症施策の認知度

問 横浜市の取組として、知っているもの、連携・活用・参加したことがあるものを選んでください。(〇はひとつ)

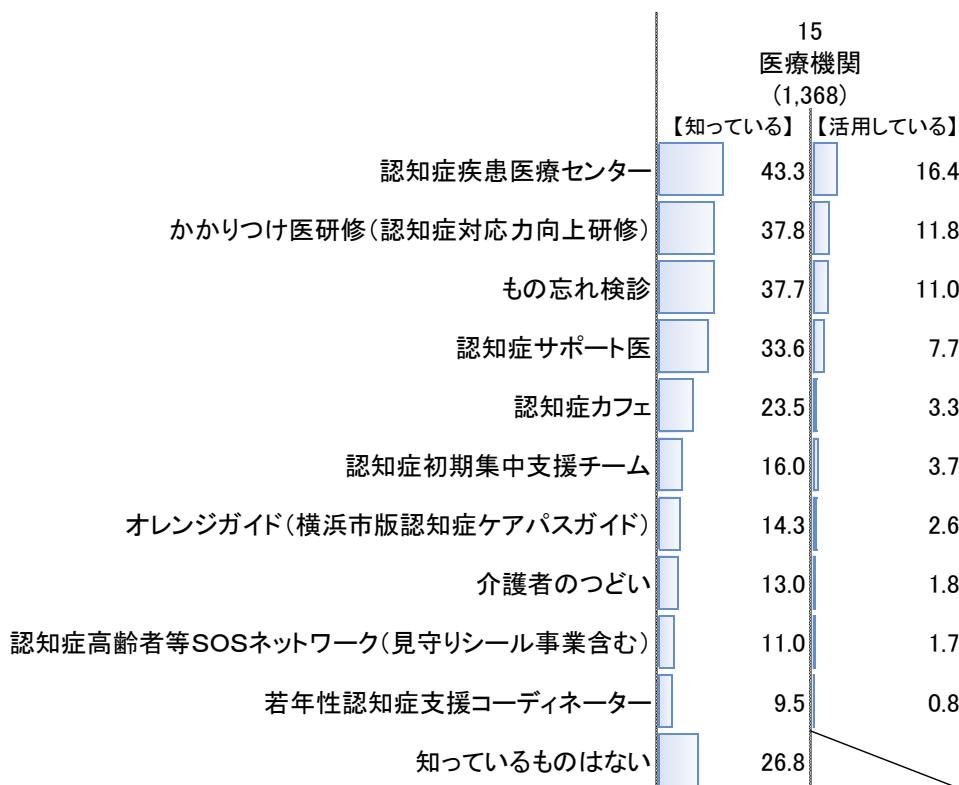
調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
問 番 号															8				

医療機関における市の認知症施策の認知度について、「知っている」が最も多いのは「認知症疾患医療センター」で43.3%となっており、次いで「かかりつけ医研修」「もの忘れ検診」「認知症サポート医」が3割を上回っている。一方で、「知っているものはない」は26.8%となっている。

「活用している施策」については、「認知症疾患医療センター」が16.4%と最も多く、次いで「かかりつけ医研修」「もの忘れ検診」が1割となっている。

過去の結果と比較すると、「かかりつけ医研修」は認知度が低くなっている。

図表 認知症－3－⑥ 市の認知症施策の認知度



【経年比較（知っている施策）】

(%)

	15 医療機関	
	R7	R4
	2025年	2022年
認知症疾患医療センター	43.3	43.0
かかりつけ医研修	37.8	52.5
もの忘れ検診	37.7	40.8
認知症サポート医	33.6	43.3
認知症カフェ	23.5	29.6
認知症初期集中支援チーム	16.0	20.4
オレンジガイド	14.3	20.1
介護者のつどい	13.0	21.3
認知症高齢者等SOSネットワーク	11.0	20.1
若年性認知症支援コーディネーター	9.5	16.5

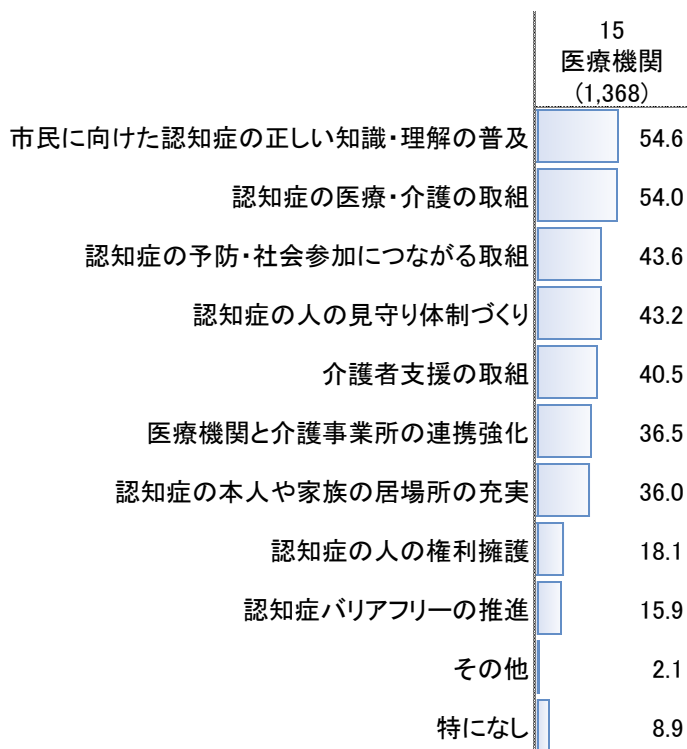
⑦ 医療機関が今後期待する認知症施策

問 今後の横浜市の取組として、どのようなことを期待しますか。(あてはまるものすべてに○)

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
問 番 号															9				

医療機関が期待する認知症施策について、「市民に向けた認知症の正しい知識・理解の普及」が54.6%と最も多く、次いで「認知症の医療・介護の取組」が54.0%となっている。

図表 認知症－3－⑦ 医療機関が期待する認知症施策



4 認知症の人の権利

① 老後の生活について書き残したものの

問 考えた結果や話をした結果を何かに書いて残したものはありますか。

(あてはまるものすべてに○)

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
問 番号	58-2	56-2	40-2	31-2	31-2														

認知症の人が老後の生活を書き残したものについて、「遺言書を作成した」が 8.1%と最も多く、次いで「エンディングノートを書いた」が 5.1%となっている。「特に書き残したものはない」は 73.7%となっている。

年齢別でみると、高齢になると「特に書き残したものはない」が少なくなる傾向がある。

要介護度別でみると、重度になるほど「特に書き残したものはない」が多くなる傾向がある。

図表 認知症－4－① 老後の生活についての相談等

		有効回収数 (n)	遺言書を作成した	エンディングノートを書いた	葬儀社と生前契約した	もしも手帳を書いた	任意後見を契約した	あんしんノートを書いた	高齢者等終身サポート事業者と契約した	その他	特に書き残したものはない (%)
認知症の人(全体)		(372)	8.1	5.1	2.7	1.3	1.3	0.5	-	3.2	73.7
年齢別	65歳未満	(2)	-	-	-	-	-	-	-	-	100.0
	65～69歳	(6)	-	33.3	-	-	-	-	-	-	66.7
	70～74歳	(6)	-	-	-	-	-	-	-	16.7	83.3
	75～79歳	(51)	7.8	5.9	2.0	2.0	5.9	2.0	-	-	80.4
	80～84歳	(98)	7.1	4.1	2.0	1.0	1.0	-	-	4.1	69.4
	85歳以上	(208)	9.1	4.8	3.4	1.4	0.5	0.5	-	3.4	73.6
要介護度	認定なし	(28)	10.7	7.1	-	-	3.6	3.6	-	-	67.9
	要支援	(27)	11.1	11.1	11.1	-	-	-	-	-	63.0
	要介護1～2	(218)	9.2	5.0	2.3	2.3	1.4	0.5	-	4.1	71.6
	要介護3～5	(99)	4.0	3.0	2.0	-	1.0	-	-	3.0	82.8

5 認知症に理解ある共生社会の実現

① 認知症に関する相談先の認知度

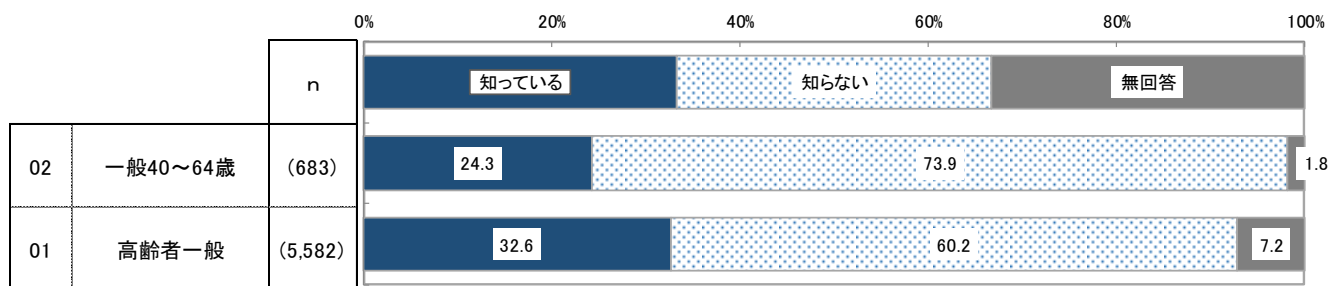
問 あなた（あて名ご本人）は、あなたやご家族が認知症になった時の相談先を知っていますか。
(○はひとつ)

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	
問番号	49	46																		

自身や家族が認知症になった時の相談先の認知度について、「知っている」は“一般 40～64 歳”で 24.3%、“高齢者一般”で 32.6%となっており、「知らない」が大きく上回っている。

過去の結果と比較すると、大きな変化はみられなかった。

図表 認知症－5－① 認知症に関する相談先の認知度



【経年比較（知っている）】

		R7			R4			R1		
		2025年			2022年			2019年		
02	一般(40～64歳)	24.3	27.0	26.4						
01	高齢者一般	32.6	29.3	32.3						

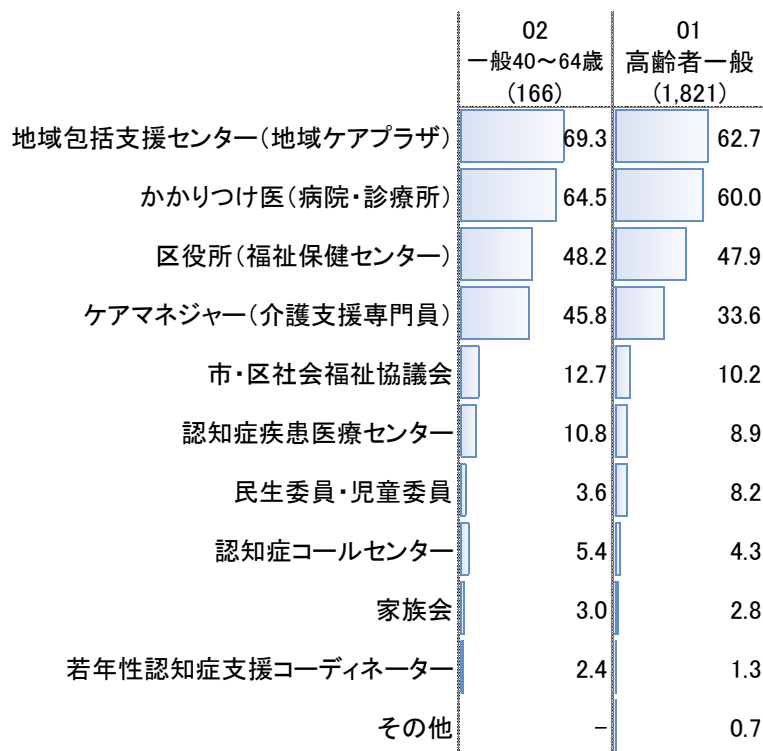
② 認知症に関する相談先

問 相談先として知っているものをお選びください。 (あてはまるものすべてに○)

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
問番号	49-1	46-1																	

認知症の相談先で知っているものについて、“一般40～64歳”“高齢者一般”ともに「地域包括支援センター」が最も多く、次いで「かかりつけ医」となっており、ともに6割を上回っている。

図表 認知症－5－② 認知症に関する相談先



③ 医療機関で紹介している相談窓口

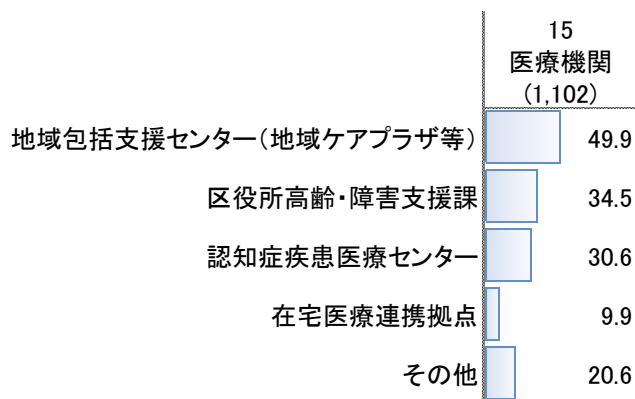
問 認知症患者の相談窓口として、どこを紹介していますか。

(あてはまるものすべてに○)

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
問 番 号															2				

医療機関で紹介している相談窓口について、「地域包括支援センター」が49.9%と最も多く、次いで「区役所高齢・障害支援課」が34.5%となっている。

図表 認知症－5－③ 医療機関で紹介している相談窓口



横浜市高齢者実態調査 調査結果報告書

令和8年3月

〒231-0005 横浜市中区本町6丁目50番地の10

横浜市 健康福祉局 高齢健康福祉部 高齢健康福祉課

電話 045(671)3412 FAX 045(550)3613